

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

The development of syntactic structures in children's speech from 3 to 6

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-06-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所, The National Language Research Institute メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00001297">https://doi.org/10.15084/00001297</a>

国立国語研究所報告 50

幼児の文構造の発達  
— 3歳～6歳児の場合 —

大久保 愛

国立国語研究所

1973

## 刊行のことば

幼児がどのような文構造を使って話しているかは、学問的にはまだ十分な検討が行われていないと言ってよい。

この研究は、幼児の文構造研究の分野を開拓しようとし、幼児の話しことばを、(1)単文や複文の構造と用法、(2)連体修飾語や文末の構造と用法、(3)接続詞の用法などの面から分析したものである。

対象を、集団生活をしている、保育園・幼稚園児にとり、5・6歳児を中心にして、3歳児からの発達を見た。

この研究は、コミュニケーション研究の一つとして、幼児のコミュニケーション能力の発達を文形成の上からとらえようとしたものであり、言語効果研究室員大久保愛が、室長高橋太郎と計画・実施にあたった。その間、屋久茂子・鈴木美都代が調査・整理分析等の作業を助けた。本書の執筆は大久保愛が担当した。

この研究を進めるにあたり、東京自由保育園、赤いとり幼稚園、小川幼稚園、神谷保育園の先生がたにご協力をいただき、また、補充資料採集のため、特定幼児の父母のかたがたにご参加いただいた。記して、厚くお礼を申しあげる。

昭和48年3月

国立国語研究所長 岩淵悦太郎

## 目 次

はじめに .....	1
第1部 .....	3
第1章 調査研究の概要 .....	4
1.1 目的 .....	4
1.2 調査担当者 .....	4
1.3 調査のあらまし .....	4
1.3-1 計画準備 .....	4
1.3-2 録音資料の採集 .....	4
1.3-3 調査園および幼児数 .....	5
1.3-4 「幼児のことばカード集」およびカードの作成 .....	6
第2章 幼児の話しことばの実態 .....	9
2.1 話題に対する幼児の反応 .....	9
2.2 幼児の話しことばの事例 .....	15
第2部 .....	61
第1章 文構造の分析の方法 .....	62
1.1 3歳までの文の発達 .....	62
1.2 幼児の文構造分析のための方法 .....	63
1.2-1 チョムスキーの生成文法 .....	63
1.2-2 『話しことばの文型(2)』 .....	66
1.2-3 この本の方法と略号 .....	68
第2章 幼児の単文の構造と用法 .....	71
2.1 幼児の文の種類 .....	71
2.2 文の認定 .....	71
2.3 幼児の単文の構造 .....	72
2.3-1 省略構文 .....	73
2.3-2 述語構文 .....	73
2.3-3 主述構文 .....	76
2.3-4 題目語をもつ構文 .....	77
2.4 まとめ .....	77
第3章 幼児の複文の構造と用法 .....	108
3.1 一つの接続助詞によって文が成立している場合 .....	108
3.1-1 主語一つからなる構文 .....	108
3.1-2 主語二つからなる構文 .....	110
3.1-3 題目語をもつ構文 .....	110
3.2 二つ以上の接続助詞によって文が成立している場合 .....	111
3.2-1 主語一つからなる構文 .....	111
3.2-2 主語二つからなる構文 .....	111

3.2-3	主語三つからなる構文	111
3.2-4	主語四つからなる構文	112
3.2-5	主語五つからなる構文	112
3.2-6	題目語をもつ構文	112
3.2-7	その他の構造からなる文	112
3.2-8	不明文	113
3.3	接続助詞たり、しをもつ文	114
3.4	まとめ	114
第4章 連体修飾語の構造と用法		153
4.1	連体修飾語の構造	154
4.1-1	一語よりなる連体修飾語の構造	154
4.1-2	二語以上よりなる連体修飾語の構造	154
4.1-3	まとめ	157
4.2	連体修飾語の修飾、被修飾の意味的關係	157
4.2-1	修飾語が被修飾語の所有者あるいは所屬を規定する	158
4.2-2	修飾語が被修飾語の位置や時間、順序、數量を規定する	158
4.2-3	修飾語が被修飾語の屬性を規定する	158
4.2-4	修飾語が被修飾語の成立に關与する度合の強いもの	159
4.2-5	修飾語と被修飾語が同格の關係になっているもの	159
4.2-6	まとめ	159
第5章 文末の形式と用法		184
5.1	平叙文の文末形式	185
5.1-1	平叙文の文末形式(1)	186
5.1-2	平叙文の文末形式(2)	188
5.2	疑問文の文末形式	189
5.3	命令文の文末形式	190
5.4	まとめ	191
第6章 接続詞の用法		212
6.1	接続詞の種類	212
6.2	接続詞使用の実態	216
6.2-1	それで	217
6.2-2	それから	218
6.2-3	そして	219
6.2-4	そしたら	219
6.2-5	だから	220
6.2-6	だって	220
6.2-7	だけど	220
6.2-8	でも	220
6.2-9	そうすると	220
6.2-10	その他	220

6.3 まとめ	220
おわりに	249
付録	253
付1 幼児の話す長さ	254
付2 補足文の構造の分析	257
2.1 補足文の構造	257
2.1-1 文の成分の欠けているものの追加補充	257
2.1-2 内容の追加や成分の訂正補充	258
2.1-3 くりかえしての追加	259
2.1-4 意味不明のもの	259
2.2 まとめ	259
〔用例表索引〕	
幼児の単文構造の使用例	80
省略構文	80
述語構文	81
主述構文	95
題目語をもつ構文	106
幼児の複文構造の使用例	118
一つの接続助詞によって文が成立している場合	118
二つ以上の接続助詞によって文が成立している場合	131
接続助詞たり，しをもつ文	150
二語以上よりなる連体修飾語の構造使用例	161
連体修飾語の修飾，被修飾の意味的關係—名詞と名詞のくみあわせの 場合の使用例	174
平叙文の文末形式(1)の使用例	193
平叙文の文末形式(2)の使用例	197
疑問文の文末形式使用例	202
命令文の文末形式使用例	209
幼児の接続詞の使用例	222
幼児の補足文の使用例	261

# はじめに

——この報告書の構成——

幼児の話しことばがどのような構造をしている文(sentence)から成り立っているかについての研究は少ない。特に幼児後期の話しことばの構造についての研究は幼児前期に比べて文が複雑になることもあって、皆無であるといっても過言ではない。

この研究は、幼稚園と保育園(各二園計四園)の協力を得て、幼児(年少児, 年中児, 年長児, 年齢3歳3から6歳6まで)の話しことばを録音, 文字化したものを資料として行なったものである。3万近くの文を分析した。

文構造の分析研究に当っては、最近までの現代語構文の研究法を参考にしながら、幼児の話しことばの文構造研究に適切と思われる方法をさぐっていくという研究法をとったが、定説の部分はともかく、学問上問題のあるところなどあって、幼児の文構造の発達を概観するにとどまった。今後この調査研究が踏み台となって、より細かく、幼児の文構造の発達の研究並びに研究法の生まれることを期待する。

この報告書は1部2章, 2部6章, 付録2から成っている。

第1部ではこの調査の研究概要, 及び録音を文字化した幼児の話しことばの実際を紹介, 解説した。

第2部では、以下のように6章にわけて、調査研究の結果をくわしく報告した。第1章 文構造の分析の方法, 第2章 幼児の単文の構造と用法, 第3章 幼児の複文の構造と用法, 第4章 連体修飾語の構造と用法, 第5章 文末の形式と用法, 第6章 接続詞の用法。付録として, 1 幼児の話す長さ, 2 補足文の構造の分析。

なお, おわりに、この研究に関するまとめと将来の課題について付記した。

# 第 1 部

# 第1章 調査研究の概要

この調査研究はこれからのべる目的および計画のもとに行なわれた。

## 1.1 目的

幼児のコミュニケーション機能の発達は、言語の獲得あるいは言語活動の形式の分化の中にさまざまな形であられるが、これを、幼児の文表現が成立し、文形式が形成されていく過程でとらえようとする。

そのために、まず伝達機能の単位としての文をとりあげ、文を構文、陳述の両側面から文法的に分析する。

選ばれた幼児は、まず、到達点としての5～6歳児を対象にする。次に、発達の観点に立って1～6歳児の問題を扱う。ただし、ここで報告するのは前者5～6歳児のものであり、その比較のため3、4歳児も扱ってある。

## 1.2 調査担当者

この調査は室長高橋太郎（1970年9月まで）、芦沢節（1970年9月より）のもとで、主として大久保愛が担当し、研究補助員屋久茂子（1968年5月まで）、鈴木美都代（1968年6月より）が、調査および「幼児のことばカード集」の作成、構文の整理分析等の作業を助けた。その他臨時補助者中島通善、原口嘉代、設楽晴美の助力も得た。

## 1.3 調査のあらまし

この調査は、1965年からはじまり、1971年に一応完結した。以下に調査のあらましのべる。

### 1.3-1 計画準備

第1年目は、調査の計画のための準備を行なった。

(1)対象への接近の観点の検討——このような調査についての内外の文献調査、幼稚園、保育園の園児の観察、手持ちの録音資料の分析等を行なった。

(2)調査法の検討——録音採集の方法、記録の方法などの検討。文構造をみる上での効果的調査法は何か。そのため、集団的、個人的に録音をとって検討してみた。また、記録法としては、カード方式についての検討とか、発音式か現代かなづかい式か、かな表記か音声記号表記か、などの表記法の検討も同時に行なった。

### 1.3-2 録音資料の採集

以上の検討の結果、以下の方法で、幼児の話しことばの採集を行なった。

(1)場面——大きく(a)つくられた場面、(b)自然の場面が考えられる。(b)の自然の場面で話しことばの採集をするのができれば理想的であるが、録音機の性能とか、採集の場所などを考え、また分析の目的が文構造ということなどのため、(a)の場面で採集することにした。(a)の中でも、幼児

同士の対話をとることもできるが、場面を固定してやれる利点から、調査者のいる別室に幼児を招き、調査者と幼児である被験者との問答形式で話しことばをとることを採用した。(以下この調査を「問答式」と略称する) 結論的には、文の構造の分析には、この方法が自由の場より整った文形式がとれたのではないかという意味で有効であったと思っている。ただ、伝達機能の面の調査としては、この「問答式」では不十分である。そのためには、たとえば「役割遊び」などの場面を設定しての調査も考えられる。しかし、こんど場合は行なわなかった。補充資料としては、自由の場での幼児の話しことばの一つとして、幼児をもつ3家庭に委託して採集してもらい、この欠を補った。「自由の場」と略称する)

「問答式」の問に当る部分については、前もって検討した。幼児の生活を観察して、幼児の生活場面の全体がおおえるように努めた。

(2)話題について——10の問を用意した。以下のようである。

(a)本人(幼児)の名まえと年齢

(b)家族について(構成メンバー、だれが好きか、両親の仕事など)

(c)新しい、あるいは印象深い経験(運動会、お祭、夏休み、旅行、休日など)

(d)園や家庭での生活(昨日何をしたか、どういう遊びをするか、幼稚園での生活、友だちのこと、趣味、夢など)

(e)園へ、あるいは家への道順

(f)両親から聞いた話や自分で読んだ本

(g)テレビで見た漫画、その他の筋や感想

(h)社会的話題(ニュースその他)

(i)筋のある絵を見せて話を作らせる

(j)その他

これらを幼児に質問することによって、文構造の形態ばかりでなく、幼児の精神的傾向もあわせて見られるようにした。すなわち、経験したものの再生力や、他人に筋道をたてて話す能力や、話を作り構成する創作力、構成力などもみられたり、幼児が何に関心をもっているかの興味のありかたもわかるようになっていく。これら資料は、「幼児のことばカード集」として印刷した。印刷の面では、文の分析用としても使用するため、カードに裁断できるように組んだ。のちに見本を示す。

(3)時間について——時間は制限せず、できるだけたくさんしゃべらせるようにした。それは何分間に何文字、あるいは何文節しゃべるか进行调查するのを目的とせず、どのような文構造を使用するかをみるためだからである。(長くしゃべった子で30分、平均10分前後だった。)

### 1.3-3 調査園および幼児数

この調査には、次の園の先生がたにお世話になった。

東京板橋区、東京自由保育園(1965、66、70年各9月)

東京北区、赤羽台幼稚園(現在、「赤いとり幼稚園」と改称)(1965、66、70年各9月)

東京千代田区、小川幼稚園(1968年6月)

東京北区、神谷保育園(1968年5月)

園児の人数は次表のとおり。

調査園および人数      \*    年中、年長が同一幼児の人数、男 22、女 16、計 38 名

	年 長 (5:5 ~ 6:6)			年 中 (4:1 ~ 5:6)			年 少 (3:3 ~ 4:4)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
T園	30名 *12	23名 *8	53 *20	14 *12	8 *8	22 *20	7	5	12
A園	35 *10	27 *8	62 *18	12 *10	12 *8	24 *18	16	6	22
K園				17	14	31	12	8	20
O園				31	13	44	10	5	15
計	65	50	115	74	47	121	45	24	69

この中には 1965 年に年中児だったものが 1966 年に年長児になって、同じ質問に答えたものがある。\*で示した。男 22 名、女 16 名である。これで同一児の場合の発達もみられる。

これら園児の家庭の職業、兄弟関係の記録もある。おおざっぱな職業分布は、東京自由保育園は、商人、小企業の工場主などが中心で、赤羽台幼稚園はホワイトカラー、小川幼稚園は小企業、商人、公務員、神谷保育園はブルーカラーのニュアンスがある。

### 1.3-4 「幼児のことはカード集」およびカードの作成

前にのべた話題を中心に、一人の幼児と別室で向い合って、調査者が質問するという問答形式で、幼児の話しことは録音テープに採集する。そのテープを文節分かち書き、かな表記で文字化する。それをのちにのべる形式で「幼児のことはカード集」と分析用カードにしたものが、この研究の資料となっている。以後用例としてあげるときの理解のため、少しくわしく述べる。

「幼児のことはカード集」およびカードは次のようになっている。カード集の最初にあげた凡例から関係のあるところを述べる。

#### 凡 例

- 1 カード毎に園名、幼児略名、性別、年齢、幼児毎のカードナンバー、採集年を、この順で入れた。また、環境とことばの関係もみたいと思い、その一つの方法として兄弟姉妹の記入をした。「本」は被験者本人の意である。  
赤=赤羽台幼稚園 自=東京自由保育園 小=小川幼稚園 神=神谷保育園 長=年長児 中=年中児 少=年少児 a・b・c……, A・B・C……, a'・b'・c'……=幼児名のかわりに用いた記号である。(本人の名一字をとり漢字で示したカード集もある)
- 2 カードのはじまりに前のカードのあと二行を繰返し、そのカードだけでも文脈がわかるようにした。長い点線で区別した。
- 3 発話者のうち、対象になる幼児の発話をかたかな・調査者の発話を漢字まじりひらがな・外来語をかたかな・書き、横書きとした。
- 4 幼児の発話にかぎり文節分かち書きを用い、文節毎に一字あげた。(発話のとぎれた場合は文節中でも一字あげた)
- 5 表記は現代かなづかいとし、長音符号は、語をのばして発音している場合と外来語のみに使った。

「ネー」「ナーニ」「ジェッター」など。

- 6 一枚のカードに幼児の**ことば**をなるべくたくさん入れたいため、調査者の発話は、必要最少限にとどめた。録音のとおりでない。
- 7 幼児の発音はできるだけ忠実に写すよう心がけたが、アクセント、イントネーションは記録されていない。
- 8 以下に、使用した記号の説明をする。

○＝幼児の発話のはじまりを示す  
。＝ふつうの文末  
；＝倒置あるいは補足文  
，＝長文での句末、文の中断、文節中のとぎれ  
？＝疑問文  
！＝感嘆

( )＝発話の不明瞭

{ }＝二様にきこえるばあい

……＝間（ポーズ）

＃＝調査者の合づち「うん」「ん」の略

然＝調査者の応答「そう」「そうね」などの略

ことば＝同時発言  
ことば

[ ]＝ことばや状況の注釈

/ /＝文中に別の発話者のことばが入ってきたばあい

[ ]＝直接話法ほか

次頁の表は「幼児の**ことば**カード集」の一ページを縮めたものである。これを八つに裁断すると分析用カードができる。カード集各70部カード1枚について80枚ずつをつくった。分析用カードは、次のようである。

赤中-1男(4:8)-1	1965
いくつですか？	
○ミッツ。	
ん？	
○ミッツ。 然	
あのねおうちだれとだれいます？	
○パパト ジュンコチャント オバアサン。 然	
だれ一番好き？	
○パパ。	
どして？	
○パパ ヤサシイカラ。 然	
大きな声で言ってよね。パパのお仕事知ってる？	

補充調査用として、「自由の場」での録音もとったが、この報告書では「文末の形式と用法」（第2部第5章）で使用したのみである。自由の場での発話では、これまでの経験からそう複雑な文形式が出ず、「問答形式」でのあらたまった場での文形式に吸収されるように思われたからである。しかし、たしかなことは、今後の調査に待たなければならないが、この本では、そこまでは扱っていない。

自由の場で採集した幼児は次のようである。

赤中-1 男 (4:8) -1 1965  
 いくつですか?  
 ○ミッツ。  
 ん?  
 ○ミッツ。 然  
 あのねおうちだれとだれいます?  
 ○パパト ジュンコチャント オバアサン。 然  
 だれ一番好き?  
 ○パパ。  
 どして?  
 ○パパ ヤサシイカラ。 然  
 大きな声で言ってよね。パパのお仕事知ってる?

赤中-1 男 (4:8) -5 1965  
 どして?  
 ○ヒコウキ イ(イ)ンダモ(ノ)。(シ)。  
 幼稚園は楽しいけどなにが一番楽しい?  
 ○ヨウチエン? # ボールナゲ。  
 ぼくちね幼稚園から行くにはどう行けばいいの?  
 ○マガツテ イケバ (イイノ)。  
 テレビ見る?なにが一番好き?  
 ○テツシン。  
 どんなの?鉄人のお話。  
 ○モンスタートカ ロボットカ ナンデモ デンノ。  
 どのようなことするの?

赤中-1 男 (4:8) -2 1965  
 ○パパ ヤサシイカラ。 然  
 大きな声で言ってよね。パパのお仕事知ってる?  
 ○ン。  
 なーに?  
 ○アノネ # オミヨツゲ ツクツタリ /ん? / オソバ ツクツ  
 タリ スンノ。 然  
 お母さんにしてらっしゃる?  
 ○オカアサン? # アノー オチャワンアライ シテンノ。 然  
 きのうね幼稚園から帰ってなにしました?  
 ○ヨウチエンカラ カエツテ キタラ? # ス マナブチャノ  
 ウチ イッタノ。

赤中-1 男 (4:8) -6 1965  
 ○モンスタートカ ロボットカ ナンデモ デンノ。  
 どのようなことするの?  
 ○テツシン? # テツシンネー # {3} レンドブツ(ト) ナ  
 ルカ テル: ヤウ(テ) ルノ。  
 どんなどこおもしろい?  
 ○エ?  
 鉄人のなかでねどういところが一番おもしろい?  
 ○ショウタロウ。  
 どうして正太郎がいいの?  
 ○ショウジュウキ モツテル トコロ /ん? / ショウジュウキ。  
 然

赤中-1 男 (4:8) -3 1965  
 ○ヨウチエンカラ カエツテ キタラ? # ス マナブチャノ  
 ウチ イッタノ。  
 でなにしたの?  
 ○(ソ) イデネ # アツン ブー ナラシテモネ # デテ コナ  
 イカ(ラ) モイチド ヤツテ ミタラネ # マダ デテ コナ  
 イカラ # カイシャ イタノカサート オモツテ # サ(ツ  
 キ) アノ カエツチャツタノ。 然  
 運動会おもしろかったでしょう。なにがたのしかった?  
 ○スズワリ。 然  
 お休みの日ね。あの日曜日なんかねえ。なににする?  
 ○ニチヨウビ? # オヤスミノ トキ? # パパハ? # パパ

赤中-1 男 (4:8) -7 1965  
 ○ショウジュウキ モツテル トコロ /ん? / ショウジュウキ。  
 然  
 お母さんね絵本読んでくださったりお話してくださいませんか  
 聞いた?  
 ○モモタロウサン。  
 やってみて。  
 ○「モモタロウサン」ツテ (イウノ)。  
 そのお話聞かせてよ。先生に。  
 ○ン。 # ダカラネー # キツ(イ)ノネー # アノーネー  
 アノ オバアサンガ センタク シテルトネー # アノーネ カウ  
 デネ センタク シテ イター オバアサンガネー アノーネ ウー

赤中-1 男 (4:8) -4 1965  
 お休みの日ね。あの日曜日なんかねえ。なににする?  
 ○ニチヨウビ? # オヤスミノ トキ? # パパハ? # パパ  
 (ハ)ネー # シドウシヤ ナンデモ ツクツテ クレル(ノ)。  
 それからどういことするの?  
 ○アノネー # エートネー # パパ? # エートネ ナンカ  
 イロンナ モノ ツクツテネー # ボクニネ # クレンノ。  
 然  
 大きくなったらなんになりたい?  
 ○オオキクナツタラ? # ヒコウキ。  
 どして?  
 ○ヒコウキ イ(イ)ンダモ(ノ)。(シ)。  
 ○ヒコウキ イ(イ)ンダモ(ノ)。(シ)。

赤中-1 男 (4:8) -8 1965  
 アノ オバアサンガ センタク シテルトネー # アノーネ カウ  
 デネ センタク シテ イター オバアサンガネー アノーネ ウー  
 モモガネ ナガレテ キチネー # ビックリシテネー # ソイ  
 デ オシイサンノ オミヤゲデ モツテ カエツタノ。 # ソイ  
 デネー モグ アノ ソイデ オバアサント オシイサンガ コノ  
 モモヲ タベヨウト オモツタ(ラ) ナカカラ ポキヨント  
 アカチャンガ デテ キタノ。 # ソイデ コレハ モモカラ  
 ウマレタ モモカラ デテ キタカラネ、 # モモタロウツテ ナ  
 ヲ ツケタンダツテ。 然 ソイデ オオキク ナツテネ # ハ  
 タラクヨウニ ナツタノ。 # ソイデネ オニガシマニ イカラ  
 オニタイジニ イツタンダヨ。 # ダカラ オニ イツテネ #

対象児 宮島さおり 1965年5月生 3歳児 渡辺真史 1963年4月生 5歳児  
 泉奈津子 1964年6月生 4歳児

このようにして出来た「幼児のことばカード集」は7冊、そのうち「問答形式」6冊、「自由の場」1冊、カードの枚数(ことなり)問答形式5,152枚、自由の場1,530枚で、問答形式の内訳は、年少863枚、年中1,996枚、年長2,293枚となっている。

## 第2章 幼児の話しことばの実態

### 2.1 話題に対する幼児の反応

幼児の話しことばがどんなものか、われわれは常に聞いていてわかっているつもりだったが、実は一面しかわかっていなかったということを、幼児の話しことばを録音、文字化してみてもはじめて理解できた。あらたまった場面でも案外しゃべれるということも知った。くわしいことは徐々にのべることにして、まず、前述の話題で聞いた場合の全体的な反応をのべておくことにする。

(a)名前と年齢については、名前を言わない幼児もいたがほとんどの幼児が答え、幼児音の残っている幼児もみられた。年少に多く、年長に少ない。年齢については、まちがえる幼児や答えない幼児もいたが大部分が答えた。「よっつ」「いつつ」が多く、中には「マン○サイ」「○サイデス」という幼児もみられた。

(b)家族についての質問では、構成メンバーを聞いたため助詞「と」で名前を並べてのべる形式が多く出た。すなわち「ノリコトネ ママト オトウサント ボク。」というように。だれが好きかでは、母親が圧倒的に多かったが、父親という幼児もいて、やさしい、おみやげを買ってきてくれるなどと理由づけていた。父親が何の仕事をしているかについては知らないという幼児が多かった。家で仕事をしている父親の仕事については、具体的にこんな仕事をしていると答えてくれた。母親はせんたく、掃除をしたり、弟妹のことをみているという発言が多かった。

(c)印象深い経験としては、この調査の時期が9月（一部5、6月の時期もある）だったので、夏休みのこと、運動会のことを聞いた。また、それとは関係なく、日曜日などの休日の生活のことを聞いたり、遠い所に行ったことの経験を話してもらった。

(d)園や家庭での生活については、幼稚園ではどういうことをするか、何をするのが好きか、家では何をするか、だれと仲良しか、昆虫採集など好きか、夢をみることがあるか、家のまわりに何があるかなど聞いた。話がはずまない場合は、今何をしていたか、きのう何をしたか、などの質問形式にした場合もある。幼児の趣味、たとえば図鑑などをみて古い時代の動物などを知っている幼児とか乗物にくわしい幼児は、話がそこにくると、生き生きと話してくれた。話がはずまないときは好きな食べものを聞いたこともある。

(e)家から園への道順、あるいは園から家への道順を聞いてみた。これについては、それぞれの幼児の家の位置をしらべ、話した事実と一致しているかどうかのたしかめが必要であるが、こんど場合は文構造をみるのを目的にしたので、全部の幼児についてのたしかめは行なわなかった。しかし、ほとんどの子どもの表現では目的地にたどりつくことは不可能である。この年齢でこういう質問はまだ無理のようである。これは分析資料としては一部にしか用いなかった。

(f)両親から聞いた話や自分で読んだ話を、調査者に話してもらった。どの幼児もが聞いた話を話してはくれなかった。忘れたというのが多かった。また、親が話してくれないとか、小さいときは話してくれたが今は話してくれないので話せないという幼児もいた。しかし、一方、たいへんよく覚えていて楽しく話してくれた幼児もいた。次表のような作品である。（順不同、調べられ

るものは調べたがどういう本が土台になっているかわからないものもある。表記は漢字まじりにした)その他、母親が物語絵本とか、テレビ漫画の絵本を買ってくれて、読んでくれたり、自分でも読むというのがあった。

幼児が話してくれたお話

年 長	年 中	年 少
さるかに合戦 桃太郎 浦島太郎 金太郎(坂田の金時) こぶとり爺さん いなばの白うさぎ シンデレラ姫 赤ずきん どろんこハリー 家なき子 孫悟空 ジャックとマメの木 プレーメンの音楽隊 親指姫 あわてどろぼう 子鹿のバンビ いばったおんどり エルマーの冒険 はめるんのふえふき くろうさぎとしろうさぎ イソップえばなし はなのすきなうし ふしぎの国のアリス いやいやえん	さるかに合戦 桃太郎 かぐや姫 舌切雀 シンデレラ姫 赤ずきん どろんこハリー ちびくろサンボ ガリバー ヘンゼルとグレーテル 三匹のこぶた 三匹の山羊のがらがらどん しなの五人のきょうだい おだんごばん いたずらチュウチュウ たいへんたいへん すてごのゼミ チムとゆうかんな船長 あまんじゃく 玉ねぎ玉ちゃん かたつむりのお話	桃太郎 浦島太郎 赤ずきん ちびくろサンボ 三匹のこぶた 三匹の山羊のがらがらどん

(8)テレビで見た漫画やその他の筋や感想を聞くと、本のとくと比べて、どの子もはずんだ声でみているテレビ番組の名まえを言ったり、出てくる登場人物の名前をあげたりした。ただ、その内容を聞くと、いっぱいみてるから、あるいは前みたのでわからない、などの理由で話してくれない幼児が多かった。概括してのべることはむずかしいし、そうかといって、どの時点での物語を話したらよいか迷ったからでもあろう。たまたま、きのう好きな番組をみていた幼児がくわしく話してくれるというケースもあったかもしれない。

次表は幼児が見ていると言ったり、その一部を話してくれたりしたテレビ番組である。(坂元昂「幼児向け番組とその周辺(上)」放送文化1968.6とか、当時の新聞縮刷の放送番組を参考にし検討しなおしたが、それらに見出せない番組名もあった)かっこの中の年数は採集した年である。

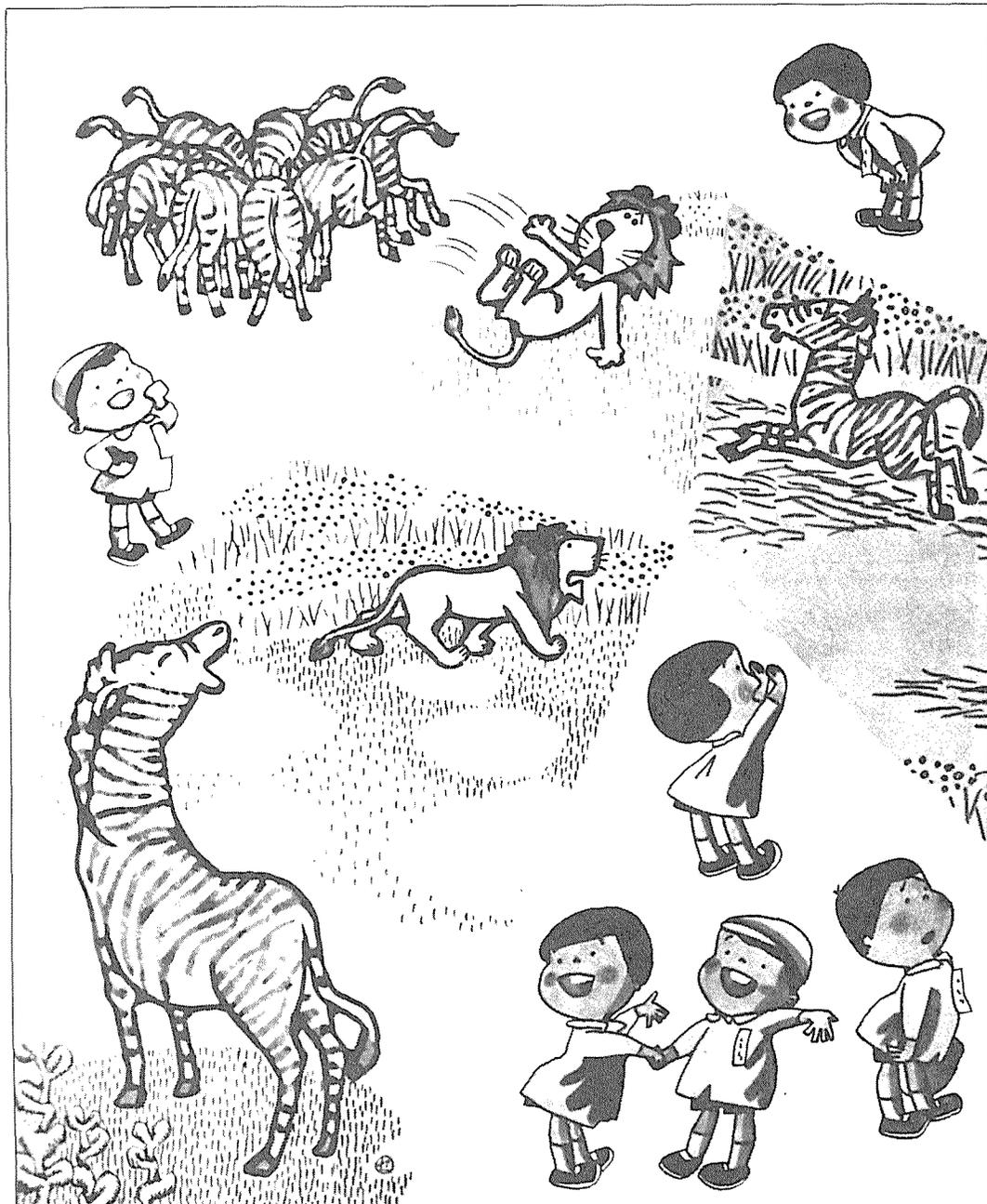
幼児がみているといったテレビ番組

年 長	年 中	年 少
いいものつくろ (1965) 宇宙少年ソラン 宇宙人ピピ オバケのQ太郎 スーパージェッター チャコちゃんハイ! 鉄人28号 鉄腕アトム トムとジェリー ビッグX ひょっこりひょうたん島 ブーフォーウー ポパイ まんが大行進 遊星少年パピイ ワンダースリー ジャングル大帝 ぼっこちゃん	宇宙エース (1965) 少年ジェット スーパーマン 0 戦はやと 鉄人28号 ビッグX ブーフォーウー ポパイ 遊星少年パピイ 私の秘密 エイトマン 奥様は魔女 ジャングル大帝 ターザン 秘密探偵クルクル 遊星仮面 アップダウンタイズ (1968) ウルトラセブン ウルトラマン 怪物くん カエルのぼうけん 巨人の星 ゲゲゲの鬼太郎 コメットさん ジャイアント・ロボ チャコちゃん ひょっこりひょうたん島 冒険少年シャダー ポパイ マイティ・ジャック 魔法使いサリー ママとあそぼう!ピンポンパン 遊星仮面 リボンの騎士 ロンパー・ルーム わんぱく探偵団 パーマン ハリスの旋風 ヤダモン	ウルトラQ (1968) ウルトラセブン ウルトラマン 黄金バット 怪物くん カエルのぼうけん キャプテン・ウルトラ 巨人の星 コメットさん ジャイアント・ロボ 魔法使いサリー アタックNo.1 (1970) ウルトラマン 怪物くん ゲゲゲの鬼太郎 光速エスパー サインはV タイガーマスク チビらくん ひみつのアッコちゃん マグマ大使 みんなであそぼう!ピンポンパン ムーミン もーれつア太郎 オバケのQ太郎 キングコング ポパイ
ウルトラマン (1966) おそ松くん おはなはん おはよう!こどもショー サンダーバード チャコちゃんハイ 鉄腕アトム ひょっこりひょうたん島 マグマ大使 ウッドペッカー 宇宙少年ソラン(?) 子鹿ものがたり		

(h)社会的話題については、大部分の幼児から聞くことができなかった。ひとり年長の男子が吉展ちゃん事件のニュースをみた話を少し長くしてくれた。あとは交通事故、地震などについて視聴したことがあるといった程度である。

(i)筋のある絵を見せて話を作らせるというのでは、一つは幼児向けの絵本(「よいこのがくしゅう」学研1963.4)から選んだもの。あと三つは、幼児の夏休み帳に出ていたものを使わせてもらった。三こまの絵からなっていて(のちに実物を示す)、それらを幼児にみせ、お話をつくらせるというものである。絵をみて話す場合は、絵が目前にあるので、とにかく何かをしゃべらねばならないというのでほとんどの幼児が何らかの反応を示している。それは絵本を読んでもらったの

### しまうまといおんの話



とかテレビをみてその話を思い出して（再生）話すとき、全く話せない幼児がいるのと対照的である。（付録1として、話題によってどのような反応のちがいがあったかを文節数その他で示す。）

(j) その他の中には、次のような問がある。

- (イ) 大きくなったらなにになりたいか
- (ロ) 右、左が言えるか



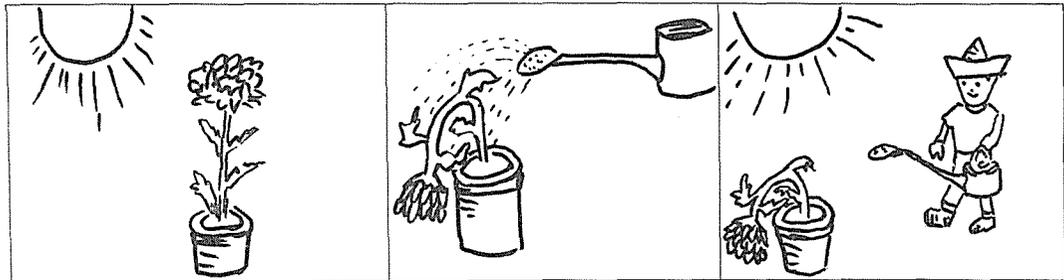
- (イ) 数はどれだけ唱えられるか、10から1まで逆に唱えられるか
- (ニ) 絵「しまうまとらいおん」に書かれている文字が読めるか
- (ホ) その他、幼児が積極的に話したもの

三こまの絵からなる話

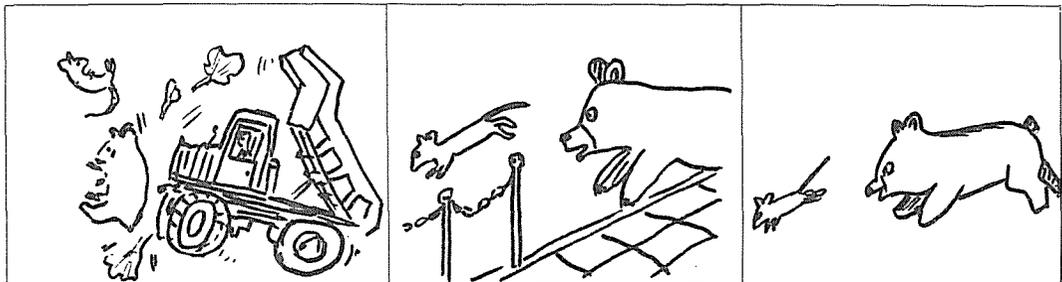
1 うさぎとかめ



2 男の子と花



3 ねずみとくま



## 2.2 幼児の話しことばの事例

幼児がどのような発話をしたかの実例をあげる。どの幼児を事例としてあげるとよいか迷ったが、文節数で発話の長さをはかったのがあるので、それを基準として選んでみた。次表は話しことばを採集できた全幼児のものである。(文の長さ、発話の長さ、文節の長さについては付録1でも述べる。)これらの中から年長、年中、年少とも、一番文節数の多い幼児3名、すなわち赤E女、小久女、神三男と、文節数の一番少ない幼児3名、自F女、神長男、赤h男(自j男は、2文節しか話していないので、次点の赤h男の例をとる)をあげる。ついで、ひとりの幼児の発達をみる意味から、年中、年長同一幼児のもの男と女の例をあげる。年中のとき一番よく話した自s男と、年長のとき女で一番よく話した赤o女を選んでみた。o女は年中のときは、調査児の中位以下しか話せていなかった幼児である。

幼児の発話の長さ——個人別の文節数一覧表——

\* 表中○印は年中、年長同一幼児。(5:8)とは調査当時5歳8ヵ月だったの意。太字の幼児は、のちに、その幼児がどういう話しぶりをしたかの事例を示す。

年 長	文節数	年 中	文節数	年 少	文節数
赤E女 (5:8)	979	小久女 (4:7)	835	神三男 (4:0)	1,496
自A女 (6:5)	940	小高女 (4:8)	732	赤d男 (4:2)	739
自o女 (6:1)	875	神桑女 (4:10)	707	神古男 (4:5)	727
自P女 (6:1)	836	○自s男 (4:10)	605	小原女 (3:7)	647
赤I女 (5:8)	817	神規男 (4:6)	598	神高男 (4:4)	605
赤L女 (5:9)	810	小西女 (4:9)	578	赤a女 (3:10)	575
○赤w男 (6:3)	780	○自t男 (5:3)	575	神佐女 (3:7)	539
自l'男 (5:7)	773	○自j女 (4:7)	550	小佐男 (4:3)	498
自m'女 (6:4)	765	小寛女 (4:7)	549	赤t女 (4:4)	443
赤m'女 (6:3)	746	小西男 (4:3)	534	神大男 (3:10)	423
○赤o女 (6:1)	724	小岡女 (4:8)	496	神寺男 (4:4)	414
赤o'男 (6:2)	693	神松女 (4:8)	496	神秋男 (3:11)	386
○自b男 (6:0)	689	神村男 (4:3)	487	小相男 (4:4)	384
○自d女 (5:11)	680	小押女 (5:1)	476	神狗女 (4:3)	374
赤K男 (5:11)	651	小山女 (5:0)	464	神折女 (4:3)	346
赤J女 (5:8)	638	小川男 (4:10)	459	赤b男 (4:0)	337
赤c男 (5:10)	565	小福男 (4:3)	456	自d男 (3:10)	323
○自k男 (5:8)	558	○自k男 (4:8)	452	小矢女 (4:0)	322
○自s男 (5:9)	557	神遠男 (5:1)	439	神大男 (3:11)	311
○自g'女 (5:11)	556	神鎌女 (4:5)	434	小神女 (4:1)	301
○自u女 (6:5)	554	神井男 (5:0)	428	赤f女 (4:2)	300
○赤k女 (6:2)	550	○赤P女 (5:2)	420	自b女 (3:10)	296
○自t男 (6:2)	529	神永男 (4:1)	378	赤i男 (4:2)	291
自a'男 (5:11)	529	赤q女 (5:2)	374	小福男 (4:2)	278
赤F男 (5:9)	528	神宮男 (5:0)	370	自a男 (4:0)	269
○赤s男 (6:6)	521	小小男 (4:2)	351	神鈴男 (3:6)	259

自 i'男 (6:5)	503	神関女 (5:0)	344	神宮男 (3:8)	246
○赤 a 男 (5:11)	488	神伊男 (4:2)	334	小加男 (4:1)	236
赤 e'男 (5:10)	486	小横男 (4:4)	334	赤 r 男 (3:8)	233
自 y'男 (6:0)	467	○赤 t 男 (5:1)	320	神坂女 (4:0)	232
○赤 m 男 (5:10)	460	小篠男 (5:1)	318	赤 q 男 (4:1)	229
赤 u'女 (5:11)	460	小山女 (4:5)	311	赤 n 男 (3:7)	219
赤 h'女 (6:6)	459	神山男 (4:9)	309	赤 e 男 (4:1)	219
赤 j'女 (6:6)	459	神増女 (4:11)	308	自 i 男 (3:5)	205
○赤 u 男 (6:5)	452	赤 i 女 (5:3)	305	小長男 (3:5)	205
自 c'男 (6:3)	444	神渡男 (4:6)	302	赤 p 男 (3:7)	200
赤 q'男 (5:11)	443	○自 r 女 (4:8)	302	赤 v 女 (4:0)	193
自 t'女 (6:4)	434	神大女 (4:6)	301	小金男 (4:1)	184
赤 g'男 (5:10)	432	小村男 (4:9)	301	赤 c 男 (3:8)	182
自 g'男 (5:8)	430	○赤 k 女 (5:3)	295	神渡女 (3:10)	180
赤 k'女 (5:8)	427	○赤 f 女 (4:10)	294	小藤女 (3:10)	176
自 q'女 (6:1)	424	○自 u 女 (5:5)	293	赤 m 男 (4:1)	169
自 h'男 (5:7)	424	赤 l 男 (4:8)	285	自 h 男 (3:5)	163
赤 B 女 (5:8)	416	自 c 男 (4:7)	285	小竹男 (4:1)	156
赤 s'女 (5:8)	416	小藤男 (4:9)	283	赤 l 男 (4:3)	155
○赤 f 女 (5:9)	410	小成男 (4:7)	282	神玉男 (4:0)	155
○赤 c 男 (6:3)	399	赤 e 女 (4:9)	281	赤 u 女 (3:7)	154
○自 a 男 (5:8)	398	○赤 d 男 (5:4)	280	赤 s 女 (4:3)	153
自 B 男 (5:7)	397	小樋男 (4:3)	279	赤 o 男 (4:2)	148
赤 D 男 (5:11)	395	○赤 s 男 (5:6)	277	自 e 女 (3:9)	144
赤 O 女 (6:1)	382	小有男 (4:7)	275	小新男 (3:10)	141
赤 N 女 (5:7)	373	○自 p 男 (4:7)	273	赤 g 男 (3:5)	132
赤 P 男 (5:11)	371	小大男 (4:6)	263	自 k 男 (3:4)	131
○自 n 男 (6:5)	369	小小女 (4:2)	261	神村女 (3:6)	127
○赤 t 男 (6:0)	367	赤 g 女 (4:8)	256	神新女 (4:2)	126
自 e'男 (6:1)	362	小永男 (4:4)	254	自 m 女 (3:10)	106
○赤 p 女 (6:2)	354	小徳男 (4:5)	250	小岸男 (3:11)	93
自 r 女 (5:8)	353	○自 h 女 (4:7)	244	自 l 女 (3:3)	91
自 f'男 (5:5)	350	小谷男 (4:1)	242	神勝男 (3:7)	91
赤 Q 男 (6:4)	346	神柳男 (4:5)	241	小千女 (4:2)	88
○赤 x 女 (6:2)	341	○自 n 男 (5:5)	238	自 g 女 (3:5)	67
自 D 女 (5:11)	341	小足男 (5:0)	236	小北男 (4:4)	52
赤 C 男 (5:6)	340	小伊男 (4:3)	228	自 c 男 (3:10)	46
赤 b'男 (6:5)	334	神高男 (4:10)	228	赤 k 男 (4:4)	44
自 x'女 (5:6)	331	小福女 (5:1)	224	神柿男 (3:7)	34
○自 e 女 (5:7)	326	小市男 (4:5)	217	赤 j 男 (3:7)	12
○赤 d 男 (6:4)	322	小安男 (4:2)	216	神清女 (3:7)	10
赤 d'男 (6:4)	322	神師女 (4:11)	215	赤 h 男 (3:6)	9
赤 i'男 (6:2)	313	赤 b 男 (5:6)	211	自 j 男 (3:5)	2
○赤 r 女 (5:10)	309	○自 b 男 (5:1)	210		
赤 l'男 (6:3)	306	○自 g 女 (5:0)	208		
赤 f'男 (6:3)	303	○自 d 女 (4:11)	199		
赤 r'男 (6:3)	284	小原男 (5:0)	198		
自 E 男 (5:7)	278	○自 a 男 (4:9)	197		

赤 y'男 (5:7)	272	小志男 (4:2)	196		
○自 l 男 (6:0)	271	神敷男 (4:3)	192		
○自 v 男 (5:7)	269	小上男 (4:7)	191		
自 z'男 (5:8)	269	○赤 n 男 (5:2)	191		
○自 j'女 (5:7)	268	小小男 (4:3)	190		
赤 a'男 (5:9)	262	神北男 (4:11)	183		
赤 M 男 (5:8)	261	○赤 w 男 (5:3)	179		
赤 G 男 (6:1)	258	小清女 (4:8)	173		
自 w'女 (6:5)	257	小嘉女 (4:8)	173		
○自 i 男 (6:4)	256	○赤 x 女 (5:2)	166		
自 d'男 (6:1)	255	○赤 o 女 (5:1)	160		
○自 p 男 (5:6)	253	小山男 (4:11)	159		
赤 t'女 (6:4)	251	○赤 r 女 (4:10)	157		
自 b'男 (5:9)	247	神織男 (4:4)	155		
赤 A 女 (6:1)	238	小高男 (5:11)	152		
○自 r 女 (5:7)	233	小森男 (4:6)	150		
赤 H 女 (5:8)	233	神福女 (4:7)	144		
自 x'男 (6:1)	231	○赤 m 男 (4:10)	141		
○自 o 男 (6:3)	231	○赤 u 男 (5:6)	137		
自 s'女 (6:3)	226	小神男 (4:8)	136		
赤 n'男 (6:2)	223	○自 e 女 (4:8)	135		
○自 h 女 (5:7)	221	○赤 h 女 (5:4)	133		
自 v'女 (5:10)	221	自 q 男 (5:4)	129		
赤 R 男 (5:11)	219	神加女 (5:0)	128		
○赤 j 女 (5:7)	212	○自 f 女 (4:9)	123		
赤 v'男 (6:5)	208	神堀女 (4:1)	122		
○赤 n 男 (6:2)	203	小中男 (4:6)	120		
○赤 v 男 (6:1)	191	○自 i 男 (5:5)	120		
自 c'男 (5:11)	191	○自 v 男 (4:7)	119		
自 k'男 (5:8)	191	○赤 v 男 (5:1)	114		
自 u'女 (6:3)	185	○赤 a 男 (4:11)	113		
○赤 h 女 (6:4)	180	○自 l 男 (5:1)	112		
赤 w'女 (6:2)	161	○赤 j 女 (4:7)	112		
○自 m 男 (6:4)	159	○自 o 男 (5:4)	110		
○自 f 女 (5:8)	141	小関男 (5:0)	98		
自 j'男 (5:7)	140	神島男 (4:4)	96		
赤 P'女 (6:3)	132	小森女 (5:1)	95		
赤 x'女 (5:7)	123	小長男 (4:6)	92		
自 n'女 (6:1)	105	神金女 (5:0)	89		
赤 z'男 (6:5)	98	小浅男 (4:2)	76		
自 F 女 (5:7)	96	神須女 (4:7)	76		
		○赤 c 男 (5:3)	75		
		神高男 (4:10)	72		
		神内女 (4:3)	71		
		○自 m 男 (5:4)	56		
		神野女 (4:6)	53		
		神長男 (4:7)	31		
平均	390	平均	260	平均 三男をとった場合	260 242

文節数を基準にした理由であるが、長くしゃべった幼児の文がどんなものか、少ししかしゃべらない幼児の文がどんなものかが比較して見られるということ、同一幼児の場合では、年中のときに長くしゃべったからといって、年長でも同じように長くしゃべるものでないこと、調査者との問答の答だけからでは、その幼児の能力（あいまいなことばだが）は断定できないということなど、文節を手がかりに推量できると思ったからである。大人でもそうだが、幼児の場合は特に心身が不安定なので、そのときよく話したからその幼児は能力があるなどと、気軽に言えないのである。

平均の文節数をあげると年長 390、年中 260、年少 260（年少の場合は人数も少なく、一人の幼児がばか長く話しているので、平均数が多くなっているが、一応そのままにしておく）。次に最長と最短をあげておく。

年長児 最長 979～最短 96

年中児 最長 835～最短 31

年少児 最長 1,496（次点 739）～最短 2

幼児は、前にのべたような質問をして話させると、この程度の発話の長さの反応ができるということがわかる。

以下に、8名の幼児の話した話しことばの実例を、右側に筆者の気づいた解説をつけて参考までにあげておく。

### 年長児で文節数の一番多い幼児

赤長-E女（5:8） 1966 本 弟

○T・T。

Tちゃんはね、去年やった？

○ヤンナイ。

やらなかった？／○ウン。／いくつ？

○ゴサイ。然

おうちにだれとだれいます？

○エートネー # オカアサントネー オトウサントネー アト  
ヒサシクントネー # アト オニイサン フタリ イルノ。然  
お兄さんは何年生？

○ガッコ イッテナイヨ。ダイクサン。然

じゃーもう大きいのね。だれいちばん好き？

○ウーントネー オニイサン。然

お父さまのお仕事は？

○ウーントネー ダイクサン。然

お兄ちゃんも大工さんね。

○<sup>お兄</sup>オニイ # オニイチャン フタリ イルカラ # オトウサン  
ノネ # ダイクサンノ オテツダイ シテル。然

どしてお兄ちゃんが好きなの？

○ウーントネー # イツモ アソンデ クレルノ。然

どんなお遊びしてくれるの？

○ウーントネー # トランプトカネー # ゲームトカ ソイウノ  
ヤッチェ クレル。然

○「イツツ」という子が大部分。

○「～カラ」は終助詞ともとれる。

○「ソイウノ」で並立関係をまとめている。

- むずかしいでしょう。／○ウン。／ほめられることある？／○ウン。
- どういう時？
- ウーントネ ウント トランプ ヨク デキタッテ。然  
叱られるときある？
- アンマリ ナイ。然  
運動会があったわね。／○ウン。／そのお話ししてくださる？
- ウンドウカーイ？# ウンドウカ<sup>(エ)</sup><sub>(イ)</sub>？然 ウン アノネー  
# アタシ サントウダッタケドネー ヨウコチャンテ イウ  
コ イルデショ、# アノ コ イットウショウダッタノ。然  
それからどういうことあった？
- モット？# アノネ ダレカ センシデ カッタ ヒト イタ  
ノ。然 ソレデ オッキイ ハタ モラッタノ。  
いちばんおもしろかったのはなに？
- ウンドカイ。  
運動会の中で、おもしろかったもの。
- ウーントネー ツナヒキ。然  
どして綱引きがおもしろい？
- アノネー ウントネ ダレカネ ツマヅイテ ワラッテル ヒト  
<sup>(ハ)</sup><sub>(ガ)</sub>イルンダヨ。然  
きのう幼稚園でなにをした？
- ウーントネ、……ナンカ シテタ。  
いつも幼稚園でどういうことします？
- ウーントネ # アノネ # オソトデ アソングリネ # ジ  
ャングルジム ノッタリネ # オスベリダイ ノッタリー  
ジャナクテ スナバ イッタリネ ソイカラ テツボウ シタリ  
シテ アソन्दルノ。然 お教室では？
- オキョウシツ？然 ウント オエカキトカ ネンドトカ (シテ  
ル)。  
何いちばん好き？
- ウーント オエ オエカキ。然  
どうの書くの？
- ウーントネ # イツモネ # オニギョサントカ ソウイウ  
ノシカ カカナイケドネ # アノネ ウーント (ヤマモトカズ  
オ) ノ ウマック カクノ。  
上手でしょ。
- ウン。然  
おうちに帰ってなにしました？
- ウーントネ # オカアサンノ オテツダイ シタノ。然  
どんなことやるの？
- ウーントネ # オソウジ シタリネ # アノネ アカチャン  
ネ # ウーント モリ シテタリ ヤッタリネ # ソシタリ  
ネ ウーント アカチャンニネー # ウントネ ウート オサ  
ンボ サシテ アゲタリネ # イロンナ コト スルノ。然  
感心ね。大きくなったらなんになりたい？
- ウーントネ ……ウーント ……カミイーサン。  
うん？
- カミイーサン。

○質問者の発問「運動会」をくりかえしている。

○「センシ」→「せんしゅ」(選手)の意。

○「たり～たり」を使つての並列。

○かっこの中は発音不明瞭ではつきりききとれなかった場合。

○「イロンナ コト」と総括している。

かみいさん。

○ウン。

どして？

○イツモネー # オカアサンガネー # 「アタマ イタイ イタイ」 ッテ イウ トキ チャント トイテ クレル。然 ウン。幼稚園で先生がお話してくださったりなんかするでしょ。／○ウン。／そのお話でおぼえているのがある？

○オハナシ？ # アンマリ オボエテ ナイケド スコシ オボエテ イルノ (アル)。きかせて先生に。

○アノネ # ウントネ オベント タベテタ トキネ # スグネ アソングラ スグ カエッチャウノネ。# オエカキ シテネ # ソイデ 「オカエリモ シマショウ」 ッテ イツテネ # ソイデネ オカエリ スルノネ。# スルトネ ダレカハ  
イツモ イチバンサイショニネ イツモネ ゴホン ヨンデルノネ。# 「<sup>(ダ)</sup><sub>(ラ)</sub>メダ」 ッテ イツテモ キカナイカラネ センセイニ イイツケチャウ (ノ) ネ。ソウスットネ スグ シマッチャッテ アノ ……アノネ # ウントネ オカエリノ シタクシテルンネ。ソシテネ イツモサー ダレカネ ガクタイノ レンシュウシタ トキネ カスタネットガ オッコッテンノネ。# アレーツ オモッテ センセエノ (オツクエ) ミルト ダレカ オッコトシトクンダッテ イツテ <sup>(ン)</sup><sub>(ル)</sub>ノネー。タカヤクンガネー；ソシトラ アタシー イツモ ミテルカラ ミンナ イチクミノ ヒトガ オッコトシトクノネ。ソイデ アタシ イツモネ 「オッコトサナイデ チョウダーイ」 ッテ イツクノネ。ソウスト オッコトサナイ、イツモ オッコッテナイノネ。然  
おうちからね、幼稚園にくるにはね、どういう道とおってくるの？

○ウーントネ イツモ チカイ・ミチ。然  
どういうふうにくるの？

○アタシ オカアサン ムカエニ コナクッテモネ ヒトリデ カエレルヨ。然  
団地のなか？

○チガウ。バドゥリ。然  
テレビ見るでしょう？

○ウン。

どんなの見てます？

○イツモネ オトナノ モン ミナイデネ (マンガ) スコシ ミテネ ソイデ ヤメトクノ。然 ハンブングライ ミタラ；  
どして？

○アノネー オニカイハネ イツモネ イタク ナッチャウカラネ。オカアサンガ；／どこがいたくなるの？／○メガ イタクナル。然 ダカラネ # イツモ ハンブングライデ ヤメトク。然

なんか見たのでおもしろいの先生にお話してくださる？

○ウン。アノネ マンガノ ナカノ トーミートネ # スーパージェッタートネ # アトネ ウーント ……ネ ウント ウント テツワンアトムネ ソレダケガ オモシロイ (ノ)。  
ポピーっていうのはどういふの？

○ポピー？

○質問者のことばを一度繰返して  
いうくせがある。「オハナシ？」

○長く発話しているのだから、よく  
わからない。

○道順を聞くが、説明できない。

○質問に対する答ではない。

○「スコシ」→「ハンブングライ」  
とくわしく補足している。

うん。どういとお話？

○ロビー？／あロビー。ロビーってのどいとお話？／○ウーントネー # ハジメネ ウントネ フツウノ コドモナノネ。# ソイデ ナンカ ワリイ コトヲ シタラ スグネ ロボットカエチャウノ。然 フンデネ アノネ ロボットグッタラネ アノ アノ ソウジキミタイノガ ロ スグ ロケットノ トコロガネ テンワデモ ツイテンノネ。# ムセンキガ ツイテ スグネ ワルイ コト シタ<sup>(ノ)</sup><sub>(ラ)</sub> シラセルノネ。ダレカニネ；# ソウストネ (テ)ノ ナカニ パティーガ アッタノネ。# ソイデ キレイナ ヒトネ アノ ポッテタノ オドッテタノネ。ソシテ ミー<sup>(ラ)</sup><sub>(ダ)</sub> ミタイノ ソレ キレイナ ヒトノ オトウサン イナク ナッチャッタノネ。ソイデネ ミーラミタイ カッコ シテンノ、カオ シテンノネ。スポーツカー ノッ<sup>(タシ)</sup><sub>(テ)</sub> ドッカ ドライブニ イッタノネ。ソシタラ ソノ ヒトネー ワルイ ヒトダト オモッテ マチガエテ ウッタノネ。オトウサンガネ ロケットノネ カオネ キズ ハイッチャッタカラネ ソイデ オトウサン シンジャッタ。然

あとはなにが好きだっていった？

○ウーントネ パービートネ # アト ウントネ マグマタイ ショウトネ # ソイウノ ニンギョミタイノ デキテンノ。# ソイカラ ウルトラマントネ # ウント オバケノキュウタロウガ スキ(ナノ)。然

おばけのQ太郎ってどいとお話？

○アノネ # ウーントネー アタ アタマノ ケガネ サンボンシカ ナイノネ。然 ソイデ ホントノ オバケナノネ。然 ソイデネ ウチンチネ オバケノネ ネジ マクト ウゴクノ アルヨ。然 ソイデ ピーコトネ # アトネ ドロンパッテ イウノモ アメリカノ オバケナノネ。然 ソレガ アトラシクネ アノネ デテ キテネ ドロンパッテ イウノガネ アノ オバケノキュウタロウノ オトモダチデネ ピーコハ アノー オバケノキュウタロウノ イモウト。然 ショウチャントネ # アト オニイサント オカアサントネ オトウサンハネ ウーントネ ホテル イッタノネ。# ソシタラ ワラッテバッカリ イルノネ。アラー アノ ヒトハ キュウタロウ ウントネ ウーント キチガイカナト オモッテ ミタラネ アノネ ナンカ ワラッタノネ。キチガイダト オモッテ クシュグッテ ミテ ヨケイ ワラッテ ワライガ トマンナク ナッテネ # アノネ ビョウキダト オモッタノネ。ソシテネ クスリ ノマシチャッタラネ ヨケイネ ワライガ トマンナク ナッチャッタノネ。ワライ ワライガ トマル クスリ ノマシタラ スグ トマッテネ # ウーントネ ナオッタノネ。ソシタラ ソノ ウチノウチ タズネテッタノネ。# ソシタラ キュウタロウノ オトウサンガネ ウント キテタンダッテ。

お母さんがね絵本よんでくださったりお話ししてくださったりします？

○ウン。

どんなお話ききました？

○モモタロウトカネ # ウントネ ウルトラマンノネ # アノ

○テレビについて聞くとよく話すが、内容ははっきりわからない。

○話しことばなのでなまった言い方が出る。「ワリイ(悪い)」「フンデ(それで)」。

○話す過程の中で連想して、筋からはずれたことを挿入する。

○「クシュグッテ」→「くすぐって」の意。

ネ ゴホン ヨンデ モラッタノ。然

桃太郎さんのお話かせて？

○ウン。アノネ ウントネ ハジメネ オバアサンガ カワヘ オ  
センタクニ イッタノネ。ソシタラ オッキイネ モモガ アッ  
タノネ。ス オイシソウダッテ オモッテ オウチヘ モッテッ  
テ キッタノネ。ソシタラ オジイサンガ チョウド カエッテ  
キタ(ラ) キリマショウ テ(タラ) ナカカラ カワイイネ エー  
ト マンマルイ ラシイネ コドモガ デテ(キチャウ)。#(ソ  
レガ)オトコノ コダッタノネ。ソレデ「ソダテマショウ」ッテ  
ユッテ ソダテタノネ。ソシタラネ ウントネ ドンドン オッ  
キク ナッテ イッテネ、ソイデ オジイサンタチガ タスカッ  
タノネ。ソイデネ ソノ コハネ トテモ(ニンキ)スゴイ オ  
オキイコデネ ウント ナゲトバシチャウダッテネ。ソイデネ  
ソイデ「オジイサンニ マキワリヲ イタシマショウ。オミズ  
クミマショウ」ッテ イッタラネ ソイデ オジイサンタチハ  
タスカッテ「モモタロウニ マカセマショ(ス)」テ(イウンデ)  
マカセタノネ。ソイデ オショウガツン ナッテネ「モモタロウ  
オダンゴヲ ヒトツ タベナイカ」ッテ イッタラネ ソン ト  
キネ ウントネ # ウント モモタロウ コウ イッタノネ。  
「スコシ オジカンヲ クダサイ」ッテ イッタラネ「オニ オ  
ニノ<sup>(ス)</sup>エバツヘ イッテ キマス」ッテ イッテ カブトト  
ネ アノ<sup>(エ)</sup>カタナヲ モッテネ オイシイ キビダンゴヲ モ  
ラッタラネ ソイデ イッテ キタノネ。# ソシタラネ「モシ  
モシ」アノ<sup>(ユ)</sup>コノ サルガ キタノネ。ア サルジャナイ イ  
ヌガ キタノネ。「モシモシ モモタロウサン ドチラヘ オ、  
オコシデスカ」ッテ イッテ「オニノ セエバツヘ イクン  
ダ」ッテ イッテ ソシタラ「ワタシモ ツレテッテ クダサイ」  
ッテ<sup>(イ)</sup>ッタノネ。コンダ ヤマヘ イッタノネ。「モシモシ  
モシ」オサルサンガ キタノネ。「モシモシ モモタロウサン  
ドコヘ イクンデスカ」ッテ イッタラネ「ワタシ オニノ セエ  
バツヘ イクンデスヨ」ッテ イッタラネ ソシタラネ「ワタクシ  
モ アタシモ アタシモ ツレテッテ クダサイ。」「キビダンゴ  
アゲマショウ」ッテ イッテ ソイデ コンダアネ アノ コ  
トリガ キタノネ。# 「モシモシ モモタロウサン ドチラヘ  
オコシデスカ」チュウッタラネ「オニノ セエバツヘ イクンダ  
ヨ」ッッタラネ ソイデ オダンゴ アゲタラネ ソシテネ  
ヤット ツイタノネ。# ソシタラネ ウントー オニガ イタ  
ノネ。ソイデ アノネ モモタロウハネ ウント オニノ ウチ  
ヘ アノ ハイッテテネ ソイデネ アノネ ウント ソイデネ  
アノ ウント ……ネ オニガ オオ ウント オオサマノネ  
オニ オウサマノ オニノネ オウサ オニノ オウサマハネ  
テー トラレチャッタノネ。「モウ シマセンカラ」ッテ イッ  
(テ) タカラモノ センブ モモタロウサンニ ヤッタノネ。#  
ソシタラネ ウントネ ソレデ カエッテ キタラネ ソシタラ  
オジイサント オバアサンハ ニョー ニョー・クル「ア アノ  
カエッテ キタノカ」ッテ イッテネ ソイデ「ソノ タカラモ  
ノヲ ハネ ミンナ モモタロウサンニ アゲマス」ッテ モ  
ラッテネ オジイサンタチハネ ウント オカネモチニ ナッタ  
ノ。然

○「アノネ」「ウントネ」の間投詞  
が非常に多い。

○「マンマルイ ラシイ」かわつ  
た使い方。

○「セ」の発音がはっきりしない。  
「セエバツ」→せいばつ(征伐)。  
二重母音(ei)なので発音しにく  
いのか(eー)になっている。

○一文を切らないで長く続けてい  
う傾向が幼児期の終わりに出て  
きて、それは一種の発達である  
が、そのため文のみだれがめだ  
つ。

○鬼の言ったことばと、お爺さん  
たちが金持になった原因の関  
係がはっきりしない。「モラッ  
テネ」でなく「オニノウチ  
テキタノデ」となるとこ  
つか。

そいでね、その時おばあさん川へ洗濯にいったっていったでしょう。／○ウン。／どういうふうに洗濯していたと思う？

○ネー # アマリ ワカンナイケドネー # ウントネ ムカシハサー # ウントサー センタクキ ナカッタカラサー # オッケ ウントサー タライミタイノデ ヤルデショ。# ソレデサー # ナカヘサー ミズ イレテサー ソイデ アラッテルンデショ。然

よく知ってるわね。そういうのどうして知ってた？

○エデ ワカッチャウモン。然  
ニュースなんか見る？

○ミル。然  
ニュースってどういうこと教えてくれる？

○ウントネー # ウントネー ダイヤ トラレタ トキカネー # ダイヤ トラレタ トキトカネー # ソレトカネー アノネ # ウチュウノ ロケットガネ # ヤマニ ツイラクシタトカネー # ウーントネー アノネー ウント ソイデネ # ショウネンガネ # オカネヲネ トッタトカネ # ソイウ コト オシエテ クレル。

それどうして知っているの？ テレビで見るの？ 新聞は？

○シンブンネ アンマリ ヨメナイ (デ カイチャウング)。  
かずはいくつまでかぞえられる？

○カズ？ # ゴジユウ。然  
十からね逆にかぞえられる？

○……  
夢みる？／○ウン？／ゆめをみる？

○アンマリ ナイ。然  
絵本もってきたのね、／○ウン。／この絵本をね／○ウン。／これよんでみて？

○ココ？ # シ マ ウ マ ト ラ イ オ ン。  
それから？

○エー ヲ ヲ？ # エ ヲ ミ テ オ ハ ナ シ ……シ？  
# マ ……ショ。  
ライオンがどうしましたか？ これお話してください。

○アノネ # ウントネ ナンカネ ゴ<sup>(シ)</sup><sub>(チ)</sub> ソウ ナイカッテサガシテタラネ。# ライオンガネ；# ソシテネ シマウマガイタノネ。# ソイデネ 「アレガ イイヤ」ッテ イッテネ ソレデネ オイカケテ イッタ<sup>(ノ)</sup><sub>(ラ)</sub>ネ、ソシテ ソノ シマウマネ ウーントネー イッパイ シマウマガ イル トコヘ イッタノネ。ダカラ ライオンネ ビックリシテネ ウントネモウ コナク ナッタノ。然  
このお話してみて？

○コレ？  
こちらから。

○イチバン？ # ウントネー カメガ カメ ジャナイ ウントネー ウサギサンガ ネンネシテタノネー。ソシタラ カメガキタノネ。……ソイデネ アッ 「カメサンカー」ッテ イッテアノネ 「カメサンカー」ッテ イッテネ ソイデネー キョウソウシタノネ。カケッコネ；ソシタラネ アノネ ウサギサンノカ ウーント カチンナッタノ。# ソシタラネ # ソ アノ

○絵本をみせてお話をさせたとき、題が書いてあるのでために読ませてみた。

○この「ソシテ」は「そしたら」の意である。

○「ネンネシテタ」と幼児語を使っている。

○「ソシタラ」も使えないわけではない。

カメサンネ ノロイデショ。ダカラ ウサギサンガ イットウ  
ショウン ナッタノ。

そういうお話きいたことある？

○アル。

上手にお話したわね。／○ウン。／じゃここから、二番目の絵ね。

○アノネー # ハナガネ タオレチャッタノネー。デ ミズ ア  
ゲテモネ タタナカッタノネ。ソイデネ ナンカデ タッテタラ  
ネ アノネ タッテネ ダンダン オオキク ナッタノ。

こんどこれね。

○アノネー # ウーントネ クマガネ ネテタノネ。ソシテネ  
ネズミガ イタノネ。ソイデネ チュウチュウテ ネズミ ナイ  
テタノネ。ソイデ クマサン 「ア ネズミ サンダ」ッテ オ  
イカケテ イツラ ジドウシャ オオドリマデ オイカケテ  
イツラネ ウンデ ジドウシャガ キテネ ウント サン  
アッ クマサントネ ネズミサンネ トバサレチャッタノ。

日曜日何したの？ お話して。

○アノネ オハナシ シタリネ # ゴホンネ ゴホンノ オハナ  
シ シタリネ # ウントネ サッキノネ アレ ヤッタリネ  
イロンナ コト シタノ。然

夏休みのことおぼえてる？

○ナツヤスミ？ # イツタ トコ？ #

なんか楽しかったおもしろかったお話。

○ウントネー オーイソロングビーチネ センセエト アッタノ。然  
ソレカラネ ウーントネ オトウサントネ オヤマヘ イツタノ  
ネ。オトウサンノ オトモダチノ オジサンノ ジドウシャデ  
ネ； # キョウコチャンテ イウ コネ # ソイデ ネチャッ  
タノネ。ズイブン ネットラネ ユウガタン ナッチャッタノネ。  
デ「キョウコチャン キョウコチャン オキナサイヨ」ッテ「オ  
ジサン ノボロウネ」ユッタト オモッタラ イチバン タカイ  
トコロ イッテネ「キョウコー！ キョウコ！」ッテ ヨンデ  
ルネ。リックサック モッテ テッペンマデ イツラ ス  
ルーットネ ウーントネ カマキリガ イタノネ。チョウド ビ  
ニール モッテ イツカラ モッテツカラ リン ナカヘ  
イレ(テ) オウチ モッテタ。ソイデネ ナニヲ アゲルカ ワ  
カラナイッテ ソノマンマニ シトイタラ シンジャッタノ。然  
かわいそうだったわね。

○ソイデ オハカ ツクッテ アゲタノ。然 タイフウデ タオレ  
チャッタ。

お墓？

○ウン。

台風の時どうだった？

○タイフウノ トキ？ # ウーントネー ヤネガ モッチャッタ  
ノ。# タタミ ビッショリン ナッチャッタ。然 ヤネガネ  
アナ アイチャッタ。ネ ソイデネ ウチノ オトウサン ダイク  
サンダカラネ アノネ アタシモ クギ モッテ キテネ オト  
ウサンニ オテツダイ シタノ。然

まだほかに先生にお話して下さることある？

○エートネー #……アル(ナンカチュットネ)アノネ # ウー  
ントネ # アノネ # ウントネ オカアサンガネ # ( )

○第3の話を、この幼児はうまく  
まとめているが、二匹ともとば  
されたかどうか、はっきりし  
ない話し方の幼児が多かった。

○まだいくらでも話をしそうだっ  
たので追加して聞いてみた。

○「リックサック」→「りゅっく  
さっく」の意。

○「オウチモッテタ」→「うちに  
持って帰った」の意。

○「オトウサンニ」「の」の意。助  
詞の誤用は多い。

ソイデ アタシガネ イツモ ネカシ ネカシテ アゲルノネ。  
ソイデ ミルク オカアサン ツクットイテ クレルノネ。ソレ  
デ「ノマシテネー」 ッテ イウカラ「ハイ」 ッテ ユッテ  
クジン ナツラネー ソシタラ ノマシテ ヤルノネ。アサン  
ナッテ アタシ イチバン ハヤク オキテネ ダカラ オカア  
サンハ ヨル ミルクネ アノ アツカイトコ(ロ)ヘ オ  
イトクノネ。# ソウストネ アカチャン ナクノネ。ダカラ  
ミルク シタカラ トッテ キテネ ソレデ ノマシトクト マ  
タ ネチャウノ。オヒルゴロ;

感心ね。みんなしてあげるの? お友達がいる?

○ (エ) ル。  
(イ) だれ?

○アノネー キョウコチャンテ イウ コトネー # アトネ ア  
ベクント ヨシー アト リーチャンテ イウ アッ リエコ  
チャントネ アトネ ウント マミチャンテ ガッコウノ トナ  
リノ コネ # ミッチャンテ イウ コ イッシュニ ガッコ  
ウヘ イクトキノ ヒトネー # コノ ヒトト エリコチャン  
ト キヌチャン。# ヒトツ ヒトリ フタリ サンニン ヨニ  
ン ゴニン ロクニン ヒチニン イル。然  
その子たちとなにして遊ぶの?

○イツモネー # ハンカチオトリ ハンター ハンカチ オトシ  
タラネ ソウスト アタシガ イツモ マケチャウノネ。ダカラ  
イツモ マンガヨミ シテ クレルノ。

○前にもあるが、直接話法の話し  
方は幼児に多い。

○はっきりしない。

### 年中児で文節数の一番多い幼児

小中一久女(4:7) 1968 本 弟

お名前言ってください。

○K・A。

お年いくつ?

○ヨンサイ。然

Aちゃんのお家誰と誰います?

○( ) オトウトガ イル( )。ヒトリダケ。/それから?  
/○アトハー ヨコヤマ。トミコッテ イウ イナカカラ キタ  
オネエサン。/お母さんは?/○K ノリコ。

お父さんは?

○シンジャッタ。/何の御病気で?/○ワカンナイ。/であとどなた  
がいるの?/○アト オバアチャン。然 K マチコ。然/みんな  
の名前よく知っているわね。/○オジイチャンハ K マタイチ。  
じゃ全部で何人?

○エートネ # ト( ) (イシイサン) トイウ ヒトガネ #  
イツモ ハイタツニ クルノ。然 ( )。

誰一番好き? おうちの人の中で。

○エートネ ママ。/どうして?/ …… /どこがいいの?/○ワ  
カラナイ。

おじいちゃんはお仕事していらっしゃるの?

○シテル。/何のお仕事?/○ントネー # (イシイ)サンニ ハ  
イタツ タノムッテ イウ コトヤネ /ん?/○(イシイ)サン  
ニ ハイタツ タノムッテ イウ コトヤネ # エート ドッ

○父親の仕事の説明ができる  
幼児は少ない。

- カニ イク トキ ( )。
- 配達って何をしていらっしゃるの？
- エート フトン ト、トドケ(ル) ッタリ (カストブ) エート  
ネ トリニ イッタリ スル。  
お母さんは何をしていらっしゃる？
- エートネ # エート (イツモ) / いつも何をしていらっしゃる？  
/ ○ワカンナイ。然 ヨルハ ワカルケド。ヨルハ ナンカ オ  
ヨウフク ツカッタリ スカート ツクッタリ ワンピース ツ  
カ ツクッタリ スル。# (ヨウチエン)カラ カエッテ クル  
ト ママガ シゴト スル トキ アルカラ アンマリ ダカラ  
ワカンナイ。然 (音楽の音うるさく聞きとりにくし)  
お家にいつもいらっしゃるの？
- コ、コウエントカ / 大きな声してね。/ ○コ、コ コウエントカ  
ドッカデ イク トキモ アル。  
昨日日曜日だったわね。何した？ おうちで。
- エート ドヨウビ ヨウチエンカラ カエッテッカラ オヒルゴハ  
ン タベテ エート # ムラヤマノ オウチ オトマリニ  
イッタ。# ソシテ ニチヨウビノ ユウガタ カエッテ キタ。  
/ どこ行ったって？ / ○ムラヤマ。  
何かあるの、その辺に？ / ○ナ エートネー …… # / どう  
いう所？ / ○アノネ # イナカ。  
お母さんのお家？ / ○チガウ。/ 違うの？ / ○オトモダチノ ウチ。  
然 ダケドネ # ヨソニ スンデテネ ソコノ ウチニモ ク  
ルコトガ アルノ。然 ( )。  
楽しいことあった？
- エート ワナゲ モッ モッテネ # (ボクネ) エート ント  
トウキョウノ ハズレ ( ) ツレテッテッテ チカイカラ ツ  
レテッテネ ソウシタラ コドモタチニ (イチバン) ( )  
マチガエチャッタ。  
お母さんに叱られることある？ どういう時？
- ( ) カッタ トキ。  
ほめられる時は？
- イイ コト スル トキ。  
遠くに旅行したことある？
- ナイ。然  
幼稚園では何をするのが楽しい？
- ント サンリンシャニ ノルッテ イウ コトハ ブランコデ  
アソブッテ イウ コトト オママゴトト アトハ オトモダチ  
ト オニゴッコカ タコアゲカ ナンカ スム ゴト。然  
おままごとしてどんなふうにするの？
- エートネ # ミンナガ ナカマヲ サキニ スコシ オトモダ  
チ アツメテ ヤッテッテ エート コンド ナカマニ イレ  
テッテ オトモダチガ キタラ ナカマニ イレテ アゲル。然  
ダケド ナカマニ イレル トキ ナカマニ イレナイ コガ  
アルンダヨネ。  
どうして？
- ダッテ ワルイ コノ オトコノ コト イイ コノ オトコノ  
コ アルデショ。ソノ ナカデ ワルイ コノ オトコノ コハ、  
イレナイノ。然 マ、チュウグライデモ イレナイ コトハ イ

○「ドッカデ」→「どっかに」の  
意。

○この幼児声が小さく、聞きとり  
にくい。

○E女と比べると年中にもかかわ  
らず大人っぽい構文で話してい  
る。文と文が理論的に関連づけ  
られている。

イケド。# チュウグライノ イレル コトモ アルケド イレ  
ナイ コトモ アル。

幼稚園にいろんなお部屋があるでしょう。何組がどんなお部屋  
かって、この前きかせてくれたわね。

○エートネ # イチバン アッチガ # エート ワカンナイダ  
ケドネ # トナリノ コッチガ アノ ショクインシツッテ  
イッテ ゼンプノ センセイガ イル トコ。然 ハラダ(セン  
セイ) ( ) ダレモ ( ) ナル。然 ソシテネー #  
……ソノ トナリガ デル トコ。然 オニイサンタチガ; 然  
ソコノ ソノノ ソノ ショクインシツノ トナリ アガッテ  
イクト ント マタ ニカイニ イク ワケ。ウエニ イクノ。  
階段があるのね。/○ソノ カイ ソレデー アトー コウテイ  
ニ イク トキノ アノ カイダン ノボッテ イクトネ #  
ソイデ アスコノ コウドウノ シタッ、カワニ デテネ #  
ソノー ( ) ソコノ コウドウカラ ウエニ アガッテ イ  
クトー # エート アソコノ ウエニ イカレテ ベンジョガ  
アル トコロ。然

どこで遊ぶのが一番楽しい?

○オソト。然  
動物がいっぱいいるでしょう?/○ン?/かたつむりなんか。何  
と遊ぶのが一番好き?

○カタツムリトネ # オタマジャクシ。# カエルン ナツトリ  
(シテル)。然  
何かまだいたでしょう。おとなしいのが。抱いていたでしょう。

○モルモット。# ト ウサギ; # アレモ スキダケド。キョウ  
ヒトリデ ダコウト オモッタケド ダケナカッタカラ アキラ  
メチャッタ。然  
こちらの手はどっちの手って言うの?

○…… ヒダリ。  
よく知ってるわね。こっちの耳は?

○ヒダリ。  
そうよね。大きくなったら何になりたい?

○ネコ。/ん?/○ネコ。/猫、どうして?/○タベルカラ。タク  
サン タベルカラ。  
お魚好きなの?

○クライナ サカナモ スキナ サカナモ アルケド。  
教はいくつまで数えられる?

○ヒャク。然 キュウ、キュウ。ヒャクキュウジュウキュウ マデ。  
然  
じゃー10から逆に数えられる?

○ワカンナイ。然  
夢なんか見る?

○ミナイ。/どんな夢見る?/○カジノ ユメトカ ヨウチエン  
ノ アソビトカネー # オウチガ ヒニ モエチャッタラ カ  
イジュウガ キタッテ ヲ コトカ、ヤ エートネ モウ  
ヨッコガ オウチニ マダ イルトカ ソウイウ ユメカナン  
カ。然

Aちゃんは弟さんがいるのね。いくつ?

○ヨンサイ。/弟さん?/○ニサイ。然

○「ニカイニ イク ワケ」など  
という言いまわしを使っている。

○「ケド」の接続助詞を上手に使っ  
ている。前の「ケド」は終助詞。

○「ヒニ」→「ひで」の意。

○「コトカ」の「カ」を「ヤ」と  
言いなおしているところなど、  
しっかりしている。

「モウ」も「マダ」に言いなお  
している。

お家で遊ぶ？

○アソブ。

お家へ行くにはどういう道通って行く？

○エート ヨウチエン デテカラネ エート ミドリノ オバサントコ ワタッテ コンド スズランドオリ ハイッチャッテネ エート ワタッテ ハイッテ デテ エート ソレデネー エート サクラドオリノ ホウニ ワタッテ ( ) ヤ) サンテ イウ ( ) ナイ ホウニ イッテ スーット イクト フトン ヤサダカラ フトンヤサン, ナノ。／お布団屋さんなの？ お家。／○オダヤッテ トコ アッテ ソノ ミセノ ナカニ アンノ。然

一人で来られるの？

○コラレナイ。然 タクサン ワタル トコガ アッテ。然 交通事故って見たことある？

○ミタ コト アル。

どんなの見た？

○エート オバアチャンガネー # エート オウチノ マエ ヒーロクッテ シンゴウナド ( ) エート エート オショウガツニ ナッテ ママ ワリバシ カッタノヨネ。ソン トキカイニイッテ カド ワタロウト オモッテ シロイ セン トコネ エッ, テ テ ケガ シチャウ。然 モウ ナオッタケド。テレビなんか見ます？

○ミル。

どんなの見てる？

○エート コドモショートカ ピンポンバントカ アト ケロチャントカ ( ) トカネ ロンパールーム ミナイデショ。コノゴロ; アトハー アト (ティティティティティ) ターザン。キョウ オバケノ キュウチャン。# エート ミテタケド モウ ミナイ。

何が一番好きで見ている？

○ンートネ キュウチャン。

お話聞かせて。どんなお話だった？

○ワスレチャッタ。然

今見ているのでお話できるのがある？

○エートネ ケロチャン ( )。

ピンポンパンていうのは？

○アノネ # ハジメ オウタ ウタッテ アツマッテネー エート アト ナンダッケー。ソレカラ タイソウ ヤンノ。然 オニイチャン ヨンデ。# ソレデー アトハ ドッカ カケッテ イッテー # ツギノ オカアサンタチガ ( ) ニ イッテ コンド アトハ ワスレチャッタ, モウ スコシ アッタケドネ # (タイソウミタイ)。ソロッテ コンド オカアサンタチガ ( ) オカアサンガ キテ, サイゴニ マタ タイソウ スコシ ヤッテ ヤメル。# ソウシテ チョット ( ) ヤルンダッテ ( ) ダケド ( ) ハネ エート コンドハエ カクノ。／こどもショー？／○パンピンボン。／あ, ピンポンパン。／○ソイデネ # エート ( ) アルンダケド ソノツギハー エート ( ) アレガ (モモ) チャンダッケー。アレタシカ (モモ) チャンダヨネ。タシカ (ボンボ) チャンガ ア

○通りの名前を覚えていて道の説明のときに使っている。

○「ケガ シチャウ」過去形を使うべきところ。

○文不明瞭

○声が細く,低く聞きとりにくい。残念。

ツマッテ (オウタガ) アツマッテ コンド (ドレ) イクノ。#  
( ) ナッテ アト ワスレチャッタ。然

大人のものなんか見ます？

○ミル。アップダントクイズ。

そのお話聞かせて。

○ナンカイモ ヤッテネー スワッテ エート マルイノ ブーッ  
ト オシテネ バツ フタツニ ナッタラ モウ ( ) (ピッ  
コノ) トキ アル。( ) オッコチナイデ ウエマデ イク  
トネ ドッカ イカレンノ。然 ソノ ナカノネ # オンナジ  
トコダケド コンド ウエマデ イカレンノ。然 ダッテ ム  
ズカシーイ モンダイガ デテネ アタラナイト コンド アタ  
ルトネ ウエマデ イカレンノ。ゼンブ; 然 ゼンブジャナクテ  
/ああ/○イ, ワカルッテ イウ コト。/アップダウン・クイ  
ズね。/○マチガエルトネ # マタ オッコッチャウ。然 テ  
ネ デネ マチガエルトネ # ダレモ イワナイ。ト オッ,  
トネ ソイデ マチガエルト オッコッチャウケド ダレモ イ  
ワナイト ダ, スコシ タッテ ブーッテ ナル イッテネ  
エート (ナンテ) ソノ ユッテル ヒトガ オシエテ クレ  
ル。# ソレカラ カミガ ハッテ アッテ ワカラナクテ カゲ  
ガ (デル)。ソン ナカニ ヒトガ ハイッテテネ エート ム  
ズカシイ トイ ダスンダケドネ。# エート アトカラ; エ  
ート サンダイ アルンダケド ソントキネ ン (ナンテ) エ  
ート …… エートネ # ソントキ アノ エート ダレデス  
カッテ アタルデショ。ソウシテ アタルト エート ウエ  
エート サンダン アガ サンダンカイ アガッテ エート カ  
ミガ ウエニ イクノ。# ソウシテ デラレルノ。然  
ニュースなんかも見ると？

○ミナイ。

お母さんが絵本読んでくださったりお話して下さったりする？

○スル。/どんなお話聞いた？/○オハナシハ スルケドネ (オモ  
ウ) ハネー オハナシハ オバアチャンガネ # オシエテ ク  
レル。

どんなお話おばあちゃんから聞いた？

○キンタロウトカネ # ソレカラ ( ) ト モモタロウトネ  
アトハー # ワスレチャッタ。然

桃太郎のお話して下さる？ おばあちゃんから聞いたのやってみて。

○(ダメダヨ)。エート オバアサンガネー カワニ センタクニ  
(ト) オジイサンガ ( ) ソウシテ イッタラ バアサンガ  
イル センタクシテル トキ オオキナ モモガ カワニ ナガ  
レテ キテネー ソレデ エー オオキナノ ソノ モモヲネ  
モッテネ カエッテ オジイサンガ カエッテ キタラ アケヨウ  
ト シタラ ヒトリデニ アケテ ナカカラ チイチャイ アカ  
チャンノ コドモガ エートネ ニンゲンガ デテ キタノ。ソ  
シテ オオキク ナッ アノネ オ, オジイサンタチ ナンカ  
タクサン ツクッテ モラッテネ オニ ヤッツケニ イッタ  
ノ。ソシテ キジト イヌト サルニ アッテ イッショニ  
イッテネ ソウシテ キジガ イチバンニ アケテ ハイッテ  
イッタノ。ソウシテネ ミンナガ ソシテ アト オニ ヤッツ

○テレビの「アップダウン・クイズ」についての説明がしっかりしている。

○「モンダイ」とか「トイ」その他「サンダイ」「サンダンカイ」などという語彙をつかっている。

○「トイ」

○「サンダイ」大人のことばを使う背のび現象。

○「サンダンカイ」

○「アケヨウ」→「わる」の意。

○「アケテ」→あいて→「われて」の意。

ケテネ ソレデ エート ミン ホカノ ヒトノ タカラモノ  
カエシテ クレテネ エート タクサン タカラモノヲ モラッ  
テ カエッテ キタノ。# オシマイ。然  
先生から聞いたので覚えているのがある？

○……ナイ。

この前かたつむりのお話聞いていたでしょう。覚えている？

○ドワイウンダッケナ。ワスレチャッタ。然 エート サクラグミッ  
テ イチバン サンサイダケド ソノ トキモ ハイッテ コン  
ド キクニ ケテネ # ソン トキモ エート カミシバイ  
ミテネ キクニ ナッテカラモ カミシバイ ミタ。然  
覚えているのがある？

○エート キクデハ オボエテンノガネ オヤユビヒメヤ チョッ  
ト ワカッテテモ ムズカシイノガ タクサン アッテネ、  
これは、ライオンと縞馬のお話なのよ。絵を見ながらお話してみ  
て。

○ドレカラ ハジマルノ？

こうやって見よう。ライオンがどうしました？

○ヒトリポッチデネー # シマウマガネ # (ナシ) トック  
ノ。# シマウマガ ニゲテネ ライオンガ オイカケテ イッ  
タノ。然 ソノ ツギ コッチデショ。# シマウマガ タクサ  
ン シマウマガ タクサンネ (ハイ ヤリナオシ)チャッタカラ  
ダカラ コッチ イッテ スグ ライオン アルイテ カエッテ  
イッタラ シマウマハ ヨロコンデンノ。然 コレハ アト ド  
レカ (+)。

もうないのね。じゃこの字読めますか？

○ヨメル。/じゃ読んでみて。/○シ、マ、ウ、マ、ト、ラ、イ、オ  
ン。エ、ヲ、ミ、テ、オ、ハ、ナ、シ、ヲ、シ、マ、ショウ。  
字は誰にならった？

○エートネ # アイウエオノ ジュンデ オボエタ。然  
絵本を買ってもらったの？ アイウエオの。それで自分一人で覚  
えたの？

○ソウイウノハ ナイケドネ # エート コヤッテ ツメデモ  
カケテ ボールペン イッコ ワケテモ デキルケド アレ カ  
ケテ マタ コウ ヒッパッテ クルト アウ アイウエオガ  
デタリ メチャクチャ カイテモ マタ キエルヨウニ ナッテ  
ンノガ アッテネ # アレ カッテ モラッタ。然 マツザカ  
ヤデ; /それにアイウエオがかいてあるの? /○ソノ ソレ コ  
ウ ト、トッテ ミルト。然

この絵本を持って来たの、お話してみて。ここから。

○エート ドワイウンダ。/こっちからね。/○エートネ エー  
ト エート オヤマノハ、ハタ ハタヲ イチバン ウエニ カ  
イテ ダシ トッテ ウサギガ サキニ ソイデ トチュウデ  
ナカナカ カメ コナイノデ ネチャッテ ソウシタラ カメガ  
サキニ イッテ カケテ イットウショウニ ナッチャッタノ。  
( )。

このお話何ていうお話？

○エート ワスレチャッタ。然  
今度はこれね。

○オヒサマガ アツカイ ヒカリ アタリ ダレカガ ジョウロ

○「サンサイ」

○落ちついて聞く。

○ひろい読みだが読める。

○「ので」の接続助詞を使っている。

デ オハナニ ミズヲ アゲヨウト オモツラ アノネー タ  
オレチャッタノ。／こっちからこうね。／○ソイデ ジョウロデ  
ハナ ミズ アゲタラ ント エート オヒサマが デテ キ  
テー エート ノビタノ。

今度はこのお話は？

○エートネ コレ。コレ ナンダロウ？／熊。／○クマガ ネズミ  
ヲ オイカケテネー ネズミガ サキニ イッテ ズー  
ット イッタラ エートネー クルマニ ブツカッチャッタノ。

どうなったと思う？ ぶつかったら。

○コウツウジコデ アツタリ エート テヤ テヤ アシ アタマ  
ブツケテネ アノ (バクシ) スルノ。

これ何のしるしですか？

○コレ ワカンナイ。＃ キョウ センセイ キイテ ミル、ワカ  
ンナイ。

これ何？

○ソレハネ ＃ オーガタヤ エーガタヤ アルノ。然

血液型なのね。AちゃんはO型なのね？／○ソウ。／この上のは？

○ワカンナイ。

○絵がまずいせいか、聞く子ども  
がいた。

○「バクシスル」ときこえたが、  
そう使えるのだろうか。この文  
全体にはっきりしない。

#### 年少児で文節数の一番多い幼児

神少一三男(4:0) 1968 本

名前を教えてください。

○アノネ ＃ M・M。

年いくつ？

○ミッツ。コンダケ。／これだけはいくつ？／○タ アノネ ヨッ  
ツ。／四つに今度なったのね。／○ン。アネ ＃ ズット マエ  
ボクノ タンジョウビダッタノ。然 ソイデ ケーキ カッチ  
キテ クレタ(ノ)。然 バーラガ サイタ(ケーキ)。然 バラ  
ダッチェ タベラレルンダヨ。然 アノネ ローソクナンカ  
ネー ＃ フターツモ ツイテタ(ヨ)。＃ ダケド ナカミガネ  
イッポン ジ イッポン(ブン) タヨ。イッパイナダヨ。然  
ソイデ フタツン ナッテンノ。然

おうち誰と誰います？

○アノネ ババト ママトネ ソレダケ。然 オニイチャンハ  
ネ ＃ アノ ドッ アノ フジパンヤサンニ イッチャッタ  
ノ。然 ダカラ イナイノ。

おとうさんは何していらっしゃるの？

○アノネー ＃ イツモネ ＃ ネ ネルノガ オソク アノネ  
ネルノガ イツモ ア ヨルネ ネンノガ ＃ オソクッテ  
ネ ＃ アノ アサン ナッテモ マダ オキナイ。然 ン。

お仕事は何？

○オシゴト？ バパノ？ ＃ アノネ ＃ イツモ ヨルネ ＃  
アノ オカネ モッチェ ナンカ ヤッテンノ。然

おかあさんは？

○オカアサン？ ＃ オカアサンハネ ＃ ネナイデネ オコメ  
トイダリ ヨルネ オコメ トイダリナンカ シタノ。然 ソイ  
デ ボクネ ヒトリデ ネットタ(ノ)。然

誰いちばん好き？ おうちの中で。

○この幼児はすごくしゃべる。  
年長、年中児よりも文節数が多い。  
話がどんどん横道に発展し  
ていく傾向がある。

○こここのところよくわからない。

○職業のことと思わなかったた  
め。

○「シテイルノ」「ネテイルノ」と  
言うべきところ。

○アノネー # アノー オニイチャンガ スキ。然 ン。  
お兄ちゃんいないんでしょう？

○オニイチャン フジバンヤサン イッテテ コンドハ ズット  
コナインダ。然 ソ ズット マエハ キタケド # アノ  
ズーット コナインダ (モン)。コンドハ; 然 ソ ソコニ オ  
ウジノ オジ オジイチャントネ オバアチャント ポクト  
ネ # ントネ ソレカラ, ネ ママト イッショニネ # オ  
ニイチャンガ イルネ フジバンヤサン トコネ # タクシー  
ノッテ イッタノ。

どうしてお兄ちゃんが好きなの？

○アノネ # オニイチャンネ イツモ ナンデモ クレルカラ。  
/どんなものもらった？/○アノネ ガムネ フジバンヤサンデ  
モラッタノ。然 コンナ カタナミタイナ コウイウ ガム。然  
フターツ; キイロイノトネ ソレカラネ # ソレカラネ #  
アレ。アノネ # アオ。然 アオト フターチュ。/よかった  
ね。/○ソノ トキ アメ フッタ トキネ イッテネ ナ ナ  
ンカ キテネ ナンカ キテ イッタノ。カップ キテ; 然  
ン。

お休みの日は何して遊んでいますか？

○オヤチュミカ? # アノネ # ント オテンキガ イイ オ  
ヤスミン トキハネ カミヤコウエン イッテ アソブノ。然  
何して遊ぶの？

○カミヤコウエンテ シッテルデショ? /知らないの。/○アノ  
ネ # ココ アノ ココ ココノネ デルト コウイウ コ  
アソコニ コ コッチニ コウエンガ アルデショ? マッスグ  
ミルト; アソ アソコノ コウエン イツモ ヒトリデ イク  
ノ。/で何するの?/○アノネ オカアサンガ イソ イソガシイ  
トキ。然 イクノ; 然 エート アソンデンノ。

何して遊ぶの？

○ボクネ # アノ ブランコン トコデネ コウ イウ テツボ  
ウガ アッテ コウイウ ボウガ アッテネ コウ ヤッテ ソ  
コニ ツカマッテネ グルリッテ ソコデ マワレンノ。# ソ  
ウイウニ ソレ シタリネ # オスベリダイ シタリ # ジ  
ャングル ノッタリネ # ソレカラ アトハネ # アトハ  
ネー # ……/いろんなものあるのね。/○イロン オスナバ  
ヤネ # コウイウ ユリカゴミタイナ ブランコヤネ # ナ  
ンカガ イッパイ アンノ。然 ソイデ コンナ メノ マワル  
(マド) カナンカ アンノ。然

夏にはどっか行った？ 遠い所行った？

○アノネ アノ # ナツニ? # トオイ トコ イカナカッ  
タ。チカイ トコ。

どんな所行った？

○アノネ カミヤコウエンノ モット サキヨリネ # アソコ  
ニ オウジコウエンテ アルデショ。/知らないね/○アノ ホ  
ラ カミヤコウエンノ ( ) ワタッタ トチュウニ。然  
ソウイウ ジャングルミタイノ。オサルミタイノ; 然 ジャ ア  
ノ アソコノ アカバネコウエンハネ # コンナ フンスイ  
デテ (シノ)。然 ウマノネ # コッカラネ ジャアッテ デ  
テン。然 ヨルハ イケナイヨ。ユウガタハサ ユウガタハ ト

○「ココノ」→「ここを」の意。

○補足文で話す傾向がある。

○質問のことはを反復する。「夏には？」に対して「ナツニ？」前にも「お休みの日？」に対して「オヤチュミカ？」とあった。

○「サキヨリ」「より」の使い方おかしい。

○文の切り方がはっきりしない。

ケイダイガ アッテサ トケイダイカラサ # ミズイロガ デ  
ンノ。然 ミズイロガ ヒカッテンノ。／ねおんさいん？／○エ？  
／ネオンが光ってんの？ きれいなえ。／○ヨク ワカンナイケ  
ド。然 ン。

おうちのまわりには何がある？

○オウチノ マワリ？ # オウチノ マワリニハネ # ナンニ  
モ ナクッテネ # レコード カケンノシカ (オヤネ) ナイ  
ノ。ソノネ サンジョウニガ アルダヨ。# ウラノネ サン  
ジョウニ アッテネ # ウラッテ シッテルヨ。# ソコノネ  
ソコニネ # アノ サンジョウガ アンノ。アソコデ イツモ  
ネテンノ。然 ヒトリデ；  
一人で寝られるの？

○ン。ソコニ オモチャバコガ アンノ。ヒトツ； 然  
どんなおもちゃが入っているの？

○アノネ ホントハ ズット マエハネ # フタアツネ オモ  
チャバコガ アツタダケドネ # ナクナッチャッタノ。然  
ソイデ イッコニ ナッチャッタノ。然 ソイデネ ナニ ナン  
デモ ハイッテルヨ。然 ン。

おうちのお部屋はそんなふうなの。

○レコードヤナンカ カケル トキハネ # アノネ # レコー  
ド ボクンチ イッパイ ナイノ。# フタアツシカ ナクッテ；  
# ダカラ イツモネ ソコデ カッテ クル(ノ)。ケンチャン  
ガ オニイチャンガ イッテルネ アソコノ フジパンヤサンデ  
ネ イツモ ハナビヤナンカネ ヨルネ カイニ イクノ。アソ  
コニ； 然 トマル トキ トマルノ。然 アソコニネ オニイ  
チャンガ イル フジパンヤサンニネ # ニカイガ アッテ  
ネ # ソレカラネ アノ カエル カエルッテ カエルガ イル  
トコモ アッテネ ハッパガ アッテネ カエルガ イル  
トコガ アンノ。アメ フッタヒハ カエルネ ドッカ イッ  
チャウダヨネ。然 カクレチャッタノ。# ソイデ ミ ミラ  
ンナクッタ、ミランナカッタノ。

困ったことある？

○コマッタ コト？ # アル。／どういうこと？／○アノネ カ  
エリタイ コト。／どこへ帰りたいの？／○オウチ。／いつ？今？  
／○ン？／今帰りたいの？／○チガウヨ。／どこへ行った時帰  
りたいの？／○(フ) アノ オニイチャン {カ} フジパンヤサン  
(イク) トキ。(カエレ)、／帰りたくなった時困るの？／○ン。  
おもしろかったことない？

○オモシロカッタ コト？ # アルヨ。／聞かせて。／○アノネ  
ココニ アノネー ジャングルヤナンカ アッテネ (オンナジ  
デ) ジャングルガ アンノ。# ソッカラネ ナンカ ノッタノ。  
アソッカラ、オフネ； 然 オフネ ノッテ モ モウ イッカイ  
ネ モドッタノ。# モドッテ ナンカ ワスレモン シタノ。  
ボク、# ババト ント ママトネ ボクト； # ワスレモン  
シテネ モウ イッカイ モドッテ モッテ キテ モウ イッ  
カイネ キテネ ソイデネ ト ソコニ トマッタノ。然 ン。  
今度は話を変えて幼稚園の話をしよう。

○ヨウチエンノ ハナシ？／幼稚園で好き？／○スキ。／何するの  
がいちばん好き？／○アノネ # カミヤ アノネ コッチ

○「ネオンサイン」ということは  
は知らないらしい。

○ここでも「オウチノ マワリ？」  
と問の反復がある。

○「けど」が使える。

○補足的表現が多い。

マッスグ イッテネ カミヤコウエンノネ ソコデネ アソ ア  
ノネ イツモ イツモ アノネ オヤスミ ナツン トキ ボウ  
シ カブッテネ # アツイ トキネ アセ カク トキネ #  
ボウシ カブッテネ # ソイデネ カミヤコウエン イッテ  
ネ # ミンナネ アノネ # アノ ノウ アノネ ボウシヲ  
ネ # トッチャウ コダッテ アルンダヨ。然 イジワルナ  
コガネ # ボウシヲ トッチャウ コダッテ イルノ。然 セ  
ンセイハ アノ ミニ キタノ? ワルイコガ ドコニ イル  
カッテ。/そう。/○ミニキタノ。/そうじゃないわ。お話聞き  
に来たの。/○ホント?/悪い子なんか見に来たんじゃないよ。  
/○ジャ イツモ ジャ ココニ イツモ キテンノ?/いつも  
来てないよ。/○キテル。

M君みたいな子がどんなお話できるかききに来たの。

○ホント?/だからきいているでしょ今でも。/○ン。

何して遊ぶの? 幼稚園では。

○ヨウチエン? #  
ああ保育園だ。~~幼稚園じゃなくて。~~イヤ カミヤ ホイクエンダ。  
では何して遊ぶの? /○ホイクエン。

○アノネ # ナンカ イロンナ モノ シテ アソブ。# コッ  
チノネ # コッチニ ベランダガ アルデショ。# アソコ  
デネ プールガ コウ ヤッテテネ ナンカ カケテ アル ト  
キハネ アソバナイノ。センセイガ「ダメヨ」ッテ チュッタ  
トキハネ ママモ「ダメヨ」チュッタ トキハ アソバナイノ。  
然「イイデスヨ」チュッタ トキハ アソブノ。然  
僕ね、/○ン。/いろんな人の所行ってはおもちゃとってたでし  
ょう。そんなことしなかった?

○ン。アノ ドロボウ ダケダヨ。オコメヤナンカ トッチャウノ  
ハ ドロボウダケダモン。然 キンカヤナンカモ ナンデモ  
トッチャウ ヒトハ # ドロボウダ(ケ)。然  
僕はいろんなとこいってはお友だちが遊んでいるものちよう  
だ  
いって言っていたでしょう?

○イワナイヨ。/それ違った?/○ン。

そんなことしないよね。

○ズツ ズット マエハネ # チーグサ イッテル トキハ #  
「チョウダイ」チュッタケドネ。# カミヤホイクエン キテル  
トキハ # イワナイ。然 オマツリン トキハネ # オマツ  
リン トキハ ジュースヤナンカ ク<sup>(ラ)</sup><sub>(レ)</sub>ルデショウ? 然  
ダカラ; コンドネ ボクンチノネ # オジイチャンチ オ  
オジイチャント オバアチャン ネ # ウチ コンド イナカ  
(ノ) オウチナノ。然 イナカノ オウチガ コンドネ # オ  
ジイチャンガ オジイチャント オバアチャンガ イル。然 ボ  
クンチノ オジイチャントオバアチャン。/いいわね。/○ソコ  
ニネ # デンシャ イッパイ ノッテ キシャポッポモ ミテ  
ネ # ケムリネ ダシダスネ キカンシャ ノッテネ、/煙出  
す機関車があるの?/○ン。ソレ ノッテネ アカバネネ #  
トマッテネ # ソレカラ マタ ツル<sup>(セ)</sup><sub>(サ)</sub>ン イクネ デン  
シャ(ン) ノッテネ # ソイデ ソコデ ツル(サ)ン トコ  
デ オリテネ ソイデネ イナカノ オバアチャンチナノ。ソコ  
ガ; おばあちゃんちには何がある?

○話がだんだんそれていく。「あつ  
いのでぼうしをかぶる」→「ぼ  
うしをとっちゃう子がいる」  
→「その子はいじわるの子」  
→「わるい子をみにきたのか」  
と。

○質問者の「幼稚園」という間に  
疑問を出す。

○「コウ ヤッテテネ」は「コウ  
ナッテテ」と使うべきところ。

○自分の所業に対する言いわけが  
おもしろい。

○オバアチャンチ? # オバアチャンチハ ボクト オンナ  
 ボクンチト オンナジネ アノネ # イッコネ オモチャバコ  
 ガ アンノ。然 アノネ カゴニ ハイッテテネ # カゴニ  
 ゼンブ ハイッテテネ オモチャガ。# ソコニ ソコンナ ソ  
 コノネ ハイッテル トコハネ コウ ビニールデ コウ カゴ  
 ガ ハイッテンノ。ソン ナカ; # ダカラ チラカシテモ ダ  
 イジョブナンダヨ。オジイチャンチハ; 然 アノネ アノネ #  
 ツクエハネ サンジョウニ アッテネ # ソイデ マエノ オ  
 ニイチャンハ イツモネ # ボク スキナノ。然 ソイデ イ  
 ツモネ キタ トキ アソクデンノ。/いいわねえ。/○ソイデ  
 サ ボクンチノ # チカクニハネ ボクノネ バスノ ノル  
 トコ アッテネ # コッチガワニネ # サユウウツチュウ  
 トコ アッテネ # ナンデモ オクジョウデモネ デモネ タ  
 ベラレル トコガ アンノ。サイユウストア。/あ、西友ストア。  
 /○ン。

西友ストアは近くなの?

○ボクンチノ? # ウウン。# モット サキ, # サキニ。#  
 ホラ ジドウシャガ トマッテル トコ アルデショ。#  
 (コレ) ヘンナ エ。/いっばいね。/エイガノ コウイウ カ  
 ンバンガ デテル。然 アソコ シッテルデショ。/知ってる。  
 /○アソコノネ # コッチガワニ アンノ。然 <sup>(セ)</sup><sub>(サ)</sub> イユウカ  
 イ。

何売ってんの?

○アノネ アノネ # アソコノネ # エイゴノ カイ エイゴ  
 デネ # ナツヤスミノ トコ シッテルデショ。(コウ ヤッ  
 テ)。

英語で夏休み? 知らない。

○エイゴデネ # ナツヤスミノネ # トキネ アノ ド エイ  
 ガカンニ イッテネ # クマサンヤナンカ ミテ キタ。然  
 ソノ ナマエハネ # ジャングルブック。

ジャングルブック見たの。どんなお話だった?

○ダ ダケドネ カラーナンダヨ。アレハ;  
 きれいだったわねえ。

○ダケド イロ イロガ デテンノ。/カラーだから色が出てんの  
 ね。

○ン。ソレカラ ペンキデ ヌツタミタイニ コウ イロガ デテ  
 ルノ。然 ボクンチダッテネ カラーナンダヨ。カラーテレビ; /  
 あるの? /○ダケド シロクロン トキダッテ アルヨ。然 (ホ  
 シデ) モ ナンデモネ コウ。コウ ヤッテ マウス トコ ア  
 ンデショ。/手をふりながら一生懸命話してくれるわね。/○ア  
 アレネ アレヲネ, # シタノ オシチャウトネ # コウ  
 ヤッテ コウ マウシチャウトネ/チャンネル回すと? /○チャ  
 ンネルジャナクッテネ コウイウネ # コウイウノ マウス  
 チャンネル マウス ト シロクロ ネットリネ # デタリ  
 ネ # オカシイ トキダッテ アンノ。然 センガ イッパイ  
 デチャウ トキダッテ アンノ。

ジャングルジムってどんなお話だった?

○ジャングルブックダヨ。  
 ジャングルブックってどんなお話だった?

○話がどんどん発展していく。質  
 問者が質問をはさまないと止ま  
 らない。

○「ダケド」口ぐせ的。

- アノネ # トラヤネ # ショウヤネ # ヘビヤネ # ナンカガ イッパイ デテ キタノ。然 ン。  
それはどうしたの？
- デ アレネ ダケドネ # ボク サイショハネ ボクネ アレネ アノ ヒトダト オモッチャッタ。然 ン。ホントニ シャベルンダヨ。アレ；／しゃべらないよ。／○ホントニ ヘビダヨ。ヘビダヨ。然 ヘビガ シャベッテ ソイデネ # アノネ オニイサンノ アカチャンガネ サイショ デテ キテネ ソイデ ジャングルブクッテネ # ダンダン オオキク ナッテ キテネ # ジャングルブクン ナッテネ # ソイデネ ドッカニ キリンヤ カンガルーヤナンカガ イテネ # ソウサンヤネ # ナンカガ イッパイ デテ キタノ。# ケモノバッカシ；／よく覚えているわねえ。／○ケモノバッカシガ イッパイ デテ キタノ。ライボンモ デテ キタノ。ライオンモ；／ん？／○ライオンモ デテ キタノ。然  
僕大きくなったら何になりたい？
- アノネ バスノ シャショウサン ナリタイ。  
どうして？
- ダッテ バク ボクネ バスガネ # ボク ダイスキナノ。然 ン。ダッテ バスノ シャショウサンテサ # トマ サイユウノ トキナンカサ # イク トキナンカ（トオク イク トキナンカ） シュウーッテ（ヒイテ） ズーッテ ント ハヤインダ。チョウトツキュウヨリ；然 ヒューツ。／本当？／○ホントダヨ。じゃあね、数いくつまで数えられる？
- アノネ # アノネ # サンジュウマデ。然 ゴジュウマデカナ。ア ゴジュウマデ。  
こっちの手どっちの手っていう？
- アノネ # オハシネ モツ ホウハネ コッチデショ。# コッチ オハシ モツ。  
お箸持つ方の手はどっちの手って言うの？
- アノ コッチ？ コッチハ オチャワン モツ ホウデ コッチガ オハシ モツ 然 オハシヤ アノ # コウイウ オシャジヤナンカ モツ ホウ。コッチハ；然 ソイデ コッチハ コウ オチャワンヲ オサエタリ コウ。然  
お茶碗をおさえている方の手はどっちの手って言うの？
- アノネ コッチノ テッテ イウノ。然  
夢見る？
- ユメ？ # ミル トキ ダンダンネ # ダンダン ミル トキモ アル。  
どんな夢見た？
- キョウハ ミナイケドネ # ズット マエ オジイチャンチニトマッタ トキ ヒトリデネ オジイチャンチ イナカノ オジイチャンチ トマッタ トキネ # アノネ ユメ ミタ コトハ アル。然  
僕のうちに保育園から行くにはどういう道通って行くの？
- アノネ カミヤコウエンノネ # アノ ミチ トオッテ イクノ。ソノ ミチ マッスグ イカナイデ チョット ソコニ カミヤコウエンガ アルデショ。コウ マッスグニ；# ソコニ チョット マガッテ ズーット イクノ。

○「ショウ」→「ひょう」の意。  
発音についてはこの本では取りあげていない。

○右とか左が出るかためしてみた  
が出なかった。

○「ダンダン」の使い方おかしい。

○「ミナイケドネ」→「みなかった」と過去形を使った方がいい。  
「キョウ」もおかしいが。

○「アノ ミチ」「ソノ ミチ」「コウ」「ソコニ(を)」などということばで片づけている。

神谷公園の近くのね。

- ドコガ? / 僕のうち。 / ボクンチ? / ちガウヨ。然 ソッカラサ # ズー  
ト ウチノ アッチニ シャシンヤサンガ アルデショ。# ア  
ソコ ズーット トオッテ イッテネ # アソコニ ギュウ  
ニュウヤサン アルデショ。# ソコ マタ ズーッテ。ソイデ  
タバコヤサンガ アルデショ。ソノ アガッタ トチュウニ; #  
ント ハナヤガ アッテ ソノ ソ トリヤガ アッテ # ソ  
ノ ヨウフクヤガ アッテ ソノ ツギニ ント タ トリヤノ  
マエニ タバコヤサンガ アルデショ。# ソコーネ ソコノネ  
ソノ トナリガ ボクンチ。然 ン。 / 公園の近くじゃないの?  
 / ○ン。 / 然 だって公園に遊びに行くんでは。近いのかと  
思った。
- ダッ チ チカイン、チョット チカイケドサー。# ダケド  
コウエン イク トキハサー # ハイル トキハ ダイジョウ  
ブダケドサー。# オフロヘ イッテサ # マルプロニ ガッ  
コウノサー トコ トオルトサ オフロ イク トキ マルプロ  
イッタラサ カエル トキガ トオク インダモン。然 イク  
トキハ トオク ナイ チカイケドサ。# イク トキハネ #  
カンジガネ # ントネ アノネ アレダト オモウ。チカイト  
オモッテネ # カエル トキガネ # カ カンジガネ #  
トオクイト オモッチャウ。 / どうしてかしらね。 / ○ワカンナ  
イヨ。  
僕テレビ見る? / ○ミル? ミルヨ。 / どんなの見てる?
- マンガ イツモネ # ケロヨントカ カエルガ デテ クル マ  
ンガトカネ # ナンカ イツモ ナンデモ ミテンノ。ヨルハ  
ネ # ヤキュウノ ヒューマクン ミテンノ。 / 飛馬君? / ○  
ン。  
飛馬君のお話聞かせて?
- アノネ # コイデネ ヤキュウ イツモネ オトウサンニ オ  
コラレテ ヤキュウ ヤッテンノ。然 オトウサンニ イツモ  
オコラレテンノ。ソイデ オネエサンガ イテネ # ヒュウマ  
クンニ、ソノ ヒトガネ # イツモネ アノネ # イツモ  
デテ キテネ # アノネ オワリノネ アノネ ウタン トキ  
ハネ # アノ ヒューマノネ ナンデモネ ワッターナンカ  
シテンノ。然 ソコ ミチャッタモン。然 ア、  
いちばん好きなの? それが。
- ン。イチバン スキダネ。コンドハ ヨルダヨ。# ヨル ヨル  
ネ ヒューマクン ヤッテナイン(ダ)。コンドハ アタラシク  
ヤンノ。ウルトラセブン、ウルトラマン、# ウルトラセブン;  
(ガーッテ ナゲ) コウ アタマヲ ジャーッテ ナゲルトネ  
# ココデ ドッカ ピーント アタルトネ # カイジュウノ  
チカラモチノ <sup>(ギユ)</sup> <sub>(ジユ)</sub> ッットモ ヒュッテ ナゲルトネ ナゲヨウ  
ト オモッテネ ピーッテ ヤルトネ # モイッカイ ピーッ。  
マタ トンデ クンノ。然 モイッカイ ピー ヨッツモ デテ  
クンノ。コ コンダケモ コンダケモ デテ クン / ジェスチャー  
うまいね。こんだけってそれいくつ? / ○ヨッツ。然 ゴジュウ  
モ デテクン。然 バンバン。然 ソイデ ドコデモ ピンピン  
テ アタルカラ # コウイウ トコモ (ドンドン) ポコン

○「カンジ」おもしろい使い方。

○「トオクイ」→「遠い」の意。

○「見る?」に対して一応「ミル?」  
と言い、「ミルヨ」という。エコ  
ラーリと言われているよくない  
癖。

○「オコラレテ」は「おこられなが  
ら」が言えないからだろうか。

○ジェスチャーに音まね語をまじ  
えて生き生きと話す。

ポコンテ トレチャウンダ。然 (コケナンカ); 葺なんか / キーッテ  
 トレチャッテ ドカーンテ ソイデ カイブツクン カイブツガ  
 ドカンドカンテ ドカーンテ ドッカニ タオレチャウンダ。  
 お母さんね絵本なんて読んでくださる? / ○アノー イツモ? /  
 お話なんかしてください。

○ヨルネ # オジイチャンジャ ナクツチャ オハナシ シテ ク  
 レナイ。然 ン。

おじいちゃんからきいたお話をさせて。

○アノネ # どういいう話がある? / アノネ ハナガ (トン  
 コウ) ナガクツテネ # ナンカ ソウイウ オハナシ シテ  
 モラッタノ。 / おぼえている? / ○オボエテナイ。然 ワスレ  
 チャッタ。然 ムズカシイカラ。然

保育園の先生お話して下さる?

○ヨウチエンノ センセイ? ボクノ? # ボクノ セン ボク  
 ノモ ボクノ ボクノ? / そう先生。 / ○アノネ # カツモトセ  
 ンセイトネ # ヤキバセンセイト # クボタセンセイ。#  
 コレダケ;

どんなお話して下さった? / ○ネル トキ? / 寝る時でもいい  
 わ。

○ネル トキハネ # アノネ # アサ ハヤク ネテネ アサ  
 ハヤク ネチャッタノ。然 ソイデ フトングミハネ タオルノネ  
 # コウイウネ # コウイウノ カケテ クレテネ # ソイ  
 デ オニノ ホン ズット マエ ヨンデ ハヤクネ (キモ)  
 アノネ ネー # じゃあ / アノネ # …… / 何? いいわ。 / ○パジャ  
 マ キル トキ # パジャマ ハヤク キタラネ # ナンデ  
 モ ヨンデ クレルノ。然

これ縞馬とライオンの絵なのよ、こういうふうには絵をみながらお  
 話してみて。 / ○ン。 / ライオンがどうしたの? / ○ナンチュ  
 イエバ イイノ? / お話すればいいの。ライオンがどうしたのか  
 自分で好きなように。

○アノネー エートネ # ナンカ コウイウノ シマウマガ キ  
 タカラネ # カミツコウト オモツテネ ドンドン イッテ  
 オイカケテンノ。然 ソイデネ コノ ライオン コノネ コッ  
 チノ ライオンハネ # ツカレテネ ココデ ネテテネ ソイ  
 デネ コノ シマウマタチガ # ココニ アツマツテネ #  
 マアルク ナッテンノ。

字が読める?

○ジ? # ヨメナイ。

じゃあね、もう一つ。

○モウ ヒトツユ? # ナニ (コレ)  
 (コンド)?  
 今度はこのお話してみ。

○ナニ コレ? ナンダ コレ? / こちらからこういうふうにお話  
 してみ。 / ○アノネ # コッチカラネ? / こっちからよ。 / ○  
 カメガネ # ウサギガ サキニ ドンドン イッテネ ソイデ  
 カメガネ ノロノロ イッテネ # ソイデネ アノネ ナンカ  
 ネ ウサギガ ドッカデ ヒトヤシミ シテネ # アノネ カメ  
 ガ サキニ イッテネ イットウショウ ナツチャウノ。 / 何の  
 お話? / ○アノネ # カメトネ # ウサギノ カケッコ。#

○二重否定文、幼児にはめずらし  
 い使い方。

○質問をよく理解していないため  
 か。

○調査者に質問している。時々こ  
 ういう幼児もいる。

○「ライオンが」の主語を言わな  
 い。

このお話しいたことがある？

○アルヨ。ズット マエニ # アノネ ズット マエネ ママネ  
ヨンデ クレタノ。

じゃ今度これは？

○コレ？ # コレ ナアニ？／こっちからよ、こっちから。／○  
コッチカラ？ # ナンダ コレ？ コレ ヨンダ コト アッ  
ナイ。

なくていいの。自分で絵を見ながら考えたとおりに言えばいいの。

○アノネ # コ コノ コウ コウ ナッテタ コウ アノネ  
コウレネ ドウシテ コウ ナツカッチュウトネ # コウ  
マッスグ ナッテタノガネ カレチャッテ コンナ ナッチャッ  
タノ。ソイデネ カケテモ コンナニ ナッ ソイデ コウ プ  
チント <sup>(オ)</sup><sub>(ナ)</sub> ッタノ。  
じゃこれは何でしょう。

○コレ？／こっちからよ。／○コッチカラ？ # アノネ クマガ  
ネ コノ ネズミノ コトネ オイカケテネ イッテネ ソコ  
コノ トラックニ ポント ブツカッテネ ココネ ドントネ  
スワッチャッテネ コレ モウ コノ ソラネ ポーット オチ  
テ ポーット コッチ イク。アノネ # コウ ヤッテネ  
オッコッチャウノ。# ココデ、# コウ；

熊とねずみが落っこちちゃったのね。／○ン。／先生が読んでく  
ださった三匹の山羊のがらがらどんのお話できる？／○デキル。  
／じゃやってみて。

○アノネー # サイショハネ # クサヲネ オオキイ ヤギト  
チ、チ チビヤギノ ガラガラドンガネ アノネ ヤマニネ ナ  
ンカ ハッパ タベニ イクノ。ソイデネ ソノ ツギ ニバン  
ハネ アノネ アノネ ハシノ ハシヲネ ハシノ シタ ( )  
ガネ キミノ ワルイ トロルガ イテネ # ソイデネ ハナ  
ガネ ツギデタ ハナデネ ヒカキボウノヨウナ # コンナ  
トンガッテテ コウ ナッテテネ # ソイデネ ソコヲネ ワ  
タラナクチャ イケナイノ。# ソイデネ ソコヲ ワタル (ト)  
チビヤギノ ガラガラドンガ サイショニネ イチバンニ キ  
テネ トロルガネ 「ダレダ」ッテ イッテネ # 「チビヤギノ  
ガラガラドンデス」チュッテネ 「オマエヲ ヒトノミニ シテ  
ヤルゾ」チュッテ 「オット タベナイデ クダサイ。モット ボ  
クヨリ モット オオキイ ヤギノ ガラガラドンガ クル」 「  
ソレナラ マッ トットト キエウセロー」ッテ イッテネ コ  
ンド ニバンメ ヤギノ ガラガラドンガ ヤッテ キテネ、#  
ソイデ 「ダレダ オレノ ハシヲ カタコト ガタゴト サセ  
ル ヤツハ？」チュウテネ 「チビヤギ ニバンメ ヤギノ ガ  
ラガラドンダー」チュウテ 「ソノ ヒトモ ヒトノミニ シテ  
ヤルゾ」ッテ ユッテネ ソイデネ 「モット オオキイ ヤギ  
ノ ガラガラドンガ クル」チュッテネ 「トットトネ キエウ  
セロ」チュウテネ ドンドン イッテネ コノ アトデ モウ  
ヤッテ キタノガネ オオキイ ヤギノ ガラガラドンガネ キ  
テネ # 「イッタイゼンタイ ナニ モノダー」ッテネ ユッテ  
ネ トロルガ ドナリツケタラネ 「オオキイ ヤギノ ガラガ  
ラドンダー」チュウテネ ソレハ ガラガラゴエダッタノ。(笑)  
ソイデネ (ツキデ) メダマハ デンガクザシデネ トロ ア

○「ドウシテ コウ ナツカッ  
チュウトネ」と、言わんとする  
ことをまず提示する文脈導入形  
式を話しているところなど年少  
らしくない。

○「～カケテモ」の「何を」がはっ  
きりしない。「水をかけても」の  
意。

○「サイショハ」「ニバンハ」とい  
う。ひとりっ子で20歳前後と見  
られる使用人(?)と親しくして  
いた影響か。大人の表現。  
おしゃべりではあるが、筋の通  
らない話し方も多い。  
E女に近い。

イシデ イシモ フタツツ アル オマケニ オオキナ イシモ  
 フタツ アル チュッテネ トロル(ヲ) ラ タニガワニ オト  
 シテ シマツチャッタノ。ドボーンテ オトシチャッター。#  
 ソイデネ イッショニ トロルハ イッショニネ バラバラニ  
 ナッテネ # ソイデ ドッカ カ カワ タニガワト イッ  
 ショニ ナガレテ イツチャッタノ。ソイデ オワリナノ。

よくおぼえていたわね。

○ダッテ ズット マエネ # オソイ トキダッテネ # ボク  
 ハヤイ トキネ ズット マエネ イッパイ ミテ ズット マ  
 エ ズツ ズーット マエ(ニネ) # ネ ガラガラドンネ  
 ヨンダカラネ # アノネ オボエタノ。然  
 どこがおもしろい? いちばん。

○イチバン サキ? /どこがいちばんおもしろい? /○アノネ #  
 トロ トロルガ ドナリツケタバッカシガ オモシロイ。然「  
 イツタイゼンタイ ナニモノダー」チュウ トコロガ オモシロ  
 イ。

○何度も先生からこの絵本を読ん  
 でもらったらしい。要領よく話  
 せず、聞いた順序で何もかも話  
 そうとするのがこのころの幼児  
 の特色である。

### 年長児で文節数の一番少ない幼児

自長-F女(5:7) 1966 姉 姉 兄 本 弟  
 お名前いって。

○S・Y。

いくつですか? それいくつっていうの? かぞえてごらん。い  
 つつね。お家だれとだれいる?

○オニイサント オネエサン フタリデネ # ウーントネ #  
 オトコノ コネ フタリデネ # オカアサント オトウサン。  
 だれ一番好き?

○アカチャンモ イ<sup>(ル)</sup><sub>(ツ)</sub>カラ アカチャン。然  
 どして赤ちゃん好き?

○カワイイカラ。然

お父さんのお仕事知ってる? なにしてらっしゃるの?

○ハコー ツクッテル。然

お母さんは何してらっしゃる?

○ナンカネ オトウサント オンナジノ モノヲ シテル。然

お祭あったでしょ? どんなだった?

○イカナカッタカラ ワカンナカッタ。然

お休みしてたの? お家でなにしてた?

○カゼ<sup>(シ)</sup><sub>(ヒ)</sub> イテタカラネ # オイシャサン イツタリネ ウチ  
 デ ネテタリ。然

寒かったものね。いつも保育園では何する?

○ブロックデ アソンデンノ。

なにつくるの? ブロックで。

○オウチ。然

それからどんなお遊びする?

○ソレカラネ ソトノネ オニワデネ ブーランコ ノッターリ テ  
 ツボウ シタリ アソンデル。

何が一番好き? 保育園でやることでは。

○ブロック。然

ほかはどんなの好き? /○……/先生どんなお話してくださる?

○指で示すが、口で言えない。

○家族構成はまちがいないいう。  
 弟ということばは出ないが。

○「オンナジノ」の「ノ」は不用。  
 こういう言い方が残っている幼  
 児は年長には少ないがいるので  
 ある。

○「~ノッターリ~シタリ アソン  
 デル」並立関係の文の不十分な  
 例。「~したりしてあそんでる」  
 と言える幼児は年長にはいるが  
 少ない。

- ／○……／じゃお家から保育園に来るにはどんな道通ってきます？お家を出てから、どういうふうにくるの？
- イシガ アル トコ トオッテ キテネ ソレカラネ タイラナ トコ トオッテ キテ ソレ ソイデ クル。然  
テレビを見るの好き？ どんなの見てる？
- ナンカ マンガトカネ ダイマツッテ イウ ヤツ デテ クル ヤツ。然  
大人のものも見る？ みない。何が一番面白くてよくみる？
- マンガ。  
まんがの中で、いろんなのやってるでしょ？
- アトム。  
アトムってどんなふうな子ども？
- ロボットノ（ヤツ）デネ オシリカラデモネ ヒガ デテ キテネ アシカラモ デテ キテ トベル ヤツ。  
アトムのどこが好き？ 気に入ってる？
- ゼンプ。  
特にどういうことやるから好き？
- ワカンナイ。然  
お母さんがね絵本読んでくださったりお話してくださったりする？ 全然しない？ そう。どんなお話きいた？
- フスレチャッタ。然  
先生がね絵本持ってきたのこの字読める？ まだ読めない。そう。じゃこういうふうには絵をみてお話してみて。／○……／ライオンがどうしたの？ 縞馬どうしたの？／○……／これはどうしてる  
ところ？
- オッカケテル トコロ。  
そしてこれはどうしたんでしょ。お話するのいや？ そう。じゃこのお話してみても、こちらからね。／○……／じゃ夏休みはどうした？ なにしたお家で。
- オソトデ アソンデタ。  
保育園から合宿いった？ どうだった？
- オモシロカッタ。  
何したのがおもしろかった？
- ベットデネ アソンダ トキガ。然  
ベットで何したの？
- ナンカネ オニゴッコミタイ コト。然  
じゃこのお話は？
- ワカンナイ。然  
これは？ これは熊よ。熊がどうしたの？
- ネズミヲ オイカケテ イル トコロ。  
そして？
- トラックニ ブツカッタ トコロ。

○この道順の説明はめずらしい言い方。

○テレビの題名がはっきり言えない。

○一語文で話すのが多い。

○絵をみての話はほとんど話さない。

○別の話をさせる。

○「ミタイナ コト」と言えない。

○もう一度絵にもどって聞く。まちがったことを言っているわけではないが少ししか話さない。

#### 年中児で文節数の一番少ない幼児

- 神中一長男（4：7） 1968 本 弟  
お名前いってください。／○……／はくの名前は？
- N・M。  
お年いくつ？

- ヨンサイ。然  
おうち誰と誰います？
- オトウサント オカアサント アカチャン、(ト) アカチャン。  
誰が一番好き？
- オカアサン。  
どして？／○……／お母さんのどこがいい？
- ワカンナイ。然  
お父さんのお仕事知ってる？／○……／お母さんはいつも何してらっしゃるの？
- チャワン アラッターリネー # オベントウヲ アラッターリ シテル。然  
朝起きてからどうする？／○……／保育園で何する？ 何が一番楽しい？／○ウン？／保育園で何するのが一番楽しい？
- ツミキ。  
積木で何つくる？ 自動車？ 飛行機？／○……／お当番ってどういうことするの？
- オヤチュヲネー ハコンダリ モッテ キタリ、ネー # ツクエ フィタリ。#  
大きくなったら何になりたい？／○……／ぼくね数いくつまで数えられる？
- ヒャク。然  
10から逆に数えられる？ やってみて。
- ヒトーチュ フターチュ ミッツ ……。  
それはできないのね。保育園からぼくのうちへ行くにはどういう道通る？
- ワカレミチ。／うん？／○ワカレミチ。然  
そしてどう行くの？／○……／夢見る？ 見ない。テレビ見ている？ どノの見てる？ ウルトラ・セブンなんか見てる？ どんなお話？
- コンド スル。然  
絵本持って来たのね。このお話してみて。ライオンと縞馬のお話なの。ライオンがどうしました？／○……／この字読める？
- シーマーウーマートーラーイーオンーエーラーミーターオーハナーシーラー シーマーシーヨーウ。  
誰に習った？
- ヒトリデ ( )。  
自分で読んだ絵本のお話して。どんなご本読んでいる？
- ショウネン・マガジントカネ # (ヒバリノ ホン) トカ。  
これはどういお話かしてみ、ここからここまで。／○……／兎と亀がどうした？／○……／これは？／○……／じゃーね僕本を読んでみて。
- エーンーニーイールトーオーブーツーヒーローコーサーンーイーヌーサーンーアースービーマーシーヨーウ。ミ／ずっと読んで。／○ミーンナーオ、トーマーダーチーデー (シユ) # (ス)。#  
どういうこと書いてあった？
- ンー。

○この幼児も一語文で答える。

○この幼児はお話はしないが、字は、ひろい読みで読める。(拗音は読めない)

○字を追っているだけで意味はわかっていない。

年少児で二番目に文節数の少ない幼児

赤少-h男(3:6) 1970 本  
 名前なんて言うの?/○……/名前言ってちょうだい。I・Sくん  
 ね。いくつ? S君は。/○サンシャイ。/ん?/○サンシャイ。  
 /大きな声で言ってごらん。/○サンシャイ。/おうちには誰と  
 誰がいるの?/○……。/お父さん何してる? いつも。/○オ  
 シゴト シテル。/おうちで?/○……。/どんなふうによって  
 るか見たことある?/○……。/何してたの? お父さん。机の  
 上向かってんの?/○……。/お母さんはいつも何してらっしゃ  
 る?/○オリョウリ。/大きい声で。/○オリョウリ ツクッテ  
 ル。/どっち好き? お父さんとお母さんと。/○……。/両方  
 とも好き?/○……。/ふんふんなんて言ったんじゃだめよ。こ  
 とばで言わないと。  
 幼稚園から帰って何した?/○……。/きのう何した?/○……。  
 /今何してた? 幼稚園で。/○……。/お遊び? お歌?/  
 ○……。/夏休みだったでしょう、ね、どっか行った?/○イカ  
 ナイ。

○名前も言わない。  
 ○幼児音

同一幼児(男)の年中、年長期の話しことば

自中-s男(4:10) 1965 本 弟  
 ぼくの名前を教えてください。  
 ○S・<sup>(ヒ)</sup><sub>(シ)</sub>ロシ。  
 いくつ?  
 ○イツツ。  
 きんう面白いことあった?/○ン?/きのう何か面白いことあ  
 った?/○ン。/お話して。  
 ○ン。アノネー ウント キノウハ シヤムカッタッテネ カゼ  
 シイタケドモネー シート ドウブツエン イッチャッタノ。カ  
 ゼ シイテタケ<sup>(ド)</sup><sub>(ロ)</sub>モ。然  
 で?  
 ○ババニ オンブシテ、カエリ ネムッチャッタノ。  
 重かったでしょう。  
 ○カエリネー ボク ネムッチャッタカラネ エッオ ダレ<sup>(ラ)</sup><sub>(タ)</sub>  
 ト オモッタラ ママラッタノ。然 ママン トコニネ コウ  
 ナッタノ。然  
 何見た? 動物園では。  
 ○ドウブツエンデネー ント ゾウトネー ウント コウラクエン  
 モ ハイッテッタヨ。然 ン。アン カバトネー アト キリン  
 ト ゾウト キバ アル ゾウ。/ん?/○キバ アル ゾウモ  
 イタヨ。  
 どういうの牙ある象って?  
 ○キバ アル ゾウネ ココニ キバ フタツ アルノ。シテネ  
 オハナガ ナガクテネー ソシテ ミミガ オー ウーント  
 オッキイノ。然 (ソ)ンテネ<sup>(ト)</sup> ミズン ナカ ハイッ  
 テタノモ イッタヨ。然 ドウイ(ウ) (オヨ) オヨギ オヨギ  
 (イ) ッタカ シッテル?  
 知らない知らない、教えて。

○この幼児は「ヒ」を「シ」と発  
 音する。幼児音が残っている。

○「ババニ オンブシテ」→「おん  
 ぶされて」となるところか。あ  
 るいは「おんぶしてもらって」  
 となるところか。

○この文は途中から話題が変わっ  
 てる。

○このへん動詞の使い方おかし  
 い。

- アノネ オヨギ イッタカラネ シッポー ウゴカシテ イ……  
 イー ヤッテタノ。  
 水の中泳ぐの？
- ン。然 ソレカラネー ウント カエリハネー ウント オー ド  
 マンスカー ノッテ キタノ。  
 あら、よかったわねえ。
- ソシテネ シカリゴウモ ノッテ キタノ。然 ツカレタカラ；  
 然 タクシーナンカ コナカッタカラ バス ノッテ キチャッ  
 タノ。然 ヨコハママデ イッチャッタダヨ。フタリデ；ヨコ  
 ハマノ ドウブツエン。然 ン。# カエリハ ウエンニ イッ  
 チャッタカラネ ント ウエンニチ イッチャッタノ。然 ヨウ  
 チエン イカナイデ；  
 ああ、さぼったの？
- ン？  
 幼稚園さぼっちゃったの？
- ウン。然 ヨコハマカラネ キトラ マタネ モ ヨコハマ  
 ズット ムコウ ホ イッチャッタノ。然 ムコウノ トオイ  
 トコロダカラ。然 デンジャン ノッテ ズーット。然 トオク  
 ノ イナカノ ホウニ。然 ズット マエハネ ウント # ズ  
 ーット マエニネ スンデタ トキハ イナカ イッチャッタ  
 ノ。 然 イナガ イッタ トキネ、  
 田舎って？
- イナカニネー ント ハタケニ トンボガ イッパイ イテネ  
 ツカマエテ キタノ。  
 よかったね。
- カプトモ イタヨ。然 アトネー ウント カエリハネー ウン  
 ト ヨルン ナッテネー トマッテ キタノ。然 ミッツダケ；  
 然 ソレカラネー ント カエッテ キタ アトニハネー エー  
 ト # ネチャッタノ。# エ デ ネムタク ナッテネ #  
 アサ オキタラネー キョウ ヨウチエン キタノ。然  
 幼稚園って好き？
- ン？  
 幼稚園って好き？ どういうとこいい？
- ドウ イウ トコ？ オヘヤ？  
 いろんなとこ、いいとこあるでしょう。好きなところあるでしょ  
 う。
- ウン。  
 どこ？
- ドコッテネ、  
 どういうもの？
- ツミキ？ オッキイ ツミキ。然  
 なに作るの？
- ボートヤネエ オッキイ フネヤ。然 ツクレンノ。ボク；  
 上手なんでしょうね。
- ジ<sup>(ロ)</sup><sub>(ド)</sub> ウシャダッテ ツクレンノ。然 トラックラッテ ナン  
 デモ。  
 こんど見せてね。／○ン。／それからなにが好き？
- アト？ # ウントネー …… チッチャ(ナ) ツミキモ ス  
 キ、ダシネ # アトネー ウント ナニカナー …… オママ

○「ドマンスカー」→「ロマンス  
 カー」ラ行がダ行になる。幼児  
 音

○「疲れたからひかり号に乗って  
 きた」と言わないで、理由を補  
 足している。

○「ウエンニ」→「上野」か。

○話がとんでいく。

○この幼児は、あるいは倒置的(補  
 足的)な言い方が癖なのかもし  
 れない。

○「ドウ イウ トコ」と、質問  
 者の問を反復している。

○ダ行とラ行の発音の混同が多  
 い。

ゴト (ヒ) ッシヨニ ヤッタ トキネ ウント # スキダシ  
 (イ) ネ、ソングケガネ スキナノ (ハ)。然 マタ (ナー) キノウノ  
 (ツギヲ) イー ミツツボ イッタノ。# イッパイ イッタン  
 ダヨ。ヤスンデタ トキ； 然 シテネ キョウカラ ヤメ  
 チャッタノ。イクノ； 然 ン アトネ イッタ トコハネ ウント  
 ジュウホイクエンノネ チガウ ヨウチエンネ。ズット マ  
 エ イッテタンダ。然 ズーット トオイイ トコ。然 ボク  
 ズーット マエネ トオクノ ホウニ イタノ。然 ソシタラ  
 コッチニ コシテ キタノ。然 ウチノ オトナリ (アネント)  
 ボクー コッチ ガワノネー オウチ(ダト) モウ ニカイダ  
 テ ツクッテンノ。然 フルイ オウチ カリテンダ。然 アト  
 ネ ウント、# (トナリノ) オウチ モウ デキアガッタカラネ  
 カ…… ン…… ボク ズーット マエ ヤスンデタカラネ  
 チョ…… アノー オソトデ サムカッタノ。# シテ デ ト  
 デン ノッテネー # ント バスン ノッテネー # ント  
 タクシー ノッテ ロマンスカー ノッテ キ キュウコウレッ  
 シャ ノッテ ズット ヨコハマ イッチャッタノ。# イナカ  
 ニ； 然

幼稚園でおままごとするでしょう。／○ン。／その時にははく何  
 になるの？／○ナニ。／おままごとする時はく何になるの？

- オニイサンヤネー ント オニイサンヤー オトウサン。然  
 お兄さんやお父さんになった時どういふに言うの？
- アノネー ウント カイシャ イ (グ) トキハネー イン 「ハ  
 イチャ」ッテ (イウ) (シ) ノ。然 アカチャン イルカラ； 然 スッ  
 トムーハ 「ハイチャイ」ッテ イウンダ。然 ストムモ ボクガ  
 「ハイチャイ」ッテ (イエバ) ストムモ 「ハイチャイ」ッテ。  
 ジャーね／○ウーン。／ぼくのうちにはねえ、／○ウン。／だれ  
 とだれがいるの？
- アノネ ウント オバアチャン ンー ハタライテルケ (ド) (ロ) ネー  
 ウント オトウサントネ ウント オトウサン シンジャッ  
 タンダケ (ロ) (ド) モネー、 然 ウント マター モウ ニュウイン  
 シタカラネー モウ ナオッタノ。ニュウイン シタノ。  
 死んじゃって入院したの？
- ウン シンダラ ニュウイン シテ モウ ナオッチャッタノ。  
 然 ドコモ； 然 (ソ) シテネ # ウント …… ボクガ  
 ネ # ウント…… イッタ トキハネー # ウント # ズ  
 ーット マエデ シンデタノ。然 ニュウイン シテタラネ #  
 ウント ボク ズーット ニュウイン シテタノ。然 シテネ  
 ント ボクガ ナオッタ トキ パパガ コンド シンジャッ  
 タノ。然 ボクノ ホウネー ニュウイン シテタ (オリ) ニ  
 キタノ。  
 で、お父さんいないの？
- ン？ モ モウネー ナオッチ ウチニ ズーット インノ。  
 何してるのおうちで？
- オウチデ？ # オトウサン？ # カイシャ イカナイデネー  
 然 ントー キカイヲ ヤッテンノ。然 オッキイ キカイ； 然  
 お母さんは？
- オカアサン？ # ントネ ボクノ フユズボントネー #

○話がずんずんそれていく。

○「ストム」→「つとむ」の意。

○「死」とはなにかわかっていな  
 い。

ンート フユ ナツノ、ネ ボウシ (ミガ) ワラボウシ ヌツテ  
(ムイ)  
クレテンノ。

いいお母さんね。

○ヒトツダケ デキタノ。然 ボクノ ボウシ シュトムノ ボウ  
シモ フミチャンノ ボウシモ。然

おじい、おばあちゃんとお父さんとお母さんとぼくと、それから  
だれがいるの？

○アトネ ストムト フミチャン。

ちっちゃいの？

○ン？

大きいの？ ちっちゃいの？ その人たちは？

○オネエサン？

お姉さんなの。お姉さんはふみちゃん？／○ソウ。／つとむ君は  
弟？／○ソウ。／

○チカウ イモウト。 じゃ、おうちで遊ぶ？

○オウチデ？ # アソブヨ。ボクト イッショニ；

何して？

○アソンデ (ン) トキネ ストム ヘンジ シラレルノ。「アジャ  
アジャ」トカ。然 (ス) トムツ チ ウマ (レ) タ トキ  
「(オ) ンギヤンギヤ」ツテ イッタノ。  
(ア)  
かわいいわねえ。

○「オンギヤオンギヤ」ツテ # イッテタツ (ト) キハネエ ウ  
ント ストムガネ # ンート (ノー マーイ) カイッテ ナ  
カッタノ。「オンギヤオンギヤ」ツテ イッタ トキ；然 ソシ  
テ ネ ンート 「オンギヤオンギヤ」ツテ イッテタ トキネ  
コンド ン…… ンマ…… ユ…… 「マユミチャン」ツテ ユッ  
タノ。

おうちからね幼稚園に来るにはどういう道通って来るの？

○ミチ？ # ミチネー アノ コ (ウ) バン トコ タ (ル)。ン  
コ (ウ) バン トコ (ア) ラ クンノ。然 ボクノー オウチハ  
ネ ンート モウ ニカイダテ ツクレテネ ボクノ オヘヤ  
ニカイダテナノ。然 ヒトリ ネラ (レ) ンノ。イツ イツツダ  
(エ)  
カラ。

感心ね。テレビ見る？

○テレビ？ # ドコデ？

おうちで。／○ン。／何好き？

○アノネー ンート パピーヤ ミテルシネー # ンート  
ジェットーラッテ ナンデモ ミテル。

どれが一番好き？

○アノネ パピートネ ント ジェッタート アトムト ン エー  
ス。

一つお話聞かせて、そのうちどれでもいいから。

○オウチノ？

テレビのお話よ。

○アノネ ント マンガ ヤッテル トキ？

漫画でも何でもい。ぼくが一番好きなもの。

○イチバン スキナ トキハネエ。# ント パピー (デモ) ス  
(ア) (ガ)  
キ (ナ) ノ。

○「シラレルノ」の使い方はおか  
しい。

○「ツクレテ」の言い方はおか  
しい。

○この幼児も、質問者の問をもう  
一度くりかえして言ってから答  
える癖がある。

じゃ、そのパピーのお話して。

○パピーノ ……ネ ント ミタ トキネ # ント パピーネ  
ント アノ コイウ ヤッテ ヤルトネ # ント # パピー  
ネ # ン ナッチャウノ。然 パピーッテネ マケナカッタヨ。  
然 ミタラ；然 チョット ダケ <sup>(バ)</sup><sub>(マ)</sub> ケタモン。アシダケ；  
お母さんねお話をしてくださったり、絵本読んでくださったりす  
る？

○ン。

どんなお話してくださる？

○ネタ トキ オハナシ シテ クレンノ。然 アノネー # ン  
ート ナンノ ホンカ ワカラナイ？ 然 ジャー オシエタゲ  
ル。ホン； # アノネ # ウント # ジドウシャノ ホン  
ジャ ナイモン。然 ボクノ オニイサン トキノ ホン。 然  
アノネー ウント # ナンダツケナー ……ウントネー #  
ン ジェッターノ ホントネー # ゼロセンハヤトノ ホント  
アト…… ビックエックスノ ホン。

ひとつお話聞かせて、この先生にも。

○アノネー# ント ……アノー ンー ボクネー # ント  
ママガー ンー ヨンデ クレタ ホンネー ナニ ツイテルカ  
シッテル？

知らないから教えて。

○ダイオンデモ ツイテタヨ。然 ゼロセンハネ ゼロセンシコウ  
キバッカイ ツイテタ(ヨ)。然 パピーノ ホンモ アッタヨ。  
然 パピーノ ホンネー # ント パピーバッカリ ツイテン  
ノ。然 オンナノ コ ツイテルヨ。

これね、縞馬とライオンのお話を書いてあるの。/○ン。/ここ  
からね、ライオンがどうかしたの。このお話をこの絵を見ながら  
やってみて。/○ン。/ライオンがどうしたんでしょう。

○ライヨ(ン)？ # ……

このライオンどうしたの？

○ド(ウ)シタツテネ # ウント …… シマウマガ キタ、カ  
ラジャナイノ？ # (ソ)シテ コッチ ズーット イッタン  
ジャナイ。# ア コレ オッカケテンダ。然 シテ コレ シ  
マウマ コンノ ココニ イッチャッタカ(ラ) ココ<sup>(デ)</sup><sub>(レ)</sub> ヤッ  
チャッタノ。# ナッチャッタノ；然 ン。

そして？

○(ソ)シテネ マタ ンー ナッチャ ココカ(ラ) ズーット  
キタノ。ココ；然

そういうお話？

○ン？

そういうお話？ これは。

○ソ(ウ)。

このお話はなに？

○コノ(オ)ハナシ？ # ント ウサギガネー ント コ(コ)  
<sup>(デ)</sup><sub>(レ)</sub> ネットテネエ # ソコ<sup>(デ)</sup><sub>(レ)</sub> ヤマデ ハタ ヤッテンノ。#  
コレダヨ；コレ ココ<sup>(デ)</sup><sub>(レ)</sub> テテネー ソウ ココデ ハタ  
ヤッテンノ。

亀がそんなとこ行っちゃったの？

○ウン。然

○「コイウ ヤッテ ヤルト」  
→「ペンダントを押すと」の意。  
ことは数が多いわりに正確でない。

○「～バッカイ」→「～ばっかり」  
の意。[r]の発音できないよう  
だ。

このお話知ってる？

○ウチノモ コウ イウ ホン アンモン。然 コノ ホンデモ；  
何てお話？ このお話は。

○コノ オハナシ？ # ント ウサギガ <sup>ナ</sup>ムッタノー トネ  
ー # ント カメガ ハタデ ヤッ シン ……ン ……ト ツ  
カマッテテ 「ヤーイヤイ」ッテ イッテンノ。

これは何でしょうね。

○コレ？ # ウント オミズヲネ ント ヤッタラ ……チガウ  
ヤ アノネー ウント コノ オハナガ カレチャッテネ ミ  
ジュ カケタラ (ソ)シテ オテンキニ ナッテ (ソ)シテ  
マッスグン ナッタノ。

これは？

○コレハネー ウント ……カジ シュル トキネー # ント  
コロ ココニ ネジュミガ イテ クマガ ツカマエヨウト オ  
モッタラ ココカラ アン ニゲラシチャウ。ン…… ネズミヲ  
ニガシチャッテ ココハ ズット イッチャッ ワタッテ イッ  
チャッタ( )。ココカラ トラックガ キタラー アン (シュ)  
モウ スコシデ シカレソウダッタノ。

自長-s男(5:9) 1966 本 弟

前にやったの覚えてる？

○ウン。

まずなまえをきこうね。

○S・H。然

いくつ？

○ゴサイ。

お家の人だれとだれいます？

○オトウサントネ # オバアチャント ツトムトネ アトー オ  
カアサントー フミチャントーダケ。

どなたがいちばん好きですか？

○トネー／お家の中でだれがいちばん好き？／○パパ。然  
どうして？

○ウントネ アソンデ クレルカラ。然

どんなお遊びするの？

○ウントー ネ オ <sup>ン</sup>マ シタリネ # ウント オー ソレ  
カラネ ウントー オモシロイ コト シタリ <sup>シユ</sup>ルカラ。  
然

おもしろいことってどんなこと？

○ウントネ # ウーント ボールナゲ シタリネ # ウーント  
アト オー ウーシ ウン ソレカラ ウント オー……

じゃまたあとで思い出してね。お父さんの仕事知ってる？

○シッテル。

何？

○ウントネ メイシヲ ツクッテンノ。然 オウチデ；

お母様は毎日何していらっしゃる？

○オカアサン ナイショク。然

どんなお仕事？

○トネ ママガー # ヨウフクネ ヌウー オシゴトトカ ソウ

○理由・原因の「から」がよく使えないためか。「カレチャッテ」という。複文はむずかしい。

○「ニゲラシチャウ」は「にげられちゃう」か「にげだしちゃう」か。

○シカレソウダッタノ→「ひ」

○年中の時に比べると、秩序だてて話していて、内容もはっきりして解りやすい。

発音や言葉に発達がみられ、年中時のように文脈のみだれやそれが無い。

イウノ。然  
 お家では何をして遊ぶ？  
 ○ボク？／ん。／○ウーン トモダチト アソングリ スンノ。  
 幼稚園では？  
 ○ヨウチエンデハー ムシサガシ シタリ スンノ。  
 虫好き？ どんな虫とった？  
 ○ウチデハ クワガタトカー アー ネー クワガタノ アカチャ  
 ン、 トカー カプトノ ヨウチュウトカ ソ (ウ) イウノ。  
 どんなどころにいる？  
 ○クワガタ？／ん。／クワガタハネ キノ シタニ インノ。#  
 カプトムシガ キノ ウエニ イルンデス。然  
 幼虫なんかも？  
 ○ヨウチュウハ キノ ナカ。然  
 じゃどうやってとるの？  
 ○カプト？／ん。／○カプトハネ # キニ キニ イッパイ イー  
 サトウミズヲ ツケテ オイテネ # ウント ハヤ ハヤオキ  
 シテ エー キニ ソノ アマイ アノ アマイ ミズン トコ  
 ミテ ミトラ カプトムシガ イッパイ アッテ アルカラ ソ  
 ウ ヤッテ トルノ。然  
 お家に木があるの？  
 ○アル。カキノ キ；  
 その柿の木に甘い水つけとくの？  
 ○ウン。  
 先生もやってみるかな。いつごろとればいいの？  
 ○ウントネ アシタン ナツトラ トレバ イイノ。  
 いつやっというて？  
 ○ウントネ ゴジニ ヤットイテネ # ソイデ／夕方の五時に？  
 ／○ウン。ソウシテ エ マタ アシタニ ナツトラー ソコン  
 トコ ミテ オクノ。# ソウスレバ イルヨ イッパイ； 然  
 くわがたはどうやってとるの？  
 ○クワガタハネ # ウント キノ シタニネ # ナンカノ ク  
 ダモンノ ミヲ オイテ オクノ。# ソシテネ ウント アー  
 ソウスルトネ # ウントー ユウガタノ クジン ナッテ ミ  
 テ ミルト # アノネ # サガシ ウント ハタラキ ハタ  
 ラクウ クワガタガ サガシトイテネ # ミンナデー エー  
 ヨンデ キテ タベテル トキ ソウ ヤッテ トンノ。然  
 おもしろそうね。他に何とった？  
 ○カナブンハネ # ウントー キノ キ クサノ トコデ カク  
 レテンノ。ソウスットネ # タマ イッパイ タマルカラ ラ  
 ネ ソウ ヤッテ トルンダヨ。# カナブンハ；  
 どうしてたまるのそこに？  
 ○ウントネ # クサガ ダイスキダカラ。然  
 蟬なんかは？  
 ○セミハネ # キニ トマッテンノ。# セミ ソレカラネ ナ  
 ンニモ タベナイデ ミッカシカ イキナイノ。  
 どっちが泣くの蟬は？  
 ○セミ？／ん。／○セミダケ ナク。# クワガタトカ カプトト  
 カ カナブンハ ナカナイヨ。# キリギリスハネ # ウン  
 トー オー オー キリギリスハー ネ # ヤマ イッテ

○「幼虫」ということばも知って  
いる。動物など好きな子はそれ  
にくわしい。

○「アシタニ ナツトラ」使い方  
おかしい。

○「ミテ オクノ」もおかしい。

○「トコデ」→「とこに」の意。

○質問者の問が不十分だった。雄  
か雌かを聞こうとしたのだった  
が。

ネ # ウント ソイデエ エー ヤマ イッテ カクレテテ  
ネ # ワナヲ ツクッテ オクノ。# カゴノ ワナヲ; ソウ  
スットネ # クダモンモ オイトイテネ, # ソウスルトネ  
タバヨウト シテ ハイッタラネ # パッテ ツカマエルノ。  
然

たくさんつかまえた?

○ウン。# ソレハネ # ジュッピキ シンジャッタ。然 モウ  
フタリッキヤ イナイ。然

そういうふうにとるのだれに教わったの?

○ホンデ。然

どんな本見るの?

○ウントネ # ムシノ ホン。

夏休みには他にどんなことをした?

○ウーン ホカハネー # ウントー オー ヨウチエンデ?

幼稚園でもいいしおうちでもいいわ。

○ウチデ アレ ヤッタ。ウチデネ # ウントー オー オ  
エーカキ, 然 エカキトネ ツミキトカ。# ソイカラー ソト  
デネ # バレーボールトカ ヤッテンノ。

合宿にいった? 幼稚園から。

○イカナイ。/いかなかったの? /○ゼンソク オキチャッタノ。然  
ぜんそくおきると苦しいでしょう。どういうふうになる?

○イマデモ ナッテルケドネ # モウ ダイブ ヨク ナッタ  
ノ。

それから夏休みにどっか行った?

○イッタ。

どこいった?

○イナカ。# イナカデ クワガタ トッテ キタ。然

田舎にはどんな人がいた?

○イナカ ジイチャントネ # オジイチャント オバアチャント  
ルミコチャント アト オー カズエチャン。# で何した?  
ルミコチャンノ オトモダチダカラサ。 カズエチャンハ

楽しいことあった? /○ン。/どんなこと?

○イロンナ ウチ イッタカラ。# ソイデネ # ウント コノ  
マエカラ キシャガ キュウコウニ ナッタンダッテ。然

大きくなったら何になりたい?

○オーキク ナッタラ オマワリサン ナリタイ。

どうして?

○ダッテ ピストル モッテンダモ (ノ)。

こわいじゃない?

○オトナニ ナレバ コワクナイヨ。

どうして? うたれたらこわいじゃない?

○ウン ハンニンヲ ヤツツケルカラサ。

ピストルをとられたらどうする?

○ピストルナンカ ココン トコ ヤットクカラ。# ウント ホ  
タンデ ハメテ アッカラ ダイジョウブナノ。然

新聞なんか見る?

○オトウチャンダケ ミル。ボクハ ホントカ ソウイウノダカラ。  
ニュースは?

○ニュース? /ん。/○ニュースハ ボク ミルヨ。然

○二匹と言わず「フタリ」といっ  
ている。

○「けど」終助詞か接続助詞かはっ  
きりしない。「イマデモ ナッテ  
ルケド」は「今でもなるけど」  
の意か。

○「ハンニン(犯人)」と言える。

どんなことを見た？

○ウン カジトカ ヒコウキジコトカ。

そんなのみたらどういふ気がする？

○コワイナト オモウ。

ぼくんちから保育園くるにはどの道通ったらこられる？

○ウントネー # ウーン…… ウントー コッチノ ホウニシバタサンガ アンジャナイ。# ソコン トコ マガル トコアルデショ。ソコ マガッテ イッテネ ウント ソコガ ボクンチナノ。ソイデ ソッカラネ シバタサンノ ホウ イッテコッチ マガッテ シノハラサン トコ ズーット イッテ マガッテ イッテ ソイデ ヨウチエン ツクノ。然

ぼくは本読むの好き？

○ウン。

読むの自分で？

○ウン。ヨマナイ トキモ アル。然

お母さんがお話ししてくだすったり、本読んでくださったりする？

○ウン。

どんなお話しいた？ お母さんから。

○コジカノ バンビトカ ソウイウノ。

覚えてる？ きかせて先生に。

○(アン) アー ア ア ア ンート……

こじかのバンビっていうのは？

○コジカノ バンビッテ イウトネ # ウント フユン ナツタリ ハルン ナツタリ シテネ オカアサンガ テッポウニ ウタレテネ ツヨイ オトウサンノネ (オジ) ガ ヤッテ キテネ # ソレガ エイガン ナツタノ。然

映画見にいった？

○エイガ ミニ イカナイ。# カイジュウノシカ ミニ イカナイヨ。(サンダータイガイガー)ト (キングウイドラー) アー ウチュウダイセンソウデショ。# ソレ カイジュウモ デンダヨ。# ソイカラネ オー ソイカラ フランケンシュタイン バラゴンデショ。# ウルトラマンデショ。# ウルトラマンハ テレビデ ヤッテル。# ソレト マグマタイシ。# マグマタイシモテレビ。# ウルトラマンガ ニチヨウビ。ソレカラ アー アノアノ マグマタイシガ ゲツヨウ。然

じゃ日曜日にウルトラマン見た？

○ウン。イツモ ミテンノ。然

じゃお話しして。きのうあったのは？

○ウルトラマン。/ どういふの？ / ○ウントネ  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ウ} \\ \text{オ} \end{array} \right\}$ ー ゲジラ ゲジラガ カイジュウダッタノ。# ソイデネ オオアバレ シテネ ハヤタタイインタチニガネ # ウントー ヘリコプターノッチ ヤラレテネ # ソイデ ウルトラマンガネ ヨンデキ ウルトラマンガ ヨンデネ # ソイデ エー ソイデ ヤツツケチャッタノ。然 コンドノ カイジュウガネ ゴジラ。然 ゴジラハ ツヨイカラネ ウルトラマン コンドモ (デモ) マケナイヨ。然 マグマタイシガネ # ミカタキョウリュウトタタカワナカッタケド アノ カイジュウ タタカッテ (バトラ)。ソレガ マケチャッタノ。# チキュウニ ナッチャッタダヨ。# ソレカラ ゴアガ カイジュウ ミンナ ツクッタノ。

○道順の説明はむずかしい。

○「～ジャナイ」「～デショ」の言い方を好む。

○怪獣ものが男児は大好きだ。

○「ウルトラマンガ」→「を」か。

○「けど」は終助詞か。

然

怪獣のテレビっておもしろい？

○ウン。タタカイ、スッカラネ。# ハヤタタイインタチノネ ジェットキ<sup>ノ</sup><sub>モ</sub> コワレテルヨ。 アンドラーニ ブッコワサレチャッタノ。然 ヘリコプターモ コワレチャッタヨ。# ジドウシャハ コワレテ イナイケド。#

こわれたらどうするの？あと。

○アト コワレタラ ヨンゴウデ ヨンゴウ ノルノ。# ソレゼンゼン マケナイカラサ。# ヒカリコウセン ダシタリ コウセン ダシタリネ # (ニンメン) ヒヲ ダシタリ シンノ。# デンキヲ ダシタリ シテサ；# ダカラ マケナイヨ。

他何見るテレビでは？

○ホカハ ナイ。然 オバキュウハ アルケド。

きのうのおばQはどんなお話だった？

○エートネ／あんまりたくさん見るから。／○オバキュウハネ # ピーコノネ # ウチノ オウチニ イッテネ # オッコチソウニ ナッテ ソイデサ # ホイデー ツリー シタリ シタノ。# ソレデネ オバキュウガ ツリ シテタラ オモイノガツレテ ミンナデ テツダッタラ ヒコウキガ ツレチャッタノ。然 おもしろいね。

○ソシテネ ウント ヒコウキデネ ウチヘ カエッタノ。# トバナイケド；

おばQはどこがおもしろい？

○アノ イヌニ ホエタリ スンノガ。# オバキュウ イヌニハヨワインダヨ。

先生絵本持ってきたの。この字読んでください。

○ウン。シ マ ウ マ ト ラ イ オ /それから？／○エヲ ミ テ オ ハ ナ シ ヲ シ マ シ ヨ ウ。

絵を見てお話してください。ライオンとしまうまがどうしたのか。

○トー／ライオンがどうしました？／ライオンが……

この絵はどんな絵？

○ライオンガ キテーネ ウントー シマウマガ キテ ソコニトマッテタラ ソイデ シマウマガ ニゲテー ライオンハ アトカラ ツイテ キタノ。# ソウシテネ シマウマガ イッパイル トコロ イッテル…… イットラ<sup>ア</sup><sub>ウ</sub>ー オドロイチャッタラ マタ カエッテ キタノ。

このお話をして？

○(ン)トネ ウサギト カメガ カケッコシテネ ソイデー ウサギガ ソコデ ウー ヒトヤスミ ウーント シテネー カメガサキニーネ ヤマニ モウ ツイテンノ。

このお話聞いたことある？

○アル。# ウチニ アンモン。ソレ；然 ソノ ホン；

じゃこれは？

○エー (ト) ハナヲ ソダテテネ ソレカラ ミズ ヤッテネ (ソウ ヤッテテ) ミズヲ カケテ ヤッタラ ピーント ナッタノ。

じゃこれは？

○(アノー) ココン トコ ネズミガ キテーネ ソイデー ウー ト ネズミ トコニネー ウー ダンプカーガ キタノ。# ソ

○この幼児、文末に「けど」「からね」「からさ」「してき」のくる文例が多い。

○「イヌニ ホエタリ スル」→「ほえられたりする」の意。受身形使えないらしい。

○何が(主語)「オドロイチャッタ」のかが、わからない。

- イデー エー アトカラー クマガ オイカケテ キタノ。  
お母さんがね昔話してくださる？
- ウーウン。  
してくださらない？ でも桃太郎さんなんて知ってる？
- シッテル。  
やってみる？
- ( ) <sup>覚えてる？</sup>モウ ワスレチャッタ。

同一幼児(女)の年中、年長期の話しことば

- 赤中-0 女(5:1) 1965 兄 兄 本  
お名前なんていいます？
- M・K。  
おいくつ？
- イツツ。然  
だれとだれがおうちにいます？
- パバト マ ママト オニイチャンガ フタリ インノ。  
だれが一番好き？
- ママ。  
どして？
- アノ ママ ヤサシイカラ。然  
お父さんのお仕事知ってます？
- ンー。  
何してます？
- ギンコウ ヤッテンノ。  
行ったことある？ 仕事しているところに。
- ン。  
どういうふうにやりました？
- ワスレチャッタ。  
きのう幼稚園から帰って何しました？
- ヨウチエンカラ カエッテ？ # ウント オママゴトデ アソ  
ンダ。然  
どういうふうにしてあそんだの？
- オトモダチ ヨンデネ ウント オママゴト グシテ アソ  
ンダ。然  
Kちゃんは何になりました？ / ○…… / 何になったKちゃんは？
- オカアサン。  
お母さんでどういふことしてます？
- ゴハン ツクッタリ スンノ。  
Kちゃんのおかあさんは？
- ゴハン ツクッタリ ソウジ シタリ スル。然  
運動会があったわねえどうだった？ 面白いことあった？
- ン。  
お話して。
- アノネ # ……カケッコガ オモシロカッタ。  
それから？
- ……タノシイ ス <sup>(ケ)</sup><sub>(キ)</sub> ップ。然  
ほかにはどんなことありました。
- タ……タマ ワナゲ。然 スズワリダ；然

○文節数は少ないが、質問に対してははっきりと答え、内容もしっかりしている。ただ、絵の内容把握はむずかしいようである。

○「フタリ インノ」数字を出してきちんといえる。

○理由文(省略文とも)

あのね夏休みのこと覚えてる？ 楽しかったことある？ どんなこと？

○アノネ ウーンー ヨコスカデ トマッタノ。  
それから？

○デネ # ウントー イッタ トキネ # ウント ウミガ  
アッタノ。然 ウミデ オヨイダ。然

幼稚園で楽しいでしょ。どんなこと楽しい？

○ユウギシ (ツ) トネエ アソトガ タノシイ。  
何一番好き？ほかに。

○ウンドウカイ？ 然  
大きくなったら何になりたい？

○(オ) ヨメサン。ノん？ノオヨメサン。  
どして？

○カワイイカラ。然  
おうち行くにはどんな道通ったら行ける？

○マッスグ イッテ マガルノ。然 ソウ イケバ スグナノ。然  
ゴカイノサ # ヨンバンメ。

テレビ見るでしょう。ノン。ノ何見る？

○マンガ。  
どんなの好き？

○レオチャン。  
どういの？

○レオ レオチャンネ ウント ツオイノ。然 コドモデ；# オ  
トウサント オカアサンガ ヤサシイケド シンジャッタノ。  
かわいそうね。それで？

○フンデネ レオチャン シトリデネ ウン ウ ウーントネ ワ  
ルイネー ウーントー ライオンガ キタノ ヤツツケチャッタ  
ノ。

それ見るの好き？ ほかは？

○ナイ。然  
お母さんがね絵本を読んでくださったりお話してくださったりす  
る？ どんなお話？

○ウサギノ オハナシ。  
やってみて。自分でご本はまだ読まない？ そう。これね縞馬と  
ライオンのお話なのよ。ライオンがどうしましたか。絵をみなが  
らお話してみて。

○ドッチカラ イクノ？  
ここからよ。

○コッカラ コウ イクノ？ 然 デ コッチカラ イウノ？ 然  
デ コウ イッテ コウ クルノ。然  
ライオンどうしました？

○ライオンガネ # シマーヲネ ウーン シマウマガノ トコ  
イコウト シタラネ # シマウマガ ワラッテネ # ソレデ  
イッたらネ ウント オイカケテ キタノ。# ライオンガ；#  
ソレデ シマウマガ タクサン イタカラ ニゲチャッタノ。

このお話は何？

○ウサギト カメサン。# アノネ ウサギガサ ウントー カメ  
ガ「アソコノ オヤママデ」ッテ ユッテ ウーント キョウソ  
ウ シタラ ウサギガ カタイ カッタカラ ウント モウ ス

○「アソト」→「おそと」の意。

○問に対してたしかめの質問を出  
している。

○「ゴカイノサ ヨンバンメ」と  
きちんと数字で言ってる。

○「ヤサシイケド」→「やさしか  
ったけど」時の対応のあやまり。

○わからないときはちゃんと質問  
している。

○「ガ」と言い「ノ」で訂正。

グダカラサ ネチャッテ ソレデ カメハ カメガ イットウン  
ナッタノ。

このお話聞いたことある？ ん。だれから？

○ママ。

じゃこれは何でしょう。

○アノネ オハナヲ ミズ ヤッテンノ。# コレ カレタンデ  
ショ？ 然 カレタノー ノ ノヒタノ。

じゃこれは？

○ト ネズミガ イテ クマガ イタノネ。# ソウシタラ クマ  
ガ ネズミノ コト オイカケタノネ。# ソイデ ネズミー  
ウント クマガ、ネ # ジドウシャニ アトラックニ ブッ  
カッテネ # ソイデ ネズミガ ウントー トンジャッタノ。

赤長一〇 女(6:1) 1966 兄 兄 本

お名前いってください。

○M・K。

いくつですか？

○ロクサイ。

おうちにはねだれとだれがいます？

○オニイチャント フタリトネー ママトネー パパトネー アタ  
シ。

全部でなん人？

○ゴニン。

だれいちばん好き？

○ママ。然

どうして？

○ヤサシイカラ。然

やさしいってどういうの？

○アノネー ナンデモ チャント シテ クレル コト。

どういうことちゃんとしてくれるの？

○アノネー # ガム カッテ キテトカ イウトネー # 「ハ  
イ」ッテ イウ コト。

お父さまのお仕事知ってる？

○シッテル。然

なにをしてらっしゃる？

○ギンコウ。然

銀行ってどういうことやるの？

○アノネー オカネヲ ノ コマッテル ヒトヤネ # ソウイウ  
トキニ タスケテ アゲル(ヒト)。然

しかられることある？

○アル。

どういうとき？

○アノネー # アンマリ オソトデ アソビスギタ トキ。然  
ほめられるときは？

○アル。然

どういうとき？

○アノネー パン カッテ キタリ スル トキ。然  
お兄ちゃんは何年生？

○「オハナヲ」→「おはなに」

○「ジドウシャニ」といって、あ  
と「トラックニ」と訂正してい  
る。

○年長になると、長く話せるよう  
にもなり、複雑な構文を使える  
ようになる。

○自分を「アタシ」といって家族  
の一人として答えている。全体  
の人数も言える。

○わからないのがあたりまえ。

- サン ヨネンセイ。然  
もうひとりのお兄ちゃんは？
- チュウガク サンネンセイ。／大きいのねー。  
お兄ちゃんとなんかします？
- スル。  
どういうことする？
- アノネー # センシャゴッコ シタリ シテ アソन्दル。然  
運動会があったわね。
- ウン。  
やりました？
- ヤラナカッタ。  
どうしてやらなかったの？
- カゼ ヒイテ オヤスミニ シテネー # ソレデー ミニ  
イッタノ。然  
たのしそうだった？
- ウン。  
どういうのやりたいと思った？
- カンガルキョウソウガ ヤリタカッ(タ)。  
カンガル競争ってどういうふうにしたの？
- アノネー # ……ワスレチャッタ。然  
夏休みのこと覚えてる？
- オボエテル。  
いちばん楽しかったこと覚えてる？
- オボエテル。／きかせて。／○アノネー # ハジメニネー……イ  
ズ イッテネー # ソレカラネー マタ ソノ ツギノ ヒニ  
マタ トマッテネー # デ マタ カエッテ キテ コンドハ  
カルイザワヘ イッタノ。然 ソレデ ズーット トマッテ ソ  
イデ ナツヤスミノ オワリコロニ ナルト カエッテ キタ  
ノ。然  
軽井沢ってというのはどういうところ？
- アノネー # イ ヤマガ アッテネー ソレデ キ キトカ  
サイテテネー ソレデ オハナモ サイテテ チヨウチョトカ  
トンデル トコロ。然  
涼しかった？
- ウン。  
伊豆ではなにをしたの？
- ウミデ アソन्दタノ。然  
どういうお遊びしたの？ 海で。
- アノネー # ……ウキアクロ モッテネー  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ジ} \\ \text{チ} \end{array} \right\}$  ヤブ  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ジ} \\ \text{チ} \end{array} \right\}$  ヤ  
ブ ヤッテ オスナトカデ アソन्दタノ。然  
きのう日曜日だったわねー、なにしました？
- ヨシコチャンテ イウ ニネンセイノ オネエサンガ イ ウチ  
ニハ イナイケド オトモダチデネー # ソレデ ソノ ヒト  
ト タミーチャンデ アソन्दタノ。然  
タミーちゃんてどういうふうにして遊ぶの？
- オニンギョウデネ オヨウフトカトネ カツラトカ アッテ  
ネ # ソウイウノデネ アソन्दタノ。  
それからなにしました？
- アト ワスレチャッタ。然

○「シタリ シテ アソन्दル」  
したりしてと言える(前出)。

○「カゼ ヒイテ オヤスミニ  
シテ〜」と理由、原因を述べる  
接続助詞「から」「ので」を使わ  
ないで「て」ですませている。

○「ハジメニ」で言いはじめる。  
なかなか論理的。

○「オワリコロニ ナルト カエッ  
テ キタノ」時の対応がおかし  
い。「ナルト」不用か。

○題目語の欠けている構文。「トコ  
ロ」でまとめている。

○今何をしていたのか？と聞いたら  
「アソन्दタノ」でもよいが、  
質問は過去のことを聞いている  
のでおかしい。幼児は現在のこ  
ととして認識するのだろうか。  
→「遊んだの」

○「アソन्दタノ」→「遊ぶの」  
の意。

幼稚園で楽しいわねどういうことやる？

○オカアサンゴッコトカ ヤル。然

朝来たらどういふふうにするの？幼稚園では。

○アノネー タイソウ シテカラネー ゴア アッ ゴアイサツ  
シテカラネー タイソウニネ シテネー ソレデ ……ソレデ  
ネー オユウギデネー シテカラ モドッテネー ソレ  
デー ……デ…… ソレデネー ウントネー オナマエ ヨンデ  
カラネー ソレデネー コンド ホントカ ヨンデルノ。然  
先生にね、読んでもらった本だとかねーきいたお話でねー、みた  
紙芝居でね覚えてるのがある？

○アル。然

きかせて。

○アノネー …… アノネー # ムカシノ トキニネー ウサギ  
ガ イテネー カワガ アッタンデネー ソノ カワノ ムコウ  
ノ ホウニネ ウサギノ クニデネー ソレデ ウサギノ オカ  
アサンタチガ スンデタノネー。ソレデネー ウサギハネー ウ  
ント コマッテタノ。ソレデ イキタカッタカラネ ソレデネー  
サメガ キテネ イッパイノネ カゾクヲネ オシエテネー カ  
ゾエテ ミテアゲルッテ イッタノネ。ソレデネー カワヲ ワ  
タリタカッタカラ ウソツイテタノ。# ソレデネー ソレカラ  
ネー イチ ニイ サン シイッテ アルイテタノネー。ソイデ  
ネー キレイニ ナラシメデショウ。ダカラ カワノ ムコウ  
ノ ホウマデ イキソコナッ イ イコウト オモッタノネ。ソ  
レデ ウソ「ウソダヨ」ッテ イッタノネ。ソシトラ モウ  
オトシチャッタノ。# ソウイウ オハナシ。然  
あのね、大きくなったらね、なんになりたい？

○アノネー ……アタシハネ オモチャヤサンニ ナリタイ。然  
どうして？

○オモチャダッテネ イウノガ オモシロイノ。然

かずをねーいくつまでかぞえられる？

○ヒャクマデ カゾエラレル。然

十から逆にかぞえられる？十、九ってこう下に。

○カゾエラレル。

やってみて。

○ジュウ キュウ ハチ ナナ ロク ゴ ヨン サン ニイ イチ。

二十からは？

○カゾエラレル。

夢みる？

○アル。ユメ ミル。然

どんな夢みた？

○アノネー オニイチャンガネー ウソ ツイタ ヌメ。然

それでどうなったの？

○アノネー アタシガ テレビ ミテタンダヨネー。# ソシタ  
ラ「トリガ イタ」ッテ イッタンダヨネー。# ソシトラ ミ  
テタンダヨネー。# ソシトラ ミテタンダヨネー。# ソシタ  
ラ イタンダヨネー。# ソレ ツカマエヨウト オモッタラ  
ニゲチャッタノネ。ソシトラネ オニイチャンガネ ウソ ツイ  
テ「サヨナラ」ッテ ヌッタノ。ユメ ミタノ；然  
テレビを見る？

○助詞の誤まりが多い。

○「ムカシノ トキニ」はおかし  
い。

○「アッタンデネ」→「あって」  
か。

○「だれが」「だれを」がよくわか  
らない。

○この文よくわからない。

○ミル。

なにいちばん好きで見る？

○マンガ。然

マンガの中ではなに？

○アノネー アノネー ウッドベッカーッテ イウノネ マンガガ  
アッテネ # ソレヲ ミルノ。然

どんなお話、ウッドベッカーって。

○アノネー カラスミタイナ トリガ イテネー ソノ トリガ  
ナマケモノデネー ソレデネー テヲ キロウト オモツラ  
ネー キレナカッタダケドネー ソレハ コンクリートデ デ  
キテルネー ウーント テダッタノ。／そんなの？／○ウン。

きのう日曜日はおばQ見た？

○ミタ。

どんなお話だったか覚えてる？

○アノネー # オバケノネー オバケタイカイッテ イウノガ  
アッタ。然 ソイデネ オバケガ イッパイ キテネ ソイデ  
ネー アメリカノ オバケトカネー ソウイウ オバケガ イテ  
ネー ……ナンダツケナ ドロンパッテ イウネー アメリカノ  
オバケガ イテネ ソレヲ ソレガネー マエカラノ オトモダ  
チダッタノ。アトノ ゼンブハ オトモダチジャ ナイノ。ソレ  
デネー ウーント ケーキ サムイ クニノハ サムイ トコガ  
スキデショウ。ダカラ レイゾウコン ナカへ イレチャッテ  
ネー キツキツデショウ。ソレデサー アツイ クニノネー  
エート オバケガネー アツイ サム ウチン ナカハ アツイ  
カラッ サムイカラッテネー ウーント ストーブトカ イッパ  
イ ヤッチャッテネー # ソイデネー 「オナカ スイタ」ッテ  
イッタノネ。アツイ クニノ オバケガ；# ソレデネー アケ  
テ ミタラネ ナカ カラッポダッタノ。# アノネー キツイ  
カラッテ ゼンブ タベチャッタノ。然 サムイ クニノ オバ  
ケガ；/冷蔵庫の中のものみんな食べちゃったの？/○ウン。/  
けっきょくどうしたの？/○ソレデネー オナカ スイタデ  
ショウ。ダカラネー キュウ キュウチャンジャナクテ ドロ  
ドロパガネー ウーント 「オンナノネー オヒメサマニ シ  
テ アゲマショウ」ッテ イッタダヨネー。# ソシタラネー  
ウーント キュウチャンガネ オンナ オトコナノニ オンナノ  
ネー # キモノ キテ デテ キタラネ オモシロガッチャッ  
テネ # ミーンナ トンデ イッチャッタノ。/そういうの  
だったの？/○ウン。/よく覚えてたわねー。

ほかはどんなのみてる？

○アトネ ウルトランテ イウノ ミテンノ。然 ソレトネー  
ウーント コジカモノガタリッテ イウノ ヤッテルノ。ソレモ  
ミテンノ。然 ソレネー ジュウイチジマデダカラネー # ド  
ヨウビニ ヤルカラ ドヨウビ(ノ) ア コノ ツギ、ニチヨ  
ウビデショウ。ダカラサー ダカラ アレー ヤッタ(ノ) ミテ  
タノ。然

どんなお話だった？

○アノネー # アノネー ハジメニネー チッチャイ コドモガ  
ネー ウーント ヨウ ヨウチエンニ カヨウ マエナノネー。  
オカ オトウサンガネー ナンカ カイニ イッタノネー。ソシ

○助詞の使用の誤用。

○「～マンガをみるの」と言わな  
い構文がおもしろい。

○テレビをよく視聴している幼児  
が一般に文節数も多い。

○この年はおばQのテレビに人気  
があった。

○この幼児は内容もくわしく話せ  
る。

○「～デショ」という問いかけの  
な話し方をこの幼児は使う。

- テネー ムラノネー ヒトビトタチニ オシエタンダヨネー。ソシタラネー「カイモノ イッタンダヨ」ッテ オシエタラネー ソシタラ オトウサンガ オコッテネー (キッカッテ) キテネー ソイデネー ウマゴヤガ アラサレテタノネー。ユビナシグマッテイウノ。然 ムカシノ オハナシ。然 ソレデネー # チッチャイ コガネー # シカヲ ミツケテネー シカヲ カッタノネー。# ソシタラネー シカガネー スゴーク イタズラモノデネー ソイデネー アトカラネー オカアサンガネー コジカヲ コロシチャッタノ。然 テッポウデ; 然 ソレデネー チッチャイ コモ マタ コロシチャッタノ。ソシタラネー ウーント チッチャイ コガ ウチカラ デテネー # カワヲ ワタッテネー ソレデ フネニ チッチャイ コブネニネ ノッテネ ナガレサレテ イッタ トコロヘネ フネノネ オジサンガ キテネ # ソイデ ソレヲ タスケテネー ソレデ カエッテ キタノネー。# ソシタラ「オソカッタネー」ッテ イッタラ「ウン」テ イッテネー # ソレデ ソレデネー ウーント イ ヨク ナッタラ モウ オワッチャッタノ。然 コノ ツギノハ オモシロイノ。／つづくの?／○ウン。然
- ウン。／それでもうひとつはウルトラマン?／○ウン。  
ウルトラマンはどんなお話?
- ニチヨウビ。然 アレハネー アノネー キノウ キノウ ヤッタノハネー # エカラ トビダシタ カイブツガ デテ キテネー ソイデー カイブツカ ヤッツケルネー チョウカンガ キテネー ケ ケンミタイナ モノ コウ ヤッテ ヤルノネー。# ソウスルト ウルトラマンガ デテ クルノ。然 ソレカイブツグライデネー # ダンチヨリモ オッキイノ。然 お母さん絵本読んでくださったりねー、お話してくださったりする?
- スル。然  
どんなお話聞いた?
- アノネー ウサギト カメ。然  
それからどんなお話聞いた?
- アトハ ワスレチャッタ。  
ニュースなんか見る?
- ミナイ。然  
交通事故なんて見たことある?
- アル。然 ノッパ クルマ ウンテン シテテ マエ ヤッチャッタング。然 アノネー トラックニネー # ホラ シタニ ハイッチャッタリネー # ウーントネ タクシーニ ブツカッタリネー # ソレニネー スピードイハンダッタリ( )。／お父さんが?／○ウン。／あらたいへんじゃないけがしなかったの?／○ウン。オニイチャンガ ノッテル トキニネー ウーント アノネー チッチャイネー トラックニ ノル チッチャイネコガネー トラックニ ハネラレチャッタカラネー イッテミタラネー「イマ ヤッテタンデスヨー」ッテ イッテタ。然 オニイチャン ソレテ イッタ トキノ ハナシ オシエテ クレタノ。然  
絵本持って来たのねーこれ読んでください。
- シマウマト ライオン。# エヲ ミテ オハナシ シマショウ。

○「何を」教えたのかわからない。  
のちの文でのべている。

○「使役動詞+受身」の形式はむずかしいようだ。「ながれる」「ながす」の自他の使用の誤りもからむかはっきりしない。

○「キノウ ヤッタノハ」と題目語が提示されているが、文末「～だったの」が欠けている。話しことばにはこのような構文が多いが、文脈のそれである。

○「スピードイハン」ということばなど日常化しているようだ。

○スラスラと読めた。拗音も正しく読めている。

絵を見てお話してください。

- アノネー ライオンガネー シマウマ ネー タ サガシテタンダ  
ヨネー。ソシタラネー シマウマガ イッピキ イタノ。# ソ  
シタラ ライオンガ タベヨウト シタラネー ニゲテ イッテ  
ネー ソレデー イッバイ イルネー イッバイ シマウマガ  
イル トコ ツレテ イッチャッテネー ビックリシテネー  
アー ソイデネー トバサレチャッテ ワーッテ イッタラネー  
ソシタラ シマウマガ ワラッタ トコロ。然  
でライオンはどうしてるの？
- ニゲチャッタノ。  
こんどうさぎとかめのお話聞かせて。
- アノネー アレー コックラジャ ナカッタネ。# アノネー  
ウサギガ カメガ オサンボ シテタノ。ソシタラ ウサギガ  
キテネー「ヤー ノロマノ カメクン」テ イッタンダヨネー。#  
「ボク ソンナニ ノロマジャ ナイヨ」ッテ イッタンダヨ  
ネー。ソシタラ「ボクトネー キョウソウ ショウ」ッテ イッテ  
キョウソウ シタノ。ソシテネー ウサ カメハ オソイデショ  
ウ。ダケド ウサギノ ホウハ サキニ イッテネー チョット  
ヒルネヲ シテタラ ウチニネー イチバンノ タカイ ヤマノ  
ホウマデ イッチャッタノ。# ソシタラネー「キミ ホントニ  
ボクヨリモ タカ ハヤイネ。ダカラ ボクト イッショニ ア  
ソボウヨ」ッテ イッテ アソンデタ アソンダ トコロッテ  
イウノ。ハナシ；然  
このお話ね、なにしちゃいけませんというお話？
- アノネー イジワルヲ シチャ イケマセンテ イウ オハナ  
シ。  
そういうお話だと思う？
- ウン。  
だれがいじわるしたの？
- ウサギ。然  
このお話してみて。
- アノネー チッチャイ コドモガネー／こちらからよ。／○ハナガ  
カレタノネー。ソシタラ チッチャイ オトコノ コガネー  
ウーント ミズヲ ヤッテタノ。ヤッタノ；# ソシタラネー  
ウーン オテンキデ ソレデ シバラク シテネー オテンキデ  
ショウ。ダカラネー ウーント オハナガ ノビテ キレイニ  
ナッタノ。然  
こんどこれは？ これもこっちからね。  
先生をよく覚えてた？
- オボエテナカッタ。  
でもリスぐみのときやったの覚えてた？
- ウン。  
この三番目のお話きかせて。
- アノネー クマガ ネズミヲ オイカケテタンダヨネー。ソレデ  
マチン トコロノネー ニンゲンガ トオル ミチカラネー デ  
テ イッチャッテネー クルマガ トオル ミチニ イッテネー  
ソシタラ トラクトネー ウーントー イッショニ ブツカッ  
チャ クマガ ブツカッチャッテネー ソイデネー ソレデ オ  
オケガラシタ トコロ。然

○絵の解釈は年中時よりもよくできている。

○ライオンがびっくりしたのか、  
縞馬がか、主語がないので、絵  
がないとわからない。

○長い文が切れないでつづいている。  
最初に「この絵」はという  
ことばはないが、最後は「～トコ  
ロ」といって結んでいる。

○名詞が連体修飾語になる場合助  
詞の「の」がつくが、それに影響  
されたか「イチバンノ タカイ  
～」と誤用している。「いちばん」  
は副詞として「高い」を修飾。

○「～ヨリ」を使用している。

○逆から話そうとする幼児がいた。

○「歩道」「車道」ということばを  
知らないで、「ニンゲンガ ト  
オル ミチ」と「クルマガ ト  
オル ミチ」で表現している。

## 第 2 部

# 第1章 文構造の分析の方法

## 1.1 3歳までの文の発達

3歳までの文の発達を筆者は五段階に分けて考えている。(注1)

- (1) 一語文の時期(1歳前後)
- (2) 二語文の発生(2歳前後)
- (3) 多語文、従属文の時期(2歳半前後)
- (4) 文章構成期(3歳前後)
- (5) 一応の完成期(3歳～4歳)

ここではくわしいことは述べないが、幼児は1歳前後になると、大人との共有語(有意味語ともいわれている。)それも一語からなるので一語文と言われるが、そのことばを使って、事実を述べたり、願望や要求を表わすようになる。「あ! 自動車だ」「自動車に乗りたい」と言いたいと思っても、まだかれらはそのような形式で話すことができないので、ただの一語「ブー」で、それらの意味を含めて発話するのである。だから、その一語はのちに分化する主語である場合も、補語、述語である場合もある。

<sup>(注2)</sup>  
それが早い幼児で1歳半ごろから、おそくも2歳前後になると単細胞が分化していくのにとえられのように頭としっぽ、おなかとしっぽというように二つに分かれていく。すなわち主語+述語、補語+述語などの二語文になっていくのである。

2歳から2歳半前後になると、それら主語、補語、述語などに修飾語がついて、その修飾語は連体修飾語の場合も連用修飾語の場合もあるが、もの・ことをより細かく、正確に表現することができるようになってくる。したがって二語文でなく、三語文、四語文と多語からなる文が使えてくる。その連用修飾語、連体修飾語の形態も、語からなるばかりでなく、一回の判断を形成する文からなって、その文が、もとの文に対して、原因、理由、時、場面などをつけ加えていくようになってくる。もとの文に従属しているという意味で従属文と名づけられたりしている。つまり単位となる文が二つ重なったり、文の中にはめこまれて一文の形式が複雑になってくるのである。

そして、3歳前後になると、これら文が文+文+文……と重なって、あるいは、接続詞によってつながり、段落を形成し、幼児の発話が構成的になってくる。かくして、文章を構成する要素の大部分が3歳前後から4歳にかけて幼児に習得され、これらを自由に應用して、会話をしたり、説明をしたりすることができるようになるのである。

それでは、その後の幼児の文の発達はどんなふうな実態を示しているだろうか。それを幼児の一応の到達点である5～6歳児を中心としてみていくことにする。ここでは文が形成していく過程からみていくのではなく、到達点を静止しているものとして、文構造の形態が、幼児においてはどんなふうな構造をしているかをみていこうとするのである。そして、年長児の使用する文

(注1) 大久保 愛『幼児言語の発達』(東京堂出版)192頁

(注2) 補語についてはのちに述べる。一応英語の object+ $\alpha$ としておく。

構造がきまったら、年中、年少ではどうか、年少から見ると年中、年長ではどのような文構造の発達が見られるかを調査してみようとするのである。

## 1.2 幼児の文構造分析のための方法

幼児の文構造をみる場合、日本語の文構造についての分析、研究があると、それに従って分析することができるが、現代語の文研究が立ちおけている上に、(最近ではチョムスキー流の文についての考えが入ってきて、主語の問題なども討論され、国語畑以外で盛んになってきている。)現代語自身もいろいろの問題をはらんでいて、一筋なわではいかないところがある。これまでも、山田孝雄の文の種類分け方(文を単文、複文に分け複文を重文、合文、有属文としている)とか、橋本進吉の連文節の考えによる文の分析とか、時枝誠記の入れ子型構造分析などの試みがなされていて参考になるが、<sup>(注1)</sup>筆者が主として参考にしたのは、それらもちろんであるが、幼児の構文の分析に適当と思われる以下に述べる二種の文献である。

### 1.2-1 チョムスキーの生成文法

その一は、1957年、Noam Chomsky にはじまる生成文法(generative grammar)の考え方である。くわしい文分析については当初より Chomsky 自身の考え方も変ってきているようだ(1965年)、弟子たちによっても種々論議され、その種の論文が発表されており、立ちいったことはここで述べるつもりはない。<sup>(注2)</sup>しかし、ここにあげたのは、その考え方が、幼児の文構造の発達をみていく場合、非常に参考になるからである。そのためか、アメリカでは、幼児のことばの研究に生成文法の考えを使って構文の分析をしている例をよくみる。以下に参考にした文献をあげる。

(1) Lois Bloom は“Language Development”で生成文法の言語理論が幼児の言語及び言語発達の研究者に影響を与えているのは、次の二つの面からであると述べている。

- ① 言語構造において深層と表層の区別を考えたこと。
- ② 構造を述べるために意味というものが本質的な関連をもっていること。

そして次のような例をあげている。“Mommy sock”ということばが次のような二つの場面で幼児に使われたという。①キャサリンがお母さんの靴下をもちあげて、“Mommy sock”と言った。

---

(注1) 講座現代語『口語文法の問題点』(明治書院)進藤正邦「文構造とその図解法」などにも、例がみられる。その他、三尾砂『国語法文章論』(三省堂)でも「文」「文の類型」等について扱っている。また、国立国語研究所報告18『話しことばの文型(1)』(1960)(以下『話型1』として引用)では飯豊毅一が「構文」について分析を試みている。

(注2) 1957年に出た本は“Syntactic Structure”(勇康雄訳『文法の構造』研究社)で、1965年に出たのは、“Aspects of the Theory of Syntax”(安井稔訳『文法理論の諸相』研究社)である。その間にチョムスキー自身の考え方に変更が見られる。

(注3) Paula Menyuk “Sentences Children Use”(1969), Lois Bloom “Language Development: Form and Function in Emerging Grammars”(1970), Carol Chomsky “The Acquisition of Syntax in Children from 5 to 10”(1969), とともに The M.I.T. Press. David McNeill “The Acquisition of Language: The Study of Developmental Psycholinguistics”(佐藤方哉他訳『ことばの獲得』大修館, 1972), のちに筆者が参考として引用する Menyuk “The Acquisition and Development of Language”(Prentice-Hall, 1971) などなど多い。

生成文法について概観が知りたい場合は、安井稔編『新言語学辞典』研究社、1971)がある。

⑥お母さんがキャサリンにキャサリンの靴下を与えたとき “Mommy sock” と言った。それが表層では同じことば “Mommy sock” で発せられたというのである。つまりお母さん (mommy) は①の例では修飾語であり、⑥の例では、行為者であるというわけで、幼児のことばは、みかけではこのようにあいまいなので、生成文法的考え方、つまり深層に入って考えないことには解釈ができないというのである。筆者もこの本で、用例の解釈には、注釈をつけて幼児の深層を推察した。

(2)参考にしたもう一つの書物は、Paula Menyuk の “The Acquisition and Development of Language” である。その中から生成文法について述べてあるところ (17 ペ～20 ペ) を、筆者の考えも多少つけ加えながら引用する。

生成文法での統語規則は、文の機能的関係を述べ、言語の部門を決める。文法の統語部門は、<sup>(注)</sup>基底構造規則と変形規則、形態規則からなっている。言語の底の各文は核連鎖である。基底構造規則は次のような種類の書きかえ規則によって核 (文) を生成する。

S → NP + VP 文 (S) は名詞句 (NP) と動詞句 (VP) に書きかえられる。

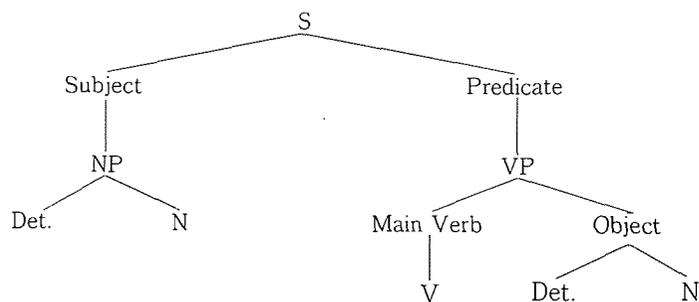
NP → Det. + N 名詞句 (NP) は限定詞句 (Det.) と名詞 (N) に書きかえられる。

VP → V + NP 動詞句 (VP) は動詞 (V) と名詞句 (NP) に書きかえられる。

文の主語は文の名詞句である。文の目的語 (筆者の補語のちに述べる) は動詞句の中の名詞句である。文の述語は、文の動詞句であり、主動詞は動詞句の中の動詞である。母国語話者が内蔵している言語能力は、有限な手段を用いて無限な文を生成している。そのように文法とは、無限な文が生成できるように考えていく規則の集合、しくみであり、生成文法はそういうものなのである。

そして、文を形造っている要素をかりに語と呼ぶと、これら語は同一平面上に並んでいるわけでない。互いに引き合っていて、引き合うものどうしがまとまり合うことによって一定の構造をなしている。それを句構造 (phrase structure) と呼び、枝分れ図 (tree) で示される。(図 1 参照)

図 1



(注) 三部門の一つで、syntactic component という。他に音形部門 (phonological component) と意味部門 (semantic component) とがある。

底の連鎖の各語（たとえば名詞，動詞）は，統語的，意味的，変形的特性を持っている。そして，書きかえ規則に加えて選択規則によって，次のような文 “The beauty is everlasting” は，beauty が抽象名詞で Art.+N の形では決してあらわれないから，文法的でない文だという。

また，基底構造連鎖は変形規則で前文をつけることによって疑問文 (Q)，命令文 (Imp)，感嘆文 (Emp)，否定文 (Neg)，疑問，命令文 (Q-Imp) ができあがる。

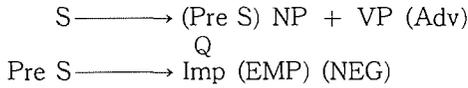


図2は “The boy hits the ball” の基底構造の枝分れ図である。連鎖（記号列）の各語（語彙目録）は統語的，意味的，変形的性質をもっていて，たとえば，boy は名詞で，単数で，生物で，人間で，男であって，音は，/b//o y/の順からなっているというのである。

変形規則はさまざまな文を生成するために底の連鎖を操作する規則である。核の中で削除，置きかえ，変換をおこなってさまざまな文型が生成される。

図2

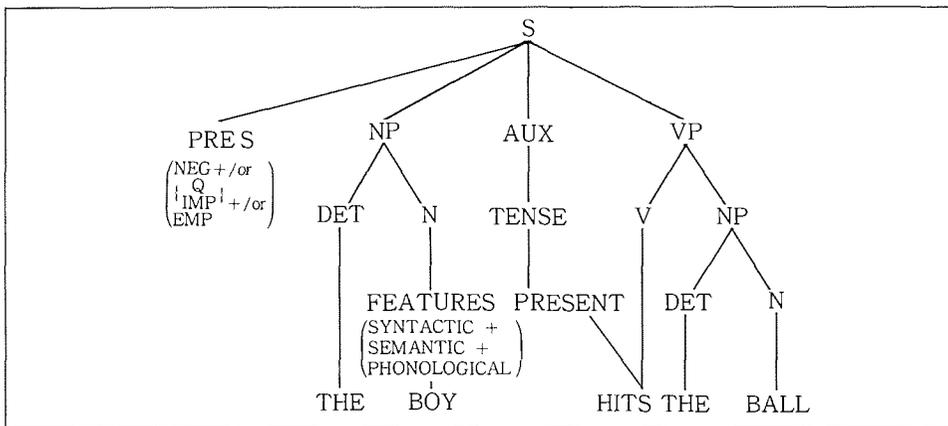


図3

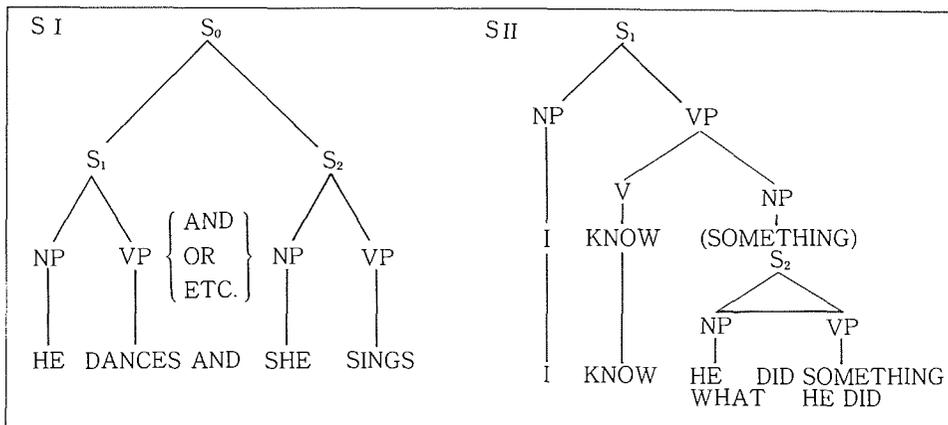
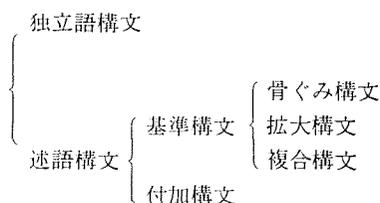


図3はS IとS IIの基底構造の枝分れ図である。連鎖は結合とか埋め込みの操作を使用することによって、長い文を理論的に生成することができる。(筆者の場合は連体修飾語を「埋め込み」と見ないで、取りだして別箇に分析した)

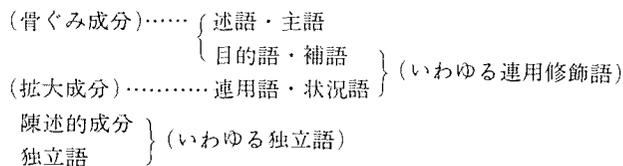
以上が、ブルームフィールドによって代表されている構造言語学に対して出てきたチョムスキーに代表される生成文法の中心的考え方の簡単な要約である。このような考え方は、幼児が文を生成していく過程としてもうなづけるところがあるので、枝分かれ図で幼児の文を分析するわけではないが、構文分析の一つの考え方として参考にした。

### 1.2-2 『話しことばの文型2』

これは国立国語研究所の報告書23(1963年)として出版されたもので、構文のところは、鈴木重幸・南不二男が担当している。(以後『話型2』として引用する)その中で文構造に関係したところをみていく。ここでは、構文の型を次のような種類に分類している。(98ペ)



そして、成分の種類は、(113ペ)



ついで、成分の略号を引用すると以下である(110ペ)。

Z……述語	K……従属句
S……主語 (S'と共存するばあいは部分主語)	s, m, z, ……は, S, M, Z, …とそれぞれ同格の成分
S'……いわゆる総主	【D】……独立語構文
M……目的語	【Z】……述語構文
M <sub>マ</sub> ……「<体言>ヲ」の関係に立つ目的語	〔Z〕……基準構文
M <sub>ニ</sub> ……「<体言>ニ」の関係に立つ目的語	/… Z / …骨ぐみ構文
H……補語	R / … Z / ……連用語(R)による拡大構文
H <sub>1</sub> ……結果的補語	J / … Z / ……状況語(J)による拡大構文
H <sub>2</sub> ……内容的補語	K / … Z / ……複合構文
R……連用語	T [ Z ] ……陳述的成分(T)のついた付加構文
J……状況語	D [ Z ] ……独立語(D)のついた付加構文
T……陳述的成分	K [ Z ] ……従属句(K)のついた付加構文
D……独立語	

また、各構文型における成分の意味的特徴の概観は次表のようである。(111ペ)

		意味的特徴
独 構 立 語 文 【D】	D	呼びかけ・応答・評価・提示……
	T	文脈的導入, 表現意図の補足……
述 語 構 文 【Z】	基準構文 (骨ぐみ成分)	
	Z	(主体などの) 動作・状態・性質・種類……
	S	(動作・状態・性質・種類……) の主体……
	M	Zのことがらの成立に参加するものごと
	H <sub>1</sub>	結果の状態……
	H <sub>2</sub>	言語活動・精神活動の内容……
	(拡大成分)	
	R	(動作の) ようす, (動作・状態・性質……) の程度, 量……
	J	空間・時間・原因・理由・目的・条件 (未定・確定)……
	(従属句)	
付加構文	T	文脈的導入, 表現意図の補足, 評価, 提示……
	D	呼びかけ・応答・評価・提示……
	K	条件 (確定——主観的な), 事実の提示的表現……
	K	比較的はっきり現われている条件 (確定)

これら略号を使って、各文を分析すると以下のようなになる。(240~250 ぺ)

構文の型	用 例
SH <sub>2</sub> Z (骨ぐみ構文)	○ボクハ(S)「コリヤ マズイ」ト(H <sub>2</sub> ) 思ッタ(Z)。
SJJZ (拡大構文)	○火ハ(S) ミンナノ 努力ニ ヨッテ(J) 午前三時ニ(J) 消 エマシタ(Z)。
SK <sub>ケレド</sub> H <sub>1</sub> Z (複合構文)	○コンドノ 家ハ(S) 駅カラ 遠イケレド(K <sub>ケレド</sub> ) 広ク(H <sub>1</sub> ) ナッタ(Z)。
K <sub>テ</sub> SM <sub>ヲ</sub> Z (付加構文)	○電車ハ 事故ノ タメ トマッテ シマッテ(K <sub>テ</sub> ), ヒトヒトハ (S) タクシーヲ(M <sub>ヲ</sub> ) ヒロッタ(Z)。
TDK <sub>ガ</sub> S <sub>ハ</sub> Z (付加構文)	○ソレジャ(T) ミナサン(D) タイヘン タイクツナ 話デ モ ウシワケ アリマセンデシタガ(K <sub>ガ</sub> ) 文法ノ 話ハ(S) オシ マイテス(Z)。

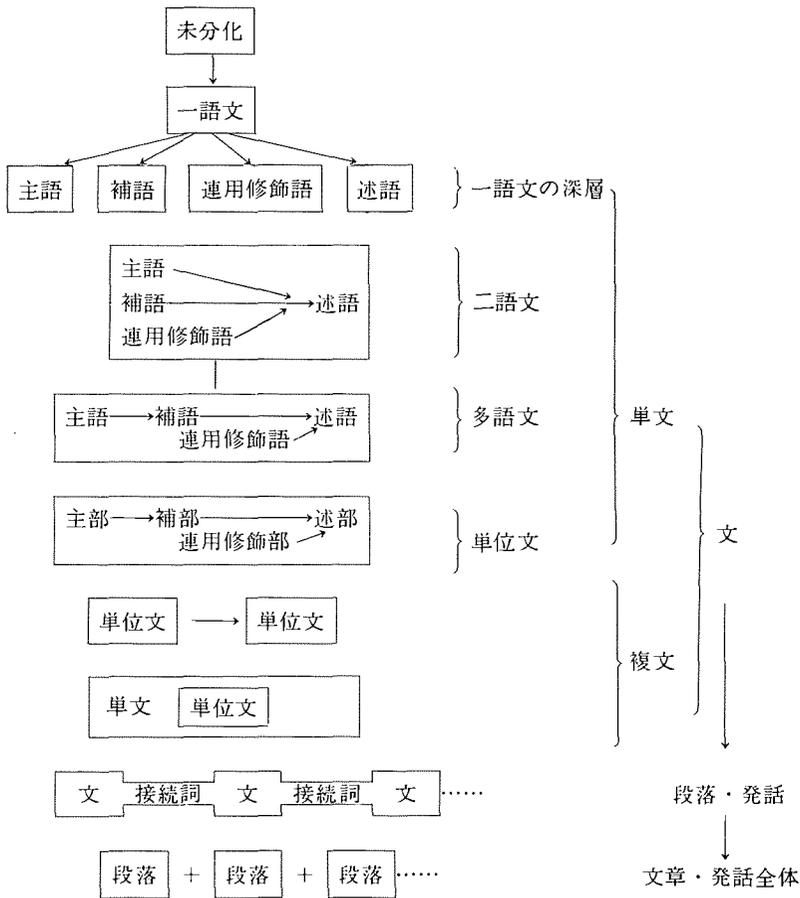
筆者が幼児の文の分析をするときの具体的操作について略号とか略号の内容について考えると、この本の世話になった。ただ、主語をSとして認めながらも、日本語の特色として考えられ  
(注1)

(注1) 三上章『象は鼻が長い—日本文法入門』(くろしお出版)「日英文法の比較」の章で、日本語における主語に疑義を起した人々の意見をあげている。この本全体もそのことを扱っている。特に「は」に焦点をあてている。

たのか、述語構文の中に入れていたところは肯定できなかった。幼児の文構造形成過程として、文を生成発展的(表層 surface と深層 deep の構造 structure を考える)なものとして考えるとき、また、操作の上から(これは『話型2』の場合も扱いはSを大きくとりあげている)も、主語のあるなしでみていくほうが納得できると思って、筆者の場合は主語を大事なものとしてとりあげた。(注2)

1.2-3 この本の方法と略号

この本の文構造分析の操作を述べる前に、前に述べた3歳前後に成立する幼児の文の形成過程を筆者の考えで図示してみる。立体図にならないので適切にあらわせないが、このような過程で文が生成していくと今のところみているのである。すなわち、混沌とした未分化の時期から一語



(注2) 大久保忠利『日本文法の心理と論理』(国土社・58 ぺ)。文はA主述文, B非主述文に大きく分けられ, Aには, 完備文(SZ文)と不完備文(省略文)があるという考え方。非主述文は「火事!」「痛い(足をふまれて)」で, 不完備文は「その本だれに買ってもらったの?」という問に対して「おねえさん」という。「この本はおねえさんに買ってもらった」の省略文であるとする考え方である。

また, 単位文という考え方を出している(62 ぺ)。単位文とは「主語と述語の結びつきが一回おこなわれているもの」と規定している。そして, 「条件として, その主部, 述部に他の「単位文」(またはその省略形)が含まれていないこと」と述べている。この単位文の考え方を借りる。

文が生成する。一語文は深層として、将来、主語とか補語、連用修飾語、述語、連体修飾語になるものである。それが補語＋述語、連用修飾語＋述語、主語＋述語、連体修飾語＋主語、連体修飾語＋補語の結合ができて、単位文なるものが幼児に次第に構成されていくのである。独立語、接続詞などが単位文について拡大文が使えるようになる。ここまでが単文である。ついで、単文と単位文が連結したり、単文の中に単位文が含まれたりして(単位文が文に含まれると「節」になる)、主文と従属文(従属節)の関係ができた文を複文という。単文と複文を合わせて文という。これら文が接続詞によってつながってできるのが段落、話しことばでは発話で、段落がまとまって文章、話しことばでは発話全体ということになる。幼児はこれら構文を不十分ながら使えるのである。

次に、これから使用する記号の説明をしておく。

S = 主語(主部) (S) = 主語(主部)省略の意

Z = 述語(述部) (Z) = 述語(述部)省略の意

D = 独立語 J = 接続詞 Rt = 連体修飾語(部)

H = 補語(部) (H<sub>1</sub> = なにを, なにになど H<sub>2</sub> = だれに, だれとなど H<sub>3</sub> = どこに, どこでなど)

RR = 連用修飾部 (T = 時(when), Y = 原因, 理由(why)など, R = 連用修飾語)  
(注)

C = 節, 主述をもつ形式(省略形も含む)で、文中に埋め込まれるもの。

Q = 「と言う」「と思う」の対象。

N = 名詞・代名詞・数詞(体言) K =こそあど V = 動詞 A = 形容詞, 形容動詞 Ad = 副詞

補語は体言(N)＋助詞の形式を持ち、意味としては何、だれ、どこを指している。どのような助詞をとるかを表にしてみる。●が使用の多い形式である。(下表)

H 助詞	なに (What) H <sub>1</sub>	だれ (Who) H <sub>2</sub>	どこ (Where) H <sub>3</sub>
Nガ	○	○	○
ハ	○		
モ	○	○	
ヲ	●	○	○
ニ	○	●	●
ヘ			○
デ	○		●
ト		●	
マデ	○		○
カラ		○	○
ヨリ		○	
副助詞	○		○

ここに述べた文構造についての考え方は、現時点での筆者の考え方で、用例を分析しながらどおりついた結論である。しかし、今後、文の分析をしながら、考え方が発展的に変わっていくこともありうるものである。その時はまた別の構想のもとに同じ資料の分類をするようになるかもしれないが、今は、この考え方で幼児の文構造をみていくことにする。

上に略記号で述べた各成分について、『話しことばの文型2』(話型2)と比較しながらどのような内容のものであるかを説明する。

(注) 連用修飾語としては、いわゆる副詞、名詞(Howにあたるもの)＋助詞(に、でなど)、数詞、音まね語、感じ音まね語を含む。

述語の中には、『話型2』と同様に複合述語もはいる。複合述語については、「文末の形式と用法」でも述べるが、「している」「してやる」<sup>(注)</sup>「～したりする」「していい」「しなきゃいけない」などを含めた。「名詞+になる」の形式は「名詞+なる」とし、「ヨーイドン+スル」などのサ変動詞のつく形式とともに、補語+述語として扱った。『話型2』では「～なる」のつく形式は目的語とは別にし、『話型2』での「補語」として扱っている。

独立語の部分は「うん」「はい」「そう」などの応答のことばとか、呼びかけ、感嘆の類で『話型2』にしたがっている。

『話型2』では、陳述的成分をTとし、この中には、陳述副詞の類、接続詞の類、評価的部分、提示的部分が含まれているが、ここでは陳述副詞は連用修飾語とし、接続詞はJに入れた。Jの中には、「あと」「ほかは」など、「その他」「次は」の意味をもつ場合のものも含めた。

連体修飾語(部)は『話型2』の場合は二次成分として、分析を一次成分の構成要素として扱い、とりたてて行なっていないが、この書では、主語、補語、述語などの成分の構成要素としながらもそれ自身の内部構造の分析を試みた。

いわゆる「学校(橋本)文法」で連用修飾語として扱っているものを、『話型2』ではA、Bの2類にわけ、A類として、目的語と補語、B類として連用語、状況語としている。この本では、A類を補語(部)のみとして、『話型2』の目的語と補語<sub>1</sub>をこれに含めている。そして細かくH<sub>1</sub>、H<sub>2</sub>、H<sub>3</sub>と分けた。Qは、補語<sub>2</sub>にほぼあたり「～と言う」「～と思う」などの対象になる部分である。直接話法の形式が入る。直接話法の部分の分析は行なわなかった。『話型2』の連用語と状況語は、連用修飾部で大きくくくり、その内部を時、原因・理由ほか、連用修飾語とした。

『話型2』では、主語、目的語、補語、述語からなる文を骨組み成分としているが、この本では、核文とし、連用修飾語、連体修飾語を含めたものを単位文とした。

複文については『話型2』では複合構文と付加構文と命名し、二種に分けているが、ここでは、接続助詞数一つと二つ以上に分け、それをまた、単位文がいくつあるかによって下位分類した。

題目語をたてたが、それと主語とのちがいが、述語の部分の主語の問題など、体系的にはまだ弱い点が多いが、今のところこの程度にして幼児の文構造をみていくことにする。

---

(注) 複合述語の例は、『話型2』(72ペ)にあがっている。

## 第2章 幼児の単文の構造と用法

### 2.1 幼児の文の種類

文構造の分析に入る前に、幼児はどのような種類の文を、このような問答形式の対話の場合に話すか調べてみる。調査者の問いに答えて、「ん」「うん」「そう」などと返答する応答文がある。調査者である質問者に逆に問いをなげかける疑問文がある。この形式としては、「文末の形式と用法」の章で述べるが、昇調「の」の形、「か」や「でしょ」の形などがある。（ここでは問答形式であるために疑問文は少ない。）それから命令文、これも文末形式のところで述べるが、他人のことばの引用の中にはあるが、他はほとんどない。感嘆文、これは「あ！」という叫びの用例その他にいくらか見られるがやはり少ない。会話文、これはかっこの中に入る他人の話の引用であるが、使われている。一番多いのは、ことがらや考えを述べる平叙文である。

平叙文としては、文を一度言い終え、そのあと不足の成分や、自分の考えを補足的につけ加える補足(倒置も)文がある。(付録2として幼児の使用した形式を述べる。)その他、原因や理由を述べるたとえば、両親を好きな理由として「ヤサシイカラ」というような理由文も多い。名詞+助詞「ボクモ」「ホンヲ」などという形式の省略文もある。(理由文も省略文の一種としてよいかもしれない。)省略文としては、一語文もそうだが、連体修飾語+名詞止「オトナノ バングミ」とか、並立の助詞で結ばれた形式「ホソイミチヤ ヒロイミチ」などがある。

その他、質問者が次の問を、まだ幼児が話し終わらないうちに発言したため、幼児の発話が中断してしまうとか、幼児が次に発言することばを忘れ、文が中断するという中断文もある。それから録音が不明瞭で、文意が聞きとれない意味不明文とか、話してはいても文脈が不整で、内容のわからない不整文もある。これらは非常に多い。

平叙文の中から中断文、意味不明文、不整文を除き、この章では単文の構造をみていくことにする。

### 2.2 文の認定

<sup>(注)</sup>  
どのようなものを文と認定するか、話しことばなので、分析をするわれわれが決めなければならない。カードになってしまえば、それから判断できるが、録音を文字化して句読点をつける場合には迷うものが多く困る。「問答形式」の場合は幼児が話し終えたら質問者がそれを引きとってまた別のことを聞くというので、大体見当もつくが、(それでも判断しかねるものもある)「自由の場」での会話は一語文が多く、全く判断できないときもあった。

判断の規準は、文末とするところに動詞の終止形とか終助詞があり、いくらかの間が認められたり、イントネーションもさがっており、(疑問形式はあがる。)声も消えかかっているというよ

---

(注) 『話しことばの文型(1)』(前出)には、「文の認定について」(42~83 ペ)という章があって、文として認めるもの、文として不完全とするものを決めている。しかし、ここではそれによらない。ともかく、幼児の話しことば全部をありのままに扱ってみることにしている。

うなことに大ざっぱにいうとなるが、それでも決めかねる場合があった。次のようである。

①「でしょ」で文が切れるかどうかの問題。

○シェナンドデショウ, アト オクサマハマジョデショウ, アト プロレスデショウ, ア, アト ケンドウシカミナイ。オトナノモンハ; (自長-b 男6:0-21)

○クマガネー ネズミノ トコ オイカケテ ドウロマデ キテネー ネズミガ ドウロニキ ドウロラ ワタル アノネー ノ ドウロ サーット トオッタデシヨ, デ, ネー ドクマモ トオッタデシヨ, ソシテネー ジロウシャガ キトラ パーント アタッチャッタノ。(自中-g 女5:0-13)

ここの「でしょ」では文は切れないようだ。この二児には、このような話しぐせがある。「と」や「て」で文をつなげてよい文である。

②文末か接続助詞かはっきりしない例。

「から」「けど」の類。また終助詞「ね」も。

○「ボクト イッシュニネ キョウソウ シナイカイ」ッテ ユツテネ ウサギハ ピョンピョン イッテルケドネ カメハ ノロノロ イツテネ マケタケドネ [。] ンートネ 「ユウガタマデ カカルダロ」ッテ ユツテ シトヤスミ シテネ カメガネ ヤマノ テッペンネー [。] ウント ウサギガ オキトラ ピョンピョンネ ヤマノ テッペンマデ イッタノ。(赤中-s 男5:6-16)

かぎかっこのところで文が切れていいかどうか。次のも「けど」が文末か接続助詞かに迷うもの。

○オトウトガ マダ ジガ ヨメナイカラネ ヨンデクレルケドネ [。] アタイハ モウ ジガ ヨメルノ。ダカラネ ヒトリデ ヨメルノ。(赤長-f 女5:9-13)

○ギュウニウ ノン ノンデネ ウ ヨルニ オフロ イクカラネ [。] 「モウ ネナサイ」ッテ ユツタカラ ウ ネルノ。(自長-i 男6:4-11)

「けど」と「から」は終助詞のように思える。次のは「ね」の例。「ウーン」という間があったりして終助詞のように思えるがどうか。

○ハジメ コウ キテネ ソレカラ コウ マガッテ, ソレカラ コッチニネ スグ ヤレバクミチャンチノ オウチダカラ スグネ [。] ウーン ジュンチャンチモネ イッシュニカイルカラ スーグ チカクナノ。〔道順の用例から〕(赤中-k 女5:3-10)

## 2.3 幼児の単文の構造

前にあげた平叙文の中から、幼児がどのような内部構造をもっている単文を使って、自分の言わんとすることを表現しているかを概観してみる。以下のように分けて章末に用例をあげた。

### 2.3-1 省略構文

2.3-2 述語構文 Z, HZ, RZ, QZ, YZ, ほか

2.3-3 主述構文 SZ, SHZ, SRZ, SQZ, SYZ, ほか

2.3-4 題目語をもつ構文  $\boxed{S} \frac{SZ}{Z}$

用例の記録にあたっては、「アノネ」「エート」「ウントネ」の間投詞は省いた。これらの間投詞

がどのように発話の中に含まれているかは第一部に引用してある幼児の話しことばでみていただきたい。文であるかどうかの認定の場合、間投詞が手がかりになったりして重要な意味をもっている場合もあるが、今度の調査研究では取りあげなかった。言いなおしのためのくりかえしの部分、ただのくりかえしの部分や言いさしは~~~~であらわした。また、下線のひいてある部分ここでは内部構造を分析しないでおくというしるしである。連体修飾部、複合述語、会話などが入っている。用例は多数の幼児が使用している構造については全部をあげていない。また、単純な文構造の例をあげるようにした。このような構造をどのくらい幼児が用いているかをみるために横に数字をあげておいた。数字をあげた幼児は、年長と年中は同一幼児のもの、年少は神谷、小川の園児である。●は、他の幼児から補充したもので(補助資料と呼ぶ)、数字に含まれていない。一幼児が話した文数を参考までにあげると、平均では、年長88文、年中64文、年少106文である。文の中での文節数の割合は、年長4.4文節、年中3.6文節、年少2.8文節で、あたりまえのことであるが年少が最も短い文で話しているのである。(付1参照)

備考には、きづいたことを述べた。また、あげた用例には、どういう幼児が使ったかもわかるようにした。特に使用数の少ない構造は、用例を全部あげたので、どういう幼児が用いているかわかる。

章末の用例から言える単文の構造について概略まとめてみると以下のようになる。

### 2.3-1 省略構文

体言一語からなる文(一語文)は、年長、年中、年少を問わず多いが、中でも年少児に多い。副詞一語からなる文もここに入れた。

連体修飾語+体言止の構造も年少児に多い。体言+助詞止、なかでも格助詞止の形式は年長に多く、体言が連体修飾語で修飾されている場合の格助詞止の形式は年少児にはなかった。

並立的に体言を助詞「と」「とか」「や」で並べる構文を幼児はよく使う。(前にも述べたが質問にもよるだろう。)また、「それだけ」という形式で、並立的に並べた語をまとめたりすることもできる。(ここにあげた構文を全部省略構文と見るには問題があるかもしれないが、一応そのように考えた。)

### 2.3-2 述語構文

これにはいろいろの構文があるが、述語だけからなる文をみると、動詞述語文が一番多く、ついで形容詞(形容動詞も含む)述語文、名詞述語文となっている。年少児には述語だけの構文が多い。短い文で話しているわけで、体言一語文、述語一語文が多いのはもっともなことである。述語文の中には述語一語から成立しているものと、その述語に連体修飾語のつく構文、述語が並立関係をもつものなどがある。年齢を問わず少ないが、年少には少ない。以下に述語の部分の体言止、活用形止の区別なしに、述語構文のさまざまな形式をみていくことにする。

独立語+述語の構文のうち、独立語の中には間投詞の類、呼びかけ、応答その他を含む。以後の用例からは省いてある。<sup>(注)</sup>

接続詞+述語の構文では、接続詞およびそれに準ずる文脈導入的部分をもつ構文である。以後、

---

(注) +の印であるが、こういう順序に並んでいるという意味で深い意味はない。以下同じ。

接続詞の部分は独立語と同様に用例から省く。構文として取りあげないことには問題が残るが、接続詞のついた文については第6章で分析するので、単文の構造からは省いた。

補語＋述語の構文では、補語を、 $H_1H_2H_3$ に分け、 $H_1$ には具体的なものや抽象的なことからのうち、「なに」(what)にあたる意味のものを入れた。 $H_2$ は「だれ」(who)にあたる人間、動物、テレビ漫画の主人公が含まれる。 $H_3$ は位置とか場所を示す「どこ」(where)をあらわしている。(この中にも具体的な場所のみでなく抽象的な場所も入れた。)  $H_2$ はともかく、 $H_1H_3$ は、非常に目の荒い大ざっぱなくくりかたで問題が残る。たとえば『話型2』の「補語<sub>1</sub>」をここに含めたこととか、(その一部は文末形式のところで多少分析するが。) 厳密に発達をみる場合はHに含まれる語彙の語彙的発達もみる必要がある。補語についての細かい研究は今後の課題にしたい。連体修飾語の内部構造については第4章に詳しいが、ここでは修飾語は被修飾語の一部とみなして下線をつけ、分析の対象にしていないが、そのようなくみあわせは取り出して数を調べた。補語<sub>1</sub>の「を」のつく構造が年齢に関係なく多い。その他、時、場所の修飾もわりにみられる。形式名詞「とき」「ところ」の修飾である。主語、述語の部分の修飾は少ない。

$H_1$ ＋述語の構文の中には、時枝誠記説の対象語も入っているが助詞では、「を」をもつ構造が一番多い。しかも「を」の助詞が零の形式が多い。特に年少児に多いのが特色である。連体修飾語をもつ $H_1$ ＋助詞「を」零の形式は前に述べたが年齢に関係なく多い。幼児の使うことばや構造の特色については章末の用例の備考のところでも述べているので参照されたい。助詞使用の省略や誤まりの例もあげておいた。話しことばなので、ただの話しあやまりという場合もあろうが、幼児にとっては、助詞をはっきりと認識して使うことがむずかしいようである。助詞が脱落しているため意味が通じなくなる場合もある。助詞が二つ重なる「でも」「にも」を「も」の助詞<sup>(注)</sup>だけで表現しているのに気づいた。また、助詞を正しく使えないとはいっても、そこに何かがあるという自覚はあるのであろう。「オトナノニ ワカンナイ」とか「ウミニ イッタヨ」と長音にのぼしたり、間投助詞の「ね」とか「さ」をはさむ例がみられた。

$H_2$ ＋述語の構文では、助詞「に」「と」のつく形式が多い。「と」のつく形式は $H_1$ にはみられなかった。

$H_3$ ＋述語の構文では、助詞は、「に」と「で」のつく形式が多かった。ここにあげた「で」に「は」のついたとりたては述語の部分が体言止か助詞止になっている省略文である。ここまでに使われた補語につく助詞を表にしておく。(「名詞の格の用法」として高橋太郎が研究を開始しているので、詳細はそれにゆずる) この表を見ると、助詞「を」をつけない形式が $H_1$ が一番多く、ついで「に」のつかない形式が $H_3$ で多い。ともになくても意味が通じる助詞である。

これらHの部分が節からなる連体修飾語をもっている、つまり補語でなくそこが部(補語部)

---

(注) 外国語にもある。Menyuk 160 べ 平叙文は次の矢印の順序で発達していくという。

That box→That's box→That's a box

Big boat→That big boat→That's a big boat

Rick go→Rick going→Rick is going

すなわち、おとしやすい語はbe動詞、助動詞、動詞叙法のcan, do, will, 冠詞(a), 語形変化(現在分詞のおしまいの部分)などであるようだ。

補語一つにつく助詞の種類と使用数

構文の型	年齢				構文の型	年齢				
	助詞	年長	年中	年少		助詞	年長	年中	年少	
H <sub>1</sub> Z	が	18	14	12	H <sub>2</sub> Z	(を)	1	2	2	
	(が)	6	4	1		に	9	13	8	
	は	6	11	5		(に)	1			
	(は)	4	1	1		にも		1		
	も	8	6	13		と	7	5	5	
	を	11	4	4		から			1	
	(を)	86	84	88	H <sub>3</sub> Z	が	2	1	4	
	に	7	7	5		を		2	1	
	(に)	8	4	7		(を)	1	5	5	
	にも		1			に	12	7	15	
	で	18	14	13		(に)	6	15	16	
	でも	1	1			にも	2		3	
	では	1				へ	2		3	
	まで	3				で	11	9	8	
	だって			1		(で)			2	
	その他	8	19	11		でも	1	5	1	
	H <sub>2</sub> Z	が	3	2		1	まで	2		2
		(が)	4	1		1	から	2	4	3
		も				1	までしか		1	
を				2						

(かっこのものは、その助詞が脱落しているもの。)

をなしている構文も年長にはある。たとえば次のような構文である。(「連体修飾語の形式と用法」参照)

○ソイデ オクジョウデ アソンデネ、ソイデ ジュウエン イレルト シタガ ミエル ボウエンキョウ ミタノ。(自長-e 男6:1-5)

○ポパイガネ ホウレンソウ タベテネ、ヤツツケル トコガ オモシロイ。(赤長-l 女5:9-20)

Hを二つもつ構文はH<sub>3</sub>とH<sub>1</sub>の組んだものとH<sub>1</sub>とH<sub>1</sub>, H<sub>1</sub>とH<sub>2</sub>, H<sub>2</sub>とH<sub>3</sub>, H<sub>3</sub>とH<sub>3</sub>の組み合わせの構文が使われている。

Hを三つもつ構文もあるが意味のはっきりしないものもあつたりして少ない。

R(連用修飾語)がついて、述語文を拡大する文について述べると、いわゆる程度とか情態をあらわす副詞がつく構文が一番多い。音まね語もよく使う。ついで名詞+助詞の形式とか数詞で、陳述副詞のつく構文は、年長が年中、年少に比べるとよく使っているという程度。陳述副詞にも色々あるので、陳述副詞は、幼児にとってむずかしい表現ということは一概に言えない。Rが二つ以上つく形式は少ない。

HZの構文に連用修飾語Rのつく形式ではHRZとRHZの構文をよく使う。その他は少ないがHやRがその上加わった構文RHHZとかHRRZなどもある。

T(時)+述語の構文。これは述語文を時で限定する構文であるが、年長、年中、年少ともよく使う。特に年長が多い。HZ文をTで拡大したTHZ、HTZの構文もよく使っている。HがH<sub>3</sub>の構文をわりに使っている。特にTを最初にもってくる構文が多い。その他RがついてTRZとなる構文、HのつくTHRZ、RTHZの構文など変った種類も使っているが使用数は少ない。

Tの部分が一語、たとえば「ヨル」「キノウ」などを使っての構文もあるが、形式名詞「とき」を連体修飾語で限定した複雑な構文もよく使う。たとえば、「ニチヨウビン トキ」から「ハジメキタ ヒニネ カワニ イッタ トキ」というふうに関連修飾語の部分が節になったり、ここでは用例がないが節の部分が複文構造の場合もありうる。

Q+述語の構文は、Qには、他人の話をそのまま引用して、述語の部分が「と言う」になる直接話法や、心の中で思っていることを述べ、述語が「と思う」の形式になる構文などを含めたがQの内部構造については取りあげなかった。

Y+述語の構文は、Yの部分が述語の理由や原因等を述べているもので、つまり、どっかにいく目的、たいへんな理由などである。YZ構文は少なかった。幼児は「ヤサシイカラ」という文を、「ママが スキ」と述べたあとに、補足するような形式で使ったり、質問者が「どうして好きなのか」と聞いたときの返事として、このような構文を使う。これは一応一括して理由文とした。幼児の場合、複文構造でも、理由などを述べる構文が少なかったが(「複文の構造と用法」参照)、接続助詞「から」「けど」などが文末にくる理由文を使用しているからだろう。

### 2.3-3 主述構文

助詞「が」が主語につく動詞文を一番よく使っている。その次は強調の意をもつ「は」「も」の形式で、この構文は年少児がよく使っている。いわゆる総主文をSZ構文のあとに入れたが、問題が残ろう。用例が少ない。

主語+補語+述語の構文もよく使う。語順が補語+主語+述語となっている構文もそれについて使う。後者のように前にくる補語は、場所を示す名詞が多い。「には」の意味で文のはじめにくる構造も使っている。助詞の整っているものとそうでないものがある。

補語を二つもつ構文もあるが少なくなる。H<sub>3</sub>とH<sub>1</sub>をもつ構文が中ではよく使われる。

連用修飾語をつけて主述文を拡大した構文ではSRZの構文をよく使う。述語構文のところでは述べたのと同じで、程度、情態の副詞を使う構文が多い。語順がRSZになる構文は少ない。Rが二つ重なる構文はほとんど使っていない。

SHZの構文に連用修飾語のつく構文は6つのちがった語順全部を使っているが用例は多くない。Sが最初に来て、R、Hが交替した構文が、中ではよく使われている。HやRが二つにふえた構文もあるが少ない。

時で、主述構文が拡大された形式は、T(時)がSより前、文頭にあるTSZの構文をよく使う。

SHZをTで拡大した構文は、四つの語順の形式の構文を使っている。その他Hが二つあったり、Tを二つもつ構文などもあるが、数が少ない。TSHHHZという構文を年長の一児(赤長w男)が使用していた。

主述構文を時と連用修飾語で広げた形式や、主+補+述の構文を、時と連用修飾語で広げた構文も使っているが非常に少ない。

Qの入っている構文では主述にQの入っている構文が多い。その他RとかTの入る構文は少ないが、TSHQZの構文を年少の三男が使っていた。

SYZの構文も見られるが少ない。これについては述語構文のところで述べた。

章末の使用例をあげる順序は、主述構文ではSZ, SHZ, SRHZ, TSRHZ, TSRHYZという構文が拡大していく方法でなく、SZ, SRZ, STZ, QSZ, SYZと、まずちがった種類に分類して、その中での構文拡大という形式をとっている。

### 2.3-4 題目語をもつ構文

この構文は絵の説明をするとき、あるいはテレビのお話をする時に、最初に「これは」とか「～の話は」というふうにもってくる構文で、述語のところが、「～のところだ」の略された「とこ」などを文末にもっている。題目語⑤のほかにZ文の中に主語をもつ構文である。この中には題目語の略された構文と、Z文の主語の略された構文がある。年齢を問わず用いているが、使用例は少ない。大部分の幼児が、日常会話では使っていない構文のようである。

## 2.4 まとめ

幼児の単文の構造でいえることは、順次述べてきたことにつぎが、全体に、簡単な構文を使って用をたしている。一語文が多かったり、述語だけの述語構文が多かったり、補語のつく形式も補語一つ、連用修飾語で広げた構文も、それが一つ、時、理由などで拡大した構文もそれが一つというような実態である。使用数の多い構文の型を参考までにあげると次表のようになる。

構文の型	年齢		
	年 長	年 中	年 少
一語文	322	312	428
Z	312	220	400
H <sub>1</sub> Z	187	171	166
SZ	148	137	209
SHZ	89	57	65
RZ	72	42	63
H <sub>3</sub> Z	44	50	65
SRZ	35	19	46
HRZ	32	20	20
HHZ	28	16	29
H <sub>2</sub> Z	25	24	21
TZ	31	17	15
THZ	22	26	11
QZ	18	9	30

年少が年長や年中より多い構文は、一語文、述語だけからなる構文、主語述語からなる構文などで、一文節や二文節からなる単純な構文である。連体修飾語をもつ構文は少ないのである。(複文のところでも述べるが、年中に多い構文は接続助詞一つからなる構造で、年長が多く使用するのは、四文や五文からなる接続助詞二つ以上からなる構造であることは興味深い)

用例をみながら気づくことだが、構文の型が複雑に発達していくとともに、助詞のまちがった使用、幼稚な語彙使用、その他、動詞の使いまちがいなどが少なくなっている。どのような例があるかは注釈をつけたり、備考欄でも述べたが、以下に拾ってみる。ここでは語彙関係のものを主としてあげる。述語の部分は「文末の形式と用法」のところであげる。

1) 語彙使用の未熟さ (ことばたらずの例なども)

○チ(ス)タイル チテンノ。(神少-古男4:5-2)

父親の仕事の説明。洋服メーカー「東京スタイル」の仕事をしているということらしい。

○ニジュウ クレルカラ。(神少-高男4:4-1)

こづかいとして20円くれるから父親が好きだの意。「から」文末の理由文でもある。

○ハナ(花)ガ チャント ウエニ ナッテンノ。(神少-寺男4:4-18)

「上に向いた」とか、「元気になった」とかとなるべきところ。

○ジドウチャワタリヲネ ヒトチュ ワタッテ イクノ。(神少-古男4:5-10)

横断歩道のこと。

○オチュカイノ トコ トオッテ イク。(神少-坂女4:0-6)

「お使いに行く場所」あるいは「お使いに行くとき通る道」の意である。ことばたらずの文である。

○シロバイニ ナリタイ。(神中-規男4:6-7)

「白バイのおまわりさん」とかいうべきところ。

○ドライブ イクノ。(小中-篠男5:1-13)

「ドライブするの」であろう。

○コノ コウイウ ハネネ。(自中-t男5:3-12)

赤い羽根と言えないで、品物を指示したり、このような表現で代用する。「こういう」という表現は多い。

○タイオンケエ ハカッタノ。(自長-d女5:11-9)

体温をはかったのか、体温計ではかったのかわからない。助詞欠如でより一層わからなくしている。

○ウサギト カメガ ヤママデ ヨーイドン シタノ。(赤長-v男6:1-11)

競走(かけっこ)のことをこのように表現している。

2) 副詞のまちがった使用

○ナルベクネ オハナシ シテ クレナイケドネ チーット オハナシ シテ クレル。(神中-遠男5:1-23)

○ダッテ ナゲテモ ナゲテモ ゼンゼン ホームラン アタッチャウダモン。(赤長-e男5:10-7)

○アンマリモ タノシク ナカッタ。(赤長-g男5:10-4)

○チョット ミタコトハ ナイ。(赤長-h女6:6-2)

前者は「も」が不要、後者は「も」が必要のもの。

3) 反対語をまちがえる。

① ある $\longleftrightarrow$ いる 生物は大体「いる」を使う。

○ヨウチエンニ アル トリナンカ。(神中-遠男5:1-11)

○ソコニネ オオキナ オオキナ クマガ アッタノ。(赤長-u女5:11-4)

② いく $\longleftrightarrow$ くる

○カオ アラッテネ ゴハン タベテ ホイクエンニ クルノ。(神中一松女4:8-5)

○シゴトナンカネ チュクッタラ チゴトナンカネ カエチニ イッテネ マタネ アタラ  
チーネ チゴトヲネ モラッテ イクノ。(神少一古男4:5-30)

③ あげる↔くれる↔もらう

○ミーチャン ヒロチャンカラネ ツルノネ……オシエテ クレタカラ ダカラ テキンノ。  
(小少一矢女4:0-10)

「教えてもらった」の意。

○オカアサンノ コトヲ テツダッテ クレタリネ オカアサンノ コトニネ ナンカ アゲ  
タリ スル コト。(神中一松女4:8-4)

ほめられるときはどういう時かと聞いた返答。「あげる」の意。

全く、使えない場合もある。

○ママニ、カッタノ。(小中一山崎男4:11-7)

「買ってもらった」の意で言う。

幼児の単文構造の使用例

2.3-1 省略構文

\* = 注: △ = 助詞なし文の意 × = 助詞の誤用の文 ● = 補助資料 ~ = 言いさし・くりかえし ~ = 省略 ... = 間

年齢別 文構造	用				例				備考
	用例数	年長 (赤羽・自由)	用例数	年中 (赤羽・自由)	用例数	年少 (神谷・小川)	用例数	備考	
1 (Z) 文	322	○アトム。(自-e女5:7-14) ○ゴサイ。(自-s男5:9-1)	312	●ボールナゲ。(赤-1男4:8-5)(注) ●ヨッツ。(赤-e女4:9-1)	428	○ジドウシヤ。(神-鈴男3:6-4)	1	一語文。 体言や副詞 からなる。	
	6	○チヨット。(赤-u男6:5-3) ○ドシテモ。(赤-m男5:10-1)	17	○ドシテモ。(赤-j女4:7-7) ○タマニ。(自-e女4:8-10)	14	○マダ。(小-岸男3:11-8) ○ドシテモ。(小-千女4:2-8)	14	○コッチモ。(神-高男4:4-2) ○ヨッチュマテ。(神-坂女4:0-5)	
	45	○ライオンガ。(自-t男6:2-26) ○オアソビハンカ。(赤-t男6:0-6)	30	○オトウサント。(自-1男5:1-1) ○マンガダケ。(自-g女5:0-8)	14	○コッチモ。(神-高男4:4-2) ○ヨッチュマテ。(神-坂女4:0-5)	134	体言+助詞 止 (注)年中に は年長にあ がらず転出 した幼児の 用例が多い。	
Rt (Z)	79	○オトナノ バングミ。(自-f女5: 8-8)	92	○オッキイ ツミキ。(自-s男4:10 -8)	134	○ヨシコチャンテ イウコ。(小 -千女4:2-3) ○ヘビトカ カイジュウノ ユメ。 (神-寺男4:4-14)	75	○ケープルカート ローブウエー。 (小-福男4:2-5) ○アブナイ ハナヒトネ アブナク ナイ ハナビ。(神-秋男3:11-5)	
* 下線の部分 は一成分と みなす。 以下同じ	3	○スキップシタリネ アソングリ ズル トコ。(自-e女5:7-10) ○カブトムシト クワガタ トッタ コトガ。(自-p男5:6-4)	4	○イジワル シナイ トキ。(自-p 男4:7-3) ○ニジュウサンテ カイテ アル トコガ。(赤-t男5:1-8)	86	○アトムトカ テツジン。(赤-v男 5:1-6) ○イストネー ソレカラネー ウチ ノ オネエサント ソレカラ ネー オトウサント オカアサン ト。(自-d女4:11-2)			
並立関係のも の	76	○シズオカノネー イズミチャント ケンチャントー シズオカノ オ バチヤント アタシトネー アサ ブノ ヒト。(自-h女5:7-10) ○シヨウネンジュットカネ シンド バッドノ ボウケンカネ ノッポ ノ ココッテ イウノトカ。(自 -d女5:11-22)							

○カケッコトネ ネ ツナヒキトネ 男6:4-5)	○カケッコトネ スズワリト (レ)ダケ。(赤-w男5:3-3)	○カケッコトネ ママト -三男4:0-2)	並立関係を まとめてい う言い方も ある。
○カケッコトネ カンガルリレエ ツナヒキトネ ソレダケ。(赤-d 男6:4-5)	○カケッコトネ スズワリト (レ)ダケ。(赤-w男5:3-3)	○カケッコトネ ママト -三男4:0-2)	並立関係を まとめてい う言い方も ある。

### 2.3-2 述語構文

年齢別 用例 文構造	用 例				用 例 数	備 考
	年 長 (赤羽・自由)	年 中 (赤羽・自由)	年 少 (袖谷・小川)			
2・1 Z文	○ミル。(赤-o女6:1-15) ○ウレシイ。(自-o男6:3-12) ○ヨントウダッタ。(赤-m男5:10-5) ○コマルトキモアッタ。(自-d女5:11-17)	●オボエテル。(赤-i女5:3-6) ○シロ-イ。(自-f女4:9-12) ○ゴサイデス。(赤-c男5:3-1) ○キイタコトアルモン。(自-k男4:8-20)	○ハタライテンノ。(小-福男4:2-2) ○ナガイノ。(小-長男3:5-3) ○ウエナノ。(神-折女4:3-9) ○イッタコトアルヨ。(神-宮男3:8-4)	400	動詞述語文 形容詞述語 文 名詞述語文 複合述語と 考える。 以下同じ	
Rt Z *連体修飾語 の内部構造 の分析は第 4章参照 並立関係のも の	○イナカノオハナシダッタヨ。(自-k男5:8-15) ○プ-ルモアルトコロダモン。 (自-v男5:7-5)	○ジドウシャノホンジャナイモン。(自-s男4:10-20) ●シヨウテンガイノネウエナノ。 (赤-q女5:2-9)	○コッチノウシロガワノネホウナノ。(神-折女4:3-8) ○イイコト(とこ)ダッタ。(小-原女3:7-3)	4	( )の中が 正しい言い 方。 (注) これも並立 関係であけ たものをま とめる言い 方。	
5	○テツジントネ(シユ)ハバ-ジェツ ターノダヨ。(自-b男6:0-17)	●ネズミトクマサンダ。(赤-e女 4:9-14)		2		
2	○オニゴッコトカソウイウノ。(赤 -m男5:10-7) (注)	○テツボウトカソウイウノ。(自 -u女5:5-6)		1		
2	○アソングリ(スル)。(赤-h女6:4 -5)					
13	○ウウン、イカナイ。(自-e女5:7 -9)	○サア-ネ-ワカンナイ。(赤-p 女5:2-4)	○イヤ、カミヤホイクエンダ。(神 -三男4:0-15)	15		

<p>後特別にとりあげない</p> <p>JZ</p> <p>* 接尾詞は以後特別にとりあげない (第6章参照)</p>	<p>40</p> <p>○ソウダナ、イッチャッタダ。(赤-m男5:10-21)</p> <p>○デサー ネチャッタ。(赤-w男6:3-18)</p> <p>○ソイデ マガンノ。(自-l男6:0-14)</p>	<p>26</p> <p>○アッ! チカクジャナイ。(自-b男5:1-7)</p> <p>○ソイデネ ワルモノジャナイヨ。(自-t男5:3-17)</p> <p>●ダカラネー キツ(イ)ノネー。(赤-l男4:8-17)</p>	<p>41</p> <p>○ウン、ママ。(小-矢女4:0-2)</p> <p>○チガウ、アカチャンノ トキダ。(神-高男4:4-10)</p> <p>○ソシタラ タオレチャッタノ。(神-佐女3:7-12)</p> <p>○ダツテ ウレシインダモン。(神-粹男3:7-1)</p>
<p>12</p> <p>○アトハ、ワスレチャッタ。(赤-o女6:1-24)</p> <p>○ホカニハ ソラン。(自-i男6:4-9)</p>	<p>18</p> <p>●アトネー ハナト クチ。(自-q男5:4-2)</p> <p>○ホカニ パピー ミル。(赤-w男5:3-7)</p>	<p>10</p> <p>○アト ペンギン。(神-宮男3:8-4)</p> <p>○ホカ(ハ) ツミキ。(神-玉男4:0-3)</p>	<p>(注) 接尾詞に準じるものとした。</p>
<p>が 2</p> <p>2・2 H<sub>1</sub> Z</p> <p>H<sub>1</sub>=もの、こと、抽象語。</p> <p>何(What)にあたる補語 1。</p>	<p>14</p> <p>○オソトノ ホウガ タノシイ。(赤-m男4:10-3)</p> <p>○ジ ヨメナイノ。(自-v男4:7-8)</p> <p>○ムシ シュキ。(自-t男5:3-25)</p>	<p>12</p> <p>○オママゴトガ オモシロカッタ。(小-矢女4:0-4)</p> <p>○ゴハン スキナノ。(小-矢女4:0-9)</p>	<p>(注) いわゆる対象語「カラダがオッキイ」などもこの中に含めてある。 △印は助詞なし文の例。助詞なし文には意味のわからないものもある。</p>
<p>△2</p> <p>○ムシノ カンサツ テキルヨ。(赤-m男5:10-8)</p> <p>△4</p> <p>○ウタトカ ソウイウ モノスキ。(赤-p女6:2-9)</p>	<p>8</p> <p>○ママノ ミル モンハ ワカンナイ。(赤-x女5:2-7)</p>	<p>5</p> <p>○ヨムノハネー デキナイ。(神-高男4:4-18)</p>	<p>5</p>
<p>は 6</p> <p>○ゼンブハ オボエテマセン。(赤-s男6:6-14)</p>	<p>△1</p>	<p>△1</p>	<p>5</p>

△4	○オトナノー 女6:5-11)	ワカンナイ。(自-u)	○ドウシテッテネー ハ オコン コワイノ。(自-t 男 5:3-7)	△1	○コレ ワカンナイ。(小-原女3:7 -19)	「オトナノ 二」と、助詞
も 8	○ソレモ シラナイ。(自-b 男6:0 -19)		○コレ ミタ コト ナイネ。(赤 -t 男5:1-14)	13	○コレモ ワカンナイ。(小-原女3: 7-21)	のつくところ ろを長音に している。
を 10	○ジドウシヤヲ ツクッテルノ。 (赤-t 男6:0-2)		○ナンニモ「〜かも」の意]ワスレ チャッタ。(赤-m 男4:10-7)	4	○オミジュヲ アゲテンノ。(神-宮 男3:8-11)	×印は助詞 の誤用。
1	○アマガエルガ イッパイ イタ コトヲ オボエテル。(赤-w 男6: 3-8)		○タマヲ ナゲルノ。(赤-c 男5:3 -3)	△82	○オウチ ツクッテンノ。(小-佐男 4:3-24)	△多し
△55	○オカネ タメテンノ。(自-p 男5: 6-1)		○オシゴト シテンノ。(赤-x 女5: 2-2)	△6	○ウルトラセアベンヤネ ウルトラマ ンヤネ ジャイアントロポヤネ ミタノ。(神-鈴男3:6-8)	
△31	○ウサギトネ オニワノネ ウラニ ネ サイテ アルネ アノ ダリ ヤ カイタノ。(自-d 女5:11-13)		○テツジンノ ゴホントカネ ビッ クエックスノ ゴホントカネ ア トムノ ゴホントカネ ソ(ウ) イウ ゴホン ヨンデ クレル。 (赤-t 男5:1-11)	×2	○オマツリーデ[を] ミテ クル ノ。(神-場男3:10-8)	
に 6	○ホンニ カイテ アル。(赤-c 男 6:3-18)		●テレビニ デンノ。(赤-b 男5:6 -13)	4	○コレタケモ[を] ミテルノ。(神 -鈴男3:6-8)	「〜ニ ナ ル」の場合
1	○モトノ オハナン ナッタノ。(赤 -d 男6:4-19)		○ソイデネ チガウ オハナン ナッチャッタノ。(赤-v 男5:1-9)	1	○オオキイ サンリンシヤ(ン) タイ。(小-矢女4:10-6)	「に」を「ん」 と発音する。

△8	○サンボ イッタ。(自-h女5:7-6)	△4	○ロゲット ノッタノ。(自-p男4:7-6)	△7	○ジテンシヤ ノリタイヨム。(小-新男3:10-6)
にも×	● <u>シャ(さ)ンボヅモ(にも) チュレテッテ クレタ。</u> (自-z男5:8-4)	1	○ゾウノ オスベリニモ ノッタンダヨ。(赤-f女4:10-9)	×1	○テレビヅ <u>(に)</u> デルノ。(神-新女4:2-7)
で18	○ボールテ アソブ。(赤-c男6:3-7)	14	○テレビテ キイタ コト アル。(赤-m男4:10-9)	13	○オモチャテ アソンダノ。(神-玉男4:0-2)
×1	○タイオンケエ(で) ハカッタノ。(体温をか)(自-d女5:11-9)	×	● <u>オスベリダイ上(で)</u> アソブ。(小-小林男4:3-5)	×1	○ナンカ[ <u>でor</u> をして]アソブノ。(小-新男3:10-4)
でも1	○ナンテモ <u>カッテ</u> クレル。(自-t男6:2-1)	1	○ママノ <u>ミル モンテモ</u> ミル。(赤-x女5:2-7)		
×1	○エーゴモ(でも) カゾエラレル。(赤-c男6:3-15)		● <u>オニンギョウモ(でも)</u> アソブノ。(小-清女4:8-4)		
では1	○ホンデハ、ワカルケド。(自-d女5:11-11)				
まで3	○ヒヤクマテ カゾエラレル。(赤-o女6:1-13)				
だって1				1	○オウチダッテ モチアゲゲチャウヨ。(神-高男4:4-13)
その他8	○ナンカ <u>センセイノネ イウ</u> コトヤナンカ <u>キクノ</u> 。(赤-h女6:4-6)	19	○ビックエックスナンカ ミテルヨ。(赤-a男4:11-7)	11	○ナニカネ オヨウフクナンカ <u>ソクッテンノ</u> 。(神-大男3:11-1)
	○オカアサンゴッコトカ ヤル。(赤-o女6:1-9)		○タイソウトカ シタ。(赤-s男5:6-3)		○オウチゴッコトカ シテンノ。(小-相男4:4-4)
	○オシゴトバツカシ シテルノ。(赤-x女6:2-3)		○イジフル オネエサンヤ イジワル オカアサンノ <u>オシゴトバカリ</u> <u>リ</u> <u>サセテ</u> <u>イラレマシタ</u> 。(赤-p女5:2-10)		○ホンダケ ヨム。(神-大男3:11-9)
	○デモ <u>タダ</u> <u>センソウツテ</u> <u>イウ</u> <u>ノシカ</u> <u>オボエテナイヨ</u> 。(赤-m男5:10-16)		○ソレシカ <u>シツテ</u> <u>ナイノ</u> 。(自-r女4:18-15)		
	○キユウチャンナラ オボエテル。		○テツジンノ <u>ッキリ</u> <u>ヨメナイケド</u>		

「でも」使えないのか。

副助詞(修助詞)のついでに用いている形式。

	(自-g 女5:11-19)		<p>ネ。(赤-t 男5:1-11)</p> <p>○ヨウチエンノ タノシイネ ホンヤ ラ アトネ ドウブツノ ホンヤ ヲ ヨンダノ。(赤-k 女5:3-10)</p> <p>●アア! ソレナラネ シツテ イル。(小-海男4:3-16)</p>				
2.3 H <sub>2</sub> Z	<p>が 3</p> <p>△4</p> <p>も</p> <p>を△1</p>	<p>○オニイチャンガ スキ。(自-b 男 6:0-5)</p> <p>○アカチャントネ オカアサン ス キ。(自-g 女5:11-2)</p> <p>○マジヨノ コドモ ウンジャツテ ンノ。(自-b 男6:0-25)</p>	<p>2</p> <p>△1</p> <p>△2</p> <p>13</p>	<p>○オネエサンガ スキ。(赤-r 女4: 10-1)</p> <p>○ミーンナ スキ。(赤-a 男4:11 -1)</p> <p>○ダレカノ ゴト(注)[だれかを]ミ ツケテンノ。(自-p 男4:7-16)</p> <p>○ピアノノ センセエニ ナリタイ ノ。(赤-h 女5:4-4)</p>	<p>1</p> <p>5</p>	<p>○オニイチャンガ スキ。(神-三男 4:0-3)</p> <p>○オカアサン スキ。(神-古男4: 5-1)</p> <p>○ボクモ ボクモ チュレテッテ クレル。(神-高男4:4-12)</p> <p>○ネズミヲ タベヨウト シテル。 (神-坂女4:0-8)</p> <p>○ダツテー フルイモン ヤツチュ ケルンダモン。(小-金男4:1-6)</p> <p>○オネエチャンニネー アヤ[ら]ッ テ モラッタノ。(神-狗女4:3-8)</p>	<p>~~~~は言い さしの印。 (注)こうい う表現をよ く使う。(第 4章参照)</p>
に	<p>4</p> <p>3</p> <p>△1</p> <p>にも</p> <p>には</p> <p>と</p> <p>から</p>	<p>○カミサマニ オコラレタノ。(赤 -u 男6:5-13)</p> <p>○アラケンシユタイン サンノ。 (自-i 男6:4-14)</p> <p>○ジドウシヤノ ウンテンシユサン ナリタイ。(自-v 男5:7-12)</p> <p>○ヒョウト タタカッタノ。(赤-u 男6:5-9)</p> <p>○オカアサンカラネ キイタ コト アル。(赤-f 男6:3-14)</p>	<p>1</p> <p>5</p>	<p>○ダレニモ オゴ[こ]ランナイ。(自 -p 男4:7-3)</p> <p>●ボクタチニヤ[には] シテクレナ イ。(神-伊男4:1-11)</p> <p>○ノリコト アソブノ。(赤-s 男5: 6-4)</p>	<p>5</p> <p>1</p>	<p>○オバアチャント アソブ。(小-神 女4:1-5)</p> <p>○イチバン チイチャイ ヤギカラ イキマシタ。(神-坂女4:0-9) [物</p>	<p>「にや」はな まり。</p>

より				語)		
2・4 H <sub>3</sub> Z H <sub>3</sub> =場所 とか場面 (Where)。	が2	○ソコガ(注)オモシロイノ。(自-g 女5:11-13)	1	◎カイズェウヨリ ツヨイ。(小-藤 男4:9-13)	4	○テンシヨウラン イナカノ (フ) クシマケンノ イナカノ ホウガ イイナ-。(神-富男3:8-5)
	を	○オニカイノ トコニ ネタノ。(自 -m男6:4-5)	2	◎ソイカラ ジドウシヤノ アル トコヲネ フタル。(赤-b男5:6 -6)	1	○ドウロヲ フタツテ イクノ。(小 -矢女4:0-7)
	△1	サカミチ ノポツテ (クルノ)。(自 -h女5:7-7)	△4	○ソラ(注)トベル。(赤-u男5:6-4)	△5	○オチユカイノ トコ トオツテ イク。(お使いに行くときとおる 道) (神-坂女4:0-6)
	△	◎ソコー ハイイルノ。(赤-g男5:10 -7)	△1	○コボシテル トコネー トン ジャツタノ。(自-u女5:5-14)		
	に12	○オニカイノ トコニ ネタノ。(自 -m男6:4-5)	7	◎ハイシヤニ イッタ。(赤-b男5: 6-3)	15	○ソウシテ ウチニ カエッタノ。 (小-新男3:10-9)
	△6	○イナカ イッタノ。(自-k男5:8 -3)	△15	○ソウシタラネ アナン ナカ ハ イレタンダヨネ。(自-j女4:7 -17)	△16	○トオイ トコ イカナカッタ。(神 -三男4:0-7)
	にも2	○ドコニモ イカナカッタ。(自-g 女5:11-2)		◎ドウブツエンモネー(にも) イッ タノ。(神-規男4:6-30)	×1	○ヤマヲ(に) ノポツテッタノ。(神 -狗女4:3-17)
	には ×1	○ビーグミノ ウエハネ(うえには orでは)ネナカッタノ。(自-d女 5:11-8)	×		3	○コツチニモ デキテンノ。(小-竹 男4:1-10)
	へ2	○イナカヘ イッタノ。(赤-x女6: 2-5)			×1	○ドコモ(にも) イカナイノ。(小-佐 男4:3-3)
	へも			◎ドッカヘ イク。(小-光女5:1-4)	3	○ヤマヘ イツチャッタノ。(神-勝 男3:7-9)
				◎ドコモモ イカナカッタ。(神-野 女4:6-4)		

2・4 H<sub>3</sub> Z  
H<sub>3</sub>=場所  
とか場面  
(Where)。

で11	○ウチデ ネタノ。(自-t 男6:2-23)	9	○ウミデ オヨイダ。(赤-o 女5:1-5)	8	○アメリカデ ヤッテタヨ。(神-高男4:4-8)	△2	○オクジョウ ノンノ。(屋上で馬なとに乗る)(小-加男4:1-3)	○オニワ[で] アソンダ。(神-柿男3:7-2)	○ドコデモ オモシロイ。(神-古男4:5-11)	○トオイー トコマデ イツノ。(神-狗女4:3-3)	○コッカラ ハイレナク ナッ チャッタノ。(小-竹男4:1-10)	△(で)が落ちると意味がよくわからなくなる。 (注)体言止の形。
では×1	○テレビハネ マンガヤナカ (自-g 女5:11-9)	×1	○テレビネ ウチュウパートル ホッパ。(自-t 男5:3-16)(注)	×1	○オクジョウ ノンノ。(屋上で馬なとに乗る)(小-加男4:1-3)	○オニワ[で] アソンダ。(神-柿男3:7-2)	○オニワ[で] アソンダ。(神-柿男3:7-2)	○オニワ[で] アソンダ。(神-柿男3:7-2)	○ドコデモ オモシロイ。(神-古男4:5-11)	○トオイー トコマデ イツノ。(神-狗女4:3-3)	○コッカラ ハイレナク ナッ チャッタノ。(小-竹男4:1-10)	△(で)が落ちると意味がよくわからなくなる。 (注)体言止の形。
でも1	○オウチデモ ムシサガシ。(自-k 男5:8-5)	1	●ウチデモ ナラッタリシタノ。(赤-b 男5:6-5)	1	○オウチデモ ムシサガシ。(自-k 男5:8-5)	○オニワ[で] アソンダ。(神-柿男3:7-2)	○オニワ[で] アソンダ。(神-柿男3:7-2)	○オニワ[で] アソンダ。(神-柿男3:7-2)	○ドコデモ オモシロイ。(神-古男4:5-11)	○トオイー トコマデ イツノ。(神-狗女4:3-3)	○コッカラ ハイレナク ナッ チャッタノ。(小-竹男4:1-10)	△(で)が落ちると意味がよくわからなくなる。 (注)体言止の形。
まで2	○イチバン ウエマデ アガッタノ。(自-v 男5:7-5)	4	○ドコデモ オモシロイ。(自-r 女4:8-7)(同一人)	4	○ドコデモ オモシロイ。(自-r 女4:8-7)(同一人)	○オニワ[で] アソンダ。(神-柿男3:7-2)	○オニワ[で] アソンダ。(神-柿男3:7-2)	○オニワ[で] アソンダ。(神-柿男3:7-2)	○ドコデモ オモシロイ。(神-古男4:5-11)	○トオイー トコマデ イツノ。(神-狗女4:3-3)	○コッカラ ハイレナク ナッ チャッタノ。(小-竹男4:1-10)	△(で)が落ちると意味がよくわからなくなる。 (注)体言止の形。
から2	○フトンカラネ(注)コロガッチャッタ。(自-m 男6:4-5)	1	○ソコマデシカ ワカンナイワ。(赤-p 女5:2-14)	1	○ソコマデシカ ワカンナイワ。(赤-p 女5:2-14)	○オニワ[で] アソンダ。(神-柿男3:7-2)	○オニワ[で] アソンダ。(神-柿男3:7-2)	○オニワ[で] アソンダ。(神-柿男3:7-2)	○ドコデモ オモシロイ。(神-古男4:5-11)	○トオイー トコマデ イツノ。(神-狗女4:3-3)	○コッカラ ハイレナク ナッ チャッタノ。(小-竹男4:1-10)	△(で)が落ちると意味がよくわからなくなる。 (注)体言止の形。
その他	○ソイカラ テツボウデネ サカアガリヤルノ。(自-i 男6:4-13)	4	○コ(ウ)バン トコ (ア)ラ [から] クンノ。(自-s 男4:10-17)	4	○コ(ウ)バン トコ (ア)ラ [から] クンノ。(自-s 男4:10-17)	○オニワ[で] アソンダ。(神-柿男3:7-2)	○オニワ[で] アソンダ。(神-柿男3:7-2)	○オニワ[で] アソンダ。(神-柿男3:7-2)	○ドコデモ オモシロイ。(神-古男4:5-11)	○トオイー トコマデ イツノ。(神-狗女4:3-3)	○コッカラ ハイレナク ナッ チャッタノ。(小-竹男4:1-10)	△(で)が落ちると意味がよくわからなくなる。 (注)体言止の形。
1	○ソイカラ テツボウデネ サカアガリヤルノ。(自-i 男6:4-13)	1	●コウエンダケ イクノ。(小-嘉女4:8-3)	1	○ハコボクデネー エー カイタリ シュル。(自-i 男5:5-5)	○オニワ[で] アソンダ。(神-柿男3:7-2)	○オニワ[で] アソンダ。(神-柿男3:7-2)	○オニワ[で] アソンダ。(神-柿男3:7-2)	○ドコデモ オモシロイ。(神-古男4:5-11)	○トオイー トコマデ イツノ。(神-狗女4:3-3)	○コッカラ ハイレナク ナッ チャッタノ。(小-竹男4:1-10)	△(で)が落ちると意味がよくわからなくなる。 (注)体言止の形。
1	○ソイデ ナンカ (ハッ)ト ホンニ ハッタリ シチヤッタ。(自-b 男6:0-16)	×1	○オニワ[で] アソンダ。(神-柿男3:7-2)	×1	○テレビネー ……テツジントカネー～オオカミシヨウネンカネーソイカラー……パピートカネー ……テツジン ジャナクデネ ……ソイダケデ[を] ミル。(自-k 男4:8-9)	○オニワ[で] アソンダ。(神-柿男3:7-2)	○オニワ[で] アソンダ。(神-柿男3:7-2)	○オニワ[で] アソンダ。(神-柿男3:7-2)	○ドコデモ オモシロイ。(神-古男4:5-11)	○トオイー トコマデ イツノ。(神-狗女4:3-3)	○コッカラ ハイレナク ナッ チャッタノ。(小-竹男4:1-10)	△(で)が落ちると意味がよくわからなくなる。 (注)体言止の形。
1	●アミモノキカイデ セーターヌツタリ スンノ。(赤-o 男6:2-7)	×1	○オニギョウデネー オカアサンゴッコデネ(を)して) アソブンデス。(赤-x 女5:2-3)	×1	○オニギョウデネー オカアサンゴッコデネ(を)して) アソブンデス。(赤-x 女5:2-3)	○オニワ[で] アソンダ。(神-柿男3:7-2)	○オニワ[で] アソンダ。(神-柿男3:7-2)	○オニワ[で] アソンダ。(神-柿男3:7-2)	○ドコデモ オモシロイ。(神-古男4:5-11)	○トオイー トコマデ イツノ。(神-狗女4:3-3)	○コッカラ ハイレナク ナッ チャッタノ。(小-竹男4:1-10)	△(で)が落ちると意味がよくわからなくなる。 (注)体言止の形。

2・5 H<sub>1</sub>H<sub>1</sub>Z

H <sub>1</sub> H <sub>2</sub> Z	1	○タカモノヲネー ソーノネト ライタ ヒトタチニ ワケタン ダッテ。(自-u 女6:5-22)	○クラウンデサー クラウン オジ チャン ツレテ キタ ツレテ イッテ モラウ コト ア コト アルヨ。(神-宮男3:8-3)	1	
H <sub>2</sub> H <sub>1</sub> Z	2	○オネエチャントネ ヌルエ ヤッ タノ。(自-n 男6:5-6)	3	○オカアサント ハナシ シテンノ。 (赤-m 男4:10-3)	2
H <sub>1</sub> H <sub>3</sub> Z	4	○イシネ カワノネ トコヘネ ナ ゲタノ。(自-d 女5:11-7)	●オシゴト カイシャデ ヤッテ ル。(小-岡女4:8-2)	1	
		○ソシテネ ヒコウキデネ ウチヘ カエッタノ。(自-s 男5:9-22)	●テービハ オウチデ ミタ コト アルヨ。(小-安男4:2-5)	1	
H <sub>3</sub> H <sub>1</sub> Z	15	○イナカデ クワガタ トッテ キ タ。(自-s 男5:9-11)	●ソノ ナカデネ オトコノ コノ マンガガ ダイスキ。(赤-q 女5 :2-10)	5	
		○ボクンチデ [家で] ニクヤ ヤッテル。(自-b 男6:0-4)	○オカ (「お母さまは何してる?」 の答) オウチデ オシゴト シ テル。(赤-t 男5:1-3)	1	
		○カッチヤンチニ アソビニ イッ タノ。(自-e 女5:7-10)		1	
		○マエノ アサガオグミデハネ プ レーメンノネ オンガクタイノネ ニンギョウゲキ ミタノ。(自-d 女5:11-9)		1	
H <sub>2</sub> H <sub>2</sub> Z	1	○オトウサント タイイクカンニ イッタノ。(赤-f 女5:9-5)	2	○パバト オソトデ アソブ。(赤 -h 女5:4-3)	1
		○ソノ コラネ オウチデネ カッ テ ヤッタノネ。(赤-s 男6:6-16)			1
			○カツノリクントネー ソレカラ ボクノ オカアサントネ カツノ リクンノ オバサントネ タケノ ブール イッタノ。(神-秋男3:11 -6)	1	
			○ソイデ オオカミモ ココヘー	1	

H<sub>3</sub>の「で」  
が「では」に  
なっている  
形式が年  
長、年中に  
ある。

H <sub>3</sub> H <sub>2</sub> Z					イレチャッタノ。(小-原女3:7-15)	
H <sub>3</sub> H <sub>3</sub> Z		●コッカラ ダンチノ ホウ ハ イツクノ。(自-C男5:11-6)		●エ(い)ナカニネ オカアサント イッタノ。(神-桑女4:10-25)	1	○オウチデ ヨツチャント アソングノ。(神-場男3:10-5)
H <sub>1</sub> H <sub>1</sub> H <sub>1</sub> Z				○ソコカラ チキユウニ ヤツテ キタンダカラネ。(赤-f女4:10-6)	1	○コツチカラネ ムコニ ワタツネ イクノ。(小-藤女3:10-5)
H <sub>2</sub> H <sub>1</sub> H <sub>3</sub> Z				○オカネガネ タマンナイ ヒトニネ コノ コウ イウ ハネネ ココニ ツケトクノ。〔赤い羽根のこと・はつきりしない〕(自-t男5:3-12)	1	○ケイオウチエンデ [京王線「の」とも]トネルデ ウタ (ツタ)。(小-金男4:1-4)
H <sub>3</sub> H <sub>2</sub> H <sub>1</sub> Z	×1	○オニワデネー # フトシクントネー ロケツトゴッコデ(を)して)ア(ソ)ンデタノ。(自-i男6:4-5)		○オカネガネ タマンナイ ヒトニネ コノ コウ イウ ハネネ ココニ ツケトクノ。〔赤い羽根のこと・はつきりしない〕(自-t男5:3-12)	1	○ジョウロデネ オミズ (ア)ツパノ (ハ)ツパニネ オミズ カケテンノ。(神-村女3:6-8)
H <sub>3</sub> H <sub>2</sub> H <sub>1</sub> Z	45	○モット アルヨ。(自-g女5:11-21)		○マースグ イクノ。(赤-b男5:6-6)	50	○チョット ムズカシイ。(神-渡女3:10-10)
2・6 RZ	10	○シユーツデ デン(ダ)。(自-v男5:7-4)		○ガオガオ イッテル。(自-i男5:5-7)	3	○ドボーンテ オトシチャッター。(神-三男4:0-45)
R=運用修飾語		○ジブンデ オボエタノ。(赤-c男6:3-16)		○ジブンデ ヨムノ。(赤-j女4:7-6)		○ジブンデ ヨム。(小-原女3:7-8)
	1	○ギャクニ カゾエラレル。(赤-d男6:4-15)		○ハンブリンシカ オボエテ ナイワ。(赤-p女5:2-10)		○ミーナデ イッタノ。(神-寺男4:4-8)
		○アソビナガラ ミチャウノ。(赤				

H<sub>2</sub>の部分が節。

「で」が「を  
して」の意  
味のところ  
ろ。(前出)

音まね語。  
(感じ音ま  
ね語)  
名詞+助詞。

	-a 男5:11-18)								
4	○ジュッコシカ ヤスマナカッタヨ。(自-g女5:11-2)	4	○ソウネ ニカイグライシカ ヨンデ ナイカシラ。(赤-p 女5:2-14)	9	○サンボン ヌケチャッタノ。(神-清女3:7-2)				
12	○ヤッバリ ワスレチャッタミタイ。(赤-m男5:10-6)	3	○タダ アンデルダケナノ。(自-o 男5:4-2)	1	○センゼン ア アン アソビタクナンナイヨ。(小-佐男4:3-9)				陳述副詞。
3	○ソイデ スグ バット オキチャウノ。(赤-m男5:10-20)	●	○ダンダン コンナニ オッキクナツテ キタ。(神-桑女4:10-27)	1	○チャントネ ミンナデ ツカウノ。(神-新女4:2-3)				
1	○マダ アンマリ ヨクネ ワカンナイ。(赤-h女6:4-6)								
15	○アレ ゼンブ ヨンダヨ。(自-t 男6:2-20) ○カズハネー ヒヤクマデ カゾエラレル。(赤-w男6:3-18)	13	○テツジントカナンカ イッバイミルノ。(自-r 女4:8-10) ○ジドウシヤデネー ブーツテヤツタノ。(幼稚な表現, お父さんの仕事についての答) (自-i 男5:5-2)	8	○デンサネー〔でんしヤ〕 フターツノツテ イクノ。(神-折女4:3-5)				
3	○ドロンバガネー オバキユウノ オカアサンニ バケタトコ トコロガ イチバン オモシロカッタ。(赤-d 男6:4-14)	2	○オリガミ(ネ) オリガミ オルノ ガ イチバン タノシイ。(赤-t 男5:1-6) ×1 ○ドコデモ(からでも) マスグイカレル。(自-d 女4:11-7)						
14	○タイテイネ サミシイ ユメバツカシミル。(赤-p 女6:2-18) ○マダ ヨウチエンニ モツテ キテナイ。(自-u 女6:5-3)	4	○ヒトリデ オニンギョウデ アンダノ。(赤-j 女4:7-2) ○ソシテネ スグネ オウチ ツクノ。(赤-x 女5:2-6)	12	○イーッパイ オモチヤ モツテンノ。(神-佐女3:7-3) ○マタネー プーリュ〔プーアル〕 イッチャウノ。(神-場男3:10-6)				H <sub>1</sub> の部分が節。
1	○ヨウチエンデハネ イツモネ オ	1	○ナンカ シカクイ トコデネ マ						

RRZ

RRRZ

2・7 HRZ

\*H=H<sub>1</sub>H<sub>2</sub>H<sub>3</sub>

以下同じ

RHZ

HRHZ

	ソトデ アソンデル。(赤-f 女5: 9-11)	タネ エヲ カクノ。(赤-s 男5: 6-9)		
RHHZ		●タマニハネ パバト イッシヨニ コウエン イク トキモ アル。 (小-押女5:1-4)	○アマニハネ パバト イッシヨニ コウエン イク トキモ アル。 (小-押女5:1-4)	
RIRZ	1 ○タイテイネ シンセキノ オ ウチトカ ソユ トコロニ ヨク イキマス。(赤-p 女6:2-4)	●ソイデ アンマリネ カオ ヨク ミレナッカタンダツテ。(小-大男 4:6-11)	1 ○ソイデ アンマリネ カオ ヨク ミレナッカタンダツテ。(小-大男 4:6-11)	
HRRZ	●ソレモ マダ チョット ワカン ナイ。(赤-r 男6:3-6)	●ソイカラネ マタ ズーット オ イカケッコ シテルノ。(小-押女 5:1-19)	1 ○ソイカラネ マタ ズーット オ イカケッコ シテルノ。(小-押女 5:1-19)	
RRHZ			1 ○ソシテ オッキイ カイジュウ ダツテネ シュグネ ホウチヨウ ミタイニ ミタイデ(の?) コ ウ ヤツテネ ブツテ キツチャ ウ。(注)(神-高男4:4-13)	(注)一応述 語とみた。
HRHRZ			1 ○ソシテ オッキイ カイジュウ ダツテネ シュグネ ホウチヨウ ミタイニ ミタイデ(の?) コ ウ ヤツテネ ブツテ キツチャ ウ。(注)(神-高男4:4-13)	(注)一応述 語とみた。
2-8 TZ	31 ○クジニ ヤンノ。(自-v 男5:7-9) ○ヤスミン トキハ ヤツテ クレ ナイノ。(赤-w 男6:3-11)	○ニチヨウビニハ イカナカッタ ノ。(自-g 女5:0-3) ○……キョウモ オンナジナノ。(赤 -j 女4:7-3)	15 ○キョウハ ヤンナカッター。(小 -福男4:2-11)	
T TZ	2 ○ナンカネー 「オフロニ ハイリ ナサイ」 ッテ イウ トキネー ハイラナカッタ トキ オコラレ ル。(T一つとも)(赤-k 女6:2-5)		1 ○センセイガ 「ダメヨ」 ツチュッ タ トキハネ ママモ 「ダメヨ」 チユッタ トキハ アソバナイ ノ。(くりかえしとも)(神-三男4: 0-16)	

2・9 THZ	16	○マエネ オシロ ックッタノネ。 (赤-u 男6:5-24) ○ソイデネー ハナヒ ヤルマデネ フォークダンス シタノ。(自-d 女5:11-9) (注) ○シェーカラネー ズーツト マエ ニネ トウキョウタワへ イッ タノ。(自-v 男5:7-5)	14	●コノ マエ カミシバイ シテ クレタノ。(赤-i 女5:3-6) ○ニチヨウビハネ (ア)マツリ イッタノ。(自-n 男5:5-12)	2	○ニチヨウビハネー テレビ ミ テタ。(小-相男4:4-6) ○ヨルハネ ヤキユウノ ヒユーマ クン ミテンノ。(神-三男4:0 -32) ○オヤス オヤシュミノ ヒハネー サマーランド イッタノ。(神-高 男4:4-3)	(注) Tの部 分が筋。 H = H <sub>3</sub>
	4	○シェーカラネー ズーツト マエ ニネ トウキョウタワへ イッ タノ。(自-v 男5:7-5)	9	○コノ マーエニネ トシマエン イッタ コトガ アルノ。(赤-f 女4:10-7)	6	○オヤス オヤシュミノ ヒハネー サマーランド イッタノ。(神-高 男4:4-3)	
HTZ	2	○テレビネ テレビ イマネ ス キ。(自-f 女5:8-8) ○オサムクンテ イウ コト ソノ ヒ アソングノネ。(赤-f 女5:9 -16)	1	○ニユース キノウハ ミナイ。(赤 -s 男5:6-10)	2	○ダツテ シェンシヨウサー コド モノ トキ ミタ コト アルモ ン。(神-高男4:4-9)	H = H <sub>1</sub> H <sub>2</sub>
			2	○ナンダケナ ヨウチエン ケキ ノウ イカナカッタノ。(自-u 女 5:5-1) ●オウチデ ヨル テレビ ミタ ノ。(小-伊男4:3-3) ●オウチデネーエ ヨル ネンネ シテル トキネーエ デンシヤ ノル トコニネ カイジュウガ イル ユメ ミチャッタ。(小-押 女5:1-10)	1	○カマクラナンカネー カマクラナ ンカ ニチヨウナンカネ ネー イクノ。(神-古男4:5-4)	H = H <sub>3</sub>
HTHZ			1	○ニチヨウビン トキネ シコウキ ヤネ シヨイウノ アシヤデモ ヤッテ クレルノ。(語順) (自-j 女4:7-6)			
TTHZ	1	○ソイデネ ハジメ キタ ヒニネ カワニ イッタ トキネ キノボ リ シタノ。(T一つとも) (自-g 女5:11-3)	1	○ニチヨウビン トキネ シコウキ ヤネ シヨイウノ アシヤデモ ヤッテ クレルノ。(語順) (自-j 女4:7-6)			
2・10 TRZ	2	○イマネー ニジュウツテ カゾエ ラレル。(赤-f 女5:9-14)	●オヒルハネー ヒトリデ アソ ン デタノ。(神-閩女5:0-5)				

RTZ	●トキドキハ オヒルネノ トキ スル。(赤-g 男5:10-10)			1	○ソイデ イツモネ キタ トキ アソンデンノ。(神-三男4:0-20)
TTRZ	●アンマリネー ソン トキ ヨル ネ アンマリ ネムレナカッタ。 〔くりかえしとも〕(白-y 男6:0 -20)				
2・11 RTHZ	○トキドキネ オカエリニ ゴホン ヨンデ クダサツタリ スル。(赤 -p 女6:2-5)				
THRZ	○キョウハハネ ヘイキチヨウノネ トツカラネ ヒトリデ キタノ。 (白-r 女5:7-10)		●ケサ ヨウチエンニ イク マエネ ミンナネ ゴホン チョットダケ ミンナ〔訂正〕ヨンジヤッタノヨ。 (小-伊男4:3-13)	1	○ソンデ プー(ユ)ガネ オワツタ トキ コウエン イニ〔で〕 イッパーイ アソンデ キチャウ ンダカラ。(神-甥男3:10-7)
TRHZ			●ニチヨウビハ イツモ オウチデ アソンデ イマス。(赤-i 女5:3 -4)	1	○キノウハネー マタネ タカチャ ンチ イッタノ。(神-折女4:3-5)
HTRZ			●オトウサンニ ハジメ イッペン オシエテ モラッタノ。(神-桑女 4:10-20)		
2・12 QZ Q = 直接話 法を 表わ す	って16 ○「ドンブラコッコ コッチハ ア マイゾ」ツツカ ユツタンダツテ。 (白-u 女6:5-17)	4	○「ワタ タベチャッタ」ナンテ ユツテンノ。(自-g 女5:0-5)	29	○「アブナイ アブナイ」ツテ イウ ノ。(小-竹男4:1-8)
	○「エヲ ミテ オハナシ シマ ショウ」ツツテ カイテ アル。(赤 -f 女5:9-17)		○オバケノ キユウタロウ(ソソ)。 (赤-d 男5:4-9)		○ヒダリツ(ツソ)。(神-勝男3:7-5)
	○デネー「ココデ タベヨウ」ト オモツテンノ。(赤-d 男6:4-17)		●「ドツカノ アイテル オウチン ナカ ハイッチヤッタ」ト オモ	1	○「クマガ ハシツテル トコニ ネー トビダソウ」ト オモツタ

(注)直接話  
法の内部は  
分析してい  
ない。

「と思う」の  
つくもの。

2・13 HQZ	○ダカラ 「カワノ ムコウノ ホ ウマデ イコウ」ト オモッタノ ネ。(赤-0 女6:1-12)	4	ウ。(神-井男5:0-28) ○カワイト オモウ。(赤-j 女4: 7-8) ●スウジタイナ アレニネ〔はっ きりしない〕「ナントカ ナント カ」ツテ カクノ。(小-窪女4:8 -3)		ノ。(小-岸男33:11-7)
2・14 QRZ	○ネンドナンカガ イチバン オモ シロイト オモウナ。(赤-a 男5: 11-11)				
RQZ	●ヤッパリ 「オイシヤサン ナリ ナサイ」ツテ ユッチャウ。(赤-h 女6:6-10)	1	○タダ カ <sup>(ネ)</sup> ダシヨウタロウツテ (ユ)。(自-n 男5:5-9)	1	○ソシテネ 「オウチガ コワレチ ヤウヨウ」ツテ <sup>(キ)</sup> ツチリ オ <sup>(ビ)</sup> シャイテンノ。(小-加男4:1-9) ○タダ ネ タダネー 「アイザワ」 ツテ カイテ アルダケ。(小-相 男4:4-12)
2・15 QRHZ	●ソレネ ジブンデ イイト オ モッタノ。(赤-G 男6:1-9)		●「オマゴト ダイジンダ」ナン テ ヨク ミンナニ イワレチャ ウ。(小-山中女5:0-23)		
2・16 YZ Y=理由ほか をあらわす	1 ○ミセテ クレーニ キタノ。(自 -t 男6:2-3) 1 ○ダツテ オンゴトデネー タイヘ ン。(自-u 女6:5-16)		●アイスクリーム カイニ イク ノ。(小-徳男4:5-3) ●ナンカ タベニ イッタノ。(小 -光女5:1-3)	×1	(注)~のた め <sub>に</sub> の意の ものもここ に入れた。
2・17 HYZ					○ <sup>(ク)</sup> マクラデネ <sub>(に)</sub> ツリニ イ ツタノ。(神-古男4:5-5)

HHYZ				●チュウシヤ シニ イク。(小-押女5:1-13)		2	○オカアチャ <u>ン</u> オカアチャ <u>ント</u> イッシヨニネ オウマチャ <u>ン</u> リニ イッタ <u>ノ</u> 。(小-藤女3:10-7)
2・18 RHYZ	1	○ソシタラ ミンナデ ムシトカ ソウイウ <u>ノ</u> ツカマエニ イク <u>ノ</u> 。(赤-m男5:10-12)					○オチドコネ(仕事) ドコダツテネ トリニ イク <u>ノ</u> 。(神-古男4:5-7)
2・19 TYZ				●ダカラネ キョウウ ゴヨウデネ イッタ <u>ン</u> 。(赤-q女5:2-4)			
2・20 THYZ				●キノウネ オマイリニ イッタ <u>ノ</u> 。(小-野女4:9-3)			
				●イチンチネ ショウジョフレンド ガ ハツバイシタトキネ ソレ カイニ イク <u>ノ</u> 。(赤-q女5:2-18)			

### 2.3-3 主述構文

年齢別 文構造	用				例			備考
	用例数	年 長 (赤羽・自由)	年 中 (赤羽・自由)	年 少 (神谷・小川)	用例数	年 少 (神谷・小川)	備 考	
3・1 S#Z	4	○コンドノ カイジュウガネ ゴジ ラ。(自-s男5:9-19)		●コレガ ウサチヤン。(小-徳男4: 5-10)	3	○コレガ オジヤン。(小-原女3: 7-11)	名詞文	
	83	○シマウマガネ ハシッテン <u>ノ</u> 。(自		○ライオンガ キタ <u>ノ</u> 。(赤-u男5: 62)	63	○タイソウガ ハジマツチャツ	動詞文	

	-f 女5:8-9)	○ジブンガ 8-12)	ワルイノ。(自-f 女5: 8-12)	△6	○ウシヤギガ 4:8-19)	ハヤイノ。(自-k 男 4:8-19)	△1	○ポー -4)	アツタヨ。(小-福男4:2 -4)	形容詞文
	1	○ガムヤラネ キタ。(赤-h 女6:4-8)	マモルヤラ デテ	△19	○デンキ -a 男4:9-4)	トマツチャッタノ。(自 4:9-4)	13	○ジャイ アルヨ。(小-佐男4:3-17)	アントロポ パンツトカネ	助詞欠文
S6Z	12	○ソイデ タ。(赤-j 女5:7-11)	ガイコツモ ニゲチャッ	5	●モンスタ ナンデモ -5)	ートカ ロボットカ	43	○ソイカラ -矢女4:0-12)	ゾウサンモ イル。(小	副助詞のつ いてるもの。
	4	○ターザンハ -10)	クジ。(赤-u 男6:5 -10)	7	●パパスノ キョウ。(赤-i 女5:3-2)	オシゴトハネ オベン	17	○コッチハ -13)	ミギ。(小-佐男4:3 -13)	
	18	○ソンドネ シテルノ。(赤-t 男6:0-19)	ライオンハ ビックリ	10	●オトウサ ヨイ (赤-q 女5:2-11)	ンハネー トツテモ ツ タンダツテ (注)	22	○オバア ノ。(神-前女4:3-3)	チャンハ イカナカッタ	(注)述語の 部分が連体 修飾語をも つ。
	△3	○オカアサン 男5:9-3)	ナイシヨク。(自-s 男5:9-3)	△7	○コレ オハナ。(自-f 女4:9-13)	オハナ。(自-f 女4:9-13)	△21	○コレ クマ。(小-千女4:2-8)	クマ。(小-千女4:2-8)	
	△13	○マダマタイシ タ。(赤-h 女6:4-7)	デテ コナカッ	△14	○ソウネ マンガダナ。(赤-p 女5:2-6)	イチバン スキナノ	△13	○ボクネー 10-2)	アソブノ。(小-新男3: 10-2)	
S7Z	1	○クワガタツテネ ノ。(赤-u 男6:5-6)	ハサミミタイ ノ。(赤-u 男6:5-6)	1	●オカシノ デキテル -10)	オウチツテ オカシデ オウチ。 (赤-e 女4:9 -10)	13	○ミサイ ノ。(小-佐男4:3-17)	ルッテネ マルーイ モ	
S8Z	2	●アトムダケ -x 男6:1-10)	コワレテナイノ。(自 -x 男6:1-10)	1	○コレダケ シカ -11-5)	マワルヨ。(小-足男5: 0-7)				
		○オカアサンナラ -p 男5:6-3)	オコンモン。(自 -p 男5:6-3)			ナイ。(赤-a 男4: 11-5)				

3・2 SはSがZ					● <u>サンバンメノ</u> <u>オニイサンハネ</u> <u>アシガネ</u> <u>ナガク</u> <u>ナルノ</u> 。(神 -規男4:6-28) ● <u>カイブツクンネ</u> <u>テモ</u> <u>アシモ</u> <u>ノビルノ</u> 。(小-成男4:7-10)				(注)いわゆる 総主文。
3・3 SHZ	26	○ <u>ライオンガ</u> <u>コレ</u> <u>ミテンノ</u> 。(自 -f女5:8-9)	17	○ <u>ショシテ</u> <u>ママガ</u> <u>シロイノ</u> <u>カッタノ</u> 。(自-p男4:7-15)	24	○ <u>ヤギガ</u> <u>クチャ</u> <u>タベテル</u> 。(神 -坂女4:0-9)	H <sub>1</sub>		
	25	○ <u>ライオンガネー</u> <u>シマウマネー</u> <u>サガシテタンダヨネー</u> 。(赤-o女 6:1-26)	12	○ <u>クマサンガ</u> <u>ネズミヲ</u> <u>オイカケ</u> <u>タノ</u> 。(自-u女5:5-14)	5	○ <u>カメ</u> <u>カメガ</u> <u>ウチャギノ</u> <u>コト</u> <u>ネ</u> (注) <u>オイカケテンノ</u> 。(神-村 女3:6-7)	H <sub>2</sub>		(注)このよ うな「こと」 の使い方多 し。(前出)
	17	○ <u>カプトムシガ</u> <u>キノ</u> <u>ウエニ</u> <u>イ</u> <u>ルンデス</u> 。(自-s男5:9-4)	17	○ <u>ライオンサンガ</u> <u>キノ</u> <u>カゲニ</u> <u>イタンデスツテ</u> 。(赤-p女5:2-9)	17	○ <u>ライオンガネ</u> <u>ドウブツエニ</u> <u>イルノ</u> 。(神-佐女3:7-11)	H <sub>3</sub>		
HSZ	3	○ <u>ダンブカーニ</u> <u>クマ</u> <u>ヒカレ</u> <u>チャッタノ</u> 。(自-k男5:8-24)	1	○ <u>カメト</u> <u>コレ</u> <u>ヤマニ</u> <u>イクマ</u> <u>テ</u> (山まで?) <u>キョウソウ</u> <u>シテ</u> <u>ンダヨ一</u> 。(赤-a男4:11-9)					
	1	○ <u>ダツテ</u> <u>カイブツダツテ</u> <u>ボク</u> <u>スキダモン</u> 。(赤-w男6:3-15)		● <u>アドウカンツテサ</u> <u>アドウ</u> <u>タベ</u> <u>ルミタイ</u> 。(神-村男4:3-14)					
	12	○ <u>ウシロニ</u> <u>プロペラミタイノガ</u> <u>アランダヨネ</u> 。(自-b男6:0-6)		● <u>ネズミヲネ</u> <u>クマガネ一</u> <u>オッカ</u> <u>ケテルノ</u> 。(神-閨女5:0-18)	4	○ <u>トンポー</u> <u>ボク</u> <u>ツカマエタノ</u> 。 (神-場男3:10-6)			
						○ <u>テレビデ</u> (に) <u>ネ</u> <u>サリ一</u> <u>チャンノ</u> <u>ネ</u> <u>エガ</u> <u>デルノ</u> 。(神-新女4:2 -7)			
						○ <u>コン</u> <u>ナカニネ</u> <u>オオカミ</u> <u>ハ</u> <u>イツチャッタノ</u> 。(小-加男4:1-7)			
						○ <u>アソコノ</u> <u>アカバネ</u> <u>コウエンハ</u> <u>ネ</u> <u>コンナ</u> <u>フンスイガ</u> <u>デテ</u> (ン)ノ。(神-三男4:0-8)			
						○ <u>ヒロコネ</u> <u>トラックニネ</u> <u>コレデ</u> [意味はつきりしない] <u>ブツカッ</u>			
SHHZ	6	○ <u>オトコノ</u> <u>コガネ一</u> <u>オハナニ</u> <u>オミズ</u> <u>アゲテンノネ一</u> 。(赤-x	7	○ <u>ボクネ</u> <u>ニューステネ</u> <u>ウルイ</u> <u>コトヤネ一</u> <u>イイ</u> <u>コトヤ</u> <u>ミ</u>	4				

女6:2-19)	<p>○ウサギガト カメガネ ヤママ デ ヨウイドンテ [競走] シタ ノ。(赤-v男6:1-11)</p> <p>○オカアチャンハ オウチデネ [家 にいて] ヤクルト ハイタツ シテンノ。(自-j女5:7-2) [複 文?]</p>	<p>タ。(自-t男5:3-13)</p> <p>○ショウタロウハネー テツジンニ ネー ナニカネー ツヨク ナル モノネー シカケルノ。(赤-n男 5:2-5)</p> <p>○ソシタラ ウサギサン オヤマノ サー チョット テツペンデネ ヒルネ シチャッタノ。(赤-f女 4:10-11)</p>	<p>ター。(神-佐女3:7-13)</p> <p>○オトウサンモネ シタデ オシゴ ト シテル。(神-新女4:2-2)</p>	<p>「ヨーイ ド ン シタ」 「ヒルネ シ タ」などサ 変動詞にな るものをこ こでは二成 分とした。</p>
×1	○オカアチャンハ オウチデネ [家 にいて] ヤクルト ハイタツ シテンノ。(自-j女5:7-2) [複 文?]			
1	○アレデネ フネトカナンカネ ボ ク チュクッテンノ。(自-b男6: 0-27)	<p>○クチュネ ドッカニネ イッポンノ ネ クチュネ ネジュミガネ ク ワエテ イッチャッタノ。(自-j 女4:7-15)</p>	<p>○……オウチデネー オ オネエ チャンネー オバアチャンノ メ ガネ カケタリ シテングヨー。 (神-狗女4:3-7)</p>	
1	○ヤマデ ボク クワガタ トッタ ノ。(自-k男5:8-8)	<p>○オウチデネ ゴ オカアチャンネ ゴハンノ シタク シテタ。(自 -t男5:3-2)</p>		
1	○ガッシュクデネ ホリグチクンタ チネ ナンカネ マクラテ ナン カ シテタ。(自-l男6:0-7)			
16	○オシゴト イッパイ アンノ。(自 -f女5:8-3)	<p>○コレ チョット オコリミタイ。 (自-r女4:8-17)</p>	<p>○ソイデネ ヒコウキガ イッパイ アンノ。(神-大男3:11-8)</p>	
6	○オモチャノ プラモデルノ セン シヤモネ サンコ アルノ。(自 -b男6:0-11)	<p>○ソイデー シマウマガ イットウ キタノ。(自-v男4:7-10)</p>	<p>○ソシデネ ココ ヒトツ アイテ ルヨ。(神-佐女3:7-18)</p>	

3・4 SRZ

7	○ソウイウ コトハ アンマリ ナ イケド。(赤-t 男6:0-13)	●オカサン モ トキドキ ヨム ケードネ。(赤-q 女5:2-20)	4	○ソイデ ボクネ ヒトリデ ネテ タ(ノ)。(神-三男4:0-3)	
1	○ライオンガ アキラメテ カエツ テ イッタノ。(赤-w 男6:3-28)				
	●ソノ ツギ スキナノート ソレ トー オモシロイノハ イッパイ アル。(注) (赤-a 男5:9-13)			(注)主部を なしている。	
5	○アノネ イッパイ ミチガ アル ケドネ。(赤-u 男6:5-7)	5	○イチバン マユミチャンガネ オッキノ。(自-e 女4:8-5)	2	○チーットネ イナカノ オバチャ ンチハ トオク【い】イノ。(神-佐 女3:7-5)
	●カレンダー イッパイ コ(ウ)イ ウアウニ カサネテ アッタ。(赤 -f 男6:3-2)	2	●モ(ウ)ヒトリネ ジャングルタイ チイノネ オトモダチネ イルン ダツテネ。(赤-q 女5:2-11)	4	○ネジユミガネ ビョシツテ トン ダノ。(神-高男4:4-23)
		1	○タダネ ジアング ヨムダケ。(自 -d 女4:11-5)	4	○ソレデネ モウ オハナシハ ナ イ。(神-高男4:4-6)
2	○ダカラ ボク ガイシヤノ ナマ エノ ホウガ [を] ヨク シツ テル。(赤-t 男6:0-3)				
1	○ガイシヤノ ホウガネ チツチャ イクルマヨリ タクサン アル ネ。(赤-t 男6:0-3)	●タツチャン オエカキ [絵] ジョ ウズニ カイタ(ヨ)ネー。(小-伊 男4:3-2)	1	○ジョーハハネ ナイフデ グシヤツ テ ヤツチャウ。(神-高男4:4-1 6)	
1	○ソレデ ライオンガ シマウマニ トビツカカルヨウニ ニ オイカ ケマシタ。(赤-s 男6:6-18)	●ダケドネーエ ソノ コネーエ ジャングルタイテイニ ノネ オ カアサンニ トツテモ ニテル ノ。(赤-q 女5:2-11)	1	○オカアサンハハネ オミセデネ タ ダ [意味はきりしない] ハタ ライテンノ。(小-新男3:10-2)	
		2	●ソウシタラネーエ ウサギガネ トチュウデ グウスカ ネチャツ タンダツテネ。(赤-q 女5:2-14)	1	○ソウシテネー カメガ ココヘネ コウネ タツ アルイテンノ。(小 -相男4:4-17)

RSZ

SRRZ

3・5 SHRZ

SRHZ	4	○クマガネ マタ <u>ネズミン</u> トコ ミテンノ。(自-f 女5:8-12)	2	○レオチャン シトリデネ <u>ウルイ</u> ネー ライオンガ キタノ ヤッ ツケチャッタノ。(赤-0 女5:1-7)	2	○ダツテ ママ イツモネー <u>アイ</u> スクリームトネ ラムネトネ オ モチャ カツテ クレルモン。(小 -佐男4:3-1)
HSRZ		○ドウアツエニネ ライオンガ イッピキ イタノ。(赤-u 女5:11 -16)	2	○オカアサンハ マイニチ <u>マイニ</u> チ アノネー カイシャ イツテ ンノ。(自-f 女4:9-2)	×1	○オカアサン イツモネ <u>オソウジ</u> ヤネ(をしたり) <u>ゴホン ヨンデ</u> (ン)ノ。(小-佐男4:3-2)
	1	○オバケタイカイナンテ <u>ヘンナ</u> オバケガ タクサン イタヨー。 (赤-f 女5:9-10)	3	○ウラニハ フネガ イッパイ <u>ホ</u> イテ アンノ。(自-t 男5:3-5)	1	○アイウエオノ <u>ホン ミーチャン</u> ジブンデ ヨメンノ。(小-矢女4: 0-9)
HRSZ	1	○ソレカラサー ウチニハ イッパイ モケイガ アルシサー。(赤-w 男 6:3-2)		○ココカラ チューツテ コウセン ガ (デルノ)。(小-藤男4:9-13)	2	○ウチニネ <u>ゴ</u> 、 <u>ゴホン</u> タクサン アル。(小-神女4:1-10)
RHSZ				●イッパイ マゴチャンノ オウチ ニ ライオン〔猫?〕イル。(小-山 崎男4:11-8)		
RSHZ				●ダイブ ママ エホン ヨンデ クレルノ。(小-雛女4:8-18)		
SRHZ	×	○ソレデ オカアサマガネ <u>モウネ</u> テンゴクニ〔で〕ネ カミサマニ ナツチャッタノ。(赤-u 女5:11- 8)	1	○オバアチャンハネ イツデモネ ネコニ ゴシ〔ち〕ソウ ヤルノ。 (自-a 男4:9-3)	1	○ミーチャン ショツチュウ ショ ツチュウ シンブンデ ヒコウキ チュクンノ。(小-矢女4:0-5)
HSRZ		●ソノ <u>ウエカラ</u> オトウサンガ フトン バッサツテ カブセン		●テハ <u>モ</u> ツツ <u>モツ</u> <u>アツチ</u> カラネ <u>アツ</u> <u>アツチ</u> 〔こっち〕 マデ トドクヨ。(小-海男4:3 -12)		

(注)「～た  
り～たり」  
で続く構文  
は整わない  
構造が多い。

SHHR(R)Z	ノ。(赤-e 男5:10-2)				1	○デ アカネタインハネー ナイフ デネー ココ オナカ オナカ グシャット コウ (身ぶりで説 明) ヤッチャウ。(神-高男4:4- 16)
SHRRZ			●ダッテ オトウサンモ オカンー ネ [お金] マイニチ スコシ ク レルモン。(神-桑女4:10-4)			
3・6 STZ	○ソレカラ ボク ジュウイチジニ ネル トキ アル。(赤-t 男6:0 -14)	4	○ボクネ ポクト オカアチャンネ ユウガタ カインノ。(自-t 男5: 3-9)	1	○ライオンガ イマ キタノ。(神 -大男3:11-9)	
TSZ	○ハジメ ライオンガ イタノ。(赤 -h 女6:4-12)	10	○アツイ トキネ ハナガネー カ レチャッタノ。(赤-n 男5:2-11)	6	○ソレデネ カイジュウガ キタ トキ ウルトラマンガ クンノ。 (神-大男3:11-7)	
TTSZ	○ソイデ イチバン サイシヨニ ロビンガ ハイッテ ナイ トキ ニ(T一つとも) オモシロイト オモッタノハ オバキユウナノ。 (赤-r 女5:10-8)		●モグミン トキ イタ, ア モ モグミン トキネ アタシノ イ タ トキネ([桃組にわたしがいた 時]の意ならT一つ) クワ(ワ)ラ センセイ ヨンデ クレタノ。(神 -大女4:6-14)			
3・7 STHZ	○ママト ヨウコカネ オデカケン タ カエリ タクシニ ノッ チャッタノネ。(赤-p 女6:2-18)	2	○ボクネ オトウチャンノネ オー トバイ トリニ イク トキネ トデンニ ノッテ イッタ コト アル。(自-t 男5:3-1)	1	○オバアチャンガネ ヤマヘ イク トキネ リック ショッテ イク ノ。(小-原女3:7-21)	(注)q 女は 用例の引用 が多い。 年中でこの 圖を止めた ので、年長 には出てこ
TSHZ	○コノ マエカラ キジャガ キュ ウコウニ ナッタングダッテ。(自 -s 男5:9-12)	2	●コナイダ アタシ ヨウチエン オヤスミ シタノ。(赤-q 女5:2 -5)(注)	4	○ヨルネ オジイチャンジャ ナ クッチャ オハナシ シテ クレ ナイ。(二重否定) (神-三男4:0	

ない。

5	○アメ <u>フツタヒハ</u> <u>カエルネ</u> ドッカ <u>イッチャウングダヨネ</u> 。(神 -三男4:0-12)
1	○イマハネー <u>イマネー</u> トーシ チャンネ <u>チガウネー</u> ヨウチエ ンデネ <u>ナンカネンカ</u> ベン キヨウ シテル。(小-神女4:1-4)
1	○サッキネ <u>ヒロコネ</u> <u>ヒロコネ</u> ダレーモ <u>イナイ</u> <u>トキネ</u> <u>セエ</u> ユウ <u>イッタ</u> <u>トキネ</u> <u>マイゴニ</u> ナッチャッタノ。(神-佐女3:7-7)

1	○ウシヤギハネー <u>トチュウデ</u> <u>ネ</u> ムイッテ <u>イッタ</u> <u>トキ</u> <u>カメガ</u> ネー <u>オヤマデネー</u> <u>マッテタン</u> ダモン。(はっきりしない)(自-p 男4:7-17)
1	○バビニ <u>ズー</u> <u>マエニネー</u> アナガ <u>アイタンダッテ</u> 。(赤-f 女4:10-5)
1	○ハジメ <u>オジサン</u> <u>オチンキノ</u> イイヒ <u>オジサンガネー</u> <u>オハナ</u> ニ <u>ミズヲ</u> <u>カケテタノ</u> 。(赤-p 女5:2-16)
×	● <u>イツカ</u> <u>アタシガ</u> <u>チッチャイ</u> トキ <u>ビヨウキニ</u> <u>ナッタ</u> <u>トキ</u> ネ <u>キリスト</u> <u>ビョウインデネ</u> 〔に〕 <u>カンゴフサン</u> <u>イタノ</u> 。(小 -野女4:9-11)
1	○ソレデネー <u>キノウネー</u> ……オ トウサンネー <u>カイシヤネー</u> … …ヨルネー <u>ボクト</u> <u>イッショニ</u> スーパージェッター <u>ミタンダモ</u> ン。(自-k 男4:8-10)

1	○ママネ <u>ヨルネ</u> <u>オソトニネ</u> <u>オ</u> バアチャンニ <u>オイダシタノ</u> 。(遅 い出された)(自-h 女5:7-9)
---	---

1	
---	--

HTSHZ

STHHZ

TSHHZ

TTHSZ

TSTTHZ

TSTHHZ

愛身形むずかしい。

TSHHZ	1	○アトカラ(注) <u>ボウヤタチガネー</u> <u>カワノ</u> <u>スグ</u> <u>ソバデネー</u> <u>イシ</u> <u>ヲネー</u> <u>カワニ</u> <u>ナゲテタ</u> 。(赤- w男6:3-15)				(注)「アト」 の意、時間 的あとなの かはつきり しない。
3・8 STRZ						(注) 使うこと多 し。
TSRZ	3	○ <u>ソノ</u> <u>アイダニ</u> <u>カメガ</u> <u>ソノ</u> <u>ソ</u> <u>アルイテ</u> <u>キマシタ</u> 。(赤-s 男6:6-20)		● <u>コノ</u> <u>オハナハネ</u> <u>オテンキダ</u> 〔 <u>の</u> 〕 <u>トキネ</u> <u>コウ(注)</u> <u>タオレ</u> <u>チャタノ</u> 。(神-鎌女4:5-17)	1	○ <u>ソレデネ</u> <u>ボク</u> <u>ネル</u> <u>トキネ</u> <u>ボク</u> <u>ヒトリデネ</u> <u>ネンノ</u> 。(神 -古男4:5-17)
TRSZ		● <u>デモ</u> <u>ソン</u> <u>トキハ</u> <u>モウ</u> <u>ヨシ</u> <u>ノ</u> <u>アチヤン</u> <u>シンデタンダヨ</u> 。(赤 -c男5:10-22)	1	○ <u>トラックガネ</u> <u>ハシッテル</u> <u>トキ</u> <u>ネ</u> <u>ヒトリデニネ</u> <u>ココガ</u> <u>アイ</u> <u>チャッタノ</u> 。(自-v男4:7-11)		
3・9 STHRZ						
THRSZ	×	● <u>ソシテ</u> <u>オバアサンガ</u> <u>カワニ</u> 〔 <u>で</u> 〕 <u>オセンタク</u> <u>シテル</u> <u>トキ</u> <u>ネ</u> <u>カワカラ</u> <u>ドンブリコトネ</u> <u>モモガ</u> <u>ワレテ</u> <u>キタンダヨネ</u> 。 (自-A女6:5-29)		● <u>オバケガネー</u> <u>ヨルニ</u> <u>ナッタ</u> <u>トキネー</u> <u>ムコウカラ</u> <u>サーツト</u> <u>キチャウ</u> 。(小-村男4:9-10)		
TSRHHZ	1	○ <u>サイシヨネー</u> <u>ムカシネー</u> <u>ウル</u> <u>イ</u> <u>オジイサント</u> <u>ヨイ</u> <u>オジイ</u> <u>サンガネー</u> <u>フ</u> <u>ヒトリズツネー</u> <u>クビニ</u> <u>オオキイ</u> <u>コアラ</u> <u>ココ</u> <u>ニ</u> <u>クツツケ</u> 〔 <u>て</u> 〕 <u>タノネ</u> 。(注) (赤-w男6:3-21)				(注)時の対 応のおかし いものがあ る。

3-10 SQZ	4	○ソイデネ カメサンガ「 <u>イットウシヨウ</u> 」 <u>ツテ</u> イッタノ。(自-v 男5:7-15)	3	○クマガネー「 <u>カケッコラ</u> 」 <u>シテ</u> <u>ネー</u> <u>アソボウ</u> 」 <u>ツテ</u> <u>ユッタノ</u> 。(赤-r 女4:10-11)	7	○ウタハネー「 <u>セブン</u> 」 <u>セブン</u> 」 <u>テ</u> (アウ)。(神-秋男3:11-8) ○クマガ <u>ネジユミラ</u> <u>タバヨウト</u> <u>オモッタノ</u> 。(神-宮男3:8-12)
QSZ	2	○ソンデー「 <u>ドウイウ</u> 」 <u>ナマエニ</u> <u>シマスカ?</u> 」 <u>ツテ</u> <u>オバアサン</u> <u>ユッタ</u> 」 <u>ン</u> <u>ダツテ</u> 。(自-u 女6:5-18)	1	○ソイカラ「 <u>イタイ</u> 」 <u>ゴメン</u> 」 <u>ゴ</u> <u>メン</u> 」 <u>テ</u> <u>ネ</u> <u>オジサンガ</u> <u>イッテ</u> <u>ンノ</u> 。(自-t 男5:3-19)	8	○「 <u>イッタイ</u> 」 <u>センタイ</u> <u>ナニ</u> <u>モノ</u> <u>ダ</u> 」 <u>ト</u> <u>オッキイ</u> <u>ヤギガ</u> <u>イイ</u> <u>マチタ</u> 」。 <u>【物語、数は同一人】</u> (神-古男4:5-26)
3-11 SHQZ	2	○ボクト〔 <u>たちは</u> 〕 <u>センセイニ</u> 「 <u>サンバカ</u> 」 <u>タイシヨウ</u> 」 <u>ツテ</u> <u>イワ</u> <u>レタノ</u> 。(自-b 男6:0-12)				
	1	○ボクネ <u>アソボウ</u> 」 <u>グヤサン</u> 」 <u>テ</u> <u>ホ</u> <u>ン</u> <u>カオウト</u> <u>オモッタ</u> 」 <u>ン</u> <u>ダヨ</u> <u>ネ</u> 。(自-b 男6:0-15)				
3-12 SRQZ	1	○ソノ <u>ヒト</u> <u>イツモ</u> 「 <u>チッチャン</u> 」 <u>ガ</u> <u>キター</u> 」 <u>ン</u> <u>ツテ</u> <u>イッテンノ</u> 。(赤-f 女5:9-9)				
SQRZ						
QSRZ					1	○ソイデネー「 <u>ダメー</u> 」 <u>ツテ</u> <u>ネー</u> <u>オオカミガ</u> <u>オコツテ</u> <u>ユッタ</u> <u>ノ</u> 。(小-神女4:1-14)

3・13 SRHQZ			<ul style="list-style-type: none"> <li>● オカアサンハネ イツツモネ オミセデネ 「カレーライス イツチヨウ」トカ イウノ。(神-松女4:8-3)</li> <li>● クミチャン ヨク ママニ 「オモチャダイジンダ」ナンテ イワレルヨ。(小-山中女5:0-21)</li> <li>● ボク オウサデ イツモ ウネ 「ウンドウカイ シヨウヨ」ツチイウノ。(赤-b男5:6-4)</li> </ul>		
3・14 TSQZ			<ul style="list-style-type: none"> <li>1 ○ ハジメネ ウサギガネ 「カケッコシヨウ」ツチ イッタノ。(赤-f女4:10-9)</li> </ul>		
3・15 TSHQZ				1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ テ アレネ タケトネ ボク サイショハネ ボクネ アレネ アノヒトダト オモツチャッタ。(神-三男4:0-25)</li> </ul>
3・16 SYZ			<ul style="list-style-type: none"> <li>2 ○ オトウサン コウツウジコデ シンジャッタノ。(自-f女4:9-1)</li> <li>● ボクガネ カイシヤン トコマデムカエニ イクノ。(神-遠男5:1-24)</li> </ul>		
SHYZ	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ オトウサンガネー ナンカ カイニ イッタノネー。(赤-o女6:1-20)</li> <li>○ オトウチャンネ テレビネ ナオシニ イツチャウノ。(自-e女5:7-3)</li> </ul>			
SYHZ			<ul style="list-style-type: none"> <li>1 ○ オカアサンハネ オ(ツ)トメデネ ビョウイン イッチェンノ。(自-i男5:5-2)</li> </ul>		

SRYZ		●ママガネ モウ ムカエニ キテ クレルノ。(小-川男4:10-16)			
TSHHYZ	1	○アルヒ コドモガネ オハナニ ミズヲ カケニ キタンダッテ。 (自-h女5:7-14)		1	○サイショハネ クサヲネ オオキ イ ヤギト チビヤギノ ガラガ ラドンガネ ヤマニネ ナンカ ハツバ タベニ イクノ。(物語] (神-三男4:0-42)

### 2.3-4 題目語をもつ構文

年齢別 用例 文構造	用 例				用 例 数	備 考
	年 長 (赤羽・自由)	年 中 (赤羽・自由)	年 少 (神谷・小川)	用 例 数		
4-1 題目語 のあるもの [S]SZ Z		●コレ オハナガ タオレタ。(小 -極男4:3-12)		2	○エムゼーゴーッテネ(というお話 は)イロンナ モンガ デルン ダヨ。(小-福男4:2-9) ○キャブテンウルトラノ オハナシ ハネ ボロボロカイジユウダッテ デル。(神-高男4:4-15) ○コレネ カメガ ウチャギ ミツ ケタノ。(神-秋男3:11-14)	
[S]SHZ Z	4	○コレハネ ウサギサンガネ カメ ヲ ウタグッチャッタノネ。(赤 -t男6:0-20) ○バビーンッテネ(というお話は)ニ ンゲンガ ロボットニ ナルノ。 (自-i男6:4-8)	2	○コレネ ウサギト カメトネ カ ケッコ シテルノ。(赤-d男5:4 -13) ○オモシロイ トコネー マンガガ ネ シンブアンニ ツイテル ト コ。(自-t男5:3-16) ●コレハネ クマガ ネジュミヲ オイカケテ(イル)トコ。(自-q男 5:4-12) ●ソイカラ コッチハネ カメノ ホウガ ジーット (はっきりしな	2	○ウルトラチェアブアンハ[の話は]ダ ンガネ ウルトラチェアブア ンノ。(神-大男3:11-8)
[S]SRZ Z						

<u>SHQZ</u> Z			い] ヨソミ シナガラ ノボツ テッタノ。(赤-b 男5:6-11)	1	○コレ オオカミネ ヒネ 「アツ イ アツイ」ツテ ヤッテンノ。 〔言ってるんのに〕(小-矢女4:0-16)
<u>TSZ</u> Z	●コレハ ハジメ ネジュミト ク マガ イタノ。(自-C 男5:11-11)				
<u>(S) HZ</u> Z	1 ○コッチハ〔二匹が〕タタカイ ス ルトコ。(はっきりにない) (自-P 男5:6-11)			1	○コレハネ [人が] トラックデネ スナヲ ハコブノ。(神-折女4:3 -14)
<u>(S) HHZ</u> Z				1	○コノ オハナシハ [男の子が] シヤワーデ オハナニ ミズ カ ケタノ。(神-鈴男3:6-12)
<u>(S) RRZ</u> Z				1	○シヌッデネ コウ ヤツテ コウ ヤツテ シヌ コト。(神-場男3: 10-3)
4・2 題目語の ないもの <input type="checkbox"/> <u>SZ</u> Z			1 ○〔これは〕ライオンガネ カンガ エテル トコ。(赤-s 男5:6-14)		

## 第3章 幼児の複文の構造と用法

幼児の複文の構造と用法をみていく場合いろいろの方法が考えられる。その方法がすぐれたものであるかどうかによって、見えるところも見えなくなる恐れがある。ここでは一応次のような方法で考えてみたが、問題が多く残っている。まず大きく三つに分ける。

- 1 一つの接続助詞によって文が成立している場合
- 2 二つ以上の接続助詞によって文が成立している場合
- 3 接続助詞「たり」「し」をもつ文

1の中を1.1 主語一つからなるもの、1.2 主語二つからなるもの、1.3 題目語をもつもの、と三つに分け、それぞれを、主語のあるもの、主語のあらわれていないもの、に分けた。また、下位分類として、接続助詞によって分類し、「て」は使用が多いので特に意味分類を試みた。

2については、2.1 一つの主語からなるもの、2.2 二つの主語からなるもの、2.3 三つの主語からなるもの、2.4 四つの主語からなるもの、2.5 五つの主語からなるもの、2.6 題目語をもつ文 2.7 その他の構造からなる文、2.8 不明文と分けて概観してみた。

3は前者1,2と質がちがうように見えるが、この二つの接続助詞は並べて述べるところに用いられ、「て」の意味する内容のうちの並列の意と似ている。この構造は単文と複文の1,2の三つの文構造のいずれにもかかわるので、どこに属させるとよいか迷い、第3の分類をたててここに入れた。「たり」が文の一部にある場合は文内部のこととして、3で扱うとともに、複文1,2及び単文のところでも扱ってある。

このように分類してみた場合、幼児の複文の構造にはどのような特色がみられるか、また、年齢的にはどのような発達があるか、用例をあげながらみていくことにする。用例は章末にあげた。「単文の構造」で述べた用例のあげ方と同じである。使用数もあげておいた。

1の一つの接続助詞によって文が成立している場合と、2の二つ以上の接続助詞によって文が成立している場合とを比較すると、この調査の場合、年少、年中は1の一つの接続助詞をもつ文が年長より多く、年長は、2の二つ以上の接続助詞をもつ文が年中、年少より多く、なっていた。特に年少は前者1のほうが圧倒的に多い。まだ複雑な長い文は話せないであろう。以下くわしくみていくことにする。

### 3.1 一つの接続助詞によって文が成立している場合

#### 3.1-1 主語一つからなる構文 (SZZ 文)

これは『話型2』で複合構文と名づけているものに近い。単位文が複合された構文である。この中には1-1.1 主語のあるもの 1-1.2 主語のあらわれていないもの の二種類があるが、主語をきちんと使っている構造より、主語を使わないで話す構造が年齢を問わず多い。

どのような接続助詞を使っているかでは、主語のあるなしにかかわらず次のようである。用例は章末にあげた。

原因や理由をあらわす「から」「ので」、仮定をあらわす「たら」「と」「ば」、逆接、否定をあらわす

「けど」「ても」「たって」「のに」「じゃなくて」その他、及び「て」が使用されている。このうちよく使用されているのは「て」「から」「たら」「けど」の順である。「から」は年少に少なく、「たら」のほうが多い。「けど」は年中、年少には少なく、年長がよく使っている。「て」はともに多い。「ので」「ても」は少なく、「ても」は年中に用例がなかった。「ても」を使わなければならないところを「て」ですませている誤用もみられた。「単文の構造と用法」のところでもみた。「のに」はSZZの構文の場合どの年齢にもこの調査の場合みられなかった。「のに」を使うところを「て」ですませている例が年中にみられた。

幼児は文を接続する場合「て」をよく使用する。「て」の使用数は、他の接続助詞を合わせたものと年長ではほぼ同じぐらい。年中、年少では「て」を用いるほうが多い。年長児程も使用している。つまり他の接続助詞の使用が少ないのである。「て」についてはどのような意味で使用しているかを調べてみた。「て」は、先行、理由、目的、場所、状況、状態、様子、方法・手段、並列、引用等の意味に使っている。(もっと分類できるかもしれないが、今はこの中に含めた。)

このように分けてみると、「て」の前の部分が「て」のあとの部分より時間的に先に行なわれているという意味の先行の用例が多くなっている。場所、状態、方法・手段をあらわしている用例も年齢を問わず使われている。

理由の意の「て」はここでは少ないが接続助詞「ので」がよく使えないために「て」ですませているという場合もみられる。

主語の使われていない文が非常に多いが、この場合の主語は話し手「わたしやぼく」である場合がほとんどである。<sup>(注)</sup>それに天候や時の場合もある。

その他「て」で接続されている構文に主語のくりかえしがみられた。「SZSZ」となっているのである。「SZZ」の形式とみた。年齢を問わずみられた。たとえば、次のようである。

○オバケガ デテ キテネ、オバケガ イタズラ スルノ。(赤長-a男5:11-11)

○ソノ ツギニ カメガ イチバン ウエ(へ)ノボッテ イッテ、カメノ カチナノ。(赤中-i女5:3-16)

○ママ カイシャ イッテネ、ママハネ ソイデ ベンキョウ シテンノ。(小少-長男3:5-2)

幼児の発想として、時間的順序で述べないと話がすすまないという、表現するとすれば「行動型思考」とも名づけられるような思考のあらわれで、前文の述語の動詞が「来て」「行って」となって、

(注) 三上章『文法小論集』(1970・くろしお出版)の中で「省略の法則」(155ページ)として次の例があがっている。

- 主題何々には次の文まで勢力を及ぼすから、第2文以下が略される。
  - 前文で注意の焦点にあった名詞。
  - 条件句が主題を形成する場合。
  - 話手と相手の眼前のもの。
- などと、また、無主格文の種類をあげている。
- 時の副詞句+デアル。
  - 時間、寒暖、距離を表わすとき。
  - ~ニナルの形は主格(時が、気温が、状態が、事態が)を欠く。
- などと。

次に、主語のくりかえしがくるといふ構文になっているのではなからうか。行動にともなつてことばが話されるのである。

### 3.1-2 主語二つからなる構文 (SZ/SZ 文)

この構造は『話型2』で付加構文と名づけているもので、単位文が付加され、のちの主文に対して、従属文を形成している構文である。主語のあるなしからみると、四つの文の可能性が考えられる。つまり両方の文に主語があるものとないもの、前文（以下従属文という）に主語があつて、後文（以下主文という）に主語がないものがある。年長ほどの構文もよく使っているが、全体から見ると、この構文は年長より年中のほうがよく用いている。また、年齢を問わず主語のあらわれていない構文をよく用いる。

どのような接続助詞がよく使用されているかをみると、やはり「から」「たら」で、「ので」「けど」「ても」は少ない。ここでは「のに」が少ないが使用されていた。「て」の使用は「SZZ」の構文と同様、年中、年少とも多い。「て」をみると、両方の文ともに主語のあるSZ/SZの構造によく使い、両方の文ともに主語のない構造と前部分に主語のない構造に少ない。意味的にみると、従属文は理由、状況、並列が多い。誤まつた使用の例もある。

### 3.1-3 題目語をもつ構文

絵の説明をする場合に「この絵は」の意で、「これは」と言ったり、テレビの題をあげて、それを説明するというもので、題目語をまずあげて、ついで主語のあらわれる構造である。単文の構造のところでもみた。この中には題目語のあらわれているものと、題目語があらわれてなくて、文末が「ところ」「こと」で終わったり、「話なの」という形式で終わっているものがある。また、

題目語はあつて、主語のない構造もある。接続助詞は「から」「たら」「て」などをもつ構造があるが使用数は少ない。しかし、年齢を問わず使っている。

接続助詞の種類と使用数

	年 長	年 中	年 少
から	50	47	12
ので	4	3	2
たら	33	46	33
と	14	10	9
ば	6	2	3
けど	32	7	8
ても	3	0	3
たつて	3	2	4
のに	1	0	0
て	95	94	85
じゃなくて	2	0	0
ないで	1	4	2
中止形	4	0	0
誤用	12	5	8

(注) 中止形も入れた。

ここで、幼児の使用した一つの接続助詞よりなる構文の場合の助詞の種類と、年齢による使用数を表にしてあげておく。接続助詞とはいえませんが、中止形を参考までに入れておいた。(別表参照)

「て」を一番よく用い、ついで「から」「たら」「と」という順である。ただし、年中では「から」と「たら」が同数、年少では「から」が少なくなっている。年少では前後の文を理由づけることをせず、「て」で状況を説明するという表現をとっているため、前後の文を関連づけて論理的に述べることが十分にできないためのようである。しかし、二つ以上の接続助詞よりなる文の接続助詞についての分析(後出)がなされていないので、接続助詞一般がこうだとは、この表からだけでは言えない。

不整表現とか意味不明文(録音の一部聞きとりにくかつた文)について述べなかつたが、そういう構文もあ

る。年少45と多い。ついで年中21, 年長6である。たとえば次のようである。一例ずつあげる。

○ソイデネ ネジュミヲネ オコイダチテ クマガ オコリダッタノ。(神少-大男3:11-12)

○ソシタラネ アマリ ハヤスギテネ デンシャガ イクノ。(赤中-f女4:10-7)

○ウチデ ヨンカイデネ ミナチャンテ イウ コトネ マキチャンテ イウ コト ヨンカイダケドネ ソノ ベランダヨリ ムコウニネ スグネ アサニネ イルノ。(赤長-k女6:2-12)

### 3.2 二つ以上の接続助詞によって文が成立している場合

これも、主語がいくつあるかによって分けてみた。

①一つの主語からなる構文 ②二つの主語からなる構文 ③三つの主語からなる構文 ④四つの主語からなる構文 ⑤五つの主語からなる構文 ⑥題目語をもつ構文 ⑦その他の構造からなる文 ⑧不明文

このように分類した幼児の用例は「一つの接続助詞によって文が成立している」用例に続いて章末に備考をつけてあげてあるが、少し解説をしておく。

#### 3.2-1 主語一つからなる構文

これは、主語一つからなるが、接続助詞は二つ以上もつものである。前に述べた「SZZ」の構造の複雑になったもので『話型2』の複合構文に当ろう。

この中は、主語のあるもの、主語のないもの<sup>(注)</sup>の二種に分けた。そうすると、主語のない構造が一番多く、年長で特に多かった。

用法をみると状況を述べ説明するというのと、時間的順序でできごとを述べるというものが年齢を問わず多かった。理由、原因を述べる用法は少なく、仮定の意で使っているのも少ない。

#### 3.2-2 主語二つからなる構文

これは、二つの接続助詞よりなる文が、主文、従属文のいずれかにある構文で、付加構文と複合構文の合体したものである。「SZ/SZZ」, 「SZZ/SZ」の両方の組み合わせがある。

この構造は、年齢を問わずよく使われる。やはり主語のあらわれていない構造をよく使っている。また、主文がSZZになっている構文が、従属文(前の部分)がSZZになっている構文よりよく使っている。両方がSZZの構文は年少に一例みられたのみである。文がより複雑になるからだろう。年中は三例である。意味的な使われ方をみると、従属文が主文の理由の意より状況を説明するとか、結果の前提とかの用い方が多い。しかし、理由、仮定的用法も使ってはいる。

#### 3.2-3 主語三つからなる構文

三つの主語からなる構文および四つの主語、五つの主語からなる構文は、層的に単位文が重なっているのので、従属文+主文の構造が次の主文の従属文になったりというふうで、平面で示すのはむずかしいが斜線を多く引くことによって表わしてみた。(使用例参照)

---

(注)『話型2』の中では複合構文、付加構文については、ここで述べるような方法では分析を試みていないので、厳密には用語の概念がちがっているかもしれない。

この構造では前の部分が「～て～て」という時間的順序で絵のコマを追って述べる状況説明の文が多くなっている。原因や理由も「ので」「たら」「から」などという接続助詞を使わないで「て」で述べるという形式もみられる。用例ではかぎっこをして接続助詞を補っておいだ。誤用が多い。接続助詞の数が増すにともなって誤用も多くなっている。この構造では三つとも主語のある形式を年長はよく使っている。SZ部分が複合構文SZZとなる構造が年長にはみられた。第1の単位文の主語と第3の単位文の主語が同じという構文もみられた。

その他、三つの主語をもつ構文にみられる構造は次のようである。従属文が条件とか、理由になって、以下の二つの主語からなる主文が生じたという文は、年少になく、年長、年中にみられた。ついで、最初の文が状況説明で、SZZの構文をもち、中間の文が最後の文の条件とか理由になっている構造で、これも年長、年中だけで、年少にはみられなかった。使用例も少ない。

### 3.2-4 主語四つからなる構文

四つの単位文ともなると、単位文の組み合わせでできる文の可能性は、主語のあるなしなども問題にすると、16あるということになる。幼児が用いた中では、前三つの単位文が付加構文となって、できごとの時間的順序、理由、原因の意味を表わしている場合が年齢を問わず多い。この中を分けると、最初の単位文と第3番目の単位文の主語が第2の主語と第4の主語と等しいという構造をよく使う。第1の主語と第4の主語が同じという構造は年少にはみられなかった。その他、前三つの文をあと一つの単位文がまとめるという構文も年長に二例ある。主語四つからなる構文では、その他、前二つの文が状況を表わし、のちが原因、結果になっている構文、前の文が理由と結果で、それがまたのちの二文の理由になっているというような構文もあり、だんだん文構造が複雑になってくる。用例も少なくなる。その他、前の文が状況説明、中間の二つの文が最後の文の条件になっているという構文。これは年長、年中に一例ずつ。前の一つの文で状況を説明し、のちの三つの単位文でできごとを述べるという構文もある。年長にみられた。

### 3.2-5 主語五つからなる構文

これはもっと複雑な構文で、年少は用いていない。四つの構文の形式がみられた。

主語六つからなる構文もあったが、「その他の構造からなる文」(後出)に入れた。

### 3.2-6 題目語をもつ構文

これは、前に出た題目語をもつ文と同様に絵を「これは」と指したり、テレビの漫画の内容を話す構造で、述語の部分が二つ以上の接続助詞によってつながっている複雑な構文である。年少に少ない。

### 3.2-7 その他の構造からなる文

ここは六つに分けた。そのうち、

#### ① 文中に主語をもつ節の含まれる文

これは  $SZ \frac{SZ}{Z} ZZ$  の構文となる主語一つからなる文と、 $SZ \frac{SZ}{Z} Z/SZ$  のような構文となる主語二つ以上からなる構文の二つに分けられる。年少にみられなかった。年中の用例も少ない。

#### ② 提示的単位文をもつ文

これは、「～という」という構文を前文にもつ特殊な構文なので用例が少ない。このような言い方を覚えると、それが話しぐせとなる場合もある。

### ③ 一文で話そうとして「～て～て」となる文、他

～て～てとなる文は、時間的順序に並べて話すためにできる文で年齢を問わず幼児に多くみられる。しかし、年少は少ない。六つの主語あるいは七つの主語からなる文という項目をたてるとそこに入る文構造も便宜的にこの中に入れた。ここには内容が理解できるものを入れたが、長く続いたため文脈がそれたり、文の意味が理解できなくなった、のちに述べる2.7の「不明文」に入る構造には、この～て～ての形式をもつ構造の文が多い。

### ④ 会話文のはいる文

幼児に物語をさせると表のような直接話法形式の構文がみられる。主語がいくつあるかによってこれを分類しようとするときできないわけではないが、特殊なので別にとりあげた。年少の用例は次の「物語を一文で長く話す文」の項にもはいるそうである。おもしろい構文があったのであげておく。

○キョウハ カイスイギ ツレテ イッテ ヤロウト シテ「ハーイ」ッテ ユッ「ダメダメキガイ ナク(シマスワ)」「(不明) シナサイ」「オイオイ カミト ハンケチハ?」「アッワスレーター」「マダ マダ ゴアイサツヲ」「イッテマイリマス」「チェッ ツマンナイノ」「オイシイ ケーキガ ノコッタ テヲ アラッテ ( )」「イタダキマス」「クサッテルワ」「アー キョウハ カツヲチャント ワカメチャン オッコッチャッタノカモカ」(赤中-i 女5:3-11)

サザエさんのテレビについての話である。

### ⑤ 一つの物語を一文で話そうとして長文になったもの

年少は例の幼児(三男)ひとり、年中にはよい例がみられなかったので、補助資料から補った。このように長い文で話せるというのは一応発達ではあるが、文意識が幼児にないからともいえる。

### ⑥ 挿入文をもつ文

これには「でしょ」の挿入文をもつ文があるが年中が多く使っている。「だよ」の挿入文は年長が使っていて、年少の用例はみられない。単語や句を補足する挿入は、年齢を問わずあるが節を挿入する例は年少には見られない。挿入文全体についていえば、挿入の言い方を好む幼児がいて何回も使っている。のちに述べる補足文の構造と似て話しぐせもあるようだ。「だよ」を使用している自g女など一人で六文もこのような構文で話している。年中の「だよ」も同一児二例である。挿入が文中に入ると、挿入のあとの文が乱れ、統一のない文になりやすいようである。年少では挿入の構文は三男ひとりにのみみられた。

## 3.2-8 不明文

二つ以上の接続助詞をもつ長い文には、文の内容、つまり意味するところのはっきりしない文が多いので、不明文として特に用例を分類してあげた。一括してもよいのであるが、八種に分類してみた。互いに関連があるので、明確に分けられたとはいえないが、どのような不明文があるか、いくらかでもわかってほしい。

① 内容不明——漠然と内容のわかるものもあるが、これまでに分類した用例よりはわかりにくいものが多い。年長は年中、年少などに比べて、単位文を接続助詞でつないで、長い文で話しているのだから、話している文の中味が聞き手に理解できないという現象を呈している。

② ぐたぐた話して統一性なし——一文の中に三つ以上のことがらを入れて、「～て～て」でつないで話しているので、統一しない文がある。わかるようでわからないのが特色である。

③ 主語や補語がないため内容不明——幼児が話す内容を大人が前もって知らない場合にはその文が理解できないということが起こる。これまでにあげた例の中にもこのような主語、補語なしの文はあったが、大人が幼児の話す内容を知って補った場合である。

④ 構文はよいが内容のおかしい文——これは年長にはみられなかった。

⑤ 前後の文の関連性不明瞭——前文と後文との関係がなく、後文が前文とは全く別の話になっているものがある。②の統一性なしや⑥の文脈のそれとも関連がある。

⑥ 文脈のそれ——文末に近くなって、別の話になってくるもので、年齢を問わず同じくらいある。年長にはそれほど多くないということになる。

⑦ 絵に対する解釈ができていない——絵をみて話す話題があったが、その内容については幼児が絵をみて自分で理解する以外にない。その絵の理解がこちらの意図するものとひどくかけ離れている文をここに入れた。絵を逆にみて話した場合はここには入れなかった。

⑧ 録音の聞きとりにくい箇所をもつ文——録音した幼児の話しことばを文字化したものが、この調査研究の資料になっているが、幼児の声が小さかったりして、文字化できなかった箇所のある文をここに入れた。年少児に多くみられた。

### 3.3 接続助詞たり、しをもつ文

これは前に、ここに取りあげた理由を述べたが、単文の構造と複文の構造の両方に関係するので、分けて用例をあげないで、ここにひとまとめにして取りあげた。並べて述べる接続助詞である。くわしくは章末の用例を見ていただくことにして、「～したりしてあそぶ」という場合「して」を省略する形式とか、「～たり～たり」の一方が欠けていたりする構文がある。前者は、年中に一例のみで、年少にはなく、このような構文は年長しか用いないようである。また、大部分の幼児は「～たり～たり～たり」という構文で表現するところを、「～て～て～て」という表現ですましているようである。

「し」については、年少では文末に用いる用例のみであった。「～し～し～し～」という表現は年長ひとりのみであった。このような表現を用いないで、幼児は「～て～て」で表現するのである。

### 3.4 まとめ

このような分類のしかたで大人の複文を分析した研究がないので比較できないが、筆者の話し方を大人のモデルとして自省しながら幼児の構文を考察してみると、幼児の特色として次のようなことがいえるように思われる。

(1) 接続助詞の使い方の誤用がめだつ。なんでも「て」ですませる傾向がみられる。次のようである。

○ソイデ カメガ サキニ イッテネ 「ワーイワーイ」ユッテタラネ ウサギガ サマシテ チョット ウエマデ イツタラネ(けれど) カメノ カチダッタノ。(赤中—g女4:8—12)

○ハジメネ ライオンガネ 「エサハ ナイカナー」ッテ サガシテネ〔てたら〕 シマウマガ  
イタカラネ カケテ イッタノ。(赤長—c 男6:3—21)

前後の関連をつけることができないで、事実を事実のままに述べるという傾向がある。つまり、「て」で状況説明的に述べて、「から」「ので」などを使って理由として述べることができないのである。もう一例。

○ジャックガ オオイソギデ ニゲテネ キニ ツカマッテ ズーット オリテ イッテ ノコ  
ギリデ キッテネ〔たので〕 オオトコガ オッコッチャッタノ。(赤長—y 男5:7—11)  
(2) ~て~て~てでつないでいくつものことがらを一つの文として述べる傾向がある。これも前に述べたが、発達であるとともに、まだ文意識の確立ができていないからである。大人にも残っている人がいる。

(3) 一つの文の中に主語をもつ節を含む複雑な文構造は、年長児のしかも特別の幼児のみが使用して、他は(S)ZZ~Z形式とか、SZ/SZZ, SZSZ/SZ文で話すか、不明文を話している。四文、五文の単位文からなる文は年少児ではほとんど使えない。年少児は一つの接続助詞よりなる文が多く、二つ以上の接続助詞よりなる文が少ないこともそのあらわれである。

(4) 幼児は話す場合に時間的順序で、しかも、行動したままを話して、端折って話すということができない。たとえば、

○タクシーノ ドアガ アイテネ デ ママガ ノッテ~ (赤長—p 女6:2—8)

○オマツリニ イッタラネ ワタアメガ アツタカラ カッテネ ソレカラ イッテネ~ (自長—c 男6:3—1)

下線の部分である。大人ならもっと簡潔に話せるところである。この種の例は多い。前にも幼児の行動型思考性について述べた。

(5) 文末のところとも関係するが、時の対応のまちがいが多い。

○ユメミタラネ モモタロシャンガネ ボクンチノネ トー アケテ キテルヨ。〔来てたよ〕  
(神中—渡男4:6—13)

○ヨウチエンノ コドモガネ 「アソビマショウ ライオンサン」ッテ ユツタラ シマウマ  
ガ ワラッテタノ。〔笑ったの〕(赤長—h 女6:6—11)

(6) 次のような表現のしかたもある。家族のことを聞く質問で、「何人いるの?」という問に対する答。

○フミエチャン ヒトリトネ ソイカラネ オカアサンネ オカアサン ヒトリデネ ソイデ  
ハルコチャンモ ヒトリデネ ソイカラ オバアチャンモ ヒトリデ アンチャンハ ヒト  
リデネ ソイカラネ マユミチャンモ ヒトリデネ ケイチャンモ ヒトリ。(自長—e 女  
5:7—1)

何人という質問者の質問にこだわったのか、かわった表現である。

六つの例をあげたが、このような側面から幼児の文の形式と用法をみていくことも可能である。今度の研究では幼児の文構造の概観を巨視的に調べることをまず第一の目的としたので、細かいところまで分析することができなかった。今後の研究課題にしたい。

複文の構造と年齢別による使用数を一覧にしておく。(別表参照)

複文の構造と年齢別使用数

		構 造	年 長	年 中	年 少
一つの接続助詞によって 文が成立している場合	主語一つから なる構文	SZZ	46	43	36
		(S)ZZ	100	52	57
	主語二つから なる構文	SZ/SZ	32	44	28
		Sのあらわれていないもの	76	75	42
	題目語を もつ構文	題目語のあるもの	3	4	3
		題目語のないもの	3	2	3
二つ以上の接続助詞によって文が成立している場合	主語一つから なる構文	SZ~/Z	8	6	8
		(S)Z~/Z	33	12	7
	主語二つから なる構文	SZ/SZZ	10	5	7
		Sのあらわれていないもの	19	10	4
		SZZ/SZ	4	2	5
		Sのあらわれていないもの	6	5	1
		SZZ/SZZ	4	2	1
		Sのあらわれていないもの	5	1	
	主語三つから なる構文	SZSZ/SZ	19	6	2
		Sのあらわれていないもの	28	8	5
		SZ/SZSZ	6	6	
		Sのあらわれていないもの	1		
		SZZ/SZSZ	3	2	
	主語四つから なる構文	Sのあらわれていないもの	1	1	
		SZSZSZ/SZ	16	10	3
		SZSZ/SZSZ	3	1	
		SZ/SZSZSZ	2	1	
	主語五つから なる構文	SZSZSZ/SZSZ		1	
		SZ/SZSZSZ/SZ	1		
		SZ/SZSZ/SZSZ	3	1	
	題目語を もつ構文	SZSZ/SZ/SZSZ	2	1	
		題目語のあるもの	7	4	1
	その他の構造 からなる文	題目語のないもの	8	6	1
		文中に主語をもつ節の含まれる文	11	1	
		提示的単位文をもつ文	1	1	1
		一文で話そうとして「～て～て」となる文, 他	14	8	3
		会話文のはいる文	3	4	
	一つの物語を一文で話そうとして 長文になったもの	5		1	

	挿入文をもつ文	24	16	3
不明文	内容不明	49	27	17
	ごたごた話して統一性なし	9	1	3
	主語や補語のないため内容不明	7	1	3
	構文はよいが内容のおかしい文		4	1
	前後の文の関連性不明瞭	3		4
	文脈のそれ	7	10	7
	絵に対する解釈ができていない文	5	2	4
	録音の聞きとりにくい箇所をもつ文	9	3	14
接続助詞たり, しをもつ文	～たり～たりをもつ文	52	5	15
	～し～しをもつ文	5	6	2

幼児の複文構造の使用例

I 一つの接続助詞によって文が成立している場合

S = 主語(主部) Z = 述語(述部) ( ) = 録音不明瞭 ( ) = 補注

年齢別 文構造	用 例			備 考
	年 長 (赤羽・自由)	年 中 (赤羽・自由)	年 少 (神谷・小川)	
1-1 主語一つからなる構文				
1-1.1 主語のあるもの				
SZZ	○ボク モウ オウキイカラネ ソウユウ ノハ アマリ キカナイカラネ。(赤-t 男6:0-17)	○ライオンガ(は) シマワマ ミツケタカラネ オイカケタ オイカケヨウト オモッタノ。(赤-s 男5:6-15)	○(ミ)デネ クマガ ネズミネ キライダカラネ ダカラネ(注) (ホ) エツケテンノ。(小-矢女4:0-13)	原因,理由,時をあらわす。(順接)(注) 第6章 参照
～ので	○ウサギハ ツカレタノデ トチュウデネテ シマイマシタ。(赤-p 女6:2-15)	○オトウサマハ イツモネ オヤクシヨカラ カエツテ キタラ ネタリ スルヨ一。(赤-b 男5:6-2)	○ズーット マエ カッタ(買)ノデネ タカアイノ。(小-佐男4:3-4)	原因,理由をあらわす。(順接)
～たら	○セミ ツカマエタト シタラサ コンチュウ シチャウングダ。ボク;〔補足〕(赤-m 男5:10-9)	○モシカ リス〔組〕ガ アカダッタラ ソシタラ アカノ カチッテ ヤンノ。(赤-u 男5:6-4)	○ボク オオキク ナツタラ フェ カツテ モラウングダ。(小-佐男4:3-15)	仮定,時をあらわす。(順接)
～と	○ジドウシャ(ノ), シャー ジドウシャガ シャヨコッチニ コッチニ マガルト ポーシッテ アツカッチャウノ。(自-k 男4:8-8)			仮定,時をあらわす。「たら」や「ば」より結びつきが強い
～ば			○ショウガッコウ(は) コノネー ヨウチエン カラネー カズオチヤンチノ	仮定,時をあらわす。

～けど [4][2][2]	○ボクネ ナツヤスミジュウニネ コンナ アツイ ホン ミンナ ヨンジャオウト オモッタケト ヨメナカッタノ。(赤-t 男6:0-14)	○セミハハネ キョウノ ニチヨウビハ イキテルケドネ コノ ツギノ ニチヨウビハ シンデンノ。(自-t 男5:3-27)	ホウカラネ ズーット イケバナ アル。(はっきりしない)(神-寺男4:4-5) ○(ソ)イカラ カメサンモ ノロウト シマシタケト オッコッチャウマシタ。(小-佐男4:3-21)	あらわす。 (順接) 逆接
～ても [1][1][1]	○ソシタラ カメガネ[は] ノロクツテモ ウエマデ アガッチャッタノ。(赤-r 女5:10-4)	●ソシテネー ヨンバンメンノ オニイサンハネー ヒニ モヤシテモネー モエナイノ。(神-規男4:6-29)	逆接	
～ないで [1][2][1]	○セミ ソレカラネ ナンニモ タベナイデ ミツカシカ イキナイノ。(自-s 男5:9-8)	○ソレヲネ バビー ヤツツケル コト デキナイデネー オウチデネー カンガエテタノ。チキユウ:[補足](赤-f 女4:10-6)	否定順接	
～て [29][28][25]	○ソレデネー チッチャイ コガネー シカヲ ミツケテネー シカヲ カッタノネー。(赤-o 女6:1-21)	○ハバ イツモ カイシヤデネ ベンキョウトカネ ヤツツ ヨルニ カエツテクルノ。(赤-f 女4:10-1)	先行	
	○ダカラサ ウサギハ ツカレテ ネタンダツテ。(自-d 女5:11-27)	○デ コビトガネ ワルモン オモツテネ ユワイチヤッタノ。(赤-n 男5:2-7)	理由	
	○ウマガネ ネズミヲ タベヨウト シテネ クマガ [言いなおしか] オツカケテ イッタタンダツテ。(自-d 女5:11-30)	○ボウヤガネ オハナニ ミズヲ ヤロウト オモツテネ ジョロデネ シュツ シュツテ カケタノ。(赤-f 女4:10-12)	目的	
	○ボクナラ イナカ イッテ サンゼンエンモ モラツテ キタモン。(自-p 男5:6-1)	○ウインドウカイニ デテネ ボク イツチャクン ナッタノ。[語順](赤-t 男5:1-4)	場所	

<p>○ババ クルマ ウンテンシテテ マエヤッチャッタダ。(赤-0 女6:1-24)</p>	<p>○ソコニ マホウツカイノ オバアササガキテテネ「イカセテ アゲヨウ」トイッテネ イッタノ。(赤-p 女5:2-12)</p>	<p>○オニイチヤン フジバンヤサン イッテコンドハ ズット コナインダ。(神-三男4:0-4)</p>	<p>状況</p>
<p>○ソシタラ オハナハ マッスグニ ナツテケレイニ ナリマシタ。(赤-p 女6:2-16)</p>	<p>○デネ シンデレラハネ オネエサンノタンスカラネー アノ オネエサンノフクヲネ ヒロゲテ ミテ ナキダシチャッタデスツテ。(赤-p 女5:2-11)</p>	<p>○ソイデサー ジャイアントロボン トコノコウイウ マルイ トコガ (ボ)ヤーンツテ ハレ ハナレミサイルニ ナルヨ。(小-佐男4:3-17)</p>	<p>状態 状況との区別はそれほどはつきりしていない。 様子</p>
<p>●オクサマハ マジョハハ ママミタイナカコウウ シテテネ ソシテネエ マジョナノネ。(赤-L 女5:9-23)</p>	<p>○ソノ アイダニ カメササガ ノシノシト アルイテ イッテ コノ テッペンマデ イッチャッタノ。(赤-f 女4:10-11)</p>	<p>○ボウヤガ ナニカ ミズヲ クンデネオハナラネ(に) ヤッタノ。(先行とも)(神-大男3:11-11)</p>	<p>方法、手段</p>
<p>○ソイデネ カメハハネ ウサギ ネテルネウサギラネ(の) ソコロネ トコヲネ(の) マエヲ トオツテネ オヤマヘツイタンダツテ。(自-d 女5:11-28)</p>	<p>●オニイチヤンガ オカネ オカネヲイッバイ タメテ カッテ クレタノ。(神-桑女4:10-23)</p>	<p>●ウサギササガ「イタイ イタイ」ツテイッテ コロン(ダノ)。(赤-q 男4:1-7)</p>	<p>引用 「と違って」</p>
<p>○オチンキノ イイ アサ ヒトリノ ボウヤガ「ミズヲ オハナニ カケマシヨウ」ト ユツテ カケマシタ。(赤-s 男6:6-21)</p>	<p>○ソノ ウチネ カメササガネ 「イットウダー」ツテ イッテネ トコトコトコトコネ ノボッチャッタノ。オヤマニ(補足)(赤-r 女4:10-10)</p>	<p>○ウルトラマンハネ ナンニモ ナクツテネ(ても) トベンノ。(神-古男4:5-14)</p>	
<p>○ソレカラ ネ「オコシニ ツケテンノハナンデスカ」ツテ イウカラネ(言って)オサルモ モラッタ(ン)。(語順)(自-0 男6:3-9)</p>	<p>○サクラ チッチャイデネ(のに) ソイデサクラ 「オッキイヨー」ツテ イッテンノ。(小-谷男4:11-9)</p>	<p>○[おじいさんは] ビョウキデ ナンニモゴハンモ タベナイカラネ シンジャッタノ。(神-場男3:10-2)</p>	
<p>○[おかあさんは] ヨウサイノ センセイダカラネ イロンナ オヨウフクツクツテ クレル。(赤-p 女6:2-2)</p>	<p>○[おかあさんは] ハイシャサンノネ ハコ ツカッ ヤッテルカ(ン)ネ ヨン(読)デ クンナイノ。(自-1 男5:1-5)</p>		

誤用  
[2][1]

1-1.2 主語の  
あらわれて  
いないもの  
(S)ZZ  
～から  
[17][13]

～たら

[8][5][9]

○〔ぼくは〕アソッコカサスーッテ  
オリヨウトシタラネ オッコッチャ  
タノ。(自-1 男6:0-7)

～と

[2][4]

○〔ぼくは〕ナンカ(シュ)ルト スグ ニ  
ゲルノ。〔はっきりしない〕(自-b 男6:0  
-13)

～ば

[3][1][1]

○〔ぼくは〕オトナニ ナレバ コワクナ  
イヨ。(自-s 男5:9-13)

～けど

[22][2][3]

○〔ぼくは〕オトナノ ニュースハ ミナ  
イケドネ コドモノ ニュース ミル。  
(赤-t 男6:0-17)

～たつて

[2][1][1]

○〔ぼくは〕オフロ ハイナクツタッテ  
アツインダモン。(赤-w 男6:3-2)

～ても

[2][1][1]

○〔ぼくは〕オフロ ハイナクツタッテ  
アツインダモン。(赤-w 男6:3-2)

～ないで

[2][1][1]

○〔アトムは〕コドモジャクテネ ロボ  
ット。(自-e 女5:7-15)

～じゃなくて

[2][1][1] (注)

○〔わたしは〕ハチジハンニ ネテネ シ  
チジニ オキル。(赤-p 女6:2-7)

～て

[43][30][35]

○〔わたしは〕ハチジハンニ ネテネ シ  
チジニ オキル。(赤-p 女6:2-7)

◎〔ぼくは〕

オウチ カエツタラ カズ  
チャント マタ アソング。(自-c 男4:  
7-7)

○〔ぼくは〕オーキク ナツタラ ガッコ  
ウニ イキタイ。(神-寺男4:4-13)

○〔ぼくは〕カエッテ[み]ナイト ワカン  
ナイ。(神-高男4:4-19)

○〔わたしは〕オオキク ナツタラバネー  
オ ガッコウノ。〔中断?意味不明〕(小  
-藤女3:10-3)

○〔ぼくは〕キョウハ ミナイケドネ  
ズット マエ オジイチャンニ トマツ  
タ トキ ヒトリデネ オジイチャンチ  
イナカノ オジイチャンチ トマツ  
トキネ ユメ ミタ コトハ アル。(神  
-三男4:0-29)

●〔ユウセイカメンは〕ソイデ ガケカラ  
オッコチテモ シマ(な)ナイノ。(小-大  
男4:6-9)

○〔ぼくは〕ブツタッテネ オコラエナイ  
ヨ。(自-t 男5:3-8)

○〔おとうさんは〕カイシャ イカナイデ  
ネー キカイヲ ヤッテンノ。(自-s 男  
4:10-14)

○〔ぼくは〕(オ)ヨウフクトネ カバント  
ボウシヲネ キカエツネー オソト イ

○〔ぼくは〕タ(ベ)テ ソーシテネー ネ  
ルノ。(神-柿男3:7-2)

提示

(注)一応接  
続助詞とし  
た。

先行

<p>○〔わたしは〕ノロウトシテテラアゲタノ。(赤-p女6:2-18)</p> <p>○〔ぼくは〕ヨウチエンイッテテソボウヤツテタ。(自-o男6:3-4)</p> <p>○テネー〔二匹は?〕ドウロニテヨウトシテテネージドウシヤニハネラレチャッタノ。トラック;〔補足〕(赤-d男6:4-19)</p> <p>○〔チャコちゃんは〕モモトコミタイネアタマシテテネココニチヨシコウヤツテアラサガッテルチヨシマゲイッテルノ。(自-d女5:11-16)</p> <p>○〔わたしは〕オヤマツクツタリシテアソングノ。(赤-f女5:9-6)</p> <p>○〔わたしたちは〕オエキヲネーヤツテネーネンドモヤル。(赤-x女6:2-9)</p> <p>●〔わたしたちは〕ソレデ「ソダチマシヨウ」ツテユツテソダチタノネ。(赤-E女5:8-19)</p>	<p>クノ。(赤-n男5:2-2)</p> <p>●〔どろんごハリーは〕ソシテドウロコウジヲシテルトコロデアソビアソングドログラケニナリマシタ。(神-規男4:6-24)</p> <p>○〔わたしは〕オウチモツテイッテチュケルノ。(自-f女4:9-8)</p> <p>○〔ぼくは〕ババニオンブシテ〔されて〕カエリネムツチャッタノ。〔状況or理由?〕(自-s男4:10-1)</p> <p>●ソイデ〔ももたろうは〕オオキクナツテネハタラクヨウニナッタノ。(赤-l男4:8-8)</p> <p>●〔それは〕ピコピコツテユツテネソイデトブノ。(神-還男5:1-19)</p> <p>○〔わたしは〕オカネネーアツメテナシカカウノ。(自-f女4:9-10)</p> <p>●〔わたしたちは〕ソイデマンガフタツヤツウタモフターツヤンノ。(神-増女4:11-11)</p> <p>○ソイデネー〔わたしたちは〕「チョコレートカ(ッ)テタバヨウ」上イッテラユツユツテネーチョコレートヤ(申ヤ)ンニイッタノ。(自-j女4:7-4)</p>	<p>○〔ねずみは?〕コッカカカ(ケ)テネソイデコッカシ(ウ)カラ*レチャッタノ。〔意味はつきりしない〕(小-竹男4:1-8)</p> <p>○〔ぼくは〕コウラクエンイッテネオバオバケーネオバケオフネノツテキタノ。(神-高男4:4-4)</p> <p>○ソレデネー〔ロボタンは〕プロテプロペラモネチュケテネトベンノ。(神-古男4:5-11)</p> <p>○ソンテソンテ〔ねずみは〕「ポーン」トトンテトラックントコニキタノ。(神-場男3:10-16)</p> <p>○ソレデネ〔ぼくは〕カンガエテネミチュケンノ。(神-古男4:5-19)</p> <p>○ソイデネ〔おばあさんは〕「アーアークタピレタ」ツテネチャウノ。(小-原女3:7-21)</p>	<p>理由 *ラ不用</p> <p>目的</p> <p>場所</p> <p>状況</p> <p>状態</p> <p>様子</p> <p>方法、手段</p> <p>並列</p> <p>引用</p>
---	--	--	---

誤用

1

○(ほくは) キノウネ イツテモネ オヤ  
 スミ シテタラネ (してたときは?)  
 ケンチャンチ イッテタノ。(自-a 男4:  
 9-4)

○ヒロコネ アカチャン ヒト( )ニ  
カチャン ウマレッカラネ ヒロコ  
 トリジャナイノ。(はつきりしないが)(神  
 -佐女3:7-1)

1-2 主語二つからなる構文

1-2.1 SZ/SZ

○デモサー ボクガ サキニ ネムッ  
チャッテカラ オカアサンガ ハイッテ  
クル。(赤-w 男6:3-2)

○ダツテ ウシャギ ネチャツカラネ  
カメガ カツノ [かったの]。(自-i 男5:  
 5-8)

～ので

●ソウシタラネエ シマウマガネエ イツ  
バイ イルノデ ライオンハネーエ  
ビックリ シテネー ニゲテ イッタ  
 (ワケネ)。(赤-q 女5:2-14)

○ソレカラ ウサギガ メヲ サマシタラ  
モウ カメハ ツイテタ。(赤-p 女6:2  
 -15)

○ジケンガ アツタラネ イタンダヨ。  
 イテイー; (補足) (小-福男4:2-7)

～と

○ソイデネ ライオンガネ チョット ア  
ルイテ イクト シマウマガ イタノ。  
 (自-d 女5:11-24)

●ダゲドモネー ダイオンネー イッバイ  
シマウマガ アツマルトネー ダ[ラ]イ  
オンガ ヤラレルノ。(自-c 男4:7-12)

(注)年少ら  
しくはない表  
現。

～ば

○カメハ ノロイケドネ ウサギハ ピョ  
ンピョ ン ハネマス。(赤-s 男6:6-19)

○ボクノ アシネー オベンキョウノ  
ドウグガネ ミーチャン ユラストネ  
ドカーンツテ ミンナ オッコツテ ク  
ンダモン。(語順)(小-佐男4:3-13) (注)

～のに

○クマガネ ネズミニサ ソウダンシヨウ  
ト オモッタノニ ネ ネズミガネ デテ

●ウチ カラ (テレビ) ナイケドネー  
オモリノ オバアチャンチダ (ケ) カ  
ラー。(赤-a 女3:10-17)

(注)年中ではq女のみが「ので」「のに」を用いている。  
 (注)接続助詞とはいえないがここに入れた。  
 先行

理由  
 \*が不用

目的

状況

状態

並列

オトモダチ クロイノネ。(赤-q女5:2-12) (注)

イチヤツタ(ノ)。(赤-j女5:7-15)

●ソシタラ ウサギガ ソノ ヘンデネ  
 テ シマイ、カメガ サキニ イツテ  
 シマイマシタ。(赤-A女6:1-11)

中止形  
 (注)  
 3

○ミギノ ホウガネ エーグミデネ ヒダ  
 リノ ホウガ ビーグミダッタノ。(自-d女5:11-8)

～て  
 10 21 15

○ソイデネ イ イツカ オヒサマガ タ  
 イヨウガネ テツネ ダリヤ ヒライ  
 タノ。(自-d女5:11-30)

○キウチャンネ ヘリコプター ツクロ  
 ウト オモツテ キウウチャント ショ  
 ウチャンガ ネー ツクロウト シタン  
 ダヨネ。[ごたごた] (自-g女5:11-19)

○クサガ ハエテ イデネ ソコニ カエ  
 ルガ イルンダヨ。(自-k男5:8-4)

○ソイデネー オンナノ ホウガ ヨンカ  
 イ カツテネー オトコノ ホウガ  
 イ ヱカイ カッタノ。(自-j女5:7-5)

●ソノ シマウマネ ニゲテ イツテネ  
 ライオンガ オイツイタンダツテ。(赤-q女5:2-13)

○デ シ ヒトリ ネツネー カメサンガ  
 イットウ ナツチャッタノ。(自-l男5:1-10)

●ソイデネー ウサギサンガネー ネムツ  
 テネ カメサンガ ナンカ シテンノ。  
 (神-増女4:11-17)

○シテネ オハナガ ナガクツネー ソシ  
 テ ミミガ オニ オッキイノ。(自-s男4:10-3)

●ウサギガ コツチニ イデ ウウカ  
 メガ アルイテンノ。(赤-b男5:6-10)

○ソイデネ ライオンガネ ムコウニ イツ  
 テネ コレガネ ワガ\* ラツテンノ。(神-秋男3:11-13)

○ハックハネー コウ ナツテテネー テ  
 カラ (サ) ー テ ヒガ デテ クン  
 ノ。(神-高男4:4-15)

○ニンジャガ デテ キテネ クモガ テ  
 テ クンノ。(神-秋男3:11-10)

<p>●ヨルネ オトウサンガネ 「<u>ダメ</u>」ツテネ 「マンガ ミチャ <u>ダメ</u>」ツテ ユツ テネ アト オカアサン 「<u>チョ</u>ットグ ライ ミサシ ミサシテ アゲナサイ ヨ」ツテ ユウ (カラ)。(自-B男5:7-2)</p> <p>○ソイデネ カメサンガ テッペンマデ ノボツテネ(けれど) マダ ウサギサン ガ ノレ ノボレナカッタノ。(自-n男 6:5-19)</p> <p>○ゴジラハ ツヨイカラネ(けれど) ウル トラマン コンドモ マケナイヨ。(自 -s男5:9-19)</p> <p>○カメハネ(が) 「ウサギサン」テ ヨン ダラネ (のに) ウサギサンガ ドッカ イッチャッタノ。(はっきりしない) (赤 -j女5:7-14)</p>	<p>●ソウチデネ オミズヲネ オミズハ タ クチャン デテネ-(のに) ダレカ(も) モツ モツテナイノ。(神-村女3:6-8)</p>	<p>○チイ(チャ)イ ヤギガネ サキニ イッ テネ-(たら) ナン-カネ キミワルイ (トロル)ガ スンデ イタノ。(神-大男 3:11-13) (物語)</p>
<p>○ダケド モウ オカアサンヤ オトウサ ン モドツテ キタカラ (その話は) コンドデ オワリニ ナツチャウノ。(赤 -r女5:10-8)</p> <p>○ソシタラ アンマリ カメサンガ ノロ イノデネ (うざぎは) スコーシネ ネ チャッタノ。(赤-r女5:10-11)</p> <p>○ワルイ カイブツガ キタラネ (アト ムは) ヤツツケンノ。(自-e女5:7-16)</p>	<p>○タクシーナンカ コナカッタカラ (ぼ くたちは) バス ノツテ キチャッタ ノ。(自-s男4:10-4)</p> <p>○シマウマガネ カクレタンデネ (ライ オンは) タオレタ。(はっきりしない) (赤-s男5:6-15)</p> <p>○ワルイ モノガ キタラネ スグニ [ビッグエックスは] ヤク ヤツケル。 (自-h女4:7-6)</p>	<p>○アメ フツタカラ (ぼくは) オウチデ アソンデタノ。(小-佐男4:3-3)</p>

誤用  
[3][1]1-2.2 SZ/(S)Z  
~から  
[9][12][1]~ので  
[1][2]~たら  
[6][3][6]

～と

2 1 2

○ボクガネ ナニカ ゴハン タベナイト  
【おかあさんは】(シユ)グ オコロン  
ダモン。(自-b 男6:0-8)

○ダツテ ホンガ ナイト 【ほくは】ワ  
カンナインダモン。(赤-s 男5:6-11)

～けど

2 1 2

○ソレカラネー オトウサンガ イツモ  
ネー ミガイテルケドネー 【ほくは】  
ニチヨウビダケ トキドキネー ガラス  
ヲネー マドノ ガラスヲ フク トキ  
アル。オニイサント イッシヨニ;【補  
足】(赤-k 女6:2-6)

○エシヤ アツタケド 【きんぎよは】シ  
ンジャウンダヨ。(神-渡男4:6-22)

～でも

1 1 1

～たって

1 1 1

○ジ ナグツテモ 【ほくは】ヨメナイ。  
【わからないの意】(小-岸男3:11-8)

○……ソ(レ)デ ロボット キタツテ  
【パピーは】ヤツケラレルヨ。(赤-f  
女4:10-6)

中止形

1 1 1

○キョウガ オトウトノ オタンジョウビ  
デ コンド 【彼は】ヨツソ ナルノ。  
(赤-f 女5:9-7)

～て

9 11 3

○ニチヨウビハネ ニチヨウビハ 式 オ  
バアチャンガ キテネ オバアチャント  
オサンボンカ イッタ トキガ 【ほ  
くは】タノシカッタ。(赤-R 男5:11-4)

先行

○ソシテ ナンカガ タスケニ キテネ  
【ねずみは】ウエニ アガツチャッタ  
ノ。(赤-e 男4:1-7)

理由

理由

○イナカニネー ハタケニ トンボガ  
イッパイ イテネ 【ほくは】ツカマエ  
テ キタノ。(自-s 男4:10-6)

状況

状況

○アカチャンガ イテネ 【ほくは】ダツ  
コネ チタ コト アンノ。(神-大男3:

○ココジャ ナイネ ヨウチエニネー  
ハタグミガ イテネー 【わたしたちは】

<p>ルノ。(赤-0女6:1-15)</p> <p>⑤ ナンカ コスル モノガ アツテ (おばあさんは) キュキユキユト (オセンタク シテタノ)。(赤-L女5:9-14)</p>	<p>ソコヘネー チョットネー イッタノ。 (自-g女5:0-1)</p> <p>⑥ ソイデネ ヤネ (シ) ヤネ(ニ) ヤネ デネーエ ヤネニ アナ アイテテネー エ (人が) オソト テンダツテ。(小 -押女5:1-18)</p>	<p>11-3)</p>	<p>状態</p>
<p>⑥ ソシタネ ソシタラ ママガネ 「チョット アタシ ココデ オツカイ シテ クルヨ」ツテ イツテネ (わたし は) ヨウコチャント アソンデタノ。 (赤-L女5:9-8)</p>	<p>○ウサギガネー コ(コ)(デ) ネットネエ ソコ(デ) ヤマデ (かめが) ハタ ヤ ッテンノ。(はつきりしない)(自-s男4: 10-24)</p>	<p>◎ ライオンガ オッカケテ (しまうまが) ニゲテンノ。(赤-e男4:1-10)</p>	<p>並列 引用</p>
<p>○ナカナカ (ライオンが) オイツカナイ カラ ボウヤタチガ ワラッテルノ。(赤 -t男6:0-19)</p> <p>○ソウシタラ タイヨウデ ミズ (はっき</p>	<p>○ココカラ トラックガ キタラ[から] 〔二匹は〕 (シュ) モウ スコシデ シ カレソウダツタノ。(自-s男4:10-26)</p> <p>● ソイデ コンドハ オサルガ キテネ [から] (もまたろうは) キビダンゴ ヒトツ アゲタノ。(赤-1男4:8-9)</p>	<p>○ (男の子が) ミズヲ ヤンナカタカラ ネー カレチャッタノ。オハナガ;〔補 足〕(赤-r女4:10-11)</p>	<p>○ダイ オトコノ ヒトガネ ミズヲ オ ハナニ (お花が) カレ カレテルカラ カケテンノ。(語順)(神-寺男4:4-18)</p>
<p>誤用</p> <p>□□□□</p>	<p>1-2.3 (S)Z /SZ</p> <p>□□□□</p>	<p>~ので</p>	<p>~ので</p>

りしない] [男の子が] ミズヲ カケ タノデ オハナ キクノ ハナガ マッ スグニ タチマシタ。(赤-s 男6: 6-21)	○テ [男の子が] ミズ アケタララネ オ ハナガネ ゲンキンニ ナッタノ。(自-m 男6: 4-14)	○ンデ [カリバーが] オキテ メー サ マシタラネ コビトガ ニゲチキッタ ノ。(赤-n 男5: 2-7)	○ダッテー キョウサー, [ぼくが] オッ コトシタラサー ダレカ トッチャッタ ンダモン。(小-佐男4: 3-11)
○テ [男の子が] ミズ スコシツ ャッ テレバ ハナダッテ キレイニ サク。 (赤-w 男6: 3-30)	●ソシテ [ももたろうが] シバラク ア ルイテ イクト マタ サルガ キタ ノ。(赤-e 女4: 9-7)	○ソシテルトネ [ホン ヨン <sup>(テ)</sup> ア-ゲナイ] ッテ イウノ。[語順] (神 -佐女3: 7-19)	○センセイガネ [わたしたちが] オシヤ ベリシテルトネ [ホン ヨン <sup>(テ)</sup> ア-ゲナイ] ッテ イウノ。[語順] (神 -佐女3: 7-19)
○[男の子が] ミズヲ スコシツ ャッ テレバ ハナダッテ キレイニ サク。 (赤-w 男6: 3-30)	○テネー ソノ トキネー [ぼくは] オ ミコシ カツガ-ナカッタケド オサー ムダンガ カツイダノ。(自-g 女5: 0-1)	○スコシ [おまえが] マッテレバ オッ キイ ヤキノ ガラガラドンガ ヤッテ クル。(物語) (神-古男4: 5-26)	○ダカラ [ぼくが] チラカシテモ ダイ ジョウブナンダヨ。オジイチャンチハ; [補足] (神-三男4: 0-20)
○[ぼくは] ソウイウノモ スキダケドサ コノゴロ チョウガ イナイモン。(赤 -s 男6: 6-7)	●ズット マエダケドネ エイガデネ ナ ンダツケナ コイッテ イウノネ ウチ ノ オトウサンガネ エイガデ <sup>ニ</sup> ヤッタ ノ。(赤-q 女5: 2-3) (注)	○スコシ [おまえが] マッテレバ オッ キイ ヤキノ ガラガラドンガ ヤッテ クル。(物語) (神-古男4: 5-26)	○ダカラ [ぼくが] チラカシテモ ダイ ジョウブナンダヨ。オジイチャンチハ; [補足] (神-三男4: 0-20)
○ソシテモ プールガ ナイノ。[となりの おばさんが] イクラ サガシテモ; [補 足] (自-b 男6: 0-25)	●[三番目のお兄さんは] ウミ, へー ポ チャンテ ヤッテモネー アシガドン ドン ナガク ナッテ クンノ。(神-村 男4: 3-17)	○スコシ [おまえが] マッテレバ オッ キイ ヤキノ ガラガラドンガ ヤッテ クル。(物語) (神-古男4: 5-26)	○ダカラ [ぼくが] チラカシテモ ダイ ジョウブナンダヨ。オジイチャンチハ; [補足] (神-三男4: 0-20)
○ユメッテ ユッタッテ イロイロノ ユ メガ アルカラネー。[提示的] (赤-s 男 6: 6-12)	●(テ) キュウシヨクガ アルトキネー [ぼくは] オトモダチノ オウチネー	○スコシ [おまえが] マッテレバ オッ キイ ヤキノ ガラガラドンガ ヤッテ クル。(物語) (神-古男4: 5-26)	○ダカラ [ぼくが] チラカシテモ ダイ ジョウブナンダヨ。オジイチャンチハ; [補足] (神-三男4: 0-20)
~たら 4 5 4	~と 3 1	~ば 1 1 1	~けど 3 2 1
~ても 1 1 1	~たって 1 1 1	~て 1 2 3	

(注)時の提  
示

先行

<p>シトリ シトリデネー イカレン、イツ デネー ソイデネー ママガ ムカエニ クンノ。〔はっきりしない〕(小-川男4:10 -17)</p> <p>○〔そのりものは〕 グルグル マワッテ メガ マワルノ。(赤-f 女4:10-9)</p> <p>○〔わたしは〕 オカアサン ナッテ オニ イチャン コドモン ナル。 (赤-p 女 5:2-2)</p> <p>○ソウシテ 〔<u>やぎ</u>とぼくが] オウチー カエッテネー〔たら] エッチヤンガネー ドッカ イッチヤッタノ。(自-a 男4:9 -6)</p> <p>○アサガオニ 〔男の子が] ミズ カケ テー〔たら] コッチモ… キレエニ サ イタノ。(赤-m 男4:10-10)</p> <p>○〔?] イナカニ イッチネ〔と] オネエ チャンガネ サンニン イルノ。〔はつき りしない〕 (自-1 男6:0-4)</p>	<p>シトリ シトリデネー イカレン、イツ デネー ソイデネー ママガ ムカエニ クンノ。〔はっきりしない〕(小-川男4:10 -17)</p> <p>○〔そのりものは〕 グルグル マワッテ メガ マワルノ。(赤-f 女4:10-9)</p> <p>○〔わたしは〕 オカアサン ナッテ オニ イチャン コドモン ナル。 (赤-p 女 5:2-2)</p> <p>○ソウシテ 〔<u>やぎ</u>とぼくが] オウチー カエッテネー〔たら] エッチヤンガネー ドッカ イッチヤッタノ。(自-a 男4:9 -6)</p> <p>○アサガオニ 〔男の子が] ミズ カケ テー〔たら] コッチモ… キレエニ サ イタノ。(赤-m 男4:10-10)</p> <p>○〔運動会は] ナガカタカラ 〔ぼくは] ワスレチャッタ。(赤-a 男4:11-4)</p>	<p>○〔おうちが] オッコチテ (ヒル) コノ アーチャンガ ニゲタノ。〔はっきりしな い〕 (小-竹男4:1-9)</p> <p>○〔かめが] ココニ コウネ イテネー ウサギガ ココヘ イッタング。〔はっき りしない〕 (小-相男4:4-17)</p> <p>○〔やぎが] クチャニネー〔を] タベニ イッテネー〔たら] ネ トロルガ デテ キタノ。(神-秋男3:11-17)</p> <p>○ダッテ 〔それが] キタナク ナッテ ク 〔たら] オカアチャンガ アラッテ ク レルダモンノ。(神-高男4:4-6)</p> <p>○〔わたしは] カズ カゾエレ、レナイケ ドネ〔から] ユウコ、オネエチャンニネ カゾエテ モラウノ。〔ケドネのまままで文 末とも〕 (神-折女4:3-8)</p>	<p>理由</p> <p>並列</p> <p>*ノは不用</p>
<p>○〔しまうまが] タクサン イルカラ 〔ライオンは] ビックリシテ カエッテ イッタノ。(自-i 男6:4-16)</p>	<p>○〔運動会は] ナガカタカラ 〔ぼくは] ワスレチャッタ。(赤-a 男4:11-4)</p>	<p>○〔うちは] ヨウチエンノ トナリダカラ ネ 〔おかあさんは] ムカイ コナイ ノ。(神-佐女3:7-8)</p>	

誤用  
[6][2][6]

1-2.4(S)Z  
/(S)Z

~から  
[12][7][1]

～たら  
[6][1][7][6]

○ [ライオンが] ソレ ツカマエヨウト  
オモッタラ [しまうまは] ニゲチャッ  
タノネ。(赤-0 女6:1-14)

～と  
[4][1][1]

○ソイデ [ぼくが] ズーット オイトク  
トネ [それは] カチカチニ ナッテ  
カタマッチャウノ。(自-b 男6:0-27)

～ば  
[2][1][1]

○[男の子が] ミズ アゲレバネ [花は]  
ノビテ クンノ。(自-r 女5:7-18)  
○[あなたが] ソウスレバ [虫が] イル  
ヨ。イッバイ; [補足] (自-s 男5:9-6)

～けど  
[ ] [ ] [ ] [ ]

○ソイデネ [男の子が] ミズ アケテモ  
ネッ [花は] ヒラカナインダッテ。(自  
-d 女5:11-30)

～ても  
[1][1][1]

●[お話の本は] ウチニ アツケケドネー  
[わたしは] モウ ミナクナッチャッタ。  
(小-岡女4:8-24)

～たって  
[ ] [ ] [4]  
～て  
[ ] [ ] [ ] [ ]

○[お祭が] ムコウニ アツテネー ソレ  
デネー [ぼくは] ナンカ カッタノ。  
[意味はつきりしない] (自-b 男5:1-1)  
●[本は] ムズカシクッテ [私は] ヨメ  
ナイ。(小-野女4:9-18)

誤用  
[ ] [ ] [ ] [ ]

○ソイデ [あなたが] ハイッテ [と?]  
[そこは] チカイノ。(赤-t 男6:0-11)

○ [あなたが] ソコラ トオッタラ [う  
ちが] ミエテ イク クルノ。(赤-a 男  
4:11-6)

○ [ぼくが] ワルイ コト スルト [お  
とうさんは] ヒツパタクノ。(自-t 男5:  
3-22)

○ [あなたが] ソウ イケバ [うちは]  
スグナノ。(赤-0 女5:1-6)

○ダッテシャー [オバケが] ウゴイテル  
ケド [ぼくは] コワクナイモン。(神  
-高男4:4-4)

○ソイデネ [男の子が] [水を] カケテ  
モ コンナニ ナッ [?] ソイデ [花  
が] コウ アチント ナッタノ。[はっ  
きりしない] (神-三男4:0-41)  
○ [あなたが] ドッチ マガッタッテネ  
[うちは] アルノ。(神-場男3:10-12)

○ [ぼくが] オキク ナッタラネ [おか  
あさんは] オオキナ オチャワン  
カッテ クレンノ。(神-鈴男3:6-5)

○ホラッ [娘が] プーッテ ヤルト [家  
が] コワレチャウ。(小-佐男4:3-24)

●[あなたが] アルイテ イケバ [デバ  
ー] トは] スグ アン(ノ)ヨ。(赤-a 女3:  
10-9)

○ダッテシャー [オバケが] ウゴイテル  
ケド [ぼくは] コワクナイモン。(神  
-高男4:4-4)

○ソイデネ [男の子が] [水を] カケテ  
モ コンナニ ナッ [?] ソイデ [花  
が] コウ アチント ナッタノ。[はっ  
きりしない] (神-三男4:0-41)  
○ [あなたが] ドッチ マガッタッテネ  
[うちは] アルノ。(神-場男3:10-12)

理由

1-3 題目語をもつ構文

<p>1-3.1 題目語あり [3][4][13]</p>	<p>○コレハハネ クマチャンガネ ネズミヲ オッカケテタラネ ネズミハハネ ドウロニネ イッチャッタ。(赤-f 女5:9-20)</p>	<p>○コレハハネー ハナニネー オハナネー オレタカラネ [人が] ミズヲ カケナカッタカラ ハナガ オレチャッタノ。(赤-k 女5:3-15)</p>	<p>○コレハハネ コレ オオカミガ キタカラダカラ [家が] コウヤッチ ナッ(テン)ノ。(はっきりしない)(小-原女3:7-15)</p>
<p>1-3.2 題目語なし [3][2][13]</p>	<p>○(そこは) キガネ イッバイ アッチネ ハヤシガ アル トコロ。(自-d 女5:11-10)</p>	<p>○ソイデネー (それは) ウサギガネー ドウロニ カケダシタカラネー クマモネー カケダシテ イッタ コト。(赤-k 女5:3-16)</p>	<p>○ソイデネ (それは) シマウマノネ ナカマガ イッバイ キテネ (ライオンが) ヒックリ シタ (コト)。(小-佐男4:3-20)</p>

2 二つ以上の接続助詞によって文が成立している場合

年齢別 文構造	用	例	備考
年長 (赤羽・自由)	年中 (赤羽・自由)	年少 (神谷・小川)	
<p>2-1 主語一つからなる構文 2-1.1 SZ~Z [8][6][18]</p>	<p>○オトウサンハ アサ ハヤアク オキタエ(て) カイシャ イッテヨ ヨルニカエッテ クルノ。(説明)(自-i 男6:4-12)</p> <p>○デネ シンデレラヒメ[は] ヒトリデネダカラネ[ひとりなので] サミシクテネキレイナ ヨウワク オネイサンノ キレイナ ヨウワクヲネ ミテネ/ナイチャッタノ。(理由)(赤-p 女6:2-14)</p>	<p>○ソシマ ナカニ テツジン アシノ マ(シ) マ ドカント ハイッテネ ソイデネ [ガアオガアオ]ッテ ヤッチモネ [けれども]ノトベナク ナッチャッタノ。(前提)(赤-t 男5:1-9)</p> <p>○パピーッテネ ココニネ ベシダントサゲテテネ (ソイデ) コウ ヤッチネ カタホウノ アシ コウ アゲテ カタホウ ヒザ ツケテ/ソシテネ コッカラネ コウツット バケチャウ。(説明)(赤-w 男5:3-8)</p>	<p>○サツ エ ウルトラシエブンテネ シヤイシヨ ニンゲン ナッテテネ ウメガネ ミタイノ カケルトネ/ウルトラシエブンナンノ。(説明)(神-高男4:4-14)</p> <p>○ソレデネ ボク ヒトリ ネテネ アサアサ ボクネ アサ アサネ ボクネ オカ オカアサンッテ ヨバナイデネネ/オキチャウノ。(説明)(神-古男4:5-18)</p>

[8]2[1]

○〔わたしは〕 ソノ ワライバナシ ヨン  
ダラ トッテモ オカシイ(かった)カラ  
ノワラッチャッタノ。(赤-r 女5:10-6)  
○〔ぼくは〕 ナンカ オツカイ イッテネ  
オンカ ナンカネ モツ モツトネ/ス  
グ ホメラレルノ。(赤-m 男5:10-3)  
○ソウシテネ (ライオンは) シマウマ  
ガ イッパイ イル トコロ イッテ  
ル ……イッタラ オドロイチャッタ  
ラ〔て〕/マタ カエッテ キタノ。(自  
-s 男5:9-23)

[14]5[3]

○〔ぼくたちは〕 フクロガ アル トコマ  
デ オ コメノ フクロガ アル ト  
コマデ カケテッソレ〔を〕 ココマデ  
ハイタラネ ハタノ マワリ ピョ  
ン トンデネ/ハタノ マワリ マ  
ワッテ クルノ。(赤-t 男6:0-5)  
○〔ぼくは〕〔レコードを〕 カーケテ モ  
ラッテネ ソイデネ ケンチャンチ  
イッテネ/マタ カケテ モラッタノ。  
(自-a 男5:8-8)

[11]5[3]

○ソイデネ アトハ (ぼくは) オフロネ  
ハイッテネ オシッコ シテ/ネタノ。  
(自-a 男5:8-6)  
○ソイデネ (ももたろうは) ドンドン  
イッテネ ウミニ キタラネ ポートヘ  
ネ イッテネ ソイデネ オニガシマニ  
イッテネ ソイデ オニヲ コラシメテ

○〔お兄さんは〕 コノ マエ ガッコウ  
イッテケドネー モウ オ(オ)キイ  
ケドネー オオキイカラ, ネー/マモ  
ウ ガッコウ イッテ ナイ。(自-b 男  
5:1-8)

○〔ぼくは〕 キノウハ シヤムカッタッテ  
ネ〔寒くて〕カゼ シイ〔て〕タケドモ/  
ドウブツエン イッチャッタノ。(自-s  
男4:10-1)  
●〔お母さんは〕 アッ コナイダネ デカ  
ケタンダケドネ マタ キョウモネ ア  
ルッテ ユッテネ/デカケタノ。(赤-q  
女5:2-4)

○〔わたしは〕 オジイチャントネー ワタ  
アメ カッテネー ソレカラネー オド  
リ ミテネー ソイデ カエリニ ホン  
カッテネー/ソレカラ カイッタノ。(自  
-d 女4:11-1)  
○〔ぼくは〕 ハハタグミニ イッテネー  
ソイデネー オニギリ タベテネー ア

○ソレデネ (ぼくね) アチタネ (汽車)  
モッテ イコウト オモッテネ キチャ  
ヲネ オカアチヤント チュクッテネ/  
モッテ モッテ キタノ。(説明とも)(神  
-古男4:5-33)

○〔お父さんは〕 シゴトナンカネ チュ  
クッタラ チゴトナンカネ カエチニ  
イッテネ/マタネ アタラチーネ ネー  
チ チゴ チゴトヲネ モモラッテ  
イクノ〔くるの〕。(神-古男4:5-30)

○〔ぼくたちは〕 ワスレモン シテネ (の  
で) モウ イツカイ モドッテ モッテ  
キテ モウ イツカイネ キテネ/ソイ  
デネ ト ソコニ トマッタノ。(神-三  
男4:0-13)  
○〔ぼくは〕 オクジョウ イッテ アソ  
ンデ/カエリ(ハ) プラモデルヲ カッテ

○原因・理由

○説明

状況をのべ  
て、説明と  
いうのもあ  
る。○時間的順  
序。

／カエツテ キタノ。(自-0男6:3-10)

ト ギュウニユウ タベテネー ソレニ  
オセンベエネ ミ コイダケ タベテネ  
／五つ。／ソイテネ ソイテネー ウチ  
イ カエツタノ。(自-k男4:8-1)

カエツタノ。(小-福男4:2-3)

2-2 主語二つからなる構文

2-2.1

SZ/SZZ

10 5 17

○テ シマウマガ コンナニ イルンデ／  
ライオンガネー オイカケテ イツテ  
ネー ビックリ シチキツタノ。(理由)  
(赤-w男6:3-28)

○カ カイジュウガネ デテ キテネ(の  
で)／ハヤタタインガネ(は) ニゲ  
ヨウト オモツタドネ ニガナイカラ  
ネ(に)げられないからね)ペンテネ ウル  
トラマン ヨンダノ。(理由でなく状況で  
説明) (自-n男6:5-11)

SZ/(S)ZZ

8 4 11

○デネ イシ キレイサネ アノ イシネ  
ハタグミサント ヒヨコグミサン イカ  
ナカツカラネ／(ぼくたちは) イシネ  
キレイナ イシネ アツメテネ モツテ  
イツテ アゲタノ。(理由) (自-h女5:  
7-3)

○アノ ソバニ オオキナ ヤマガ アツ  
テネ／(ぼくたちが) シタカラ ミルト  
ネ ノボレソウナ カンジデ(だけれ  
ど), ノボロウト スルト ノボレナイ  
ノ。(状況説明) (赤-u男6:5-21)

○……カメガ ウサギガネー ……ヨコ  
ナツテネー／カメガネー サキニ イツ  
テネー ソイデ ヤマノ テッペンニ  
アガツタノ。(状況説明) (自-0男5:4-7)  
●ライオンガネ 手(し)マウマヲ ミテ  
ネ ライオンガネ チマウマヲ ミテネ  
(みたので)／チマウマハネ ワルイト  
オモツテ ニゲチャツタ(ノ)。(理由で  
なく状況で説明) (赤-g女4:8-11)

○チョレデネ カメチヤンガネ モウ  
ト オクニ イツテネ／ネ カメチヤン  
ウ チヤギチヤンハンネ ヤット オキテネ  
ネ カケ カケテ イツテネ イツテ  
イッタノ。(状況説明) (神-古男4:5-20)  
○カイ (ズ) ウ デテネ(なら)／ダンガ  
ネ セアンニ ナツテネ ヤツケン  
ノ。(状況説明) (神-秋男3:11-9)

○前の部分  
は理由より  
状況説明多  
し。  
○……＝間  
のあるしる  
し。

○ナンカ コウイウノ シマウマガ キタ  
カラネ／(ライオンは) カミツコウト  
オモツテネ ドンドン イツテ オイカ  
ケテネノ。(理由) (神-三男4:0-38)

(注)年中の  
例でよいの  
がない。  
補助資料が  
多くなる。

(S)Z/SZZ

3.6.12

○ソレデ〔ダンブカーは〕クマニ アタツテノ……ネズミハ ビックリシテ トビアガリマシタ。〔状況説明〕(赤-s 男6:6-21)

○(シンデレラが) デ オー オシロニ ツイテネー/ソノ ヨル オウジサマガ (は)ネ 「ソノ オヒメサマ マガ イチバン ギレイダ」ト イッ (テ) ヨル オソクマデ ソノ オヒメサマトバカリ オドッテタンデスツテ。〔説明〕(赤-p 女5:2-14)

○ダカラネ コビトガネ マタ (ガリバーは) ネタラ/マタ デテ キテネ コビトガネ カイダントカネ モツテ キテネ カイダン ア モツテ キテネ ノッタリネ シタニ オリタリネ シテル。〔状況説明〕(赤-n 男5:2-7)

●ママ アミモノ シテルカラ/〔僕が〕「ヨンデッ」ツテ ユツテモ ヨンデクレナイ。〔語順〕(赤-b 男5:6-9) (注)

○ハイラナイ トキハ コウユ フウニネー コウイウ イー (それは) ソンナニネー オオキクナイカラネー/(ぼくは)コウイウフウニ マガリメラ ツケテネー イレチャウノ。〔理由〕(赤-a 男5:11-5)

○(彼が)「オコシニ ツケテンノハ ナンデスカ」ツテ キイタラネー/〔桃太郎が〕「オダンゴダヨ」ツテ イッタラネ(て)「オニセイバツニ イクカ」ツテ イッタノ。〔説明〕(自-o 男6:3-9)

○ヨルデモ カツタラネ ……モクヨウビニ (ぼくが) モシ カエッタ シタラ/(ぼくは) イチバン サイショニネ イチヲ ツケテ ヒョッコリヒョ

○……(う)さきが〔ニゲテテ〕ネ/カメガネウエニ ノックアツテ ナンカ ヤツテンノ。タツテンノ;〔補足〕〔意味はつきりしない〕〔説明〕(神-寺男4:4-18)

○ソシテネ (男の子が) ミジユカ ミジュー カカケテ (に) キテ ミジユカケテネ(たら)/〔花は) ダンダン コウコウ ナツテテ オレ オレソウデネ オレ オレナカッタノ。〔原因〕(神-高男4:4-22)

(注)〔僕が〕  
「ヨンデッ」  
ツテユツテ  
モ/ママ  
アミモノ  
シテルカラ  
ヨンデク  
レナイ。

(S)Z/(S)ZZ

8.1

ウタンジマダナ。(仮定) (赤-s 男6:6  
-10)

○クマガネネ (ジュ) ミヲ オイカケヨ  
ウト シテネ (ズ) (ジュ) ミヲ オイカ  
ケテ イツタラネ / ネズミト クマガネ  
ジドウシヤニネ ドシーン ジドウシヤ  
ト アツカッチャッタノ。(理由) (自-b  
男6:0-32)

○ソレヲネ ソレガネ モシカ ビンビ  
ンツテ ナツテネ キエチャッタラネ /  
モウ ニドト ウルトラマン タチアガ  
ラナク ナツチャウ。(仮定) (自-k 男5:  
8-16)

○[ハヤタが?]ナガサレチャツテネー ミ  
ズン ナカデ コウイウニ ベンシル  
アゲタラ / ウルトラマンガ イキタノ。  
[はつきりしない] (理由) (赤-w 男6:3  
-15)

(S)ZZ/(S)Z  
[1][3][1]

○ソイデネー (男の子が) オミズ カケ  
テネ アツカイトコニネ ヤルトネ  
 / [花が] ビント ナツタ。(条件) (自  
-a 男5:8-18)

○ソレヲ [鬼は]「ゼンゼン ヘンナ オ  
ドリダ」ツテ ユツテサー「キノウ キ  
タ オジイサンジャンイカラ」ツテ

ウサギガネ カケダシテネ ウサギガネ  
(繰返しとみた) イチハジメネ イット  
ウダツタノニネ / カメサンガネ コンド  
ネ イットウ ナル(シ)。(小-神女4:1  
-11)

○ソイデネ (男の子が) オミズヲ ヤッ  
タラネー オミズヲ ヤッタラネー ア  
ンマリネー イキオイヨク ヤッチャッ  
タカラネ / ハナガネー ノビタノ。(理由)  
(赤-r 女4:10-11)

○ソジテ (ウルトラマンが)「ガアオー」  
ツテ ヤツテ トン (ジ) ヤツテ (ので) /  
ネ ソイデネ マグネックス マケ  
チャッタノ。(理由) (赤-t 男5:1-10)

○[ほくほ] イツモ ソコデ オリテネ  
マガツテ イクトネ / [そこほ] ミンナ  
コウジョウ。(自-t 男5:3-4)  
[はつきりしないが]

○ウサギガネ カケダシテネ ウサギガネ  
(繰返しとみた) イチハジメネ イット  
ウダツタノニネ / カメサンガネ コンド  
ネ イットウ ナル(シ)。(小-神女4:1  
-11)

○[男の子が] ジョウロネ ミガイテネー  
(ド)ヨウロネー モツテツテネー コレ  
(ジ)ヨウロネー ウロヲネ カケ オ (ウ)ナ  
ニ アゲテネー [たら] / オ (ウ)ナガネー  
コウイウニネー ツイタ ママ サイタ  
ノ。(理由) (小-相男4:4-18)

<p>ユツテサ ソイデサ ソノ コブヲ ツ ケテ ポンテ リョウホウニ ツケ チャツカラ／ソイテ [おじいさんは] カエツチャツタノ。[っていったの] [説 明] (赤-w 男6:3-24)</p>	<p>○ソレデ カメガ ノボツテ「イットウ」ツ テ イッタラ／ウサギハ メヲ サマシ テ ナイテ カエリマシタ。[前提] (赤 -s 男6:6-20)</p>	<p>○ソシテネ オボウサガガネ トオツテネ タスケテ クレテネ[の]／[孫吾堂は] ケライン ナツテネ ソウシテ(注) ワ ルモン ヤツツケタリ シテネ ナン ダツケ インドマデ イッタ ノ。[理由と前提] (赤-u 男6:5-14)</p>	<p>○アサネー [ぼくは] パラシュート カツテ キテネ ソイデネー パラ シュート ソトデ トバシテタラネ／ヨ ンジュウニゴウカンノ コガネー (ト アバイ) スルカツテ キテネー キタ ノネー。[前提] (赤-w 男6:3-9)</p>
<p>ユツテサ ソイデサ ソノ コブヲ ツ ケテ ポンテ リョウホウニ ツケ チャツカラ／ソイテ [おじいさんは] カエツチャツタノ。[っていったの] [説 明] (赤-w 男6:3-24)</p>	<p>●ダケド ソノ ネ アルート イウ オトコノ コガ イテネ チ [つ] カ マツチャツテネ [の]／ボバイガネ タツケニ キ ケテ ホウレン(ツオ) ホウレンソウ ネ タベテ[たら] チカ ラモチ ナルノ。[なったの] [説明] (赤 -g 女4:8-7)</p>	<p>○オトコノ コガネー アサ オキテネー コノ オハナヲ [に] ネー ミズ カケ ニ キタラネー/[木は?] ドンドンド ンネ ノヒテ イツテネ オハナン ナツタ(ノ)。[前提] (自-h 女4:7-14)</p>	<p>○ソイデネ コノ ライオン コノネ コツチノ ライオンハネ ツカレテネ ココデ ネテテネ／ソイデネ コノ シ マウマタチガ [は] ココニ アツマツテ ネ マアルク ナツテノ。[状況説明] (神-三男4:0-38)</p>

(注)接続詞  
の項で述べ  
るが「て」  
ですむとこ  
ろに「そう  
して」を入  
れている。

2-2.3

SZZ/SZZ

41211

SZZ/(S)ZZ

411

(S)ZZ/SZZ

111

2-3 主語三つからなる構文

2-3.1

SZ/SZ/SZ

191612

○ユミガネ オバアチャントネー ナンカ  
カイニ イッテネ オネエチャンハ  
ガッコウ イッテネ/アトハ ポクネ  
ケンチャエン カシマ ケンチャントネ  
アソんでタノ。(状況説明) (自-a 男5:8  
-3)  
○カメサントネ ウサギサンガ カケッコ  
シテテネ ウサギサンガネ ソウイウ  
トコニ ネテ ソノ ヘンナ トコヘ  
ネテテ[ので]/カメサンガ ドンドン  
サキニ イッチャヤッテ イットウシヨウ  
ニナル。(赤-a 男5:11-21)

SZS/SZ

41513

○ハジメネー ライオンガネー エサハ  
ナイカナッテ サガシテネー [たら] シ  
マウマカ イタカラネー/[ライオンは]  
カケテ イッタノネー。(赤-c 男6:3  
-21)

SZ(SZ/SZ

61111

○ソノ トキ ミンナ [が] ペンキ スッ  
タリ シテ[ので] [へやが] ビカピカ  
ナッチヤッテネ/ソレデ オカアサント  
オトウサント ショウチャングチネ  
ビックリシチャッタノ。(赤-x 女6:2  
-12)

(S)SZ/SZ

3111

○[人か]ミズヲ マイテ[たら] オテント  
サマガ キテネ/ハナガネ パット ヒ  
ライタノ。(自-e 女5:7-20)

○ネズミガ イテネ ソイデ (コー) ク  
マカ イテ/ソイデネ クマカ ネズミ  
ネ オイカケテンノ。(前提) (自-o 男5:  
4-8)  
●チャウ ライオンガ [ワーッ]テ ユッ  
テネ[ので]チャウマカ ニゲ, カラ[逃  
げたから]/ライオン オイカケタノ。  
(赤-g 女4:8-11)

○(ソレ)テ クマチャンガ 「マッテー」ッ  
テ イッタテ ダンプカーガ キテサ/  
[二匹か熊かが] 「アイタタター」ッテ  
シチャッタ(ノ)。(ぶつかった意) (赤-f  
女4:10-13)

○ソシテネー ヤネノネ ヤネハネー  
チョコレートダカ(ラ)ネ [ヘンデルた  
ちは] ヤネノ チョコレート タベテ  
ネ [たら]/ソシテネ [すると] マホウ  
ツカイノ コエガ キコエタノ。(自-h  
女4:7-9)

○クマカ イテネ ソイデネ チイチイ  
チャーッテネ ネズミガ イテネ/クマカ  
ネウイ ネジュミヲ ミッカッタノ。[み  
つけたの] (神-大男3:11-12)

○ソウシテネー シマウマカ ココヘネ  
イッピキ イテネ ライオンガ ココヘ  
イッピキ イテネ/[しまうまは] コ  
ウネー オクチャラネー ソレト エート  
アイテンノ。(状況説明) (小-相男4:4  
-16)

○ハシニ [が] アツカカラネー [やぎが]  
ワタロウト オモッタテラネー/シタニ  
ネー ワユイネー……ワユイ ワユイ  
ウー (メヤ)ガ [トロル] シュンテ  
イタノ。(物語) (神-狗女4:3-14)

○第1と第  
3のSが同  
じのもあ  
る。

○SZには  
SZZの場  
合もある。

<p>SZ(S)Z/(S)Z [5][1]</p>	<p>○ボウヤヤチガ ミズン ナカニ イタクラ ラ (はやたが) ハイッタラ / (それは) タキノ ミズ ダッタダダヨ。(赤-w 男6: 3-14)</p>	<p>○ココニネ アセモガ テキテネ [わた しは] カイクツテ (モ) ネ [かけない ように?] テーアラ (ハ) シテ クレ タノ。(はっきりしないが) (神-佐女3:7 -6)</p>	
<p>(S)ZSZ/(SZ) [4][2]</p>	<p>○ソシチ (人が) オミズ アゲタラネ オヒサマ ハレダッタカラネ / (花が) ピント ナッタノ。(赤-r 女5:10-13)</p>	<p>○ソイデ (二匹が) オオドリニ テタラネ ダンブカーガ キツネ / (二匹は) ペッ シャンコ ナ (ツチャッタ)。(自-t 男5: 3-25)</p>	
<p>(S)Z (S)Z/(S)Z [6][1]</p>	<p>○(うさぎが) 「ドウシテネ ソイジャ ソナニ ノロイノ」 ッテ キイタラネ [かめが] 「ムコウノ オヤマノ マワリ ネ カケ(グルミ)シヨウヨ」ユツテネ / (ト)ネ (二匹は) カケッコ シタノ。(自 -o 男6:3-12)</p>		
<p>2-3.2 SZ/SZ SZ [6][6]</p>	<p>○イヌガネ ネズミノ コト オイカケテ ネ(たら) / ソトニ ネズミガ トンダケ ド イヌハ トベナカッタノ。(前提)(赤 -v 男6:1-13)</p> <p>○ムカシムカシ [おじいさんと] オバアサ ンガ イテネ / オジイサンハネ ヤマヘ ツッキギヲ トリニ イツテネ オバア サンハネ カワヘ センタクニ イッタ ノネ。(自-h 女5:7-11)</p> <p>○ニユース ツマンナイノバツカリ ヤル トキハネ マイニチ テレビ ケシテ オク ケシトイテネ / サトシネ ママガ</p>	<p>○ソイデネ マグネックス ト ツジント (キヨビー) ロボット [が] タタカッ タラ / マグネックス (テリー) ド ボット ヤラレテネ テツジンダケ ヘ イキダッタノ。(原因) (赤-t 男5:1-16)</p> <p>●ソレカラネ シマウマガネ ダ [ラ] イ オンニネ [の] ソバニ ヨツテネ / ダイ オンガ オコル上 シマウマ ニゲン ノ。(自-c 男4:7-12)</p>	<p>○第1のS と第3のS が同じ場合 もある。 ○SZ = S ZZの場合 もある。</p>
<p>(S)Z/SZ SZ [1][1]</p>			

<p>ツケタカッカラ ママ ミテテ サトシムコウノ トノ テレビノ アル ハンタイガワノ レコードガ アル ホウニ イッ イッテ アソんでんノ。サンカシテ;〔補足〕(赤-a 男5:11-18) 〔前の「サトシネ」は、前部分のSとも〕</p>	<p>○クマサンガネー ネズミヲ オイカケテネオオドオリマデ キテネ/ネズミサンハワタツタカラ ヨカッタ(ケド)/クマサン アツカッチャッタノ。ジドウシヤニ;〔補足〕(白-v 男5:7-17)</p> <p>○ウサギト カメガ ヤマニ ノボロウツテ イッテ キョウソウシテ, /ソシテウサギ ネチヤツタカラ (て) オキテミタラ/カメサンガ ノボッチャツタノ。テッペンマデ;〔補足〕(赤-m 男5:10-22)</p>	<p>○クマノ ウチニネ ネズミガ キテネー ナニカネ トツテ イッテネ(ので)/クマチャヤガネー オイカケテネー〔たら〕(テ)ズミガネー ドラックノ ウエニノッカツテ イッチャッタ。(白-h 女4:7-15)</p> <p>○アノネ ウサギガサ カメガ「アソコノオヤママチ」ツテ ユツテ キョウソウシタラ/ウサギガ カタイ カツタカラ〔からそうだったから〕モウ スグダカラサ ネチヤツテ ソレデ カメハ カメガ イットウン ナッタノ。(赤-0 女5:1-10)</p> <p>●ソウシテネー オジイサンガ カエツテキテネ キロウト シタラ/〔桃は〕ヒトリデニ ワレテ モモタロウガ デテキタノ。(赤-e 女4:9-6)</p> <p>●ソレデネ オバアサンモ ホチイト オモツテネ イッタラネ/〔おばあさんは〕ウソチユキタカラネ, ダカラ〔舌切雀は〕オバケ オバケ ハイッテルネ ハコヲクレ〔あげ〕タノ。(赤-g 女4:8-9)</p>	<p>○はじめの文は状況の説明多し。中間の部分の文の理由になっている。 ○SZ=SZZの場合もある。 ○第1と第3のSが同じのものもある。</p>
<p>2-3.3 SZZ/(SZ/SZ) [3][2][ ]</p>			
<p>SZZ/(S)Z/ SZ</p>			
<p>SZZ/(S)Z/ (S)Z</p>			

(S)ZZ/SZ/

SZ

○タクシ<sup>ニ</sup>ノツテネ<sup>ニ</sup>デン<sup>ニ</sup>〔ほくは〕コ  
ノマエ<sup>ニ</sup>イッタ<sup>ニ</sup>トキネ<sup>ニ</sup>デンシヤ  
ノツテ<sup>ニ</sup>ドツチ〔?〕イッテ<sup>ニ</sup>ネノパ  
パネ<sup>ニ</sup>オウ<sup>ニ</sup>カイシヤノ<sup>ニ</sup>オウチ<sup>ニ</sup>ハイ  
ツテ<sup>ニ</sup>ボク<sup>ニ</sup>シヤ<sup>ニ</sup>シヤシン<sup>ニ</sup>トツテ  
モラッタノ。(自-a 男5:8-2)

○ソレデ<sup>ニ</sup>〔男の子が〕アツカ<sup>ニ</sup>イトコ  
ニ<sup>ニ</sup>イッテ<sup>ニ</sup>オヒサマデ<sup>ニ</sup>ア<sup>ニ</sup>タマセル  
カラ<sup>ニ</sup>〔木は〕マタ<sup>ニ</sup>ドンドン<sup>ニ</sup>ノビテ  
キレ<sup>ニ</sup>イナ<sup>ニ</sup>オハナガ<sup>ニ</sup>サイタノ。(咲く  
の)(赤-f 女4:10-12)

(S)ZZ/(S)Z/

SZ

2-4 主語四つからなる構文

2-4.1

SZ SZ SZ/ SZ

2-4.1.1

○ウサギサンガ<sup>ニ</sup>サキニ<sup>ニ</sup>ハシツテ<sup>ニ</sup>テネ<sup>ニ</sup>  
カメサンガ<sup>ニ</sup>アトカラ<sup>ニ</sup>キテ<sup>ニ</sup>ネ<sup>ニ</sup>ウサギサ  
ンガ<sup>ニ</sup>ネチヤツテ<sup>ニ</sup>ネノカメサンガ<sup>ニ</sup>ネ  
カッタノ。(赤-x 女6:2-18)

○ソコニ<sup>ニ</sup>シマウマサンガ<sup>ニ</sup>キテ<sup>ニ</sup>ネ<sup>ニ</sup>ハッ  
ト<sup>ニ</sup>ライオンサンガ<sup>ニ</sup>キガツク<sup>ニ</sup>ト<sup>ニ</sup>シマ  
ウマガ<sup>ニ</sup>ウマガ<sup>ニ</sup>ニゲテ<sup>ニ</sup>ネノコソト<sup>ニ</sup>ラ  
イオンサンガ<sup>ニ</sup>ネ<sup>ニ</sup>オイカケ<sup>ニ</sup>タンデ<sup>ニ</sup>スッ  
テ。(赤-p 女5:2-9)

○ライオンノ<sup>ニ</sup>ホウガ<sup>ニ</sup>〔ツ〕ヨイ<sup>ニ</sup>ニネ<sup>ニ</sup>  
〔くて〕コッチガ<sup>ニ</sup>ヨワイ<sup>ニ</sup>ニネ<sup>ニ</sup>〔ライ  
オンガ〕ニゲテ<sup>ニ</sup>イクカラ<sup>ニ</sup>〔しまうま  
が〕ワラッテンノ。(自-b 男6:0-29)

○ライオンガ<sup>ニ</sup>シマ<sup>ニ</sup>マ<sup>ニ</sup>マ<sup>ニ</sup>シマウマガ<sup>ニ</sup>  
ノ〔の〕トコ<sup>ニ</sup>イコウ<sup>ニ</sup>ト<sup>ニ</sup>シタ<sup>ニ</sup>ラ<sup>ニ</sup>ネ<sup>ニ</sup>  
シマウマガ<sup>ニ</sup>ワラッテ<sup>ニ</sup>ネ<sup>ニ</sup>ソレデ<sup>ニ</sup>〔ラ  
イオンガ〕イッタ<sup>ニ</sup>ラ<sup>ニ</sup>ネノ〔しまうまが〕  
オイカケ<sup>ニ</sup>キタノ。(逆から絵をみてい  
る)(赤-o 女5:1-9)

2-4.1.2

その他

○ソイデ<sup>ニ</sup>ネ<sup>ニ</sup>〔コウシ〕ツテ<sup>ニ</sup>ウマガ<sup>ニ</sup>ナイ  
テ<sup>ニ</sup>ネ<sup>ニ</sup>イヌモ<sup>ニ</sup>ナイ<sup>ニ</sup>テ<sup>ニ</sup>ネ<sup>ニ</sup>コモ<sup>ニ</sup>ナイ

○主語のそ  
ろっている  
もの多し。  
○時間的順  
序、理由・  
原因なども  
ある。  
○S1とS  
3=S2と  
S4  
○主語のい  
ずれかがあ  
らわれてい  
ないもの。

○カメガ<sup>ニ</sup>ネ<sup>ニ</sup>ウサギガ<sup>ニ</sup>サキニ<sup>ニ</sup>ドン<sup>ニ</sup>  
イッテ<sup>ニ</sup>ネ<sup>ニ</sup>ソイデ<sup>ニ</sup>カメガ<sup>ニ</sup>ネ<sup>ニ</sup>ノロ<sup>ニ</sup>ノ  
イッテ<sup>ニ</sup>ネ<sup>ニ</sup>ソイデ<sup>ニ</sup>ナンカ<sup>ニ</sup>ネ<sup>ニ</sup>ウサギガ<sup>ニ</sup>  
ドツカ<sup>ニ</sup>デ<sup>ニ</sup>ヒトヤスミ<sup>ニ</sup>シテ<sup>ニ</sup>ネノカメガ<sup>ニ</sup>  
サキニ<sup>ニ</sup>イッテ<sup>ニ</sup>ネ<sup>ニ</sup>イット<sup>ニ</sup>ウシヨウ  
ナツチャウノ。(神-三男4:0-39)

○ソレデ<sup>ニ</sup>ネ<sup>ニ</sup>〔男の子が〕ミジュ<sup>ニ</sup>アゲテ<sup>ニ</sup>  
ネ<sup>ニ</sup>〔花が〕カレテ<sup>ニ</sup>ネ<sup>ニ</sup>〔男の子が〕ミ  
ズ<sup>ニ</sup>アゲル<sup>ニ</sup>ト<sup>ニ</sup>ネノマタ<sup>ニ</sup>ネ<sup>ニ</sup>〔花が〕マッ  
チュク<sup>ニ</sup>ニ<sup>ニ</sup>ナンノ。(神-古男4:5-21)

<p>テネノミンナ ナイタノ。(自-d 女5:11-21)</p>	<p>○ソイデネ オヘンタク オワツテ [おばあさんが] カエツテ キテ オウチニ イツテネ ソイデ オジイサンガネ ヤマカラ カエツテキツネノワロウト シタラネ アカンボウガ ウマレタノ。(自-o 男6:3-8) [二人で?]</p>	<p>○カメサント ウサギサンガネー アツテネー カメサンガネー カ ムコウノ オヤママデ カケッコ シヨウツテ ユツテノデ カメサンニ スコシ ウサギサンノ ホウノガ カツタケドネー トチュウデ ウサギサン ネチヤツタカラ カメサンノ (ホウ)ガ イットウニ ナッタノ。(自-d 女4:11-11)</p>	<p>○前の部分 が状況、後 が原因、結 果。 ○主語なし も含む。</p>
<p>○ソンデモ (桃太郎は) イクツ (テ) ッタラネ オジイサント オバサンハ オバアサンハネ「ソナラ イツテラッシャイッ」チュツテノオバアサンハ キミダンゴヲ ツクツテ オジイサンモモタロウノ ハタラ ツクッタノ。(自-u 女6:5-19)</p>	<p>○オカアサンガネ ゴハンネ タイテテネノシユエーパジエッタガネ オワツタラネ ソノ チユギネ パビエガ ハジマツテネ パビエネー パビエト [を] オトウチヤント ミタノ。(関連おかしなが) (自-k 男4:8-11)</p>	<p>○カ (ケ), ウサギサンガ 「カケッコシヨウ」ツテ ユツテサノウサギサン[ノ]ガ イチバン ハヤクツテサ カメサンノロツベツサ [のに] ウサギガ ヒルネシユル アイダニサ カメサンガサ テッペンマデ ノボツチャツタンダモン。(自-t 男6:2-26)</p>	<p>○前の部分 が理由と結 果、それが また後の文 の理由にな っている。</p>
<p>2-4.2 SZ/SZ SZ [2][1]</p>	<p>○テネ カツ ネズミヤ ウマヤネ カボチャヤ ツ (ウ)イウノガ アツテノカボチャヤハ バシヤニ カワツテネ イヌハネ ウマニ カワツテ ネズミハ</p>	<p>○前の部分 が状況 説 明、中間の 部分が最後 の文の条 件。</p>	<p>○前の部分 が状況 説 明、中間の 部分が最後 の文の条 件。</p>
<p>2-4.3 SZ/SZ SZ SZ [1][1]</p>	<p>○テネ カツ ネズミヤ ウマヤネ カボチャヤ ツ (ウ)イウノガ アツテノカボチャヤハ バシヤニ カワツテネ イヌハネ ウマニ カワツテ ネズミハ</p>	<p>○前の部分 が状況 説 明、中間の 部分が最後 の文の条 件。</p>	<p>○前の部分 が状況 説 明、中間の 部分が最後 の文の条 件。</p>

ギョシヤニ カワツチャッタノ。(赤-P  
女5:2-13)

2-5 主語五つからなる構文

SZ/SZ/

SZSZ

□1□

SZ/SZSZ

SZ/SZ

□1□□

SZ/SZSZ/

SZSZ

□3□□

○ウサギサント カメトネ カケアエシシテ  
ネ/ウサギサンガ サイシヨ イテネ  
カツテ カメサン オソイノテネ ウサ  
ギサンネ ヒトヤスミシテタラネ/カメ  
サンガネ サキニ イツチャツテネ カ  
メサンガ カッタノ。(自-j 女5:7-12)

○ホウヤガネー オハナニネ ミズ アゲ  
テネ/[\*]チツタッタラネ オハナ  
コノ ミズガネ アツク ナツテネ(の  
で)/マタ ソコニ オイテ アツタ ミ  
ズヲ (男の子が) カケタカラ (花が)  
カレチャツタン。(はつきりしない) (自  
-v 男5:7-17)

○ウサギト カメガネ カケッコシテネ/  
ウサギガ カツテ カメガ マケテネ/  
ウサギガ ネタララネ カメガネ ドンド  
ン イツチャツテ, カッタノ。(赤-n 男  
6:2-12)

○ココニ ライオンガ イテネ, ソシテ  
シマウマガ キテ, シマウマノ アトネ  
ライオンガ オイカケテ/シテネ ライ  
オンガ ヒックリガエツテネ シマウマ  
ガ タクサン ア シマウマガ タクサ  
ン イルノテネ ライオン ヒックリガ  
エッタノ。(赤-w 男5:3-9)

○ガリバーガネ サンニンノネ コドモヲ  
ツレテ フネニ ノツテネ ガリバー  
ネムク ナツテネ (ねて)/〔人が〕オモ  
タイカラネ フネガ シズンジャツテネ/  
コドモハネ ナカデ シンジャツテモネ  
ガリバーダケネ ムコウデ ネチヤツタ  
ノ。(赤-n 男5:2-6)

○Sのあら  
われていな  
い構文も含  
む。  
○前の部分  
が状況説明  
で後の部分  
が原因, 結  
果をあらわ  
すもの。ま  
た, 前の部  
分が時間的  
順序をあら  
わすものな  
どがある。  
○主語六つ  
からなる構  
文は2-7.3  
に入れた。  
〔\*〕=天候,  
時をあらわ  
す。

SZSZ/SZ/

SZSZ

[2][1][1]

○ソシテネー アルヒ センタクヲ オバ  
アサンガ シテルトネー ムコウノ ホ  
ウカラ モモガ ナガレテ キテ  
ネー……/デ オバアサンガ ヒロツテ  
タバテ ミルトネ オイシカッタカラ  
ネ…… オジイサンニモ トットイテ  
ネー/〔おじいさんが〕ワッタラー ア  
カチャンガ デテ キ(テ) (自-h女5:  
7-11)

○ウサギガ カツタカラ(たときは) カメ  
ガ マケテテネ/ソイデネ ウサギハ  
ネー ネー ネムクテネー ヒルネ シ  
テネー/ソレデネー カメハ サキニ  
イッテ カメノ ホウガ カッタノ。(自  
-b男5:1-11)

2-6 題目語をもつ構文

2-6.1 題目語をもつもの

S/S~Z

[7][4][1]

○コレハ クマト ネズミト〔が〕 オイカ  
ケッコ シテテサー ドウロノ マンナカ  
ニ デチャッタラサ/トラックガ ト,  
キテサー キーッテ キュウテイシャ  
シタノ。(赤-w男6:3-31)  
○シエナンドーテネ ユキガ フツテネ  
タロ(ウ)ト ウマト イッショニアル  
イテネ ドツカ コヤガ アツタカラネ  
トマッタ(ン)。(自-b男6:0-24)

○コレハネ クマサンガネ ネズミガ イ  
テネ〔ので〕ソレ オイカケテネ〔た  
ら〕/クマガネ ジド バスドウリニ キ  
テ ダンブカーニ ヒカレソウニ ナ  
タノ。(赤-w男5:3-11)  
○コレハ ハジメ ネズミサンガ イテネ  
コンド クマサンガ キテ ネズミサン  
ガ アマリ オオキイノテネ ラ クジ  
ラカト オモツチャツテ ニゲテ コン  
ド クマサンガ オイカケテ キト  
ラックガ キテネー キャーッテ ネズ  
ミサンガ イッテ ウシロカラ クマサ  
ンノ ウシロカラ トラックガ ドカア  
ント ブツカツチャッタノ。(赤-p女5:  
2-17)

○ズット マエネ ボクガ オウチニ イ  
テネ ズット マエ ノ ユメネ (は)  
ボクガ オウチニ イテ/ヤマガ ミエ  
テ カザンガ アンノ。(小-福男4:2-9)

○S~Zの  
形式には  
S~Z, S~Z

の形式も含  
まれる。  
○「これは  
?」という  
質問に対す  
る答が多  
い。

2-6.2 題目語

をもたないもの

(S)/S~Z  
Z

8611

○〔そこは〕キガネ イッパイ アツテネ／ハヤシガ アル トコロ。(自-d 女5:11-10)

○〔この絵は〕ソシタラ ライオンガ タベウト シタラネー 〔しまうまが〕ニゲテ イッパイ ソレデ イッパイイルネー イッパイ シマウマガイルトコ ツレテ イッチャツテネー 〔ライオンは〕ビツクリシツテネー アーソイデネー トバサレチャツテ〔ので〕ワツテ イッタラネー ソシタラシマウマガ ワラッタ トコロ。(赤-0 女6:1-26)

○ソシテネ 〔これは〕シマウマハネ ヨロコデケルケドネ／ダイオンガネ マンナカッタカラ ヒトリデ ネ ドツカヘ イ イーク トコ。(赤-s 男5:6-15)

●〔その話は〕ショウチヤンガ デテ オニイサンガ デテ キツ オトウサンモ デテ ト オカアサンモ デテ クルノ。(赤-i 女5:3-14)

○ソレデネー 〔これは〕オオカギ カミガネー オオカミノ シッポニネ 子ウチヨガ ノッカツテネ クチュクチュ シテ／〔おおかみが〕ワラッテルトコ。(はっきりしないが) (小-神女4:1-13)

2-7 その他の構造からなる文

2-7.1 文中に主語をもつ節の含まれる文

2-7.1.1 主語一つからなる文

6

●ボク オマツリニ イッタラネ ワタアメガ アツタカラネ カツテネ、ソレカラ イツテネ キンギツリ ヤツテカラネ イツテ、ソイカラ キヤラメルガ ノツカツテテ ソレガ マワツテテネ テツポウデネ ウツテネ、ボク イッコダケ キヤラメル トツタケド アト ハズレダッタ。(自-c 男6:3-1)

○〔わたしたちは〕ウタヲ ウタツテネ ソレカラネ オユ ハジメハネー オハヨウゴッコ シテ ソレカラネー センセイガ キタラネー シマツテネー ソレ

●ソイデネ 〔ぼくが〕ブー ナラシテモネ 〔友だちが〕デテ コナイカ(ラ)モイチド ヤツテ ミタラネ マダ 〔友だちが〕デテ コナイカラ カイシャ イッタノカナート オモツテ サ(ッ)キ アノ カエツチャッタノ。〔帰ってきた〕(赤-1 男4:8-3) (注)

○SZ-を  
含むもの。  
○主語のあらわれない構文も含む。  
(注)問題があるがここに入れてみた。

<p>カラ タイソウ シ<sub>テ</sub> ミンナ コウシ ンシ<sub>テ</sub>ネー オヘヤニ ハイッ<sub>テ</sub>ネー オウタヲ ウタ<sub>テ</sub>ネー ソレカラ オ ナマエヲ ヨン<sub>テ</sub>ネー(もらって) ソレ カラネー オ<sub>テ</sub>ラヘ イクノ。(赤-k 女 6:2-10)</p> <p>○ダカラネ (シン<sub>テ</sub>レラは) イコウト シ タケ<sub>ト</sub>ネ オカアサンガ〔に〕ネ 「ダイ ドコロヲ キレイニ シナサイ」トカネ イイツケラレチャッ〔て〕タカラネ ソノ コトバツカシネ アタマニ アッ<sub>テ</sub>ネ ソウイウ コト ワスレチャッタノ。(赤 -p 女6:2-13)</p>	<p>○〔僕〕 ヤマ イッ<sub>テ</sub>ネ トンボガ イッパイ イタカラネ カ<sub>カ</sub> ムシカ ゴ モッ<sub>テ</sub> アミ モッ<sub>テ</sub> ト<sub>ツ</sub>タ ト ツ<sub>テ</sub> キタラネノムシカゴン ナカンネ トンボガ イッパイ ナッ<sub>チ</sub>チャッタノ。 〔SZ<sub>Z</sub> ZZ/SZ〕 (赤-u 男6:5-21)</p> <p>○ロケツトガネ マグマニ カワッ<sub>テ</sub>ネ タタカッ<sub>テ</sub>ネ カイジュウガ シニソウ ナッ<sub>テ</sub>モ タタカッ<sub>テ</sub>ネノ〔怪獣が〕 シ ン<sub>ダ</sub>ラネ〔マグマは〕 マタ カイル。 〔SZ Z<sub>Z</sub> Z/(S)Z〕 (赤-n 男6:2-7)</p>	<p>○ナン<sub>デ</sub> オモシロイッ<sub>テ</sub> イウトネ ア タシ サチコガネ アカチャンガネ ア ソンドルトキ ジャマシ<sub>テ</sub>ネ ナンカ ヤッ<sub>チ</sub>チャウカラ。(自-g 女5:11-7)</p>
<p>○ボウヤガ ミズ マキニ キタラネ オ ハナガ オレテルカラ オカシイカラ ザ<sub>ー</sub>ツ<sub>テ</sub> ヤッタラノ〔花が〕 タツタ ノ。〔SZ<sub>Z</sub> ZZ/(SZ)〕 (赤-u 男5:6-10)</p>	<p>○ソイ<sub>デ</sub>ネーエ ドウシ<sub>テ</sub>ネ〔わたしが〕 オヤスミ シタカッ<sub>テ</sub> イウトネーエ オカアサンガネ チョット ドッカ<sub>テ</sub> <sub>デ</sub>カケ<sub>テ</sub>ネ アタシ チョット カセギ ミネ,ダカラネ オカアサンガ 「オヤス</p>	<p>○コウ コウレネ〔花が〕 ドウシ<sub>テ</sub> コ ウ ナッ<sub>チ</sub>タカッ<sub>チ</sub>エウトネ コウ マッ スグ ナッ<sub>テ</sub>タノガネ カレ<sub>チ</sub>チャッ<sub>テ</sub> コンナ ナッ<sub>チ</sub>チャッタノ。〔SZ/SZZ〕(紳 -三男4:0-41)</p>

2-7.1.2 主語  
二つ以上か  
らなる文  
[5][1][1]

○いずれか  
の単位文の  
中に SZ<sub>Z</sub>  
を含むもの。

2-7.2 提示的  
単位文をも  
つ文  
[1][1][1]

<p>ミニ シナサイ」ツタカラネ (わたしは) オヤスミ シタノ。(S)Z/SZSZS Z/(S)Z (赤-q 女5:2-6)</p>	<p>○ソイデネ ウサギサンガ トットコ トットコ イイチヤツテネ ソイデネ カメサンネ ココデ ノロノ ノロノ アルイテツテネ コンド ウサギサン チカレテネ ノロノ ノロノ シテネ コンド カメサンガ トットコ トットコ アルイテネ ソイデ ウサギサン ノロノノロ シテテネ (イットキ) トットトットトット カメサン ハシツテ イツチヤツタノ。(赤-t 男5:1-13)</p>	<p>○ソイオンガ/大きい声でね/イテ- /ラ イオンがいて/シマウマガ- /大きい声でね/オリテ- オク シマ シマウマ ガ オクチヲ アイテ- シマ- シマ ウマ シマウマガ- コツチヘ イツ テ- ライヨンガ- オイカケテ コツ チヘ イツテ- /そんで? /イツテ- ココヘ シ シマ シマウマガ イッパ イ イテ- ライヨンガ コウイウニ ナツタノ。(小-相男4:4-16)</p>	<p>○六つ以上の主語からなる文も含まれている。</p>
<p>2-7.3 一文で話そうとし「~て~て」となる文、他</p>	<p>○ソイデ ネズミガ キテネ ソイデ マガ ニゲテ イツテ ソイデ ネズミガ ニゲテ ソノ クサリガ アツテネ クマガ ニゲテネ ネズミトネ クマガ ネ チョット トラックニ ヒカレタノ。(赤-k 女6:2-27)</p>	<p>○ソイデネ キテネ トンデ キテネ 「モモタロウサン モモタロウサン ドコニ イクノデスカ」ツテ 「オニタイ ジニ イクンダヨ」(ツテ) デネー 「イッショニ イツテモ イイデスカ」「イイトモ ツイテ オイデ」ツテ イツテネー オダンゴ イッコ アゲチャツタノ。(赤-e 女4:9-7)</p>	<p>○年中には対象幼児によい例がみられなかつたので補助資料の例を</p>
<p>2-7.4 会話文のほいはる文</p>	<p>○ソンデネ 「オコシニ ツケテンノハ ナンデスカ」ツ チュツテ 「キミダンゴ」「ワタシニ シトツ クダサイ」ツ チュツテネ 「ソノ カワリ オニタイ ジニ イクカ」ツ チュツテ 「ハイ オトモ シマス」ツ チュツテネ キミダンゴ ヒトツ モラッタノ。(自-u 女6:5-20)</p>	<p>○ソイデネ ソコロ ワタル(ト) チビヤギノ ガラガララドンガ サイショニネ イチバンニ キテネ トロルガ 「ダレダ」ツテ イツテネ 「チビヤギノ ガラガララドンデス」チュツテネ 「オマエヲ ヒトノミニ シテ ヤルゾ」チュツ</p>	<p>3 4</p>
<p>2-7.5 一つの物語を一文で話そうとして長文にたったもの</p>	<p>○マイニチネー オセンタク シタリ シゴト シタリネ シテテネ オネエサン ト オカアサンタチネー アソンデ バッカシ イテネー オシロツカラネー オチガミガ キテネー オネエサンタチネー キレイニ シテネ イツチヤツテ</p>	<p>○オバアサンガ……カ……オバアサンガ カワデ オセンタク シテタラ オ、オセンタク シテテ、オジイサンハ ヤマヘ シバカリニ イツテ、ソウシテ……ソウシタラ オバアサン トコロヘ オオキナ モモガ ナガレテ キテ ソウ</p>	<p>5 1</p>

ネー シンデレラ キ、ルモノガ ナイ  
 カラネー オルスバンデネー マホウツ  
 カイノ オバアサント、ガネー キテネ  
 カボチャツ チュウ カボチャネ バ  
 シヤニ シテネー シロイ ネズミヲネ  
 ウマニ シテネー シンデレラネー バ  
 シヤニ ノツテネ オシロニ イツテ  
 ネー カエル トキニネー カタホウノ  
 クツネー オヌケチヤツテネー シロ  
 ンナイデネー オウチ カエツチヤツテ  
 ネ ケライイタチガネー マチジュウノ  
 ネー シメ オンナノ ヒトニ ハカセ  
 テネー シンデレラノ ウチニモ キテ  
 ネー オネエサシタチ ハ イタケド  
 ネー オオキイシ アシガ オオキスギ  
 テネー ハイナクテネー シメガ ハイ  
 タラネー ハイ ビツタリダツタカラ  
 ネー オウジサマトネ ケツコン シテ  
 ネー ソイデ オシマイ。(自-j 女5:7  
 -8)

○〔わたしは〕(妹と) ワカレテネ ソ  
 イデ アソアトキモ アルケド トオイ  
 デシヨウ、ダカラ アソベナイノ。(赤-  
 x 女6:2-2)

シタラ オバアサンガ ヒロツテ オウ  
 チへ モツテツテ ホウチョウデ キッ  
 テ ソウシタラ ナカカラ アカチヤン  
 ガ ウマレテ キテ ソウシテ…… オ  
 サカナヲ タベサシタリ オオキク タベ  
 サシタリ ソウシテ オオキク ナツテ  
 ソシタラ ニッポンイチノ ハタヲ ツ  
 クツテ ソウシテ キビダンゴヲ ツ  
 クツテ…… ソウシタラ オニタイジニ  
 イツテ モモタロウ オニン トコロ  
 ヲヤツツケタノ。(神-師女4:11-7)(注)

○デパー ウチ オヤスミダカラネ [わ  
 たしたちは] デパート イツテネ ソ  
 コニ コウエンガ アンデシヨウ、ソコ  
 デネ アソンデネ デパートデネ ナン  
 カ オオウフク カツテ キタノ。(自

テ 「オット タベナイデ クダサイ。  
 モット ボクヨリ モット オオキイ ヤ  
 キノ ガラガラドンガ クル」「ソレナラ  
 マツ トットト キエウセロー」ツテ  
 イツテネ コンド ニバンメヤギノ ガ  
 ラガラドンガ ヤツテ キテネ、ソイデ  
 「ダレダ オレノ ハシヲ カタコト  
 ガタゴト サセル ヤツハ？」チュウテ  
 ネ 「チビヤギ ニバンメ ヤギノ ガ  
 ラガラドンダー」チュウテ 「ソノ ヒト  
 モ ヒトノミニニ シテヤルゾ」ツテ  
 ムツテネ ソイデネ 「モット オオキ  
 イ ヤギノ ガラガラドンガ クルツ」  
 チュウテネ 「トットトネ キエウセロ」  
 チュウテネ ドンドン イツテネ コノ  
 アトデ モウ ヤツテ キタノガネ オ  
 オキイ ヤギノ ガラガラドンガネ キ  
 テネ 「イッタイゼンタイ ナニ モノ  
 ナリツケタラネ オオキイ ヤギノ ガ  
 ラガラドンダー」チュウテネ ソレハ  
 ガラガラゴエダツタノ。(神-三男4:0  
 -43)

○ハナヤガ アツテ トリヤガ アツテ  
 ソノ ヨウフクヤガ アツテ ソノ ツ  
 ギニ タ トリヤノ マエニ タバコヤ  
 サンガ アルデシヨ、ソコーネ ソコノ  
 ネ ソノ トナリガ ボクンチ。(神-三

あげた。

(注)終わり  
 のほう主語  
 欠文。

○「会話文  
 のはいる  
 文」とも言  
 える。

○文のみで  
 なく、単語  
 や節を合  
 む。

2-7.6 挿入文  
 をもつ文  
 2-7.6.1 「で  
 しょ」挿入  
 5.11.2

<p>2-7.6.2 「だよ」挿入</p> <p>[8]2</p>	<p>○ソレデ ソノ オトコノ コノ ママガ サ イナク ナツチャツテ ママガ イ タンダヨネ シンデタンダヨネ ソ(イ) デ ニンゲン モドシチャツタノ。(白-g 女5:11-14)</p>	<p>-u 女5:5-2)</p> <p>○テレビネ アカチャンガ イルカラネ アルクダヨ, ソレデ モウ オオキイ カラネ ソコヘ シタニ オイトクトネ サワルカラネ タカイ トコニ アゲテ ミテンノ。(赤-a 男4:11-7)</p>	<p>男4:0-30)</p>	
<p>2-7.6.3 単語や句を補足する挿入</p> <p>[7]31</p>	<p>○キューチャヤンガネ ショウチャヤンニネ 「テレビガ キタヨ一」ツテ ミテテネ, フタリデ, ソンデネ一 キュウチャヤンノ オトウサンガネ 「ダメダ」ツテ ユツテ ーネ ジブンモ ミテルツテネ オカアサンガ チュウイ シタンダツテサ。〔後文それ〕(白-h 女5:7-8)</p>	<p>●クマサンガネ ネズミ ミツケテネ コニ キトラ ネズミガネ トビダシタカラ ジドウシヤニネ クマ クマサンガ ネズミヲネ タスケヨウト シテネ トビダシタラネ ジドウシヤニ プツカツチャツテネ ネズミガ トビアガツチャツタノ。(赤-e 女4:9-15)</p>	<p>○ソイデ オネエサンガ イテネ, ヒユウマクンニ, ソノ ヒトガネ イツモネ イツモ テテ キテネ オワリノネ ウタン トキハネ ヒューマノネ ナンデモ ワツタリナンカ シテンノ。(神-三 男4:0-33)</p>	<p>○欠けてい る成分の補 足, 言いな おし。</p>
<p>2-7.6.4 節を挿入</p> <p>[4]1</p>	<p>○ソシタラネ スグ ソバニ パンヤサンガ アルカラ (ぼくは) パン カツテネ サキ タベテ オウチ カイッカラ スグネ オフトン ヒイテ, オフロ(へ) イク トキモ イク トキモ アルヨ, ソンデ ネテネ ママタチハ ジュウイチジ ジュウニジマデ オキテンノ。(白-u 女6:5-9)</p>	<p>●ソノ カエリニ ミツコシ ヨツテ, ソノ カエリニネー ウチビ ウチ アタシノ オウチ コワシテネ ビル ソックルノ, /そう。/ソノ ビルニ ヨルノ, ヨッタノ。(小-野女4:9-5)(注)</p>	<p>(注)一文と 言えるか疑 問。</p>	<p>○ウ(ル)トラセアン アレ ツクツテネ タイアンモ チュクツテ テネ アレ ビーポー ビーポーネ ビーポーネ デンキ ジュウト シュウツト アレ ア ハシ ン ドゴ アレハネ フタガ ナク</p>
<p>2-8 不明文</p> <p>2-8.1 内容不明</p> <p>[49]2717</p>	<p>○……デンシヤデネ ウチ カエツテ キタラネ… ボクガネ マドノ ホウデネ デンシヤガ キタラネ ボクネ スワツテ タツテタラネ スワツチャツタ。(白-1 男6:0-5)</p>	<p>○ソシテネー コウ イウ セミヲ キツテネ ソシテ アメ コウ イウ フウニ ヤツテ マツチノ ボウ ウラニ ツケテ ポント ヤツタラネー ハイルヤツ。(赤-s 男5:6-7)</p>	<p>○ウ(ル)トラセアン アレ ツクツテネ タイアンモ チュクツテ テネ アレ ビーポー ビーポーネ ビーポーネ デンキ ジュウト シュウツト アレ ア ハシ ン ドゴ アレハネ フタガ ナク</p>	<p>○ウ(ル)トラセアン アレ ツクツテネ タイアンモ チュクツテ テネ アレ ビーポー ビーポーネ ビーポーネ デンキ ジュウト シュウツト アレ ア ハシ ン ドゴ アレハネ フタガ ナク</p>

<p>2-8.2 ごたごたと話して統一性なし [9][13]</p>	<p>○オカヤマデネ ナンカネ ドッカ イツタトキネー ソレデネ キノウハネ [わたしは] オ オカヤマへ イカナイデ アサクサニ イツヅネ ソレデ コルフノ ツギ アサクサへ イツヅネ アサクサノネー オマイリスルトコガ イットウ オモシロカッタ。(赤-k 女6: 2-7)</p>	<p>○ダツ 子 子カイン, チョット 子カイケドサー ダケド コウエン イクトキハサー ハイル トキハ ダイジョウブダケドサー オフロへ イツヅサ マルプロニ ガッコウノサー トコ トオルトサ オフロ イク トキ マルプロ イッタラサ カエル トキガ トオクインダモン。(神-三男4: 0-31)</p>	<p>チャーネ アレハ ハシンナイ。(神-場男3: 10-9)</p>
<p>2-8.3 主語や補語なしのため内容不明 [7][13]</p>	<p>○デネ コ モウ ヒトリネ テキガ [正ちゃんに] イテネ ソノ ヒトモネ オトコノ コガ ヒトリ イヅ ソレデ [正ちゃんは] アト ミンナ アツメテ キヅネ ソレデ スツト マエハ [二人は?] ケンカシチャッタノ。(赤-P 女6: 2-11)</p>	<p>○シヨイデネ スイトウ モツテ イツテネ コンドネ スイトウ モツテ イツテネ マタネ コンド ドッカへ アスキノウネ ドッカへ イクカラネ チュンデネ コウラクエン(へ) イツテ タノ。(自-j 女4: 7-13)</p>	<p>○(主語) オフレテネ ポッカーンツテ ライヨンガ キテ オオカミト ライヨン ト ケンカシタノ。(小-加男4: 1-10)</p>
<p>2-8.4 構文はよいが内容のおかしいもの [4][1]</p>	<p>○カッチャンガ ボクー ボクガネー シタオリテ カッチャンガ スツテンコロリン シタカラ ナーングト オモツタカッチャンガ ネテタノ。(合悟のベッドで) (自-k 男5: 8-8)</p>	<p>○シンダラ ニユウイン シテ モウ ナオツチャッタノ。ドコモ; (自-s 男4: 10-12)</p>	<p>○ソレデネ アミモ アツテネ オシオガ ハイツテテネ アマイノ。(神-古男4: 5-5)</p>
<p>2-8.5 前後の文の関連性不明瞭(注) [3][14]</p>	<p>○(おばQは) ピーコノネ ウチノ オウチニ イツヅネ オッコチソウニ ナツテ/ソイデサ ホイデ ツリー シタリシタノ。(自-s 男5: 9-21)</p>	<p>○(主語) 「チョット コマルツ」チュウツラネ コンド オウジョ オツキイ オウジョ マデネ チツチャク ナツチャッタカラネ フタリノ オウジョニネ タノンダノ。(自-j 女4: 7-17)</p>	<p>○アブアブウニ ジイチャント バアチャント オベベ キテ/ソシテネ ソシタラネ ソシタラ コウイウ コニ トビダシテ 「アブナイ」ツテ イッタノ。ヒロコガ; (神-佐女3: 7-15)</p>

(注)統一性なしにもはいりそう。

<p>○ムカシネー ハッパガ〔に〕 ココへ 〔咳〕 デンデンムシガ イテ ワンコガ イッパイ イテー アッ コッチニモ ワンコガ アルヨ。(小-長男3:5-13)</p>	<p>○〔わたしは〕 ソノ シーソニ ノッテー コンドハ プランコニ ノッテー ソレ カラ コンドハ アタラシイ ノリモノ ガ デキタノ。タコ；(赤-f女4:10-8)</p>	<p>○ソシテネ ワルモンガ キタラネ スグ ニ ウォーターシュートッテ イウノハ ココノ ボタン オスト ビーテ アイ テ ソシテ シュシュット ナゲルトネ ミンナネ シンジャウノ。(赤-m男5:10-19)</p>	<p>○ソイデネ トンデネ トンダラネ ダメ ダツタカラネ ジドウチャニ タノンデ モ ダメダツタノ。(小-佐男4:3-22)</p>	<p>○ソイデ オテンキガ アルカラネー ハ ナ モウ オレナイデネー アタラシイ ネー ハナト トリカエテネー ダカラ ココニ オイテ アンノ。(赤-k女5:3-16)</p>	<p>○ソレガネ ソレデネ コッチ イッタラ ネ マタ シマウ(マ)ガ イテ ネ コ ノ コタチガネ オゴライテネ ウチへ カエッテダネ。(自-n男6:5-17)</p>	<p>○ソシタラネ (ミミガ) アツテネ ジブ ンノ ミミガ ( ) アツテ ( ) テンノ。(神-折女4:3-13)</p>	<p>○コレハネー カジ シュルトキネー コ ロ ココニ ネジュミガ イテ クマガ ツカマエヨウト オモツタラ ココカラ ニゲラシチャウ シ... ネズミヲ ニガ シチャツテ ココハ スツト イッチャ ツ ワタツテ イッチャツタ ( )。(自 -s男4:10-26)</p>	<p>○オカアサンハサ (サキ) .....ダレカガ サ バケテサ オカアサンガサ ナツテ サー ( ) イタノネ。(赤-x女6:2-11)</p>
---	--	---	---	---	---	---	---	--

2-8.6 文脈の  
それ(注)  
[7][10][7]

2-8.7 絵に対  
する解釈が  
できていな  
い  
[5][2][4]

2-8.8 録音の  
聞きとりに  
くい箇所を  
もつ文  
[9][13][14]

3 接続助詞たり、しをもつ文

文構造	用 例			備 考
	年 長 (赤羽・自由)	年 中 (赤羽・自由)	年 少 (神谷・小川)	
<p>3-1 ~たり～ たりをもつ 文</p>	<p>○オママゴト シタリネ オニゴッコ シ タリ テツボウ シタリ スンノ。(自 -u女6:5-15)</p>	<p>●〔お母さんは〕 イツモネ オツトメ イッタリネ オリョウリ ックツタリ シテンノ。(赤-g女4:8-2)</p>	<p>○〔ぼくは〕 ナマイ カイタリネ ホン ヨンダリ チテルノ。(小-金男4:1-5)</p>	<p>○「～たり する」「～た りすること もある」に ついては「單 文の構造</p>
<p>[29][5][15]</p>				

○オリガミトカネ アトー ナンカ ツ  
クッタリネ ソレカラサ オエカキトカ  
ネ ネンドトカ スル。〔2例あり〕(赤  
-j 女5:7-6)

～たり～する

2□□

○アレ ヤッタリネ イロイロ スルノ。  
(赤-k 女6:2-11) (注)

●ケンカシタリネ ソワイウ フウニ ヤ  
ルノ。(赤-J 女5:8-16)

～たりして～

9□□

○センシャゴッコ シタリシテ アソシテ  
ル。(赤-0 女6:1-5) (注)

●ソレカラサ ソトノネ オニワデネ  
ブーランコ ノツタリ テツボウ シタ  
リ〔して〕 アソシテル。(自-F 女5:7-8)

●ホイクエンハネ スベリダイテ アソソ  
ダリネ スキップ〔したり〕シテ アソソ  
ノ。(自-C 男5:11-4)

～たり～たり

1□□

○ウチ カエッタラネ エホンネ ミタリ  
ネ テツボウ シタリ ブーランコ シ  
テネ コウエンニ イッチェ アソシテ

と用法]及び「文末の形式と用法」のところで述べた。  
○「たり」の一方の欠けているものもある。  
○「たり」で文末になっている省略文もある。  
(注)文末でまとめる。

(注)これは1つの接続助詞からなる文にはいない。  
○誤用をあげておいた。

○「たり」でなく「て」ですませてい

●オカアサンゴッコツテネ オカアサンニ  
ジュンバンニ ナッタリネ アカチチャン  
ニ ジュンバンニ ナッタリネ オネエ  
サンニ ジュンバンニ ナッタリシテ  
アソブノ。(赤-e 女4:9-11)

<p>その他 □□□□</p>	<p>キタノ。(自-j 女5:7-6)</p> <p>○ボクネ マクラ カタヅケタリ ナンカ シテララネ ドンドン ナゲルカラ <u>ボクネ</u> ココ <u>アツチャッテ</u> ネ タオレ チャッタ。(自-1 男6:0-8)</p>			<p>る。 ○二つ以上の接続助詞よりなる文にはいって</p>
<p>3-2 ~し~し をもつ文 ~し~ □□□□</p>	<p>○イツモネ オサンボ イク トキニ ツレテ [いって] クレルシネ オカイモ ノモ ツレテッテ クレル。(赤-f 女5:9-2)</p> <p>○オヤスミデ シュクダイノ イチバン オモシロイカッタ[おもしろかった] コトノ トキノモ [とまきのことも] アツタシネ ソレカラ シュクダイガ オワッタ[て] オソトデ アソンデ オモシロカッタ トキモ アツタカラ, イロイロ。(赤-s 男6:6-4)</p>	<p>○テ-モ アルシネ アシモ アンダ。(自-p 男4:7-10)</p> <p>○ソウイウ ホン ヨンデ クレルシネ。(自-t 男5:3-21)</p> <p>○パピ-ヤ ミテルシネ ジェッターラッテ ナンデモ ミテル。(自-s 男4:10-18)</p>	<p>○ソレカラ ニカイニネ チツチャイ ツミキモ アルシ。(神-鈴男3:6-3)</p>	<p>○年少文末のみ2例ある。 ○文末でまとめる。</p>
<p>~し~し □□□□</p>	<p>○オエキヤサ オソトデ アソンダリサ シュセキモ トルシサ, オユキモ スルシ, タイソウモ スルシ, ソトデモ アソベルシサ, ヨウチエンノ ホウガイイト オモウナ。(赤-w 男6:3-11)</p>			<p>他の幼児が「て」を使うところを「し」を使っている。</p>

## 第4章 連体修飾語の構造と用法

連体修飾語を、幼児は大体2歳前後の時期から使用しはじめる。そして、大人ほどではないが一応就学前には、ある程度複雑な構造も使えるようになる。ただ連体修飾語は、<sup>(注1)</sup>その他の文の要素も同じであるが、語彙と密接な関係をもっているので、語彙の十分な習得が連体修飾語の発達に関連してくる。それ故、形式のみから発達はみられないが、構造の複雑さも発達のめやすとして考えられるので、構造と意味の二方面から幼児の連体修飾語の特色をみていくことにする。

この一部は、『国立国語研究所年報19』（1968）で報告した。

構文論的な面から連体修飾語をみた研究は成人の場合にも少ない。しかし、連体修飾語は、体言<sup>(注2)</sup>

(注1) 大久保愛は『幼児のことば』（国土社）に、一児の連体修飾語の発達の過程を述べた。それによると、1歳8か月に準体助詞を使って、パパのものかママのものかの意で、「パパノ?」「ママノ?」と言った。連体修飾語の発芽である。次1歳10か月にも準体助詞の使用がある。「〇〇（自分の名、以下同じ）ノヨ」。そして1歳11か月に所有所属関係をあらわす「〇〇ノ シャシンキ」「〇〇ノ ママ」と使っている。この月にはまた、属性を示す形容詞的修飾語がはじめて使われ、「アカイノ ツクッテ」。2歳になると盛んに使う。「オオキイ バス」等と。また、この時期には、節を含む言い方も使っている。「〇〇ノ ジジ カク モノ」。2歳1か月には「コノ ズボン」とこそあどの修飾が出たり、「ガッコウノ センセエ」という名詞による修飾も使われる。また、「タンポポノ オベベ」と属性を示す名詞修飾が出てくる。2歳2か月には「アカチャンノ トキ」と時の修飾があらわれ、2歳3か月になると「チガウ オバチャン」と動詞をもつ修飾形式がはじめて使われ、「ニャンコガ ヒッカイタ トコ」と節をもつ連体修飾構造で形式名詞を修飾する形をしきりに使うようになる。二語以上の修飾語をもつ形式は「ヨソイキノ ユウエンチノ オベベ」（2歳7か月）「ウラシマサント イウ コエ」（2歳8か月）という順序で使っている。単純な構造が多いが、形式は3歳までにはほとんど出ているといえる。

(注2) 山田孝雄は次のように言っている。『日本文法学概論』753～773 へ

「すべて連体格の語はその対象たる体言に対してその観念を限定してその意義をば明確にせむがために附加せしめたる制限的観念をあらわす語にして之が附加せられたるによりて、その対象たる語とこの連体格の語とが一同となりて更に大なる観念団をなすものなり」

また、大久保玲子は「修体文素の指導過程をさぐる」（児言研国語 No. 3 1965・2）に、連体修飾語を五つの基礎的な型に分けている。

(1)形容詞文からの変型とみられるもの（形容動詞を含む）

(イ)形容詞について いい天気 しんけんな顔

(ロ)名詞（主語）＋形容詞について 月のいい晩 運動がよいため

(2)動詞文からの変型とみられるもの

(イ)動詞について ぬかる道

(ロ)名詞（主語）＋動詞について みんなのいるへや わたしが買う品物

(3)名詞文からの変型とみられるもの この形が一番多いとしている。

うなぎの頭 もずの声

名詞のいくつも重なった形もある。

あなたのそのの草の葉の上

この名詞文では

(A)単位文に還元できるもの ひとつのふとん

(B)単位文に還元できないもの 川の中 の形式の二種がある。これら五つの型が派生、複合されて複雑な連体修飾語をつくるという。

の意味をより明確に精密に表現するのだし、そこで一つの判断が成り立っているのだから、その能力がどのように幼児の場合発達していくかを調査してみることは大切なことと思える。また、連体修飾語とちがって、修飾、被修飾の関係を文の分析とは独立に研究できるので、とりあげてみた。もちろん文の中における連体修飾語の位置、つまり、連体修飾語が補語を修飾するか、主語を修飾するか、述語を修飾するかそのどちらが幼児の場合に多いか、その年齢的発達はどうかなどと調査の対象となる問題もあるが、こんどはその点は調査しなかった。連体修飾語の内部構造をみたにとどまった。

#### 4.1 連体修飾語の構造

##### 4.1-1 一語よりなる連体修飾語の構造

これは注1のところでも述べたが最初にあらわれる構文である。どのようであるかをあげておく。

一語からなる連体修飾語の例

形式	用 例	年 長 (5:5 ~ 6:6)	年 中 (4:1 ~ 5:6)	年 少 (3:3 ~ 4:7)
体言→体言		ヒマワリノ ハナ ネズミノ コト コノ オウチ	オネエサンノ フク オマツリン トキ コノ ライオン	チカテツノ シャショウ オハナノ トコロ ソノ クギ
形容詞→体言 他		ワルイ ビョウキ タクサンノ シマウマ イロイロナ オハナシ	キイロイ レッシャ カワイソウナ コト コンナ ゴホン	アブナイ ハナビ イジワルナ コ オオキナ チャワン
動詞→体言		ショウドクシタ スプーン ネル トキ	コマッテル カオ ワラウ トコ	アソング ユメ コマッタ コト
副詞→体言		ズット マエ	チョット ウエ	ズイブン マエ

数はあげなかったが、年長、年中、年少にかかわらず体言（名詞・代名詞・数詞など）が体言を修飾するという形式が一番多く、次は修飾部分が形容詞類、動詞、副詞という順になっている。形容詞類はこの種の語彙が幼児の年齢を問わず少ないことが影響して、「わるい」「おっかい」「ちいさい」のことはのみが多くなっている。年少の場合は形容動詞による修飾が少ない。同じ理由と思うが、「この」「こんな」「こういう」などで表現をすます傾向も見られる。副詞は慣用的なものに終わっている。

被修飾語である体言には、形式名詞である「とき」「ところ」「こと」がよく使われている。

##### 4.1-2 二語以上よりなる連体修飾語の構造

問題の残るところもあるが大きく四つに分け幼児の使用する二語以上よりなる連体修飾語の構造と発達を調べてみる。それぞれに所属する用例は章末に示した。用例は補助資料も含めて、適当なものをあげた。

###### 1 □→□→Nの構造

これは修飾語の部分が二語以上よりなるが、まず被修飾語に近い修飾語が被修飾語を修飾し、次にその全体を他の修飾語が修飾するという構造である。三種類に分ける。

1.1 □→N→N — N→Nの部分が「オトコノ コ」「オトコノ ヒト」のように一語的である。語彙不足のため二語を重ねていう例もある。「エイゴノ カイ」と。これは英語塾の意か。年少ではその例だけだった。□の部分には名詞、こそあどと形容詞のもの（形動を含む、以下同じ）がある。

1.2 もやはり 1.1 と同じ構造で、近い修飾語と被修飾語とが結びついて、その全体を遠い修飾語の名詞、こそあど、形容詞、副詞、動詞が修飾するというもの。

近い修飾語と被修飾語の結びつきが密接で、遠い修飾語と近い修飾語との位置を転換することができない。この場合も年少児では三男とb女と鈴男と佐男の四人が使用しているだけである。このうち形容詞的修飾をもつ組み合わせは年少では三男と佐男のみである。年長児には被修飾語に近い修飾語が二語からなるものがある。近い修飾語が副詞や動詞のものは年齢を問わず少ない。年少は三男のみ。「こんな」「こういう」が形容詞→名詞を修飾する構造は年長、年中に多い。「こんな」「こういう」は、「その」「この」とちがって指示的であるより属性的である。そのせいかな年少は三男と佐男のみ。ここで、年少でよく顔を出す三男について注釈をつけておく。年少児でありながら、しゃべったことばは年長児よりも多い。（第1部に全用例出）このような幼児なので、三男しか使えない構造は、年少では使えないかあるいはほとんど使えないとみてもよいのではなからうか。佐男も複雑な用例のときにあがる幼児である。

遠い修飾語の部分が二語よりなる構造もある。副詞+名詞、名詞+名詞、こそあど+名詞で、前者の例、たとえば「モウ セン」と「フルイ」は似た意味をもっているものだし、年少の例「ジャイアント ロボン トコノ」は「トコ」が不用で遠い修飾語が「ジャイアント ロボン」の一つとみてもよいものである。こそあどの例「コノ オハナシノ……」は年長にしかない。ともに語彙使用の未熟さがめだち、修飾語の部分を三語以上話すことが少ないことを示している。

1.3 も同じ構造であるが、被修飾語に近い修飾語が形容詞か、名詞でも形容詞的な性質をもっているものである。すなわち、「オモチャノ プラモデルノ センシャ」は「おもちゃの戦車はプラモデル製だ」と言えるし、「オネエサンノ キレイナ ヨウフク」は「お姉さんの洋服はきれいだ」という文の変換とみられるものである。遠い修飾語には名詞、こそあど、および二語よりなるものがある。この構造は例にあげただけで少ない。年少、年中では形容動詞が十分に使えないで、わずかな形容詞で話しているからでもあろうか。また、近い修飾語、遠い修飾語の部分が二語のものが年長にあるが、年中、年少にはない。その二語も、こそあどとか、名詞も「アパートノ トコ」（「トコ」は幼児がよく使用する形式的なもの）のような言い方だったりする。

## 2 □→□→Nの構造

これは修飾語の部分が二語以上からなり、1とちがって、この二語以上の部分が全体で修飾語となる構造である。

N→N→Nの構造のうち、修飾語の部分のN→Nが一語的な形式は年少児にない。これは一語的と述べたが、子どもと大人の区別を意識したり、男と女を区別してことばで示しているので、むしろ発達であろう。前にも例があった。

その他、修飾の部分の構造が、K→N、A→N、Ad→N、Ad→A、V→Nとあり、年長、年中、年少を問わず非常に多く使っている。特にN→N、K→N、Ad→Nの構造は多い。A→Nの

構造もわりに使用しているが、年少の場合は形式名詞を修飾する構造（形式名詞を修飾する構造がいずれの場合も多い。この構造が先に出るようである。）で、村女ひとりのみ。V→Nの構造は、年長のみ三例で、年中、年少は使用していない。動詞連体形の使用は一語の修飾語の場合も少なかったが、そこでは年少も使用していた。

前の部分が三語からなっている構造「オトウサンノ オトモダチノ オジサンノ ジドウシャ」などは、年長、年中、年少でも使用しているが、用例は採集したのが全部である。年長はわりに使っている。年少では二人。そのうちひとりの例はおかしい。

### 3 Cをもつ構造

これは、節（文の一部分で、しかも、それ自ら（主）述をもっているもの）とか、「～っていう」という慣用的言い方などを修飾部分とする（それをCと名づけた）構造をもつ形式である。

3.1 C→ $\square$  —— これは節が名詞を修飾する構造で(i)C=～という、(ii)C=単文よりなる、(iii)C=複文よりなる、という三つの構造がある。(ii)には、(i)主述のととのっているもの、(ii)その他のもの、(この各々を、(a)動詞文、(b)形容詞文に分けた) (c)複雑な形式のもの、がある。(iii)には、(i)ただ一つの接続助詞をもつもの、(ii)二つ以上の接続助詞をもつもの、(c)たり～たりの形式をもつもの、がある。このように分類してみると、(i)の形式と(ii)の(i)(ii)のものは年齢を問わず非常に多く使用している。(ii)のうち述語の部分が動詞のものと形容詞のものがあるが、動詞のものが非常に多い。形容詞のものは数が少ないので用例を全部あげておいた。年長2例、年中1例、年少には見られなかった。(c)の複雑な構造は年長児にしかみられなかった。用例を全部あげた。(iii)の複文の構造をもつ形式は、採集用例を全部あげた。(i)の一つの接続助詞をもつものはわりに使っているが、年少児の例にはおかしなものもある。(ii)二つ以上の接続助詞をもつもの、(c)のたり～たり形式をもつものは、補助資料の例のみ。それも形式名詞の修飾が多い。年少児には用例がない。

3.2 C→ $\square$ →N —— この構造は $\square$ の部分がNとAの場合がある。年長はわりに使っているが、年中、年少は少ない。C→N→N構造を年中ではt男、年少では三男が使っている。あと部分がA→Nは年中、年少は使用していない。あと部分が二語以上よりなるという構造はむずかしいようである。たとえば「ミンナノネ ハイッテルネ アタラシイ オウチ」。Cの部分が形容詞述語文の例は少ない。年少の三男、渡女にみられた。

3.3 C→ $\square$ → $\square$  —— この構造には(1)C→N→ $\square$ と(2)C→A→ $\square$ がある。(1)には(i)Cが単文よりなるもの(ii)複文よりなるものの二種がある。(i)は年中児にもみられ年長も多く使っているが(ii)は年長児のみ。ともに補助資料に多い。年少には使用例がない。(2)の形式は年少補助資料に一例あった。複文をもつ修飾語はむずかしいからだろう。

3.4 被修飾語の部分が節をもつもの——この構造は少ない。年長二例、年少一例。近い修飾語の部分、あるいは被修飾語の部分が二語以上の構造はむずかしいようである。

4 並立関係をなす二単語が(1)被修飾語の部分になるものと(2)修飾語となる部分をなすものの二つの構造がある。(1)の形式は、年少では三男と金男が使っている。あと部分の重い言い方は前にも出たがむずかしいのだろうか。(2)のほうは年齢を問わずある。

#### 4.1-3 まとめ

以上を大ざっぱにまとめてみると、①四語以上の名詞よりなる修飾語をもつ構造は年中、年少に少ない。②あと部分（被修飾語に近いところ）に修飾語をもち、その全体を前部分（修飾語に遠いところ）が修飾する構造（1の例）は、前部分が重い修飾語（2の例）の構造よりむずかしいようである。1より2の構造を年少児がよく使っていることから類推される。3の節をもつ構造についてもこのことがいえる。③章末の表に印をつけた用例のその部分は、意味がはっきりしないので、かかり方があいまいであるが、ともかく分類を試みたものである。備考をつけておいた。年中、年少に多い。たとえば「カゼテ アタツテネ コワレナイ」の下線の部分は否定形で結ぶとき助詞は「ても」になるが、この接続助詞が使えないために「て」と使用したのだろうか。また、「カゼテ」の「テ」は「ニ」でなければおかしい。助詞の誤りも多い。その他「ムコウノ トオイ トコロ」などは「ムコウ」と「トオイ」は同一の意味を重ねて表現したとも取れそう。「ヤマノサ チョット テッペン」の「チョット」の意味は何かわからない、など。まだ、十分にことばが駆使できないためであろう。年長にも年少、年中よりは少ないがある。④Cが複文とかあるいは単文でも複雑な形式のものは、年長、年中にあるが数が少ない。年少には特に少ない。⑤子どもからみていくと、文節数の多いもの、すなわちよくしゃべった子どもが、複雑な構造の連体修飾語を使っているようで、その間に関連が深そうである。（これだけの用例では確信をもっていえないが推察される。）⑥いわゆる準体助詞「の」を修飾する構造はここで省いたが多い。たとえば補助資料の例であるが（補助資料のほうに複雑な構造のものが多かった）「オリョウリ ツクツリ スルノヲ～（赤-0女6:1-2）」とか、「ソノ ツギニ オモシロカッタノハ～（赤-D男5:11-5）」などである。これも分析調査する必要がある課題である。⑦ここでは文の中から連体修飾語の部分を取り出して研究対象にしたが、その連体修飾語が文の成分の中の主語の修飾であるか、補語の修飾であるか、述語の修飾であるか、また、幼児の場合はどの成分に修飾語がつくのが多い（補語修飾が多そうである）か、などについては分析を試みなかった。残された課題である。

#### 4.2 連体修飾語の修飾、被修飾の意味的關係

これまでは、形式から連体修飾語の構造をみてきたが、ここでは、連体修飾語のうち名詞と名詞のくみあわせの場合、幼児はどのような語のくみあわせをよく使うか、どのような語のくみあわせは苦手かをみていくことにする。4.1でもみたように名詞→名詞の關係のくみあわせが多いので、その中を分析してみた。連体修飾語の構造でなく、用法である。

文構造の範囲からはみだし、語彙的なものにも近いが、この面からの幼児の傾向がみられるので、軽く扱ってみることにする。軽くと書いたが、語の意味がかかわってくるので問題が多い。今後の課題にしたい。大きく五つに分けた。章末の用例を見られたい。

(注)

(注) 鈴木康之「名詞と名詞のくみあわせ」(東京成徳短期大学紀要2 1968)ここでは大人の場合をみている。大きく1属性の規定、2所属の指定、3關係の基準の指定、4主体の指定、5対象の指定、6内容の規定、7状況の指定と分け、下位分類を試みている。資料は文学作品である。

#### 4.2-1 修飾語が被修飾語の所有者あるいは所属を規定する

これは修飾、被修飾の関係を転換した場合「のだ」という関係になる類である。たとえば「パパノ オクツ」という場合は「そのお靴はパパのものだ」となる所有、所属をあらわす類である。この類は幼児が一番多く使用している。八つに下位分類した。

- |                |                         |
|----------------|-------------------------|
| 1.1 関係を規定する    | 1.4 用途を規定する             |
| 1.2 所有者を規定する   | 1.5 作品の内容を規定する          |
| 1.2-1 具体物の所有者  | 1.6 場所を規定する             |
| 1.2-2 空間の所有者   | 1.6-1 生物の所属する場所         |
| 1.2-3 現象の所有者   | 1.6-2 具体物の所属する場所        |
| 1.3 所属を規定する    | 1.6-3 空間の所属する場所         |
| 1.3-1 生物の所属    | 1.6-4 現象の所属する場所         |
| 1.3-2 具体物の所属   | 1.7 本体を規定する             |
| 1.3-3 空間その他の所属 | 1.7-1 所属する本体            |
| 1.3-4 行為の所属    | 1.7-2 部分の所属する本体         |
| 1.3-5 言語作品の所属  | 1.7-3 現象の所属する本体         |
| 1.3-6 その他の所属   | 1.8 所属する職業、職場などの種類を規定する |

このうち、生物には人間、動物などがはいるが、それでは怪獣やロボットは生物かということになると、簡単に分類できない。「会社」ということになると、事務をとる場所であるとともに、むずかしくいうと、企業体でもあるわけで、語のどの面を分類の対象にしてよいか迷う。語の意味分類のむずかしさである。とともに、これは大人の感覚で、幼児はどうかとなると、類推する以外にない。それでは全く分類できないかということそうでもない場合もある。この下位分類には、いろいろと問題が残っている。

#### 4.2-2 修飾語が被修飾語の位置や時間、順序、数量を規定する

この関係のものは、年少においては、この種の語彙、すなわち、時、順序、数量に関する語彙が少ないことから、それにともなって、この用法は少なくなる。五つに下位分類した。

- |                   |                |
|-------------------|----------------|
| 2.1 ものや場所の位置関係の規定 | 2.4-2 具体物の数の規定 |
| 2.2 ものの時の規定       | 2.4-3 空間の数の規定  |
| 2.3 ものの順序の規定      | 2.4-4 その他の数の規定 |
| 2.4 数の規定          | 2.5 量の規定       |
| 2.4-1 生物の数の規定     |                |

#### 4.2-3 修飾語が被修飾語の属性を規定する

これは修飾、被修飾の関係を転換したばあい、修飾語の部分が「だ」になる類で、修飾語の性質が形容詞的なものである。「ダイダイイロノ テツ」は「その鉄はだいだい色だ」となる。属性を述べる表現は（所有している語彙も少ないこともあって）用例が少ない。三つに下位分類した。

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 3.1 種類を規定する  | 3.1-3 空間の種類  |
| 3.1-1 生物の種類  | 3.1-4 その他の種類 |
| 3.1-2 具体物の種類 | 3.2 材料を規定する  |

### 3.3 属性を規定する

#### 3.3-2 具体物の属性

#### 3.3-1 生物の属性

#### 3.3-3 その他の属性

## 4.2-4 修飾語が被修飾語の成立に関与する度合の強いもの

これは被修飾語に形式名詞も含まれているが、修飾語がないと意味がとれない場合である。連体修飾語がどうしても必要なため、年少、年中、年長を問わずこのくみあわせはよく使われる。七つに下位分類した。ここでも数量とか抽象的なことばとのくみあわせの場合は用例が少なくなっている。

#### 4.1 位置関係の成立に関係する

#### 4.6 形式名詞の成立に関係する

#### 4.2 時間関係の成立に関係する

#### 4.6-1 とこ

#### 4.3 順序関係の成立に関係する

#### 4.6-2 とき

#### 4.4 数量関係の成立に関係する

#### 4.6-3 ほう、他

#### 4.5 抽象的なことばの成立に関係する

#### 4.7 行為の対象を示して成立に関係する

このうち4.1～4.6までの部分は、前の分類の1.7-1, 2.1, 2.2の項にもはいる用例がある。

## 4.2-5 修飾語と被修飾語が同格の関係になっているもの

この使用例は少ないが、年少、年中、年長とも使用している。

## 4.2-6 まとめ

以上のように分類してみた結果を述べまとめにかえる。章末用例からいえることは、1の所有者あるいは所属を規定する修飾語が他のものに比べて多い。この中で、年齢を問わずよく使用しているのは「具体物の所有者」とか、「生物や具体物の所属を規定する修飾語」<sup>(注)</sup>である。調査の質問内容にもよるが、「言語作品の所属を規定する修飾語」や「作品の内容を規定する修飾語」もよく使っている。また、「生物や具体物の所属する場所」をあらわしたり、「所属する本体」を規定する形式もよく使用している。使用の少ないものは、「空間とか現象の所有者あるいは所属の規定」で、これらは、空間や現象に属する語彙が幼児の身近かにないか、あるいは抽象的な語彙なので所有している数が乏しいからだろう。「用途を規定する」修飾語が少なかったが、調査法によるためかもしれない。幼児がよく使う修飾語の形式には、これもやはり語彙不足のあらわれと思うが、名詞一語であらわせるところを、修飾語+名詞であらわすのがある。たとえば、ワンコノ オウチ(犬小舎)、ジドウシャドウロノ ミチ(車道)、キンギョノ イレモノ(金魚鉢)、ともに年少、フネノ オジサン(船長)これは年長、など。かっこの中のことばを知らないからだろう。その他、二語以上からなる修飾語も年長にみられた。たとえば、「ウチノ トウサンノ イトコ」とか、「オトウサンノ オトモダチノ オジサンノ ジドウシャ」など。

2の位置や時間、順序、数量を規定する修飾語では、「場所の位置の規定」は年少にもみられるが、その他は年少からはほとんど採集できなかった。「キノウノ ヨル」という時の規定が補助資料から一例みられたのみである。順序とか数をあらわす語彙がこの年齢の幼児では十分に使えないのだから当然である。量についての用例は年齢を問わずなかった。

---

(注) 一幼児を調査したものからも所有関係がまず最初にあらわれることが出ている。前出(153ペ)

3 属性を規定する修飾語は、形容詞、形容動詞によっても修飾されているが、それらも名詞に比較すると非常に少なかった。それでは名詞による属性規定はどうであろうか。「種類を規定」する中では、「具体物の種類」が年齢を問わずわりに多くみられたが、「生物の種類」とか「空間の種類」を規定する修飾語は少なく、年少ではみられなかった。「材料を規定する」修飾語は少ないがどの年齢にもあった。「属性を規定する」修飾語では、生物、具体物の属性規定についてはいくらかあった。しかし、全体に言えることは、採集例が少ない。語彙の不足によるためであろう。

4 被修飾語の成立に修飾語が関与する度合の強いものでは、どうしてもなければならない「位置関係の成立に関するもの」とか、「形式名詞につくもの」がもっとも多い。形式名詞では、意味もなく「こと」「とこ」「とき」をつける言い方を愛用していた。たとえば次のようなものがある。「シマウマガ イテ トラン トコニ カカッテ キタカラ〜」これは「虎に」でもよいわけである。その他「オジイチャンノ コト ブッタラ〜」「ムカシノ トキニ カワガ アッテ〜」これは「おじいちゃん」「昔」でよいのである。

この中でも、「順序」「数量」「抽象的なことば」の成立に関係する形式は少なく、「数量」については年中、年少では採集できなかった。年長には、「行為の対象を示す」修飾語、すなわち「ママノ オテツダイ」「ミンナノ セワ」などの言い方がわりに多く見られた。年少は少ない。

5 修飾語と被修飾語が同格の関係にある言い方も少ないが見られた。

全体にいえることは、この五種類の関係を幼児は使用しているのであるが、幼稚な表現が多いということである。\*印で示し、かぎかっこで注をつけた部分である。

連体修飾語の修飾、被修飾の意味的关系をみるには、名詞と名詞のくみあわせをみるだけでは片手落ちであるが試みてみた結果である。

4.1-2 二語以上よりなる連体修飾語の構造使用例

(注1) ○=年中, 年長同一幼児, 年少は神谷, 小川 ●=補助資料例  
 (注2) N=名詞など体言 K=こそあど A=形容詞, 形容動詞他 Ad=副詞 V=動詞 C=節  
 (注3) \* =備考に注がれること

構造	年齢	年	長	中	年	少	備考
1 □→□→N							
* □の中には 名詞・形容 詞・副詞他 が含まれる							
1.1 N→N→N		○ヒトリノネ 11-29)	○オトコノコ (白-d 女5: 11-29)	○オトコノヒト (白-t 男 5:3-15)	○アタリノネ 5:3-15)	○オハナヤノ (神-鈴男3:6-6)	* N→N =一語的 * 一語とみ た。
	●ルージュウノ -A 女6:5-24)	○オンナノヒト (白 女6:5-24)	●アイイコノ* 8)	○オトコノコ (小-久女4:7- 8)	○アソコノネ 4:0-29)	○カミヤコウエンノ (神-三 子)	* 英語塾か。 * 絵本の意。
K→N→N	○ソノ	○オンナノコ (白-g 女5:11-12)					
A→N→N	○チツチャイ 1-29)	○オトコノコ (赤-o 女6: 1-29)	●アアイウミタイナ 女4:8-3)	○エノホン* (小-窪 女4:8-3)			
	●ヒカルヨウナ 5:7-13)	○オンナノコ (赤-N 女 5:7-13)					
	●フルイ g 男5:10-8)	○ケンキユウジョノヒト* (赤- g 男5:10-8)					
1.2 N→N→N	●オニイチャノ 子 (白-a 男5:11-7)	○ガッコウノ オトモダ 子 (白-a 男5:11-7)	●シンデレラノ (小-窪女4:8-19)	○フタリノオネエサシタチ (小-窪女4:8-19)	○オハナヤノ (神-鈴男3:6-6)		
	○ガウスノ コウイウトコ (赤-j 女5: 10-5)	○オトクノ イナカノホウ (白-s 男4: 10-5)					

8-20)

K → N → N

- アソコノ\* ムコウノホウ (赤-i 男6: 2-10)
- コウイウ クサリノトコ (赤-K 女5: 8-19)
- ソウイウ オウチノネカタチ (赤-m 女6: 3-2)

K → K → N

- ソコノ ココントコ (赤-K 女5: 8-9)

N → A → N

- トウキョウタウーノ アカイトコロ (自-h 女5: 7-5)
- マンガノ イロイロノモノ (自-p 女6: 1-13)

K\* → A → N

- コンナ デックイバツタ (自-K 男5: 8-11)
- アンナ アツイホン (赤-f 男6: 3-6)
- コウイウ シカクイモン(門) (赤-K 女5: 8-6)

N → Ad → N

- カワノ スグソバ (赤-w 男6: 3-15)
- ヨウチエンノ スグチカク (赤-d 男6: 4-6)

K → Ad → N

- ソコノ チョウドマンナカ (赤-f 男6: 3-12)

男4: 0-29)

○ エイガノ コウイウカンパン (神-三男4: 0-21)

● ダルマサンノ アアイウイロ (自-b 女3: 10-6)

\*「アソコ」と「ムコウ」は同じ意か。

- コッチノコノジ[字](神-増女4: 11-5)
- コノ コウイウハネ (自-t 男5: 3-12)
- ムコウノ\* トオイトコロ (自-s 男4: 10-5)

- コンナ チッチャイクルマ (小-成男4: 3-15)
- コウ\* ヘンナカオ (自-t 男5: 3-8)
- コウイウ ホソイカイダシ (自-t 男5: 3-4)

○ カミヤ コウエンノ モットサキ (神-三男4: 0-8)

- ヤマノサ チョット\*テッペン (赤-f 女4: 10-11)
- ホドウノ ツグマエ (神-桑女4: 10-12)
- ソノ マタムコウ (自-u 女5: 5-5)

\*このKは指示的より属性をあらわす。  
\*「こいう」の略?  
\*「チョット」はおかしい。

N → Ad → N → N	○ コッチノ [ズット*マカリカド] (自- b 男6:0-13)	● ショノ [スグ ウエ] (小-種男4:3-7)	*「ズーッ ト」はおか しい。
K → A → A → N N → N → K → A → N	● ママノ [ズット マエノ オトモダチ] (赤-q 男5:11-4)	○ コウイウ [マルイ ヒョウタン ミタイノ] (自-1 男5:7-15)	* 準体助詞 の例。 * 「トコ」は 不用。
Ad → N → A → N	○ モウ センノネ [フルイ*オヒサマガミ] (自-d 女5:11-19)	○ イチバン ウエノ [タカイ*オヤマ] -h 女5:4-9)	* 「モウセ ン」と「フ ルイ」は同 じ意か。 * 「トコ」 は不用。
N → N → Ad → N	● ドロン トコ* [スグ ソバ] (自-1 男5:7 31)		* 不十分な 言い方。「丸 く太った」 か「丸い顔」 か。
K → N → Ad → N	○ コノ オハナシノ [イチバン サイジョ]		* 「お寺」の ことか。
A → A → N	● カワイイ [マンマルイ ラシイ*コドモ] (赤-E 女5:8-19)	● ズット [モウ セン] (神-親男4:6-29)	* 「別の」 という意 味。保育園 が二個所に ある。
Ad → Ad → N N → V → N	● ヤキウジョウ ミタイナ [ヒロイ トコ] ロ [自-s 女6:3-1)	○ ジュウホイクエンノ [チガウ ヨウチエ ン] (自-s 男4:10-9)	
	● ズット [モウ セン] (自-w 女6:5-9)		
	○ アサクサノ [オマイリスル*トコ] (赤- k 女6:2-7)		
	● ツギノ [マケタシト] (赤-I 女5:8-28)		

○ ジャイアントロボン トコロ\* [コウイウ  
マルイ トコ] (小-佐男4:3-17)

K → V → N	○オモチャノ アラモデルノ センシヤ (自-b 男6:0-11)		○ソノ アガッタ トチュウ 0-30) (神-三男4:	
1.3				
N → N → N	○オネイサンノ キレイナ ヨウフク (赤-p 女6:2-14)	○ヨウチエンノ タノシイ ホン (赤-k 女5:3-10)	○カイジュウノ* チカラモチノ ジェット (神-三男4:0-34)	* はっきりわ からない。
N → A → N	●コックノ クイシンボウナ ハカセ (自-m 女6:4-15)	●カイブツクノ オオキイ テ (小-海 男4:3-13)	●コノ チイサイライオン 2-11) (赤-i 男4:	
K → A → N	○サンニンノ カワイイ オンナノコ (自-u 女6:5-22)			
	○アソコノ シロイ セン (赤-h 女6:4-7)			
	●コノ アタラシイ イエ (赤-u 女5:11-14)			
	○コノ ショウジキナ オジイサン (赤-w 男6:3-21)			
N →	●コバルトノ イチバン オオキイ ニイサ ン (赤-h 女6:6-7)			
Ad → A → N				
N →	●オコメノ オオキイ サデルノ* フクロ (赤-D 男5:11-4)			* 「名詞+ ノ」の形に ひかれてか 「動詞+ノ」 とまちがえ ている。 * 「トコ」前 出。
A → V → N	●アバートノ トコノ* チッチヤイ コ (赤-p 男5:11-7)			
N → N →				
A → N	●ソコノ コウエンノ チッチヤイ テツ ボウ (赤-x 女5:7-4)			
K → N →				
A → N				

2 □ → □ → N

N → N → N

\* 一語的。

● オトコノ コノ ホン (赤-K女5:8-13)

● オンナノ ヒトノ カオ (自-a男5:11-5)

○ オトナノ バングミノ オハナシ (自-t男6:2-6)

○ ムコウノ オヤマノ マワリ (自-o男6:3-12)

● オミセノ ウインドウノ ガラス (自-h男5:7-7)

● ウチノ トウサンノ イトコ (自-d男6:1-8)

○ ソノ カイブツノ コト (赤-w男6:3-15)

○ ソノ オトコノ コノ ママ (自-g女5:11-14)

● コウイウ イロノ タイ (赤-p男5:11-3)

● チュウグライノ ミチノネ デンキヤヤシ (自-i男6:5-4)

● ウラガワノ タイヤノ ホウノ スイツチ (赤-r男6:3-4)

● デンキノ デンセンノネ クモノ スノ (自-i男6:5-15)

● ホイクエンノ ホウノ カドノ ニケンズ (自-v女5:10-6)

● イロイロナネ オトモダチノ トコロノ

● オトコノ コノ マンガ (赤-q女5:2-10)

● オンナノ コノ マンガ (小-雛女4:8-27)

○ ウンドウカイノ トキノ コト (赤-d男5:4-8)

● ムカシノネ オウサマノネ オハカ (小-野女4:9-28)

○ コッチ ガワノネ オウチ (自-s男4:10-10)

○ コノ ツギノ ニチヨウビ (自-t男5:3-27)

○ ボクノ オニイサン トキノ ホン (自-s男4:10-20)

● ガッコウノ ソバノネ ジブANCHノネ アスコ (神-織男4:4-5)

○ オニノ ニンジャノネ オンナ (神-秋男3:11-11)

○ オネエチャンノ スカートノ ユメ (神-新女4:2-6)

○ センセーノ オウチノ ヤオヤ (神-鈴男3:6-6)

● コッチノ テノ メ (自-a男4:0-6)

○ コノ ネズミノ コト (神-三男4:0-41)

○ オトコノ コノ ウルトラセブソノ テレビ (神-佐女3:7-10)

K → N → N

N → N → N → N

- ネ\* オウチノ トコロ (赤-N 女5:7-8)
- ゴジュウゴウカンノ コッチガワノ 上ナリノ\* オウチ (赤-r 男6:3-7)
- イロンナ ゴハン ユウゴハンノ ネ オシタク (赤-q 男5:11-3)
- オトウサンノ オトモダチノ オジサンノ ジドウシヤ (赤-E 女5:8-32)
- ソコノ ヘイキショウノ ヘエノ トコ (自-g 女5:11-14)
- ココノ トコロノ ホッペノ ナカガ ア (赤-m 女6:3-12)
- ソノ キウウチヤノ ハナシノ マエ (自-g 女5:11-21)
- ソノ カワノ ムコウノ ホウ (赤-o 女6:1-11)
- ソノ ウンドウカインノ トキノ ママ ト (赤-j 女6:6-16)
- コノ ヨウチエンノ ネ リスグミノ ネ オトモダチ (赤-K 女5:8-4)
- アツイ クニノ オバケ (赤-o 女6:1-17)
- アマイ ミズノ トコ (自-s 男5:9-5)
- シカクイ ガラスノ ウエ (赤-m 女6:3-12)
- イロンナ イロノ ハッパ (赤-c 男5:10-10)

K → N → N  
→ N

K → K → N  
→ N  
A → N → N

\* 「トコロノ」は不用。  
\* 「てまえ」とか「右どなり」と大入ならいうところ。

\* 会社の略称。  
\* よくわからない。

\* ク=靴

- アノ コンポン\* トコノ ネ ウラ (神-大女4:6-7)
- コノノ イチバン シタノ ネ\* ニクミノ ネ アソコ (赤-x 女5:2-8)
- アア イウネ イロノ ネ ミチノ トコ (赤-k 女5:3-8)
- ソコノ ソノ シヨクイン ツツノ トチリ (小-久 女4:7-9)
- アカイ イロノ グサ (神-鎌 女4:5-21)
- イジワル オカアサンノ オシゴト (赤-p 女5:2-10)
- キレイナ ピカピカノ ク (赤-p 女5:2-13)

○ チイチヤ イ キノ トコロ (神-村 女3:6-8)

N→A→N →N	○イチバン タカイ ヤマノ <u>ホウ</u> (赤-0 女6:1-28) ●バイエルノ キイロイ ホンノ ナナジ ヌウゴバン (赤-m 女6:3-7)	○モウ ヒトリノ* ライオン (自-k 男5:8-22) ○ズーット ムコウノ バンヤサン (自-a 男5:8-11) ●イチバン ウシロノネ シマウマ (自-p 女6:1-18)	●モウ ヒトリノ <u>ヘンデル</u> (赤-e 女4:9-10) ●イチバン ウエノ オネエ* (自-q 男5:4-2)	○ズット マエノ <u>ユメ</u> (小-福男4:2-9) ○イチバン チビヤギノ <u>ガラガラドン</u> (神-古男4:5-24) ○モウ シュグノ* オニイチヤン (神-寺男4:4-2) ●イチバン ウエノ <u>ホウ</u> (赤-0 男4:2-8) ○イチバン チイサイ モンノ* ヤギ (神-狗女4:3-14)	* ヒトリ = 一頭 * お姉さん。 * 兄が二人以上いて、一番すぐ上の兄の意か。 * おかしい。不用。
Ad→N→N →N	●ヨウチエンノ ズット ムコウノ <u>ホウ</u> (自-p 女6:1-8)	○スコシ チイチャイ <u>ミチ</u> (自-u 女5:5-5) ○イチバン スキナ <u>トキ</u> (自-s 男4:10-19)	○スコシ チイチャイ <u>ミチ</u> (自-u 女5:5-5) ○イチバン スキナ <u>トキ</u> (自-s 男4:10-19)	○イチバン フカイ <u>トコ</u> (神-狗女4:3-4) ○モット タカイ <u>トコ</u> (神-秋男3:11-14) ○サッキ ユツタミタイナ <u>ユメ</u> (神-秋男3:11-7) ●チョット チイチャイ <u>マル</u> (赤-e 男4:1-6)	
A→A→N →N	●スゴイ オオキイ <u>コ</u> (赤-E 女5:8-20)	●モウ スコシ* <u>ウエ</u> (神-宮男5:0-18)	●モウ スコシ* <u>ウエ</u> (神-宮男5:0-18)		
Ad→A→N →N	○トッテモ オモシロイ <u>コト</u> (赤-r 女5:10-6) ●イチバン セエタカノッポノ オニイサシ (赤-l 男6:3-5) ●スコシ オモシロクナイ <u>トコロ</u> (赤-0 女6:1-15)				
Ad→Ad →N					* 語的。

V → N → N	○ネルトキノ [ヨウフク] (自-p 男5:6-5) ●チガウ シトノ* [オウチ] (赤-N 女5:7-8) ●ナラブ ジュンバンノ [コト] (自-v 女5:10-2)	* シト=ト
-----------	--	--------

3 Cの形式をもつもの

3.1 C → N (i) C = ~と いう	●ジュンコチヤンツテ イウ [オンナノコ] (自-A 女6:5-10) ●ウシト カエルツテ イウ [モノガタリ] (赤-j 女6:6-20) ○ドツチガ ハヤクネ ツクカツテ イウ [キヨソウ] (自-g 女5:11-22) ○ユウセイカメンテ イウ ソウイウ* [マンガ] (赤-m 男5:10-18)	○チバツテ イウ [イナカ] (神-村男4:3-12) ○カッコ イイッテ イウ [コト] (小-佐男4:3-16) * 一語的
(ii) C = 単文 よりなる (イ)主述のたと のっている もの (a)動詞文	○テルミチャンテ イウ [コ] (自-h 女4:7-2) ●サワーツテ イウ [ノムモノ] (小-山中女5:0-24) ●(イシイ)サンニ ハイタツ タノムツテ イウ [コト] (小-久女4:7-3) ●オバサンガ イル [オオダンホドウ] (小-篠男5:1-10) ●アメ フツテ ナイ [トキ] (神-宮男5:0-5) ●アタシガ チイチャイ [トキ] (小-野女4:9-11)	○ナミガ コナイ [トキ] (小-相男4:4-6) ○ハッパガ コウ ヤツテ シゲツ [テ] イル [トコ] (神-場男3:10-6) ○オカアサンガ イソガシイ [トキ] (神-三男4:0-6)
(b)形容詞文	○ママト ヨウコガネ オチカケシタ [カエリ] (赤-p 女6:2-18) ●ハカセガ ハツメイシタ [ロボット] (赤-f 男6:3-8) ●ジアンノネ タバタ [シヨッキ] (赤-I 女5:8-3) ●オハナガ オッキイネ [ハカセ] (赤-K 女5:8-11)	

● テンキガ イイ <u>ヒ</u> (自-q 女6:1-17)	○ オテンキノ イイ <u>ヒ</u> (赤-p 女5:2-16)	● グアイ <u>ワルイ</u> <u>トキ</u> (赤-g 男3:5-5)
○ オテンキノ イイ <u>アサ</u> (赤-s 男6:6-20)	○ オカネ ナイ <u>ヒト</u> (自-t 男5:3-12)	
● ネズミガ タクサン イソウナ <u>キ</u> (氣) (赤-m 女6:3-17)		
○ ウミニ アルネ <u>アブライ</u> <u>レタンカー</u> (赤-a 男5:11-8)	○ オミコシ カツイダ <u>ヒ</u> (自-g 女5:0-3)	○ ドウブツエン イッタ <u>コト</u> (小-矢女4:0-11)
○ ヨウアクヲ ヌウ <u>オシゴト</u> (自-s 男5:9-3)	● ジドウシャト ガチント <u>アツカッタ</u> <u>トコ</u> (神-松女4:8-25)	○ ホイクエンカラ モラッタ <u>ホン</u> (神-寺男4:4-16)
● アミモノ セイトサンニネ アミモノ (ヲ) オシエル <u>トキ</u> (自-A 女6:5-9)	● ピョンピョン トブ <u>カイジユウ</u> (小-海男4:3-8)	○ イツモ キタ <u>トキ</u> (神-三男4:0-20)
● デンチデ ウゴク <u>ミニチュアカー</u> (赤-r 男6:3-2)	● オウチデネ ヨル ネンネ シテル <u>キ</u> (小-押女5:1-10)	
● アタラシク カッタ <u>ゴホン</u> (自-o 女6:1-10)		
● ムカシ イタ <u>ドウブツ</u> (赤-d 男6:4-4)		
● ソレ カエシニネ ニッポンニ キテル <u>オハナシ</u> (自-A 女6:5-23)		
○ ソレヨリ チッチャイ <u>トリ</u> (赤-w 男6:3-26)	○ コレト オンナジ <u>ハナシ</u> (赤-k 女5:3-15)	
○ ウチヨリ スゴイ オオキイ <u>イヌ</u> (赤-w 男6:3-19)		
○ ムコウノ トノ アノネ* テレビノ <u>アル</u> <u>ハンタイガワノ</u> <u>レコードガ</u> <u>アル</u> <u>ボウ</u> (赤-a 男5:11-18)		
● オナガヤマツチ イウネ オナガガワノ		

(㊦)その他  
(a)動詞文

(b)形容詞文

(㊦)複雑な形式  
のもの

\* 間投詞を  
入れておい  
た。

トナリニ アル マンナカニ アル ハ  
ジッコノ ホウニ アル\* [ドウクツ]  
(赤-m女6:3-21)

(iii) C = 複文  
よりなる  
(iv) 一つの接続  
助詞をもつ  
もの

- ジュエエン イレルト シタガ ミエル  
[ポウエンキョウ] (自-e 男6:1-5)
- ウサギサンガネ メヲ サマシテネ イ  
ツタ [オハナシ] (赤-c 男5:10-26)
- イワツキニ イツテネ セミガ イッポ  
ンノ キニネ ゴヒキモ トマツテタ  
[コト] (赤-w 男6:3-8)
- タオシテネ リツパニ カイッテ キタ  
ツテ [コト] (赤-L 女5:9-25)
- ホバイガネ ホウレンソウ タベテネ  
ヤツケル [トコ] (赤-L 女5:9-20)
- ホバイガネ ホーレンソウ タベルト  
ツヨクナル [オハナシ] (赤-L 女5:9-  
19)
- オナガガワツテ イウネ トツテモ フ  
カイ ウキワガ アツテモ ウカバナイ  
ネ [カワ] (赤-m 女6:3-18)
- ソコヲ マッスグ イツテ マタ マガ  
ツテ イク [トコロ] (自-y 男6:0-7)

- ウミヘ イツテ イナカヘ イツテネ  
ハクアツカンニ イツタ [コト] (赤-d  
男6:4-6)
- オネエサンガネ キノ エダニネ スワ  
ツテ ネテ オキタ [トコ] (赤-I 女5:  
8-36)

(iv) 二つ以上の  
接続助詞を  
もつもの

- ウサギガネ ドウロニ カケダシタカラ  
ネ クマモネ カケダシテ イツタ [コ  
ト] (赤-k 女5:3-16)
- オウチガ ヒニ モエチャツタラ\* カイ  
ジュウガ キツツテ イウ [コト] (小-  
久女4:7-13)
- ワルモノガ デテ キテ オド(カ)サレ  
チャウ [オハナシ] (小-寛女4:7-18)
- タオルモ キツキキツツテ ヒトリテ  
ニネ ミズガ デテ シボツテ (イル)  
[ユメ] (小-窪女4:8-17)
- ガッコウノ オペンキョウネ サボツテ  
アソンデル [トキ] (小-窪女4:8-5)
- ト(そ)レデネ ケガチテ チ(し)ンダ  
[コ] (神-永男4:1-23)
- ウゴイテネ ケムリガ デタ [トコ]  
(小-寛女4:7-21)
- ビョウキン ナツテネ シュジュツシタ  
[トコロ] (小-小島女4:2-9)

- ケガチ(し)テ 「イタタター」ツテ ビョ  
ウインヘ イツタ [チ(ひ)] (神-永男  
4:1-23)

\* 訂正か、  
正確に説明  
しようとし  
ているの  
か。  
\* 助詞「が」  
の欠。

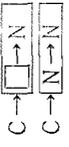
\* はつきり  
しない。  
\* 否定形に  
かかってい  
る助詞の誤  
用。「カゼニ  
アタツテ  
モ」  
\* ことば足  
らずでおか  
しい。「ン」  
不用。

- ウサギ\* トビダシタラ アブナイ [コト]  
(神-佐女3:7-12)
- カゼデ アツツテネ\* コワレナイ  
[オウチ] (小-矢女4:0-16)
- ライヨンガ トッカ イツチャツタカラ  
コツ(チ) ウマサンガ [コツチデヨウ]  
ツテ ユツテタン\* [トコ] (赤-f 女4:2  
-12)

<p>● イヌ サル キジトネ ツレテツツネ  オニセイバツニ イツテ テネ オカネ  ヲ エイ ヤートネ タイジシテ オカ  ネヲ モドシテ キタツテ イウ ハナシ  (赤-L女5:9-14)</p> <p>● オトモダチト アソソダリネ オウチテ  アカチャント アソソダリシタ トコ  (赤-1女5:8-5)</p>		
<p>● ドロンバッチ イウネ アメリカノ オ  バケ (赤-o女6:1-17)</p> <p>○ シンチャンテ イウネ アノネ* シヨウ  チヤンノ オニイサン (赤-f女5:9-9)</p> <p>○ ソレヲ ミタネ トナリノネ オジイサ  シ (赤-w男6:3-23)</p> <p>○ カワノ アルネ イシノトコロ (自-  d女5:11-7)</p> <p>● ママノ ズーツト マエノネ オトモダ  チダッタネ ソノ*シト (赤-q男5:11  -4)</p> <p>● 「ミツカッタラ ゴメンヨ」ツテ イウ  ネー オナマエ(ガ) ツイテルネー 芝  ドウシヤノ サンケエ (赤-K女5:8-14)</p>	<p>○ ニンゲンガ カブッタ ライオンノ カワ  (自-t男5:3-18)</p> <p>○ オニイチャンガ イルネ アジバンヤサ  ン トコ (神-三男4:0-4)</p> <p>○ オニイチャンガ イッテルネ アソコノ  アジバンヤサン (神-三男4:0-11)</p>	<p>*間投詞が  はいる。(前  出)</p> <p>*「ソノ」を  よく使う。</p>
<p>○ オテンキガ イイ  (神-三男4:0-5)</p> <p>○ マリノ スキナネ ウントネ* ナンカ  イイモノ (神-渡女3:10-2)</p>		<p>*間投詞</p>

(り)たり~たり  
の形式をも  
つもの

3.2



\*語順のちが  
うもの

- マチン トコロノネ ニンゲンガ トオ  
ル ミチ (赤-o 女6:1-31)
- モウ イッピキノネ サッキ ヤラレタ  
ネ シマウマ (赤-c 男5:10-24)
- チャッピーツテ イウネ チツチャイ  
デシ (赤-C 男5:6-10)
- イソップエバナシツテ イウネ アノ  
イロンナ オモシロイ ハナシ (赤-j 女  
6:6-14)
- ミンナノネ ハイッテルネ アタラシイ  
オウチ (赤-u 女5:11-15)

C → A → N

3.3

C → □ → N  
(1) C → N  
→ N

(i) C = 単文  
よりなる

- イズモサンテ イウ オウチノ トナリ  
(白-s 女6:3-7)
- ニホンジャナイ クニノ シト (白-g  
女5:11-16)
- モウ オマエハ クビダツテ イワレタ  
ヒトノ ナマエ (赤-e 男5:10-13)
- ワスレモノヲ シタ トキノ ユメ  
(赤-C 男5:6-17)
- イッショニ ガッコウヘ イク トキノ  
ヒト (赤-E 女5:8-36)
- ニンゲンガ アルク ミチノ トコロ  
(赤-o 女6:1-30)
- ボクガ シツテル ウチノ ソノ\*シヨ  
コ (白-b 男6:0-8)

- コウテイニ イク トキノ アノ カイ  
ダシ (小-久 女4:7-10)
- ママガ チツチャイ トキノ オハナシ  
(小-押 女5:1-17)
- ゲツヨウビノ ニ ヤル トキノ サリ  
ニ (小-山中 女5:0-11)

\*「ソノ」  
(前出)

(ii) C = 複文  
よりなる

(2) C → A  
→ [N]

3.4

[ ] → [C → N]  
N → [C → N]

K → [C → N]

[K → N] →  
[C → N → N]

C → [C → N]

● クマニ ノ ッテ トリイヲ ワタッテ  
ハチマンサンニ オマイリシタ トキノ  
[オハナシ] (赤-h 女6:6-8)

○ オトモダチノ [テッチャンテイウヒト]  
(赤-f 女5:9-9)

● コツチガワノ [ジドウシヤトオルトコ  
ロノミチ] (白-i 男6:5-4)

● アタラシク ハイッタ [ピピッテイウ  
ヤツ] (赤-e 男5:10-10)

● キンタロウツテ カイテアルネ [オナカ  
ガヒエナイヨウナハラマキ] (赤-h 女  
6:6-9)

● イロノ ツイテル バッタミタイナ  
[カタチ] (赤-d 男4:2-14)

○ コンナ [メノマワル(マド)] (神-三男4:  
0-7)

\* 語順

● ヨコヤマトミコツテ イウ [イナカカラ  
キタオネエサン] (小-久女4:7-1)

4 並立関係をもつもの

4.1

N → [N + N]

○ オバキューウノ [オトウサンモ オカアサ  
ンモ] (赤-u 男6:5-24)

○ ガッコノ [センセエトカセエト] (赤-  
s 男6:6-11)

● ウチノ [オトウチヤントネ オニイチャ  
ント] (白-p 女6:1-3)

● ハタグミノネ [カジクントユミチヤン  
ト] (白-c 男5:11-6)

○ オウジノ [オジイチャントネ オバアチ  
ヤントボクトネ] (神-三男4:0-4)

○ チンジュクノ\* [オバアチヤント(ミズ  
エ)チヤン] (小-金男4:1-1)

\* 幼児音

4.2 N + N → [N]	● オソマツクンノ [オカアサンヤ オトウザンヤ] (赤-J 女5:8-16)				
	○ オトウサン ト オカアサン [トコ] (赤-c 男6:3-11) ○ ニンギョウ ト カ フジサンノ [エ] (赤-k 女6:2-12) ○ ウシワカ マルト デンシヤノ [エホン] (自-n 男6:5-13) ● キイロ ト カ ミドリノ [ボウ] (赤-e 男5:10-4) ● ミツツカ ヨツツン [トキ] (赤-k 女5:8-12)	○ カメト ウサギノ [オハナシ] (赤-r 女4:10-9) ● カメト ウサギノ [オハナシ] (神-桑女4:10-22)	○ カメタント* ウタギノ [オハナチ] (神-大男3:11-11) ○ ヘイトカ カイジュウノ [ユメ] (神-寺男4:4-14) ● ウマシラ タロウトネ ソレカラ オヒメ サマノ [ホシ] (赤-a 女3:10-14)		* 幼児音

4.2 連体修飾語の修飾, 被修飾の意味的關係 —— 名詞と名詞のくみあわせの場合の使用例

	年齢	年 長	年 中	年 少	備 考
1 修飾語が被修飾語の所有者あるいは所属を規定する					
1.1 關係を規定する		○ キエウチヤンノ オトウサン (自-h 女5:7-8) ○ パパノネ シヤチヨウ (赤-m 男5:10) ● ウチノトウサンノ イトコ (自-d 男6:1-8)	○ パビーノ ナカマ (赤-f 女4:10-6) ○ オトモダチノ オカアサン (赤-u 男5:6-5) ● ボクノネー イモウト (自-c 男4:7-2)	○ シマウマノ ナカマ (小-佐男4:3-20) ● クマサンノ コドモ (赤-e 男4:1-9) ● エウチヤンノ アカチヤン (自-a 男4:10-7)	(年長多し)
1.2 所有者を規定する		○ パパノ オクツ (赤-t 男6:0-4) ○ ハルチヤンノネー ヨウフク (自-t 男6:2-7) ● オトウサンノ オトモダチノ オジサン	○ オネエサンノ タンス (赤-p 女5:2-11) ○ ボクノ フユズボン (自-s 男4:10-14) ● オトウサンノ ジチンシヤ (神-正男4:10-8)	○ オバチヤンノ ユビワ (小-原女3:7-26) ○ オバアチヤンノ メガネ (神-狗女4:3-7) ● ジブンノ ホシ (赤-v 女4:0-6)	(多し)

1.2-2	空間の所有者(注)	ノ ジドウシヤ (赤-E女5:8-32)	● <u>ママノ</u> オミセ (神-堀女4:1-2)	● <u>ママノ</u> ヘヤ (赤-V女4:0-5)	(注)空間は場所も含む。
1.2-3	現象の所有者	○ <u>テジナシノネ</u> ドウクツ (自-I男6:5-16)	○ <u>マホウツカイノ</u> コエ (自-h女4:7-9)	● <u>ボクノ</u> コエ (赤-d男4:2-9)	
1.3	所属を規定する	○ <u>アトムノ</u> エネルトギー [エネルギー] (自-J女5:7-7)	○ <u>オウサマグミノ</u> フミチャン (自-r女4:8-19)	○ <u>ウチノ</u> オバアチャン (小-神女4:1-10)	(多し)
1.3-1	生物の所属	● <u>ボウヤノネ</u> ビョウキ (赤-h女6:6-17)	○ <u>ボクンチノ</u> *[ぼくのと同じ意か] オカアサン (自-b男5:1-9)	○ <u>ボクンチノ</u> オジイチャン (神-三男4:0-18)	*印のところは幼稚な表現なので、往をかついでつけ
		● <u>バビーノ</u> イリヨク (自-l男5:7-14)	● <u>キョジンノ</u> ホシノ コドモ (神-規男4:6-12)	○ <u>ヨソノ</u> オネエチャン (神-佐女3:7-18)	た。くみあわせの意味のはっきりしない場合がある。
		○ <u>ガツコウノ</u> ヒト (赤-k女6:2-23)	○ <u>ハイシヤサンノ</u> ハコ (自-l男5:1-5)	● <u>ジドウシヤノ</u> オジサン (赤-p男3:7-4)	(多し)
		○ <u>フネノネ</u> オジサン* [船長のこと](赤-o女6:1-21)	○ <u>ウチノ</u> ジドウシヤ (赤-t男5:1-5)	○ <u>ボクンチノ</u> ジドウシヤ (神-古男4:5-10)	(注)具体物の範囲をどの程度にするか問題。犬小屋とみる。
		○ <u>「オクサマハ、マジヨ」ノ</u> トモダチノ コドモ (自-b男6:0-23)	○ <u>ナツノ</u> ボウシ (自-s男4:10-14)	○ <u>ウンコノ</u> オウチ (小-長男3:5-13)	
1.3-2	具体物の所属	○ <u>テキノネ</u> ヒコウキ (赤-m男5:10-15)	○ <u>イットウシヨウノ</u> ハタ (赤-m男4:10-9)	(注)	
		○ <u>センスイカンノ</u> ギョライ (自-b男6:0-5)	○ <u>ボクンチノ</u> カイシヤ (自-t男5:3-5)		
1.3-3	空間その他の所属	○ <u>ヨウチエンノ</u> コウエン*[庭の意か欄にある公園か] (赤-a男5:11-11)	● <u>ヨウチエンノ</u> ウンドウジョウ (小-寛女4:7-11)	● <u>ウチノ</u> *[で行く] デパート (赤-a女3:10-9)	

1.3-4 行為の 所屬	○オトウサンノ -11) ●ウンドウカイノ -3)	●ハバノ ○シゴト (赤-i 女5:3-2) ●チャッピーノ オドリ (小-村男4:9-14)	○カイシャノ 7-2) ●チ [シ] ゴト (小-原女3: 7-2)	
1.3-5 言語作 品の所屬	○オトナノ ○コドモノ ○オトウトノ 9-7)	○イチガツゴウノネ 男5:6-12) ●オトナノ マンガ (神-永男4:1-21) ●オトコノ コノ*〔むきの〕 マンガ (小-窪女4:8-27) ●コドモノ エイガ (小-成男4:3-20) ●オジイサンノ オミヤゲ (赤-l 男4:8-8) ●センセエノネ ゴメイレイ (小-野女4:9-4) ●オシロノ パ-ティ (小-窪女4:8-11) ○オカネノ*〔になる〕 シゴト (自-n 男5: 5-1)	○ガッコウノ エイガ (神-折女4:3-11) ●ヨウチエンノ ホン (赤-t 女4:4-8) ●サンダーバードノ オシラセ (赤-d 男4: 2-10) ●ママノ オミヤゲ (赤-a 女3:10-13)	(注)「その他」の部分 は、語彙が 豊かになる につれてふ くらみ、細 分化でき る。 (少なし)
1.3-6 その他 の所屬 (注)	○オヤツノネ メロン (自-d 女5:11-10) ●クスリノ ピン (赤-l 女5:8-32) ●アミノモノノネ キカイ (赤-j 女5:8-3)	○イチガツゴウノネ アンデルセン (赤-s 男5:6-12) ●オトナノ マンガ (神-永男4:1-21) ●オトコノ コノ*〔むきの〕 マンガ (小-窪女4:8-27) ●コドモノ エイガ (小-成男4:3-20) ●オジイサンノ オミヤゲ (赤-l 男4:8-8) ●センセエノネ ゴメイレイ (小-野女4:9-4) ●オシロノ パ-ティ (小-窪女4:8-11) ○オカネノ*〔になる〕 シゴト (自-n 男5: 5-1)	○オベンキョウノ ドウグ (小-佐男4:3-13) ○ケンドウノ カアルモノ (小-神女4:1-8) ○ジドウシヤドウロノ* ミチ〔車道のこと〕 (小-新男3:10-7) ●キンギョノ イレモン*〔金魚鉢〕 (赤-a 女3:10-10) ○ウサギノ オハナシ (神-場男3:10-13) ○アイウエオノ ホン (小-矢女4:0-9) ○カイジユウノ ユメ (小-相男4:4-8) ●オヤマノ ユ (自-d 男3:10-1)	(注)年少の 2例は語彙 不足のため か。 (年齢を問 わず多し。 質問にもよ る)
1.4 用途を規 定する	○ウオ-ルトデズニーノ エエガ (赤-F 男 5:9-12)	○ムシノ ズカン (自-t 男5:3-20) ○オバケノ ハナシ (自-e 女4:8-1) ○ビックエックスノ ホン (自-s 男4:10-21) ●カイブツクンノ ユメ (小-成男4:7-10)		
1.5 作品の内 容を規定する	○ムシノ ズカン (自-t 男5:3-20) ○オバケノ ハナシ (自-e 女4:8-1) ○ビックエックスノ ホン (自-s 男4:10-21) ●カイブツクンノ ユメ (小-成男4:7-10)			

1.6 場所を規定する					
1.6-1 生物の所属する場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ムラノネー ヒトビトタチ (赤-o 女6:1-20)</li> <li>○ヨンジュウニゴウカンノ コ (赤-w 男6:3-9)</li> <li>○ドコカノ クニノ オマワリサン (赤-s 男6:6-15)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○イナカノ エツチャン (自-a 男4:9-6)</li> <li>●エ(い)ナカノ オカアサン (神-桑女4:10-26)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○オウジンノ オジイチャント オバアチャント ボク (神-三男4:0-4)</li> <li>●イナカノ カツチャン (赤-p 男3:7-6)</li> </ul>		
1.6-2 具体物の所属する場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>●サンジョウノ テレビ (赤-d 男6:4-13)</li> <li>●ウミノ カイガラ (自-B 男5:7-7)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ロウカノ オスベリダイ (小-有男4:7-4)</li> <li>●オニワノ テツボウ (神-井男5:0-3)</li> </ul>		(補助資料のみ)	
1.6-3 空間の所属する場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ハズレノ ホウノ ニカイノ マンナカノ オウチ (赤-n 男6:2-8)</li> <li>●オオテマチノ ザイムキョク (注) (赤-v 男6:5-3)</li> <li>●ナゴヤノ エキ (赤-e 男5:10-9)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ヨコハマノ ドウブツエン (自-s 男4:10-4)</li> <li>●ウミノ オウチ (小-押女5:1-6)</li> <li>●ハネダクウコウノネ シバフ(小-川男4:10-5)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○イナカノ オウチ (神-三男4:0-18)</li> <li>○ギンジャ[ざ]ノ デパート (小-加男4:1-3)</li> </ul>	(注)固有名詞	
1.6-4 現象の所属する場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>●シゲミノ ミズ (注) (自-t 女6:4-3)</li> </ul>			(注)水を現象としたが問題がある。	
1.7 本体を規定する					
1.7-1 所属する本体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○タクシーノ ドア (赤-p 女6:2-18)</li> <li>●マチノ ヒロバ (赤-m 女6:3-17)</li> <li>●キシャノ ヤネ (赤-a 男5:9-10)</li> <li>●ヘエキシヨウノ ミチ (自-x 男6:1-9)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○オシロノ マド (赤-p 女5:2-12)</li> <li>○トラックノ ココ (自-a 男4:9-13)</li> <li>●デパートノ オクジョウ (小-川男4:10-8)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コウエンノ ミチ (神-玉男4:0-4)</li> <li>○オウチノ ヘヤ (小-原女3:7-25)</li> </ul>		
1.7-2 部分の所属する本体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ヒトノ カオ (自-d 女5:11-11)</li> <li>●テレビノ スイッチ (自-w 女6:5-7)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○マツチノ ボウ (赤-s 男5:6-7)</li> <li>●アカチャンノ ケ (小-窪女4:8-1)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○オオカミノ シッポ (小-神女4:1-13)</li> <li>○ボクノ アシ (小-佐男4:3-13)</li> </ul>		

1.7-3 現象の所属する本体	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>カイノカケラ</u> (赤-m 女6:3-6)</li> <li>○ <u>エンパンノヒカリ</u> (赤-c 男6:3-12)</li> <li>○ <u>タキノミズ</u> (赤-w 男6:3-14)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>カイジュウノネ</u> (神-規 男4:6-17)</li> <li>○ <u>ウシノチチ</u> (自-r 女4:8-14)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>エントツノアナ</u> (小-竹 男4:1-10)</li> <li>○ <u>カイジュウノオト</u> (小-長 男3:5-7)</li> <li>○ <u>コブタノウン</u> (コ) (小-加 男4:1-10)</li> </ul>
1.8 所属する職業、職場などの種類を規定する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>ヒコウキノネパイロット</u> (赤-u 男6:5-26)</li> <li>○ <u>チョウトツキユウノウンテンシユ</u> (自-n 男6:5-5)</li> <li>● <u>ピョウインノカンゴフサン</u> (自-p 女6:1-4)</li> <li>● <u>オリョウリノネ</u> (食堂) レジイ- (赤-w 女6:2-2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>ヨウチエンノネ</u> センセイ (赤-x 女5:2-4)</li> <li>● <u>パスノシヤシヨウサン</u> (赤-q 女5:2-8)</li> <li>● <u>シヨクドウノオネエサン</u> (赤-e 女4:9-12)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>カチツノシヤショウ</u> (小-竹 男4:1-4)</li> <li>○ <u>パスノシヤシヨウサン</u> (神-三 男4:0-26)</li> </ul>

(年長, 年中多し。質問にもよる)

2 修飾語が被修飾語の位置や時間, 順序, 数量を規定する

2.1 ものや場所の位置関係の規定	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>ニカイノサベッド</u> (自-l 男6:0-7)</li> <li>○ <u>ムコウノヤマ</u> (赤-u 男6:5-17)</li> <li>● <u>ハジッコノカイダン</u> (赤-m 女6:3-8)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>マエノオニイチャン</u> (神-三 男4:0-20)</li> <li>○ <u>カドノウチ</u> (小-佐 男4:3-14)</li> <li>○ <u>トナリノウチ</u> (神-鈴 男3:6-6)</li> <li>● <u>ヒダリガワノミチ</u> (赤-i 男4:2-5)</li> <li>● <u>キノウノヨル</u> (赤-a 女3:10-23) (注)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(注)4.2の分類にも入れられる。</li> </ul>
2.2 もの時間の規定	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>マエノアサガオグミ</u> (自-d 女5:11-19)</li> <li>○ <u>ムカシノオハナシ</u> (赤-o 女6:1-21)</li> <li>● <u>ウンドウカイノトキノネ</u> ハナビ (赤-q 男5:11-10)</li> <li>● <u>オトイノニュース</u> (赤-c 男5:10-21)</li> <li>● <u>モクヨウビノロクバン</u> (赤-p 男5:11-13)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>カタホウ</u> [の] ヒザ (赤-w 男5:3-8)</li> <li>● <u>マエノヘヤ</u> (自-c 男4:7-11)</li> <li>○ <u>コンドノニチヨウビ</u> (自-j 女4:7-10)</li> <li>○ <u>ジュウニジノカネ</u> (赤-p 女5:2-12)</li> <li>○ <u>ムカシノハナシ</u> (自-p 男4:7-11)</li> <li>○ <u>ボクノオニイサン</u> トキノホン (自-s 男4:10-20)</li> </ul>	
2.3 もの順序の規定	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>ツギノアサ</u> (自-h 女5:7-14)</li> <li>○ <u>アトノゼンブ</u> (赤-o 女6:1-17)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>ツギノページ</u> (赤-p 女5:2-11)</li> <li>○ <u>シタノネイモ</u> (ウ)ト (赤-t 男5:1-1)</li> </ul>	

2.4 数の規定	●ニバンメノネ オニイサン (赤-u 女5:11-11) ●サイショノ オハナシ (赤-L 女5:9-21)	○ゴカイノサ ヨンバンメ (赤-o 女5:1-6)	(注)助数詞の使いわけのできない幼児もいる。
2.4-1 生物の数の規定	○ヒトリノ オヒメサマ(赤-p 女6:2-12) ●ニヒキノ ネコ (赤-j 女6:6-14) ●ヒトリ*[一匹の] (注) シマウマ(赤-c 男5:10-24)	○フタリノ オウジヨ (自-j 女4:7-17) ○サンニンノ コドモ (赤-n 男5:2-6) ●ゴジュウセンチノ アカチャン(神-桑女4:10-15)	
2.4-2 具体物の数の規定	●フタツノネ キャラメル (自-f 男5:5-1)	○イツボンノネ*[一足の] クチュ (自-j 女4:7-15) ●ミツツノ メ (小-藤男4:9-11) ●ヒトツノ ドウブツエン (神-規男4:6-5) (注)	(注)おかし。
2.4-3 空間の数の規定	○イツケンノ イエ (自-d 女5:11-20) ●フタツノ ミチ (自-c 男6:3-6)	●ヒヤクノ ウエ (小-伊男4:3-7)	(なし)
2.4-4 その他 の数の規定	○ジュウノ ウチ (中) (自-j 女5:7-5)		
2.5 量の規定			

### 3 修飾語が被修飾語の属性を規定する

3.1 種類を規定する			(なし)
3.1-1 生物の種類	○カキノ キ (自-s 男5:9-6) ○ヒトツメコゾウノ オバケ (赤-w 男6:3-19) ●ヒマワリノ ハナ (赤-u 女5:11-19)	○バラノ ハナ (赤-t 男5:1-5) ●カキノ ミ (神-桑女4:10-17) ●オサルノ オヤブン (小-村男4:9-6) ●キツネノ ユウレイ (小-篠男5:1-11)	(少なし、年少なし)
3.1-2 具体物の種類	○オモチャノ ボーリング (赤-p 女6:2-4) ○ヒョウノ キモノ (赤-u 男6:5-9)	○オモチャノ テレビ (神-坂女4:0-6) ○クマサンノ オモチャ (小-新男3:10-3)	

3.1-3 空間の種類	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ウサギノ クニ (赤-o 女6:1-11)</li> <li>●シオミズノ プール (赤-D 男5:11-9)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ナマエノ*〔文字の意〕 ツミキ (小-山中 女5:0-17)</li> <li>●クマノ ヨウチエン (赤-i 女5:3-12)</li> <li>○ハタズ〔ぐ〕ミノ オヘヤ (自-a 男4:9-1)</li> <li>●キユウシヨクノ オトウバン (神-井男5:0-4)</li> <li>●ワラビノ*〔行き〕バス (小-弘女5:1-6)</li> <li>○ハツパンノ フネ (自-j 女4:7-19)</li> <li>○デンキノ デンシャ (自-n 男5:5-11)</li> <li>○ギンノ カタナ (赤-v 男5:1-2)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○レンガノ ウチ (小-佐男4:3-24)</li> <li>●オハナノ*〔花製の〕 コトリ (自-d 男3:10-10)</li> </ul>
3.1-4 その他種類	<ul style="list-style-type: none"> <li>○カゴノ ワナ (自-s 男5:9-9)</li> <li>●カミノ コンチュウ (赤-r 男6:3-5)</li> <li>●ハツパンノ ハ (赤-n 男6:2-12)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○オンナノ コ (自-n 男5:5-15)</li> <li>●オトコノ コ (赤-q 女5:2-16)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ピンクノ イヌ (小-矢女4:0-9)</li> <li>○オトコノ ヒト (神-寺男4:4-18)</li> <li>○オンナノ アカチャン (神-佐女3:7-1)</li> </ul>
3.2 材料を規定する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ホンモノノ オカアサン (赤-s 男6:6-15)</li> <li>○オンナノ コ (自-g 女5:11-12)</li> <li>●ワルモンノ ハカセ (自-l 男5:7-13)</li> <li>●オデアチンノ オカアサン (自-o 女6:1-4)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ピンクイロノ レッシャ (自-n 男5:5-11)</li> <li>●ミドリノ ヒコウキ (小-永男4:4-13)</li> <li>●ピンクイロノ クサ (神-鎌女4:5-21)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ホントノ フェ (小-佐男4:3-15)</li> <li>●アカノ クレヨン (赤-a 女3:10-16)</li> </ul>
3.3 属性を規定する	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ダイダイイロノ テツ (赤-j 女6:6-4)</li> <li>●コガタノ デンチ (自-b 男5:9-3)</li> <li>●アメリカセーノ ブロック (赤-q 男5:11-8)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ウソコノ ゴハン (赤-g 女4:8-3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ホントノ* オモテ (神-高男4:4-8)</li> <li>○ベツノ マンガ (神-佐女3:7-10) (注)</li> </ul>
3.3-1 生物の属性	<ul style="list-style-type: none"> <li>●フツウノ ヒ (自-q 女6:1-4) (注)</li> <li>●ウソッコノ オヒル (自-l 男5:7-7)</li> <li>●フツウノ マンガ (赤-k 男5:11-19)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>(注)4.2とも</li> <li>* 絵の話が前に出ているので。</li> <li>(注)形動とも</li> </ul>
3.3-2 具体物の属性			
3.3-3 その他の属性			

4 修飾語が被修飾語の成立に参与する度合の強いもの

4.1 位置関係 の成立に関 係する	<p>○ヤマノ チョウジョウウ (自-o 男6:3-12)</p> <p>○スイチエウメガネン ナカ (赤-u 男6:5-22)</p> <p>○オニワノネ ウラ (自-d 女5:11-13)</p> <p>●デンキン デンセンノ クモノスノ ウエ (自-i 男6:5-15)</p> <p>●イズモサンテ イウ オウチノ トナリ (自-s 女6:3-7)</p>	<p>○キノ カゲ (赤-p 女5:2-9)</p> <p>○タクシーノ シタジキ (自-t 男5:3-15)</p> <p>●ショウテンガイノネ ウエ (赤-q 女5:2-9)</p> <p>●ヒマワリグミノ ソバ(袖-伊男4:1-25)</p> <p>●ヤマノ テッペン (小-岡女4:8-24) (注)</p>	<p>○オウチノ マワリ (神-三男4:0-9)</p> <p>○ヨウチエンノ トナリ (神-佐女3:7-8)</p> <p>○キノ ウエ (小-佐男4:3-21)</p> <p>●カゴノ ナカ (赤-o 男4:2-4)</p>	<p>(年長, 年中, 年少とも多し)</p>
4.2 時間関係 の成立に関 係する	<p>○ナツヤスミノ オワリコロ (赤-o 女6:1-7) (注)</p> <p>●キエウシヨクノ ジカン (赤-m 女6:3-11)</p> <p>●オマツリノ ヒ (自-a 男5:11-6)</p>	<p>●オトナノ ジカン (小-永男4:4-7)</p> <p>●ヤスミノ ヒ (小-伊男4:3-4)</p>	<p>○オヤシユミノ ヒ (神-高男4:4-3)</p> <p>○ヨルノ (ウチ) (神-古男4:5-7)</p> <p>●オヤツノ ジカン (自-k 男3:4-2)</p>	<p>(注)2.2とも</p>
4.3 順序関係 の成立に関 係する	<p>○ドヨウビノ ツギ (赤-s 男6:6-16)</p> <p>○オバケノ キエウタロウノ アト(自-b 男6:0-19)</p> <p>●セノ ジュンバン (赤-m 女6:3-20)</p> <p>●サイゴン トコ (赤-j 女6:6-10) (注)</p>	<p>○アナタノ バン (赤-p 女5:2-13)</p> <p>●ショウガッコウノ ツギ (赤-b 男5:6-6)</p> <p>●アイウエオノ ジュン(小-久女4:7-27)</p>	<p>●ヒバリサンノ* [(ひばり組の) ツギ (赤-u 女3:7-3)]</p> <p>●ウサギサンノ アト (赤-i 男4:2-8)</p>	<p>(注)4.6とも</p>
4.4 数量関係 の成立に関 係する	<p>○オトナノネ コノクライ (自-k 男5:8-18)</p> <p>●バイエルノ キイロイ ホンノ ナナジュウゴバン (赤-m 女6:3-7)</p> <p>●アッチノ ホウノネ ゴジュウヨンバンチノネ ニケンメ (自-v 女5:10-6)</p>			

4.5 抽象的な  
ことばの成  
立に関係す  
る

- テッポウノ カタチ (自-b 男5:9-3)
- オバケノ ヤク (自-g 男5:8-6)
- オトウバンノ シルシ (自-D 女5:11-1)
- ママノ カワリ (赤-j 女6:6-13)

- オトウバンノ チ (シ) ルシ (自-r 女4:8-13)
- アシノ マン (マ) (赤-t 男5:1-9)  
(注)
- モトノ スガタ (小-窪 女4:8-20)
- モトノ トオリ (神-大 女4:6-20)

● ドウブツノ (ナマエ) (赤-p 男3:7-10)

(注)「まま」  
は形式名詞  
として4.  
6-4に入れ  
てもよい。

4.6 形式名詞  
の成立に関  
係する

- タイラノ トコ (自-k 男5:8-8)
- パーテイノ トコロ (赤-w 男6:3-17)
- エンチヨウセンセイノ ウチノ トコ  
(自-j 男5:7-3)

- オウダンホンドウノ トコ (赤-r 女4:10-6)
- トラン トコ\* (自-b 男5:1-10)
- ウシロノ トコ\* (自-n 男5:5-16)
- サッキン トコ (赤-k 女5:3-8)
- トナリノ シタノ トコ (自-c 男4:7-11)

- ショウジン トコ (小-藤 女3:10-10)
- サッキン トコ (小-福 男4:2-15)
- ナツヤスミノ トコ [ことこの意] (神-三  
男4:0-22)

(年長、年  
中、年少と  
も多し)  
(注)この項  
2.1, 2.2と  
重なるもの  
がある。

4.6-2 こと

- ダイタイノ コト (自-g 女5:11-8)
- ネズミノ コト\* (赤-v 男6:1-13)
- ヒコウキノ コト\* (赤-y 男5:7-4)

- オジイチャノ コト\* (自-t 男5:3-8)
- ジエツトノ コト\* (赤-k 女5:3-11)

- ウチャギノ コト\* (神-村 女3:6-7)
- オカアサンノ コト\* (神-古 男4:5-2)
- クジャクノ コト\* (赤-i 男4:2-9)

\*この言い  
方の幼児多  
し。「とこ」  
「こと」不用。

4.6-3 とき

- ムカシノ トキ\* (昔) (赤-o 女6:1-11)
- ゴハンノ トキ (自-g 女5:11-4)
- タイアウノ トキ (自-b 男5:9-3)
- ミツツカヨツツノ トキ (赤-k 女5:8-12)

- ニチヨウン トキ\* (日曜日) (赤-k 女5:3-5)
- オマツリン トキ\* [お祭] (自-j 女4:7-1)

- アカチャノ トキ (神-高 男4:4-10)
- ヨシノ トキ\* [夜] (神-寺 男4:4-3)
- ナツヤスミノ ネ トキ\* [夏休み] (神-三  
男4:0-22)

\*この言い  
方の幼児多  
し。「とき」  
不用。

4.6-4 ほう、  
他

- ウサギノ ホウ (自-g 男5:8-21)
- ガイシヤノ ナマエノ ホウ (赤-t 男6:0-3)
- ミギノ ホウ (自-t 女6:4-8)  
(注)

- カメノ ホウ (自-b 男5:1-11)
- アラカワノ ホウ (自-t 男5:3-4)  
(注)

- オツカイノ\* [にいこ] ホウ (神-鈴 男3:6-6)
- マエノ ホウ (神-佐 女3:7-15)  
(注)
- サカノ ホウ (赤-1 男4:3-3)  
(注)

(注)四つと  
も2.1とも

4.7 行為の対 象を示して 成立に関係 する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○オニンギョウノ 10-5) キセカエ (赤-r 女5:</li> <li>○ムシノ カンサツ (赤-m 男5:10-8)</li> <li>○ママノ オテツダイ (赤-p 女6:2-8)</li> <li>●ミンナノ セワ (赤-a 男5:9-4)</li> <li>●アジヤババノ マネ (赤-f 男6:3-8)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ヤマノポリノ キョウソウ (自-h 女4:7</li> <li>-13)</li> <li>○ネズミノ マネ (自-v 男4:7-11)</li> <li>○ナツヤスミノ ペンキョウ (赤-d 男5:4</li> <li>-4)</li> <li>●ヤクルトノ ハイタチュ (神-渡 男4:6</li> <li>-2)</li> <li>●チノ ケンサ (小-川 男4:10-13)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○カズノ オベンキョウ (小-佐 男4:3-8)</li> <li>●ゴハンノ ゴヨウ (赤-u 女3:7-1)</li> <li>●スポーツカーノ レンシュウ (赤-d 男4:</li> <li>2-7)</li> <li>●オトウサンノ オテツダイ (赤-s 女4:3</li> <li>-1)</li> </ul>
----------------------------------	--	--	---

5 修飾語と被修飾語が同格の関係になっているもの

<ul style="list-style-type: none"> <li>○オトモダチノ テツチャンテ イウ ヒ</li> <li>ト (赤-f 女5:9-9)</li> <li>○ニホンノ オバケノ キュウチャン (赤</li> <li>-o 女6:1-9)</li> <li>●ネコノ クック (自-o 女6:1-26)</li> <li>●キセカエニンギョウノ バービーチャン</li> <li>(赤-L 女5:9-5)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オトモダチノ トモチャン (神-桑 女4:</li> <li>10-2)</li> <li>●トッキュウノ ヒカリゴウ (小-上 男4:7</li> <li>-10)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○オニンギョウノ サンダーバード (神-渡</li> <li>女3:10-3)</li> <li>○ヤキュウノ*〔選手の〕 ヒューマクン (神</li> <li>-三 男4:0-32)</li> </ul>	(年長多し)
--	--	--	--------

## 第5章 文末の形式と用法

日本語の文では文末まで話（文）がすまないと、話し手（書き手）の言わんとすることが通じないと言われているように、文末の機能は、文の陳述面に重要な役目を果している。文の陳述をあらわす文末の部分をごどこからにするかには、説が分かれているが、ここでは述語の自立語の部分からあとということに一応しておく。そして、動詞述語文、形容詞（形容動詞）述語文、名詞述語文のうち、動詞、形容詞（形容動詞）、名詞の自立語を除いた部分をここでは主として取り扱うことにする。

これまでにあげた幼児の資料を使って、幼児がどのような文末で話しているかをみていくことにする。

この調査の資料は調査者と被調査者の問答形式なので、平叙文が大部分で、疑問文、命令文は（注）

（注） 国立国語研究所報告 18『話しことばの文型(1)——対話資料による研究』（1960）のうち、宮地裕担当の部分によると、文末に話し手の表現意図があらわれるとして、その表現意図を以下のように分類している。



平叙文はこのうち、判叙表現のうちの判断既定の表現をあらわす文末をもつ文と一致するし、疑問文は判断未定の表現と要求表現のうち、未分化的表現、質問的表現をあらわす文末をもつ文と一致している。また、命令文は命令的表現を文末にもつ文と一致するし、感嘆文は、詠嘆表現と応答表現を文末にもつ文と一致している。『話しことばの文型(1)』は大人の文末形式が調べてあるので、幼児の文末をみる場合の参考になる。

直接話法の中に出てくる用例ほか多少あるが少ない。感嘆文としては、「あ！」などの驚きの表現その他あるが、主として「うん」「そう」などの応答形式であるので、ここでは取りあげない。また、あらたまった場面なので平叙文には相当複雑な形式がみられるが、日常会話に比べると、文の種類が少ないと思われることなどによって、自由の場での調査資料を補充した。「自由の場」での調査の幼児については前にも述べたが、W男は5歳2～3か月で年長児相当、I女は4歳0～5か月で年中児相当、M女は3歳1～4か月で年少児相当である。自由の場といっても、これら幼児の母親に委託してことばを採集したので、同一の遊びの場での録音ではないし、問答形式のやり方もまざっていて、任意のものである。以下「自由の場」と呼び使用する。なお、文末が補足形式になっているものについては「補足文の構造と用法」として、付録で扱う。

### 5.1 平叙文の文末形式

平叙文の中で一番よく使用している文末は（文というべきか）、いわゆる一語文である。たとえば、「ニュース」「オニイション」「オミセ」「オリガミ」「カケッコ」「ボク」「イツツ」などのような名詞、代名詞、数詞などの一語からなるものである。この体言一語からなるものと、体言一語相応とここでは見なしている並立関係をもつもの、連体修飾語をもつもの、これら体言に助詞のついた省略文、すなわち、助詞「とか」「に」「も」「だけ」「まで」などが文末にきている形式を省くと、幼児の平叙文の文末形式には次のものがある。

- (1) 肯定形、否定形——ワカル、ワカラナイの類。
- (2) 現在形、過去形——アル、アッタの類。(1)(2)が以下の活用の部分につくのはいうまでもない。のちに例示する。
- (3) 動詞、形容詞、形容動詞、体言一語からなるもの。——ミル、タノシイ、スキ、花の類。
- (4) (3)に文末助詞のついた形式——アソブノ、カワイイカラ、キレイネ、花ヨの類。
- (5) (3)に助動詞のついた形式——タノシソウダ、イルンデス、スキナダ、花ダの類。
- (6) (3)に助動詞と文末助詞のついた形式——アルクンダヨ、ヒカレチャッタダヨ、オンナジダナ、花ダヨの類。
- (7) 動詞に補助動詞のついた形式——補助動詞としては次のようなものがある。
  - ① て(いる)、てある、ちゃう(てしまう)、てくる、ていく、ておく(とく)、てみる
  - ② てくれる、てあげる、てやる、てもらう
- (8) (7)に助動詞のついた形式——オシエテモラウンダ、オソクナッチャッタダ、カレチャウンデス、オボエテマセン。  
(注)
- (9) (7)や(8)に文末助詞のついた形式——モッテルヨ、ウタッテクレルノ、ハイッテッタヨ、カッテクレナインダモノの類。
- (10) 特殊な文末表現形式のもの——
  - ① 受身、可能、使役、希望の助動詞——ホメラレル、カゾエラレル、ツケサセル、ナリタイ

(注) 鈴木重幸『日本語文法・形態論』麦書房(1972)(373ページ)によると、すがた——～ている、～てしまう、～てある もくろみ——～てみる、～てみせる、～ておく やりもらい——～てやる、～てもらう、～てくれる、と三種の命名のもとに分けている。

などの類。

②補助動詞の複合した形式——イレテキチャウ、アゲテミテル、ツレテイッテクレル、モラッテルの類。

③「なる」のついた形式——形（形動）+なる、こと・よう・そう+なる、動否+なる——オオキクナル、ヨマナクナル、ジョウブニナル、オモシロイコトニナルの類。

④～たりする、～たりして～——シマッタリスル、ツクッタリシテアソブの類。

⑤～とする、～と言う、～と思う——タベヨウトスル、イイナトオモウの類。

⑥とき・とこ・こと+ある、～こと<sup>(も)</sup><sub>(が)</sub>できる——ネボケタトキアル、キエルコトモデキルの類。

⑦～でもいい、～ばいい、～ほうがいい——アソンデイテモイイ、マガレバイイ、ツクッタホウガイイの類。

⑧その他

(1) (10)に文末助詞のついた形式

(2) 文末助詞——使用数の多いものからあげると、次のようになる。の(ん)、よ、から、もの(もん)、けど、ね、わ、よね、って、つけ、さ など。

このような観点からみていくと、章末の、「平叙文の文末形式」(1)の用例ようになる。これらは使用例のほんの一部である。以下に表の解説もかねて幼児がどのような文末を使用しているかを述べてみる。

### 5.1-1 平叙文の文末形式(1)

動詞述語文では、動詞一語からなる形式を幼児は使うが、中では現在形文末をよく使う。年長では「シラナイ」「ワカラナイ」の否定文を肯定文よりよく使っている。問答形式の調査によるのだろう。しかし、年少は否定文は少ない。一語以上よりなる肯定文では、現在形が年齢を問わず多く、中でも年長に多い。現在形、過去形ともに助詞なしの文末形式より、終助詞「の」のついた形式が多い。特に過去形文末に「の」のつくものをもっとも多く使っている。年中、年長共にそうだが、年少では現在形に「の」のつく文末形式を多く使っている。「自由の場」の調査でも、「の」のつく形式が多いのは変わらないが、文末に「よ」のつく形式が問答形式の場合より多くなっているのが年齢を問わずきわだってめだっている。会話の部分が nhiều からだろうか。特に女兒に多い。(文末の形式のみでなく、「問答形式」と「自由の場」の場面のちがいとことばの関係を調査することも今後に残された課題である。)

補助動詞のついた形式では「～て(いる)」というものごとの継続を示す文末がよく使用されているが、これは現在形に終助詞「の」のついた形式が年齢を問わず多く、過去形は少ない。ついで完了をあらわす文末の「～てしまう」の東京方言では「～ちゃう」という文末が多く使われている。これは年齢を問わず終助詞「の」が過去形についた形式「～ちゃったの」をよく使っている。「～てある」という結果が残っている状態をあらわす文末や「～ておく」「～てみる」という試みをあらわす文末は全体に少ない。「～てある」は現在形、過去形とも年中、年長で二例ずつ、年少は補助資料に一例。「～てみる」は年長三例、年少一例、年中は補助資料にあった。「～ておく、～とく」も年齢を問わず少ない。「自由の場」でのほうがこれらはよく使われている。しかし、

「～てみる」は少ない。移行をあらわす「～ていく」「～てくる」は過去形が多く、助詞「の」のついた形で文頭に使っている。「～てきたの」のほうを「～ていったの」よりよく使っている。「自由の場」では「～ていく」は現在形が多く、「～てくる」は過去形、現在形とも同じくらい使われていた。

他人に何かをしてあげたり、他人から何かをしてもらう「やりもらい」の関係を示す補助動詞では、「～てくれる」の形式を現在形で使っている。終助詞「の」のつく形式もある。「～てもらう」の形式は過去形+「の」でいくらか使っているが多くない。しかし年齢を問わず使っている。「～てあげる」「～てやる」は用例が少ない。「自由の場」では逆に「～てあげる」「～てやる」がこれらの中ではいくらか多い。

助動詞では現在形「の(ん)だ」に助詞「よ」とか「もの(ん)」のついた形式と、助詞のない形式、過去形「たんだ」に助詞「よ」と「って」のつく形式とか、ていねい体「ます」、過去形の「ました」のつく文末形式が年齢を問わずある。「自由の場」では「んだ」の現在形が多い。「ます」「ました」もよく使っている。

形容詞では一語の形式と一語以上よりなる文の形式のうち、助詞のつかない形式が多く、現在形では助詞のつく形式がめだち、中では「の」が多い。また「～がいい」という形式もある。形容詞の否定形は現在形では「ない」があるが、年少では過去の否定形はみられなかった。形容詞に助動詞「んだ」のつく文末もある。

形容動詞は現在形で語幹止のもの(スキ、ダイジョウブ)が多く、終助詞「の」、助動詞「だ」のつく形式もある。「で」の過去形の「でした」のつく文末が年長に一例あった。「ダイキライデシタ。」

体言に助動詞のつく形式では、一語に助詞「の」「よ」のつく形式の「だの」「だよ」「なの」の文末がいくらかあった。ていねい体の「です」は少ない。過去形では「だった」がいくらかあった。

助動詞文末では推量、推定の助動詞の「～だろう」「～らしい」があるが非常に少ない。「らしい」は年長児に一例見られたに過ぎない。意志を表わす文末「～う」も少ないが見られた。

受身、可能、使役の文末表現は、『話しことばの文型(1)』で言われていることと似ている。つまり「～案外に少なく、使役の表現のごときはまったくあらわれなかった。～受身では、いわゆる「迷惑の受身」(「なぐられる」「おこられる」の類)がほとんどであり、また受身にくらべれば可能表現の数のほうがずっと多かった～」ということである。幼児の場合は可能表現の数のほうがずっと多いとはいえ、どちらかというところ「迷惑の受身」のほうが多かった。「せる」「させる」の使役の助動詞の使用はむずかしいようである。文中にも使われている場合があるので、文末にあらわれなかったから幼児は使用できないとは必ずしもいえないが、少なく誤まった使用をしている。使役動詞は使っている。

可能の表現には動詞「できる」とか可能動詞「読める」などによる表現もあるが、ここではとりあげていない。のちに「～こともできる」の例をあげておいた。希望の助動詞「～たい」の文末もある。

## 5.1-2 平叙文の文末形式(2)

平叙文の文末形式(1)では、補助動詞や助動詞からなる文末について述べた。終助詞のつく形式としては、主として断定の気持を軽く表現すると言われ、非常によく使う「の」のついた用例をあげており、接続助詞が文末につく形式などはとりあげなかった。そこで、ここでは、(1)で述べられなかったより細かく言いわける文末形式を取りあげ、幼児がどのようにこれら陳述形式を使用しているかをみていくことにする。章末「平叙文の文末形式(2)」に使用例の一部をあげておいた。

こちらは以下のように意味で分けてみた。  
(注)

### (1)原因・理由の意をあらわす文末

終助詞の「～から」「～もの」「～けど」「～のに」のつく形式がある。この中では動詞、形容詞、名詞述語文に「から」の文末のつく形式、「～もの」のつく形式が多い。「～もの」のつく形式は文頭に「だって」「でも」「どうしても」がついて文末と呼応している。「～のに」の文末は少ない。「自由の場」に一例。

### (2)推定の意をあらわす文末

「～だろう」「～らしい」「～そうだ」という推定の助動詞とか、「かもしれない」という連語などからなっている。助動詞については(1)で述べた。これらの使用は非常に少ない。補助資料で補って種類はふえたが一、二例である。年少・年中では使えない文末形式もある。「～きがする」「～ようとする」「～と思う」という文末形式は中ではわりに使っている。

### (3)意志の意をあらわす文末

意志の意をあらわす言い方としては、動詞のまま、たとえば「行く」「あそぶ」あるいは助詞をつけて「行くぞ」などを、イントネーションで文末を強めて言うことによって成立するが、ここではそれはとりあげなかった。助動詞「～う」のつく形式は(1)で述べた。その他の文末としては「～いい」のつく消極的意志表現形式がある。「～ればいい」「～てもいい」「～のがいい」など。この形式は年少ではほとんど使っていない。

### (4)断定の意をあらわす文末

平叙文の文末形式(1)のところに助動詞の例をあげておいた。ここには主として連語から成っている断定の意をあらわす文末形式をあげる。たとえば、「～なければならない」「～しょうがない」「～ことがある」これらもやはり表現が微細になってくるので、使用している幼児は少なくなる。

### (5)伝聞の意をあらわす文末

助動詞「そうだ」であらわす形式は見当らなかった。「～だって」という他のことを伝える形式は年少ではあまり使わず、年長に多かった。直接話法の入る「 ッテ ユッタングッテ」という言い方も年長には多かった。この言い方は女兒に多く、よく使う話しぐせの幼児もいた。ていねいな「～ですって」の形式を使用した幼児は採集例のうち、用例にあげた(赤一p女)のみであった。

### (6)変化の意を表わす文末

---

(注) 『話しことばの文型(1)』(前出)および、「小説会話文における表現類型形式用例集」(話しことば研究室資料・謄写印刷)を参考にし、適宜つけ加えた。

これには「なる」のつく文末をあげた。年少には形容動詞につく「キレイニ ナリマシタ」という文末形式が少ない。形容動詞の少ないことは前に述べた。否定形+なるの形式は年少には補助資料の用例一例であった。その他用例は少ないが、「～ことになる」「～のようになる」「～そうになる」の例をあげておいた。ともに使用例が少ない。

#### (7)その他

一つの動作をあげて、他のものを言外に暗示する言い方「～たりする」文末はよく使っている。しかし、そのあとに動詞のつく、たとえば、「オヤマツクッタリ シテ アソンダ」という言い方は年長にしか見られなかった。

可能の意をあらわす「～こともできる」の言い方は、年長、年中では補助資料にみられたが、年少では使っていない。

## 5.2 疑問文の文末形式

疑問文の文末や命令文の文末をみるには、イントネーションが重大な役目をしているので、それを記録しなければ調査したことにならないが、疑問文文末には？印をつけ、命令文文末はそのままにして取り扱った。問題の残るところである。

そのようにして見た疑問文の文末形式を章末に幼児の使用例としてあげるが、以下の形式を使用している。

### (1)説明を求める質問形式

これは疑問詞を使う質問形式であるが、疑問詞「どうして?」「だれ?」の形式から、それに助詞のつく形式もある。その他、「なに?」という意味で、ぞんざいな言い方「ん?」「え?」などの形式もある。これらは用例にあげなかった。用言の現在形、過去形が文末になっていて昇調の形式、終助詞「の」の昇調の形式、いわゆる疑問詞の「か」、その他「だ」「だい」「いい?」などのつく形式がある。「の」の昇調の形式を一番よく使っている。

### (2) yes かno の判定を求める質問形式

これは疑問詞を使わないで、主として「そうだ」とか「そうでない」とかの答えを求める質問形式である。「の」の昇調の形式が多い。その他、ここではあげていないが、体言の昇調の形式、体言に格助詞その他の助詞のついた形式がある。すなわち「やま?」とか「いなかで?」「ひるやすみだけ?」。その他、副詞、形容詞、接続詞の昇調の形式、「ずーっと?」「これ 大きい?」「それから?」などの形式もある。これらは省略文とも言えるが、疑問文の文末の一種でもある。「～か?」の形式が少なく、あっても直接話法で使用しているのは問答形式の調査のためである。

### (3)自問自答的質問形式

これは自分で自分に問いを出している形式の自問的質問形式と、自分で自問自答している形式と、自問的間投詞的形式の三種の形式がある。

3.1 自問的質問形式には(1)疑問詞のつくものと(2)つかないものがある。疑問詞に推量の助動詞「だろう」のついた文末形式は年少にはみられなかった。「～かな」の形式がこの種の形式の中ではどちらかというによく使われている。年少は使えないわけではないが用例は少ない。その他「～っけ」「～かしら」があるがともに少ない。「～かしら」は年少にはない。(2)疑問詞のつかぬ

ものでは、やはり「～かな」がどちらかというときが多い。「～かしら」は女兒のみである。やはり年少にはない。

3.2 自答的質問形式では、「～か」「～のか」が用いられているが、知っている答を質問形式でいう言い方で、一ひねりした表現なので使用例は少ない。

3.3 自問的間投詞的形式では「～なんだっけ」がある。次に話すことを考えている場合もあろうが、「あのね」「うんとね」などと同じように話しぐせの場合もある。年少では使用する幼児が少ない。「なんだっけ」を話の間に入れるには、いくらかのゆとりが必要なのだろうか。

#### (4) 念押し文末形式

「～でしょ」「～だろう」「～じゃない」の昇調の文末形式である。「～でしょ？」の言い方が多い。これもやはり話しぐせの幼児がいる。話す場合倒置形の文を好む幼児がいるのと似て、「～でしょ？」を口ぐせ的に使う幼児がいるのである。疑問形の「？」印をつけるより昇調の「ノ」印でも使用したほうがよいように、質問をするわけではなく、自己の知っていることを念押しの形で話の中で述べるという形式である。時には自分の話を理解してくれないのをなじる調子も「～じゃない」のほうには含まれている。「じゃない」の形式はどちらかというとき年長のほうがよく使用する。

#### (5) 選択の文末形式

この形式はこんどの調査では、「問答形式」で一例、「自由の場」で一例しか採集できなかった。幼児が使用しないのか、この形式を使用する場面が少なかったのか、これだけではわからない。

#### (6) その他

6.1 さそいの表現の文末形式としては、「～か」 6.2 すすめの表現文末としては「～ないか」「～かい」「～ないかい」の形式があったが、すすめの表現文末は年少児からは採集できなかった。否定形を使っただけのひねった表現はむずかしいのだろう。

### 5.3 命令文の文末形式

幼児の命令文の文末形式としては、次のようなものがある。章末に用例をあげておいた。

#### (1) 命令形

動詞の命令形とそれに終助詞のついた形式である。調査が問答形式のため直接話法の場合にしか出ていない。年少児は直接話法の形が少ないのか採集例がない。「自由の場」では年齢に関係なく多い。

#### (2) たのみ表現

「～して」「～してくれ」とていねいな「～してください」などの文末形式を使用している。消極的なたのみの表現「～してくれない」とか「～しないで」の否定形をもった言い方は年少に少ない。疑問形の文末と同じである。たのみ表現としては、「ちょうだい」「ください」などの表現もあったり、動詞に「～たら」のついた「待ってたら」などの言い方もあるがこの調査では少なかったし、用例としてあげなかった。

#### (3) さそい表現

助動詞「～う」、ていねいの形式の「ましよう」「～ばいい」その他たとえば「泊っていけば」

の「ば」などの文末の言い方もあるが少ない。

#### (4) すすめ表現

「～ていらっしゃい」「～なさい」「～てごらん」「～ておいで」などの形式があるがこの調査では直接話法の場合以外では使われていないので少ない。「～なさい」「～ごらん」以外は女兒のみ使っている。

### 5.4 まとめ

以上をまとめてみると、幼児は幼稚園年齢の時期には、基礎的な文末形式が使えるようになってきていることがわかる。ただ、より細かく言いわけける種々の文末表現については、まだ不十分であり、<sup>(注)</sup>幼児により差がある。また、大人と比べてみると、たとえば、次のような文末が幼児に出てこなかった。場面にもよるので、使えないと言い切つてよいか疑問ではあるが。

しはじめる しつづける しあげる してみせる しかける しかかる べきだ きまっている  
はずだ わけた など。

また、文末は述語の部分であるが、主語との対応ができていなかったり、使役形、可能形、自動詞、他動詞のまちがいがあったりする例もみられた。以下に気づいた例をあげる。(陳述副詞のまちがい、「あげる」「くれる」「もらう」のまちがいは「単文の構造と用法」の章にあげた)

#### 1) 受身形・使役形をまちがえる

○オオカミガネ アカズキンチャン 「アウー」ッテ タベラレチャウノ。(小少-原女3:7-29)「食べちゃう」の意。

○シカレタ コト ナイ。(神中-遠男5:1-8)  
「叱られた」の意。

○コッカラ カケテネ ソイデ コッカラ シ[ひ]カラレチャッタノ。(小少-竹男4:1-8)  
「引かれちゃった」というところ。

○ママネ ヨルネ オソトニネ オバアチャンニー オイダシタ。(自長-h女5:7-9)  
「追い出された」の意。

○ライオンガネ オナカ スガ スイテネ アルイテ キタノ。ソシテ オナカガ スイテ アルイテ キタラネ シマウマガ イタカラ 「コリヤ オレサマノネ オヒルゴハンニ イイヤ」ッテ オイカケタノ。(赤長-m女6:3-24)

お腹を「空かせて」の意。

○ソウシタラネ モウネ フルイ オウチデネ スンダ ホウガ イイナト オモッテネ ミンナデネ イッショニ クラセラレタノ。(赤長-u女5:11-15)  
「暮らしたの」の意。

#### 2) 可能形をまちがえる

---

(注) 大久保愛『幼児言語の発達』(前出)に、一幼児の発達であるが、助動詞、助詞の初出時期が述べてある。それによると、ここで述べた助詞、助動詞は、3歳過ぎには一部分を除き、使用まちがいは問題にしないとすると、もう十分に使用できているのである。助動詞でおくれるのは、「らしい」4歳、「ぬ」4歳2、「ず」5歳3、「べし」6歳などである。誤用についても述べてある。

「れる」「られる」がついて可能形になる。それにひかれて動詞の可能形「よめる」「いける」ですむところをまちがえる。

○ヨメラレナイ。(小中－関男5:0－7)

○バンヤサンノ トコヲネ マガッテネ イケライル トコロ。(自長－d女5:11－13)

可能形を使うとよいと思うところに使わない例もある。

○ヒャクサンジュウイチマデ カゾエルノヨ。(小中－伊男4:3－7)

「数えられる」の意。

### 3) 自他の使用をまちがえる

○チビツチャイ ネコ オリランナイノ。ヒトリデ；ダカラネー オッキイ ネコガ オリラシテ アゲルンダヨ。(神中－渡男4:6－13)

前の「降りられない」にひかれて「おりる」(自動詞)を使役形にしようとしてまちがえている。他動詞の「降ろす」にするとところ。

○ウルトラマンガネ ココカラ ムネニ マルイノナンカ ツイテンノネ。(神中－遠男5:1－19)

他動詞の「つけてる」となるところ。

### 4) 形容詞活用のまちがい

(a)○アマイク ナイ。(神少－古男4:5－6)

○トオイク ナイヨ。(小中－藤男4:9－9)

(b)○タカーイカッタヨ。(神少－狗女4:3－5)

○ウンドウカイガ タノシイカッタ (赤中－x女5:2－3)

(c)○イナカノ オバチャンチハ トオクイノ。(神少－佐女3:7－5)

○カンジガ トオクイト オモツチャウ。(神少－三男4:0－32)

など。興味深い使用をしている。

(注)

---

(注) 高橋太郎が「動詞の形態」「形容詞の形態」というテーマで研究している。そこでは文末以外のそれらの形態も調査の対象になっている。『国立国語研究所年報19』(1968)に中間報告がある。

5.1-1 平叙文の文末形式(1)の使用例

(注)【 】 = 「自由の場」の幼児の例

文末形式	用 例				備 考
	年 長	年 中	年 少		
〔～て(い)る〕 動作のつついでいる状態。	○コッチニモ タイヨウ デテンノ。(自-f 女5:8-11) ○ボクハ アンマリ ミテナイ。(自-b 男6:0-21) 【アンナ コト シテ タベテル。(W男-41-272)】	○～ヨウサイノ フクラ スツテル。(赤-p 女5:2-2) ○マダ ヨンデ ナイ。(自-d 女4:11-12) 【アラー コビトサンガ ソンナ トコロデ オスワリ シテル。(1 女-21-598)】	○～ヤギガ クチャ タベテル。(神-販 女4:0-9) ○ナンニモ ミテナイノ。(神-勝男3:7-6) 【オトウサンモ、オトウサンモ ミテル。(M女-51-376)】	○肯定形 ○否定形	
〔～ちゃう〕 動作の完了をあらわす。	○ソレ ツカマエヨウト オモッタラ ニゲチャッタノネ。(赤-o 女6:1-14) 【テツノ タカラ ミンナ イレチャヤウ。(W男-31-207)】	○ジドウシヤト コノ クマガ アツカッチヤッタ。(赤-a 男4:11-10) 【キシヤポツポ コワレチャウヨ。(1 女-32-461)】	○タイソウガ ハジマツチャッタヨ。(神-場男3:10-11) 【テッポウデネ オトウサン ウツチャウノ。(M女-41-308)】	(過去形多し)	
〔～である〕 動作がのこっている状態。	○ホンニ カイテ アル。(赤-c 男6:3-17) 【ジドウシヤハネ メノ マエニ オイテ アルノ。(W男-42-330)】	○ウラニハ フネガ イッパイ オイテ アンノ。(自-t 男5:3-5) 【チャント ツケテ アルワヨ。(1 女-12-69)】	【ココモ アカチャン オフロツテ カイ、カイテ アルカラネ。(M女-31-191)】 ○ドウロワ ワタツテ イクノ。(小-f 女4:0-7)	(少ない)	
〔～ていく〕 動作の移行の状態。	○ヨウチエン ツレテ イクノ。(自-f 女5:8-3) ●ネコハ ツレテ イカナイモン。(赤-i 男6:2-8)	●～カメノ ホウガ ジーット ヨソミ シナガラ ノボツテッタノ。(赤-b 男5:6-11) ●モツテ イカナカッタノ。(小-f 山女4:5-18)	【～アルイテ イクノ。(M女-31-178)】 ○～エイガカンニ イツテネ クマサン ヤナンカ ミテ キタ。(神-三男4:0-22)		
〔～てくる〕 動作の移行の状態。	○ミズ アゲレバネ ノビテ クンノ。(自-r 女5:7-18) ●～カイシヤニ イツテ カエツテ コ	【～ワタシノ ホウヘ モツテ イクノ。(1 女-42-361)】 ○～ベンキョウトカネ ヤツテ ヨルニ カエツテ クルノ。(赤-f 女4:10-1)			

<p>ナイ。(赤-b 男6:5-2)</p> <p>【デンセンノアレガナガレテク ン。(W男-52-436)】</p> <p>○ソウイウノアツメテネハ コンナカニイレトクノ。(赤-u 男6:5-7)</p> <p>【〜テンチテツヲチョットカ タメテオクノ。(W男-51-389)</p> <p>○ヨンデミル。(自-b 男6:0-27)</p> <p>【ボクガヤツテミルヨ。(W男-42-342)】</p> <p>○オミヤゲカツテクレルカラ。(自-f 女5:8-2)</p> <p>○ヤスミントキハヤツテクレナイノ。(赤-w 男6:3-11)</p> <p>【イレテクレナイノ。(W男-41-277)】</p> <p>○トキドキネオカエリニゴホンヨ ンデクダサツタリスル。(赤-p 女6:2-5)</p> <p>●〜センセイニネーイロイロ オシエテモラウノ。(赤-O 女6:1-6)</p> <p>【……アズカツテモラウヨ。(W男-42-361)】</p> <p>○ソノコヲネオウチデネカ ツテヤッタノネ。(赤-s 男6:6-16)</p> <p>【アツナグツテヤルゾ。(W男-12-94)】</p>	<p>女4:8-1)</p> <p>【ジャイッテクル。(1女-21-136)】</p> <p>○オカネガネタマンナイヒト ニネコノコウイウハネネ ココニネツゲ〔け〕トクノ。(自-t 男5:3-12)</p> <p>【ナミガキタラスグオクチ オサエテオクノ。(1女-51-398)】</p> <p>●ウサギガネカメトネキョウ ソウシテミタノ。(小-成男4:7-16)</p> <p>○ゴホンモヤツパリヨンデ クレル。(赤-f 女4:10-9)</p> <p>○〜ガムカネアメカネーソ レシカネーカツテクレナイ。 (赤-x 女5:2-9)</p> <p>【キシヤポッポミニオジ ーチャヤツレテツテクレル (カラー)ラ。(1女-32-476)】</p> <p>○ママニネツケテモラ ッタノ。(自-r 女4:8-20)</p> <p>○カツテモラワナイ。(自-h 女4:7-1)</p> <p>○〜ナンカカツテイッ ツテ(アヤ)ルノ。(自-n 男5:5-3)</p> <p>【ワタシガオソージシ テヤルワ。(1女-12-91)】</p>	<p>○〜ナンニモデテコ ナイノ。(神-寺男4:4-10)</p> <p>【ジャロウカノトコ ニオイテクルネ。(M女-51-391)】</p> <p>○ノコリハネノコ シテオクノ。(神-高男4:4-2)</p> <p>【アツカラナイヨウ ニハントルツケテオクノ。 (M女-22-149)】</p> <p>○エ〔い〕レテミン ノ。(小-長男3:5-2)</p> <p>○〜ゴホンダケヨ ンデクレル。(神-寺男4:4-16)</p> <p>○ヨルネオジイ チャンジャナクツチャオ ハナシシテクレナイ。 (神-三男4:0-35)</p> <p>○〜カズカゾエ レ、レナイケドネユウコ オネエチャ ンニネカゾエテモ ラウノ。(神-折女4:3-8)</p> <p>【セワヤツテモ ラウノ。(M女-22-161)】</p> <p>○〜コンドモ ツテツテヤル。 (小-金男4:1-7)</p> <p>【イッパ ーイオキヤクサン ノセテヤンノ。 (M女-22-139)】</p>	<p>(〜ておく、とく)</p> <p>試みをする状態。</p> <p>(〜てみる)</p> <p>試みる気持ち。</p> <p>(〜てくれる)</p> <p>話し手が主語となる主体から何かをうけること。</p> <p>(〜てもらう)</p> <p>他のものから何かの利益をうけること。</p> <p>(〜てやる)</p> <p>主語となる主体が他のものに何かをすること。</p>
---	--	---	--

<p>〔～であげる〕 主語となる主 体が他人に何 か役に立つこ とを「やる」よ りていねいな 言い方。</p>	<p>●～アタシガネ イツモ ネカシ ネカシ シテ アゲルノネ。(赤-E女5:8-35)</p> <p>【ボクガ ナオシテ アゲル。(W男-11 -22)】</p>	<p>○ガッコウノ ホン カッテ アゲタ ノ。(自-n男5:5-12)</p> <p>【チョット ミテ アゲル。(1女-51 -434)】</p>	<p>○ジャ コンド ウチニ クル トキニ ハ オシエテ アゲル。(小-神女4:1 -4)</p> <p>○オシエテ アゲナイ。(小-長男3:5 -10)</p> <p>【ワタシガ ダッコ シタゲルワ。(M女 -51-389)】</p>	<p>(少ない) ていねいな は「さしあ げる」幼児 にはない。</p>
<p>〔～んだ〕 断定の意をあ らわす。</p>	<p>○ウシロニ プロペラ ミタイノガ ア ダヨネ。(自-b男6:0-6)</p> <p>○ヒダリカミ ミギカ ワカンナインダ ヨ。(自-t男6:2-13)</p> <p>○～コッチカラ イクト トオインダ ヨ。(自-k男5:8-14)</p> <p>【デンシヤッテ ナガイカラ マガルン ダヨ。(W男-11-4)】</p> <p>○カプトムシガ キノ ウエニ イルン デス。(自-s男5:9-4)</p> <p>【チーチャイ フクロガ アルンデス。 (W男-22-162)】</p> <p>○カメハ ノロイケド ウサギハ ビョ ンビョン ハネマス。(赤-s男6:6 -19)</p> <p>○ゼンブハ オボエテマセン。(赤-s男 6:6-14)</p> <p>【デンキ コワレマシタカラ、チョット ナオシマス。(W男-51-397)】</p>	<p>○～モスコシ オツキク ナッタラサー オコズカイ タメルンダ。(自-f女4: 9-7)</p> <p>○～ナンノ マンガ[で]モ シラナイ ンダ。(自-r女4:8-11)</p> <p>○イ(イ)ンダヨ。(赤-m男4:10-5)</p> <p>【コノネー コツカラネー クーキ ヤアケルンダヨネ。(1女-22-172)】</p> <p>○オニンギョウデネー オカアサンゴツ コデネ アソブンデス。(赤-x女5:2 -3)</p> <p>【ワタシガ ヤルンデスヨー。(1女-21 -126)】</p> <p>○ハヤト ママト オニイチャン [が] イマス。(赤-p女5:2-1)</p> <p>●ツバメヲ トリニ イキマシタラ ハシゴ、ヲ カケマシタガ トドキマ セン。(神-桑女4:10-17)</p> <p>【アカイ ジドウシヤニ ノリマス。(1 女-12-78)】</p>	<p>○ウチニネー オカシ アルンダ。(小 -神女4:1-4)</p> <p>○オニイチャン フジバンヤサン イッ テテ コンドハ ズット コナイン ダ。(神-三男4:0-4)</p> <p>●～ウマハネ ツヨインダヨ。(赤-b 男4:0-15)</p> <p>【チツチャイ オネエサンガ イルンダ ヨ。(M女-22-160)】</p> <p>○～「マダ ヨウジュ」ジャナクテ「マ ダヨウズ」ト ナルンデス。(小-原女 3:7-17)</p> <p>○アブラガ (ミテ)カラ [は]つきりしな い) オウチニ イレマス。(神-玉男4: 0-8)</p> <p>○サッキノー ヤキノ コエジャー ア リマシエン。(神-古男4:5-25)</p> <p>【セツケン オカリシマスヨ。(M女- 31-195)】</p>	<p>〔～んです〕 断定の意をあ らわすていね いな表現。</p>
<p>〔～ます〕 ていねいの意 をあらわす。</p>	<p>○ウシロニ プロペラ ミタイノガ ア ダヨネ。(自-b男6:0-6)</p> <p>○ヒダリカミ ミギカ ワカンナインダ ヨ。(自-t男6:2-13)</p> <p>○～コッチカラ イクト トオインダ ヨ。(自-k男5:8-14)</p> <p>【デンシヤッテ ナガイカラ マガルン ダヨ。(W男-11-4)】</p> <p>○カプトムシガ キノ ウエニ イルン デス。(自-s男5:9-4)</p> <p>【チーチャイ フクロガ アルンデス。 (W男-22-162)】</p> <p>○カメハ ノロイケド ウサギハ ビョ ンビョン ハネマス。(赤-s男6:6 -19)</p> <p>○ゼンブハ オボエテマセン。(赤-s男 6:6-14)</p> <p>【デンキ コワレマシタカラ、チョット ナオシマス。(W男-51-397)】</p>	<p>○ガッコウノ ホン カッテ アゲタ ノ。(自-n男5:5-12)</p> <p>【チョット ミテ アゲル。(1女-51 -434)】</p>	<p>○ジャ コンド ウチニ クル トキニ ハ オシエテ アゲル。(小-神女4:1 -4)</p> <p>○オシエテ アゲナイ。(小-長男3:5 -10)</p> <p>【ワタシガ ダッコ シタゲルワ。(M女 -51-389)】</p>	<p>(少ない) ていねいな は「さしあ げる」幼児 にはない。</p>

〔～だらう〕 推量の意をあらわす。	●シ……スコシハ <u>ワカルダロウヨ</u> 。(赤-g 男5:10-19)	○ヨク <u>ワカンナカタラシイ</u> 。(赤-d 男6:4-3)	●マチガエテモ <u>イイカラ ユツチャオウ</u> 。(赤-g 男5:10-19) 【ボクモ <u>イコウ</u> 。(W男-21-131)】	○「ユウガクマデ <u>カカルダロ</u> 。」(赤-s 男5:6-16)	●ウシロムキニ <u>ナツタンダロ</u> 。(赤-d 男4:2-8)	(少ない)
〔～らしい〕 推量の意をあらわす。	○イタズラ <u>シタ トキハ シカラレ</u> ル。(赤-c 男6:3-3)	○ヨク <u>ワカンナカタラシイ</u> 。(赤-d 男6:4-3)	○イッパイニ <u>ナル クスリ ノマセラレ</u> チャッタ。(自-b 男6:0-2) 【ジドウシヤ <u>オキバマデ ハコバレタ</u> 。(W男-52-431)】	○「イカセテ <u>アケヨウ</u> 。」(赤-p 女5:2-12) 【コレ <u>ヨコニ シテ ミヨウヨ</u> 。(I 女-42-340)】	○ジャ <u>モウ レコード カケ</u> 。(小-原女3:7-24) 【ドンドン <u>バイキン ツケチャオウ</u> 。(M女-32-261)】	ほとんど使われない。
〔受身〕 主体(主語)になるもの 他からある動作をうけること。	○カズハネー <u>ヒヤクマデ カゾエラレ</u> ル。(赤-w 男6:3-18)	○イッパイニ <u>ナル クスリ ノマセラレ</u> チャッタ。(自-b 男6:0-2) 【ジドウシヤ <u>オキバマデ ハコバレタ</u> 。(W男-52-431)】	○ナンカネ <u>モットネ スグ ホメラレ</u> ル。(赤-m 男5:10-3)	○ソイデ <u>ミ ミランナクッタ</u> , <u>ミランナクッタ</u> 。(神-三男4:0-12)	可能動詞の例はあげない。	
〔可能〕 主体が何かを「することができる」こと。	●～ジャックノ <u>コトネ 「カクレナサイ」</u> <u>イチテ イッチ カクレサシタ</u> 。(赤-y 男5:7-9)	○イッパイニ <u>ナル クスリ ノマセラレ</u> チャッタ。(自-b 男6:0-2) 【ジドウシヤ <u>オキバマデ ハコバレタ</u> 。(W男-52-431)】	○ホイクエンニ <u>キテテ ハネラレ</u> チャッタ。(自-r 女4:8-20)	○アタシガ <u>ゴハン コボス トキ</u> <u>コラレ</u> ルヨ。(赤-a 女3:10-11)	使役動詞の例はあげない。	
〔使役〕 主語になる主体が動作を他人にさせること。	○カズハネー <u>ヒヤクマデ カゾエラレ</u> ル。(赤-w 男6:3-18)	○イッパイニ <u>ナル クスリ ノマセラレ</u> チャッタ。(自-b 男6:0-2) 【ジドウシヤ <u>オキバマデ ハコバレタ</u> 。(W男-52-431)】	○アツタツテ <u>ネ オコラエナイヨ</u> 。(自-t 男5:3-8)	○ソイデ <u>ミ ミランナクッタ</u> , <u>ミランナクッタ</u> 。(神-三男4:0-12)	使役動詞の例はあげない。	

〔希望〕	-41-291〕	<p>○オーキク ナツタラ オマワリサンナリタイ。(白-s 男5:9-12)</p> <p>○オラナイッテ ワケジャナインダケドネ オリタクナカッタノ。(白-g 女5:11-6)</p> <p>【ソト イキタイナニ。(W男-31-200)】</p>	<p>○バートルカーノ ウンテンシユニナリタイ。(赤-c 男5:3-4)</p>	<p>●ボク コレ ヤリタイナ。(赤-n 男3:7-10)</p> <p>【オネエチャンノ ナカマニ ハイリタイ。(M女-32-243)】</p>
------	----------	--	--	---

5.1-2 平叙文の文末形式(2)の使用例

文末形式	用 例				備 考
	年 長	年 中	年 少		
〔～から〕	<p>○オニイチャント スグ ケンカシチャウカラ。(赤-m 男5:10-3)</p> <p>○ボク アシガ ハヤイカラ。(赤-c 男6:3-4)</p> <p>○ハチジハ ナンニモ ヤンナイカラ。(赤-w 男6:3-18)</p> <p>【ボク ジブンデ テキルカラ。(W男-12-73)】</p>	<p>○ハバネ ニチヨウビネ ガムナンカカッチ クレルカラ。(赤-t 男5:1-1)</p> <p>○ママ ヤサシイカラ。(赤-o 女5:1-1-1)</p> <p>○ドロボウ ミタ コト ナイカラ。(赤-s 男5:6-5)</p> <p>【ユレルカラ。(I女-21-143)】</p>	<p>○ヤサシイカラ。(神-古男4:5-1)</p> <p>●ダツチネー コレガ アルカラ。(白-h 男3:5-7)</p> <p>●ミズ アゲテ ナカッタカラ。(赤-1 男4:3-5)</p> <p>【オナベガ アルカラ。(M女-31-193)】</p>	<p>○ウチノ オバアチャン トシヨリダカラ。(小-神女4:1-10)</p> <p>●アノネ ウマガ スキダカラ。(赤-b 男4:0-7)</p> <p>○ブー (ユ) ガネ オワッタ トキ コウエン イッパーイ アソンデ キチャウダカラ。(神-場男3:10-7)</p>	<p>(これら多し)</p>
〔～だから〕	<p>○ニュースパッカリダカラ。(白-p 男5:6-10)</p> <p>○クサガ ダイスキダカラ。(白-s 男5:9-8)</p>	<p>○デンキヤダカラ。(白-e 女4:8-12)</p> <p>○キレイダカラ。(赤-p 女5:2-5)</p>	<p>○ウチノ オバアチャン トシヨリダカラ。(小-神女4:1-10)</p> <p>●アノネ ウマガ スキダカラ。(赤-b 男4:0-7)</p>	<p>(名詞多し)</p>	
〔～のだから〕	<p>●センエンマデ クロウシテ タメタンダカラ。(白-y 男6:0-10)</p>	<p>●シャリン シャリンガ アルカラ キシャハ ウゴクダカラ。(神-村男4:3-27)</p>	<p>○ブー (ユ) ガネ オワッタ トキ コウエン イッパーイ アソンデ キチャウダカラ。(神-場男3:10-7)</p>	<p>(名詞多し)</p>	

1 原因・理由の意をあらわす文末

【～だもの】	<p>○プールモ アル トコロダモン。(自-v 男5:7-5)</p> <p>○ダツテ カイブツダツテ ボク スキダモン。(赤-w 男6:3-15)</p>	<p>○ダツテ オミセダモン。(自-u 女5:5-10)</p> <p>○アタイ スキダモン。(赤-j 女4:7-1)</p>	<p>○オバアチャナンナンテ トシヨリダモン。(小-神女4:1-10)</p>	<p>不満の意をこめて理由を述べる。甘え訴える。気持もある。口ぐせの子多し。</p>
【～のだもの】	<p>○～ナニカ ゴハン タベナイト スグオコルンダモン。(白-b 男6:0-8)</p> <p>●「ヨウチエンデハ ヨマナイデ」ツテイウンダモン。(赤-M 男5:8-17)</p>	<p>○ダツテ フザケッコ シン [するの]ダモン。(白-k 男4:8-3)</p>	<p>○ウルトラセブンニ ナツテ カイジュウ ヤツツケレユンダモン。(小-金男4:1-6)</p>	
【～はすなのに】	<p>【キ(木)ガ アル ハズナノニナ。(W 男-11-12)】</p>	<p>●ダカラ ヤッパシ チガウト オモツテンダケドネ。(赤-q 女5:2-12)</p>	<p>●ソレハ シラサレナイ [言えない]ンダケドナ。(赤-d 男4:2-5)</p>	<p>はつきりいってしまわない。不満の気持。</p>
【～かもしれない】	<p>●ガイコクツチネー ドンナ ケガ アルカツテ, キンバツモ アルシネ シロイ ケモ アルシネ チャイロイケモ アルカラ アルカモシレナイ。(赤-I 女5:8-14)</p>	<p>●ナイケドネ オモッタ コト アルカモシレナイ。(小-寛女4:7-10)</p>	<p>●大きくなたら選手になるのかな? ソウカシレナイ。(赤-t 女4:4-7)</p>	<p>(少ない)</p>
【～きがする】	<p>○ナンカ ドキドキツテ イウ キガスル。(赤-m 男5:10-19)</p>	<p>●ノリタイ キモチガ シタ。(小-押女5:1-17)</p>	<p>【ジシンノ オトカモシレナイ。(M女-41-318)】</p>	<p>(少ない)</p>
【～と思う】	<p>○ネンド ナンカガ イチバン オモシロイト オモウナ。(赤-a 男5:11-11)</p>	<p>○カワイイト オモウ。(赤-j 女4:7-8)</p>	<p>○クマガ ネジュミヲ タベヨウト オモッタノ。(神-宮男3:8-11)</p>	<p>(いくらかある)</p>
【～ようとする】	<p>●ロボットヲ ツクツテ ソウシテ パピー ヤツツケヨウト シタ。(白-I 男5:7-18)</p>	<p>○オニガ キテネ オバアチャランネ タベヨウト シテンノ。(白-e 女4:8-12)</p>	<p>○オハナニ ミズ アゲヨウト シテンノ。(神-場男3:10-15)</p>	<p>動作, 作用が実現の寸前にあるさま。</p>

2 推量の意をあらわす文末

〔～そうだ〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>● シマウマヲ コロソウト シマシタ。 (赤-K 男5:11-22)</li> <li>● ドウロニ テタラネ トラックガ キ テネ アツカリソウダッタ。(赤-G 男 6:1-20)</li> <li>【モウ チョットデ テソウダ。(W男-52 -426)】</li> <li>○ ヨウチエンノ ホウガ イイト オモ ウナ。(赤-W 男6:3-11)</li> <li>● ドツチデモ イイト オモウ。(赤-G 男6:1-7)</li> </ul>	○モウ スコシデ シ〔ひ〕カレソウダッ タノ。(白-s 男4:10-26)	〃
〔～(が)いい〕 (～(でも)いい) と思う〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ キョウハ キカナキヤ。(白-P 男5:6 -10)</li> <li>【～ココロ キレイニ セイリシテ オ カナキヤ。(W男-42-327)】</li> <li>● ～ミギ マワソナイデ コツチ マー スグ イケバ イイノ。(赤-o 男6:2 -12)</li> <li>● ～フタツ ダシテモ イイシネ ロク ネ ススメテモ イイ。(赤-J 女5:8 -28)</li> <li>● ウルトラマンノガ イイヤ。(白-z 男 5.8-10)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ココノ (ハシ) ハ ワタンナケレバ ナリマセン。〔物語〕(神-玉男4:0-6)</li> <li>【シメテカナキヤーネ。(M女-31-205)】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>〃</li> <li>許可の意を もつ消極的 意志表現。</li> <li>〃</li> <li>比較の意を もつ消極的 意志表現。</li> </ul>
〔～(れ)ばい〕  〔～(ても)い〕  〔～(の)が)い〕	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ココノ (ハシ) ハ ワタンナケレバ ナリマセン。〔物語〕(神-玉男4:0-6)</li> <li>【シメテカナキヤーネ。(M女-31-205)】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【ダカラ チヤント ボタン ハメナ キヤ。(1 女-12-60)】</li> <li>● コレ シッポ ツカマエレバ イイノ ニ。(小-有男4:7-15)</li> <li>○ ゴハン ナルマデ アソソデ イテモ イイノ。(自-r 女4:8-13)</li> <li>● アカチヤンノガ イイノ。(神-規男4: 6-1)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>〃</li> <li>許可の意を もつ消極的 意志表現。</li> <li>〃</li> <li>比較の意を もつ消極的 意志表現。</li> </ul>

3 意志の意をあらわす文末

<p>〔～(ほうが)いい〕</p> <p>〔～(とこが)いい〕</p>	<p>○オカアサンノ <u>ホウガ</u> <u>イイ</u>。(赤-w 男6:3-1)</p> <p>○ナニカ <u>カッテ</u> <u>クレル</u> <u>トコロガ</u> <u>イイ</u>。(赤-d 男6:4-2)</p>	<p>●<u>ダツテサ</u> <u>オニイサンノ</u> <u>ホウガ</u> <u>イイ</u> <u>モン</u>。(小-有男4:7-5)</p>	<p>○テンシヨウラン <u>イナカノ</u> <u>ホウガ</u> <u>イイ</u> <u>マケンノ</u> <u>イナカノ</u> <u>ホウガ</u> <u>イイ</u> <u>ナ</u>。(神-管男3:8-5)</p>	<p>比較の意をもつ消極的意志表現。</p> <p>〃</p>
<p>〔～しか～ない〕</p> <p>〔～なければいけない〕</p> <p>〔～(て)しようがない〕</p>	<p>○チビタハネ <u>ハゲボウズデ</u> <u>イッポンシカ</u> <u>ケガ</u> <u>ナイノ</u>。(白-t 男6:2-17)</p> <p>【モウ <u>キチャツタカラ</u> <u>シヨウガナイ</u> <u>ヤ</u>。(W男-52-435)】</p>	<p>○コレハネ <u>オハナニ</u> <u>ミズ</u> <u>ヤロウト</u> <u>オモッタ</u> <u>ラネ</u> <u>サキニ</u> <u>カレ</u> <u>チャツタカラネ</u> <u>シヨウガナイ</u> <u>ダツタノ</u>。〔しようがなかったの〕(赤-j 女4:7-9)</p>	<p>●<u>アト</u> <u>ナイノ</u>。<u>コイダケツカ</u> <u>ナイノ</u>。(赤-f 女4:2-6)</p> <p>【<u>カエラナケレバナリマセン</u>。(M女-51-354)】</p> <p>【～オカオダツテ <u>ツケタツテ</u> <u>シヨウガナイ</u> <u>ヨ</u>。(M女-11-10)】</p>	<p>●<u>アト</u> <u>ナイノ</u>。<u>コイダケツカ</u> <u>ナイノ</u>。(赤-f 女4:2-6)</p> <p>【<u>カエラナケレバナリマセン</u>。(M女-51-354)】</p> <p>【～オカオダツテ <u>ツケタツテ</u> <u>シヨウガナイ</u> <u>ヨ</u>。(M女-11-10)】</p>
<p>〔～ことがある〕</p>	<p>●<u>ソウスルト</u> <u>チガウ</u> <u>カイジュウネ</u> <u>アバレダス</u> <u>コトモ</u> <u>アング</u>。(赤-F 男5:9-10)</p>	<p>○イヤン <u>ナツチャウ</u>。(白-k 男4:8-8)</p>	<p>●<u>モット</u> <u>モット</u> <u>(キチュ)</u> <u>ーク</u> <u>ナツチャウ</u>。(白-b 女3:10-13)</p>	<p>●<u>モット</u> <u>モット</u> <u>(キチュ)</u> <u>ーク</u> <u>ナツチャウ</u>。(白-b 女3:10-13)</p>
<p>〔～(する)もんだ〕</p>	<p>●<u>アカチャンガ</u> <u>ツカ</u> <u>(イウ)</u> <u>モンダ</u>。 <u>コンナノハ</u>；(W男-21-112)】</p>	<p>○ウチノ <u>オカアサン</u> <u>ネーエ</u> <u>キッサテ</u> <u>ンネ</u> <u>ヒラク</u> <u>ンダツテ</u>。(赤-q 女5:2)</p>	<p>○カワイイ <u>アカチャンガ</u> <u>ウマレ</u> <u>タンダツテ</u>。(白-u 女6:5-18)</p>	<p>●<u>ソレデ</u> <u>ネ</u> <u>モツテ</u> <u>キテ</u> <u>クレ</u> <u>タンダツテ</u>。(白-b 女3:10-7)</p>
<p>4 断定の意をあらわす文末</p>	<p>〔～(する)もんだ〕</p>	<p>○カワイイ <u>アカチャンガ</u> <u>ウマレ</u> <u>タンダツテ</u>。(白-u 女6:5-18)</p>	<p>○カワイイ <u>アカチャンガ</u> <u>ウマレ</u> <u>タンダツテ</u>。(白-u 女6:5-18)</p>	<p>当然だという気持ち。</p> <p>他のことを紹介する。</p>

<p>5 伝聞の意をあらわす文末</p>	<p>〔～って言っ たんだって〕</p> <p>〔～のですっ て〕</p>	<p>○ダカラ ソレテ コレナカッタタンダッ テ。(白-g 女5:11-12)</p> <p>○オオキイカラ カケンノガ オソカッ タンダッテ。(白-d 女5:11-30)</p> <p>●「ナニヲ ソンナンニネ カンガエテネ イルノ」ツテ ユッタタンダッテ。(白-l 女6:4-4)</p>	<p>-4)</p> <p>●モタロウ ツテ ナヲ ツケタン ダッテ。(赤-1 男4:8-8)</p> <p>○フクヲネ ヒロゲテ ミテ ナキダシ チャッタデンデスツテ。(赤-p 女5:2 -11)</p>	<p>「だって」が 口ぐせの子 もいる。女 児がよく使 う。 直接語法の はいる言い 方。年長の ほうに多い。 赤中p女の みがていね い体。</p>
<p>6 変化の意をあらわす文末</p>	<p>〔形容詞(形 動)+なる〕</p> <p>〔否定形+な る〕</p> <p>〔～ことにな る〕</p>	<p>●ココマデ クルトネ トオク ナル。 (白-u 女6:3-5)</p> <p>○ミズ カケタラネ ウント ハナガネ ピントネ ナガク ナッタノ。(白-o 男6:3-13)</p> <p>○マッスグニ ナツテ キレイニ ナリ マシタ。(赤-p 女6:2-16)</p> <p>●ツキニ カエレナク ナツチャウ。(白 -B 男5:7-14)</p> <p>○モウ ハイナク ナツチャッタノ。 (赤-u 男6:5-21)</p> <p>●オモシロイ、コトニ ナル。(白-a 男 5:11-18)</p>	<p>○サンバンメンノ オニイサンハハネー アシガネー ナガク ナルノ。(神-規 男4:6-28)</p> <p>○ソイデ マタ チイチャク ナッタ ノ。(白-u 女5:5-11)</p> <p>●オテンキガ キレイニ ナッタノ。(赤 1 男4:8-13)</p> <p>○～イツク コト ナイカ(ラ) ワカン ナク ナッタ。(白-e 女4:8-6)</p>	<p>○ソイデネ オオキク ナンノ。(神-秋 男3:11-6)</p> <p>○ソシテネー オッキク ナッタノ。(神 -狗女4:3-17)</p> <p>【ジョーズン ナツタ。(M 女-11-29)】</p> <p>●～ママモネ オニイチャンモネ オト ウサンガ(も) イナク ナッタノ。(赤 -1 女4:4-15)</p> <p>(少ない)</p>

〔～ようにな る〕	●～オミズヲ アゲタラ マタ モトノ ヨウニ ナッタノ。(赤-j 女6:6-19)	●ソイデ オオキク ナツテネ ハタラ クヨウニ ナッタノ。(赤-l 男4:8-8)	●～サカヲ ノボツテ オッココソウ ナッタノ。(赤-b 男4:0-13) ○～オス
〔～そうにな る〕	●トラクガガ デテ ヒカレソウニ ナツチャッタノ。(赤-R 男5:11-16)	○～クマガネ バスドウリニ キテ ダ ンブカーニ ヒカレソウニ ナッタ ノ。(赤-w 男5:3-11)	○～オスナデ アソングリネ スルノ。 (神-鈴男3:6-4)
〔～たりする〕 並立の意をあ らわす。	○～オトウト オニゴッコ シタリ スルヨ。(赤-a 男5:11-6)	○～オヤスミダツラネー ドックへ イッタリ スンノ。(赤-k 女5:3-4)	○ウミ イッタリ オンセン イッタリ プール イッタリ シタ。(神-狗女4: 3-3)
7 その他	○ガム モラッタリ シタノ。(自-m 男 6:4-3)	●～ミズノ ナカへ、ネ モグル コト モ テキルノ。(神-親男4:6-11)	(少ない)
	●～オバケダカラ スーッテ ヌケダシ テ イッチャウノ。ケエル コトモ デキルノ。(赤-k 女5:8-15)		

## 5.2 疑問文の文末形式使用例

文末形式	用 例			備 考
	年 長	年 中	年 少	
1 説明を求める質問形式	●～マグマタイシ ドコニ スンデルト オモウ? (赤-F 男5:9-14) 【カギ ドウシタ? (W男-52-445)】	○コレ ダレノカ シツテル? (自-I 女 4:8-8) 【～コレハ ナンダカ ワカル? (I 女 -12-86)】	●ナンデネー カメガネ ウゴクノ ノ ロイカ シツテル? (赤-d 男4:2-15) 【ナニ ミテタ? (M女-41-286)】	(多し)
〔～の〕	○センセイネ イツ ウマレタノ? (赤 -u 男6:5-20)	○ドウシテ ココ サンツテ カイテ アルノ? (赤-d 男5:4-16)	○ドウシテ ナクノ? (小-佐男4:3-12)	
	【ナンデ ウソックノ? (W男-32-245)】	●ドウシテ センセイサ キク ヤクナ ノ? (神-井男5:0-28)	○ナンデ シテ コナカッタノ? (小-原 女3:7-26)	
		【ドンナ ツミキガ アンノ? (I 女-41 -296)】	【イツカラ カインノ? (M女-51-367)】 【アラアラサセテ ドコ イクノヨ? (M 女-31-189)】	

<p>〔～か〕</p> <p>〔～のか〕</p> <p>〔～だ〕</p> <p>〔～だいい〕</p> <p>〔～いいい～〕</p>	<p>○「ドウイウ ナマエニ シマスカ？」 (自-u 女6:5-18) 【デンキハ ドウ シマシタカ？ (W男 -51-377)】</p> <p>●ドコマデ ツツイテンダヨ？ (赤-M男 5:8-14)</p> <p>●「ナンダッテ イイ？」 (白-m 女6:4 -14)</p>	<p>●「モモタロウサン ドコニ イクンデ スカ？」 (赤-e 女4:9-7)</p> <p>●「ドウヤツテ ハイルノカ」 (赤-i 女 5:3-7)</p> <p>○コレ ナンダ？ (赤-m 男4:10-8)</p> <p>●～コウ キテ ドッカラ ヨムンダ？ (小-紳男4:8-8)</p> <p>【コレハ ドコダ？ (I 女-21-565)】</p> <p>○ソレカラ ドウ イケバ イーランダ？ (赤-m 男4:10-8)</p> <p>【ドウヤツタラ イイノ？ (I 女-31- 203)】</p> <p>○ドッカラデモ イイノ？ (赤-p 女5:2 -8)</p>	<p>○「ダレデスカ？」 (小-矢女4:0-15) 【コレ ドウ スルカ？ (M 女-22-167)】</p> <p>○「ナンダ？」 (小-千女4:2-8)</p> <p>●コレ ナンテ イウ シダ？ (赤-d 男 4:2-24)</p> <p>【オフロバ ドコダ？ (M 女-31-189)】</p> <p>○「ダレダイ？」 (神-佐女3:7-21)</p> <p>○ナンチュ イエバ イイノ？ (神-三男 4:0-37)</p>	<p>「」は直 接話法。</p>
<p>2</p> <p>yes か no の 判定を 求める 質問形式</p>	<p>●ミタ コト ナイノ？ (赤-l 男6:3 -11)</p> <p>【ハシゲタブヒン モウ イッコ ナイ ノ？ (W男-11-7)】</p> <p>○コッカラナノ？ (赤-r 女5:10-10)</p> <p>【デンワガ コワレテンデスカ？ (W男 -42-357)】</p> <p>●「コノ グライイカイ？」 (赤-j 女6:6 -20)</p>	<p>○ポクンチノ オカアサンニ イウノ？ (自-b 男5:1-9)</p> <p>●コレ オトモダチダッタノ？ (神-永男 4:1-15)</p> <p>●イチ ニ サンナノ？ (小-伊男4:3 -21)</p>	<p>○モウ ナイノ？ (小-佐男4:3-19)</p> <p>●コレシカ ナイノ？ (赤-d 男4:2-17)</p> <p>【モウ イイカイ？ (M 女-31-187)】</p>	<p>疑問詞はつ くが2とも。</p>

(疑問詞のつくもの)



〔～のかね〕	○「ナニ ヤッテンノカネ？」(自-b男 6:0-25)	○テ <u>ナンカ</u> カッタ <sup>n</sup> ンダ <sup>n</sup> ッタ <sup>n</sup> ツケ？ (自-n男5:5-12)	●ナニ シタ <sup>n</sup> ツケ？(赤-d男4:2-4)
〔～っけ〕		【ドコ イク <sup>n</sup> ンダ <sup>n</sup> ツケ？(1女-32 -259)】	
〔～だっけ〕	○～ナニ カイジュウ <sup>n</sup> ダ <sup>n</sup> ツケナ？(自-n 男6:5-11)	●ナンノ オハナシ <sup>n</sup> ダ <sup>n</sup> ツケナ？(小-m男 4:5-5)	●ナニ シテ アソ <sup>n</sup> ンダ <sup>n</sup> ンダ <sup>n</sup> ツケナ？ (赤-e女3:9-2)
〔～かしら〕	【ホウ <sup>n</sup> チョウ <sup>n</sup> ウハ ドレ <sup>n</sup> ダ <sup>n</sup> ツケ？(W男-21 -147)】	●ドワイ <sup>n</sup> ウン <sup>n</sup> ダ <sup>n</sup> ツケナ？(小-久女4:7 -25)	
(2)疑問詞のつ かぬもの		【ドコヘ イッタ <sup>n</sup> ノカシラ？(1女-32 -256)】	
〔～かな〕	○クマガネ、ネズミ <sup>n</sup> カナ？(自-u女6: 5-27)	○アルイ <sup>n</sup> テル トコ <sup>n</sup> カナ？(赤-s男5:6 -14)	●ネ <sup>n</sup> テルノカナ？(赤-d男4:2-15)
	【カギ ポケ <sup>n</sup> ットニ イレ <sup>n</sup> テ アルカ ナ？(W男-52-444)】	【シロイ <sup>n</sup> トガ ナイ <sup>n</sup> カナ？(1女-42- 362)】	【ココカラ <sup>n</sup> カナ？(M女-51-358)】
〔～のかな〕	●オナ <sup>n</sup> カガ スイ <sup>n</sup> テタ <sup>n</sup> ノカナ？(赤-g男 5:10-16)	○コツチ <sup>n</sup> カラ ヤル <sup>n</sup> ノカナ？(赤-m男4 :10-9)	【ニラ <sup>n</sup> メッコシ <sup>n</sup> テンノカナ？(M女-41- 331)】
〔～かね〕	【ミツ スツ <sup>n</sup> タカラ シンジ <sup>n</sup> ヤッタ <sup>n</sup> ノカ ナ？(W男-42-336)】	【マタ チガウ エキ <sup>n</sup> ニ ツイ <sup>n</sup> テ トマ ンナイ <sup>n</sup> ノカナ？(1女-42-390)】	【ソウス <sup>n</sup> レバ アレハ ショクドウ <sup>n</sup> カナ (M女-21-120)】
〔～っけ〕	●キン <sup>n</sup> ヨウ <sup>n</sup> ビモ アッタ <sup>n</sup> ツケ？(赤-a男 5:9-11)		【コウヤ <sup>n</sup> ル モノ <sup>n</sup> ダ <sup>n</sup> ツタ <sup>n</sup> ツケナ？(M女 -12-52)】
〔～だっけ〕	○トチュウ <sup>n</sup> テネ サル <sup>n</sup> ニ アッタ <sup>n</sup> (ン) ダツケ？(自-u女6:5-19)	●マイ <sup>n</sup> カケ シテル <sup>n</sup> ンダ <sup>n</sup> ツケ？(小-足男 5:0-2)	●ココ <sup>n</sup> デ オハナシ スル <sup>n</sup> ンダ <sup>n</sup> ツケ？(赤 -d男4:2-2)

<p>[～かしら]</p>	<p>○レントゲンダケカシラ? (赤-x 女6:2-8)</p>	<p>●ラ、ソノ ツギハ コ〔文字〕ダツケ? (小-横男4:4-19)</p> <p>○ソウネ ニカイグライシカ ヨンデナイカシラ? (赤-P 女5:2-14)</p> <p>【ジドウシヤノ クニカシラ? (1 女-41-269)】</p>	<p>【コレデ ヤルンダツケネ? (M 女-12-53)】</p>	
<p>[～か]</p>	<p>○ソノエ クマカ? (白-i 男6:4-18)</p> <p>【ホネガ オレテル カブトカ? (W 男-42-343)】</p>	<p>○アレカ? (白-o 男5:4-6)</p> <p>【ワタシノ バシヨカ? (1 女-52-501)】</p>	<p>●ウチン ト コカ? (赤-f 女4:2-1)</p> <p>【ラッパノ ラカ? (M 女-12-86)】</p>	
<p>[～のか]</p>	<p>○「ユメダッタノカ?」(赤-m 男5:10-20)</p> <p>【イッバイ イレナイノカ? (W 男-41-294)】</p>	<p>○ヨシ (コウ イウ イクンカ)? (赤-m 男4:10-8)</p> <p>【チャイロ ツカッテルノカ? (1 女-52-522)】</p>	<p>○ナンダツケ……? (小-千 女4:2-2)</p> <p>●ウー ン ナンダツケー? (赤-d 男4:2-16)</p> <p>【ナンダツケ? (M 女-41-313)】</p> <p>●ソレハネー……ウントー ナンダツケ ナー? (赤-a 女3:10-20)</p>	<p>話しぐせもある。 *間投詞はこの例には入れておいた。</p>
<p>[なんだっけ な]</p>	<p>○～ユウギトネ バーラガ サイタトネ アト ナンダツケ? (赤-u 男6:5-3)</p> <p>○ン～ ナンダツケ? (赤-n 男6:2-6)</p> <p>○イチバン オモシロイノハ ナンダツケナ? (赤-m 男5:10-13)</p>	<p>●ソレカラネ コレハ ナンダツケ?(小-徳男4:5-9)</p> <p>●ン……ナンダツケ ナンダツケー?(小-梅男4:3-3)</p> <p>●エート (アレ) ナンダツケナー?(小-市男4:5-10)</p> <p>●ウントネー ス ウーント エート ナンダツケツケ? (神-正男4:10-2)</p>	<p>○ココニネ アナガ アイテルデシヨ?</p>	
<p>[～でしょ]</p>	<p>○ソレカラネー ババト ママ イルデ</p>	<p>○ソイデ ノロサンハ ノソリト イク</p>		
<p>3・2 自答的質問形式</p>	<p>3・3 自問の間投詞的形式</p>			

<p>〔～ないでしよ〕</p>	<p>シヨウウ? (赤-x女6:2-2) 【オイシイノハ タラデシヨ? (W男-21-140)】</p> <p>○ココマデ コラレナイデシヨ?(自-d女5:11-27)</p>	<p>デシヨ? (自-u女5:5-12) 【コレハ ココデシヨ?(I女-21-571)】</p> <p>○アラカワノ ホウマデ イカナイデシヨ? (自-t男5:3-4)</p>	<p>(神-鈴男3:6-9) 【ワンチャンガ カワイイデシヨ?(M女-31-185)】</p>	<p>(この言い方多し) 口ぐせ的。</p>
<p>〔～のでしよ〕</p>	<p>●ダツチネ オイシヤサントサ ハイ シヤサンハネ ナオスンデシヨ?(赤-c男5:10-16) 【サンジスギニ イクツテ イッタンデシヨ?(W男-42-323)】</p>	<p>●コレ ウサギガ ネンネ シチンデシヨ?(神-遠男5:1-28)</p> <p>【オトウサンガ イッショニ シンクルンデシヨ?(I女-32-475)】</p> <p>●サンリンシヤトサ イマ ユツタダロ? (小-永男4:4-4)</p>	<p>●ダカラネ コツチガネ キレエジャナイデシヨウ?(赤-a女3:10-18)</p> <p>●アカガ トマルンデシヨ?(赤-d男3:10-14)</p> <p>【イタダキマースツ イッテ タベルンデシヨ?(M女-12-53)】</p>	<p>叱責の意の含まれるものもある。</p>
<p>〔～だろう〕</p>	<p>●ヘイキシヨウノ デル トコ アル ジャナイ?(自-c男6:3-5) ●アスコニ〔で〕サ バトミン トノ トキ ヤツタタジャナイ?(赤-p男5:11-7)</p>	<p>○キヲ ツケナイカラジャナイ?(自-i女4:8-20) ●カツムリ ガッコウニ アンジャナイ? ●ダツチサ アタマヤナンカ ヒッコンデサ アレ ネラレルジギナイ?(小-海男4:3-17)</p>	<p>○オンナジノガ アルジャナイ?(小-福男4:2-13) ○キョウシツ ナイジャナイ。(小-佐男4:3-9)</p>	<p>叱責の意の含まれるものもある。</p>
<p>〔～じゃないの〕</p>	<p>【ソレハ ソウデンタツタジャナイノ?(W男-52-420)】</p>	<p>○～シマウマ キタカラジャナイノ?(自-s男4:10-23) 【ホラ アレ ソレ キュー ハンタイ ジャナイノ?(I女-41-281)】</p>	<p>【タイヘンナ コトニ ナッテルジャナイノ?(M女-11-47)】 ○キノウ ミタジャナイカ?(小-加男4:1-5) ●ソリヤ タイガーマスクッチ イウカラ カブルンジャナイカー?(赤-d男4:2-12)</p>	<p></p>
<p>〔～じゃないか〕</p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>

4 念押し (相手の確認をことばで求めるわけでもない)

<p>(～じやないでしよ)</p>	<p>●オリガミ ツクルモノッテサ ホントニサ ソノ ツクルモノニ ソックリジャナイデシヨ? (自-h 男5:7-13)</p> <p>●アノ ブタイノ ウエデサ ナンカヤンジャナイ? (自-e 男6:1-2)</p>	<p>○コッチ ズーット イッタンジャナイ? (自-s 男4:10-23)</p> <p>○へビ タベタラ ネズミ タベタラ ネズミ ナル? ナラナイ?(赤-d 男5:4-6)</p>	<p>【オカアサン マダ タベチャ イケナイノ? イイノ? (M女-42-453)】</p>	
<p>(～のじやない)</p>	<p>○「オニセイバツニ イクカ?」(自-o 男6:3-9)</p> <p>●カイジユウ デンノネ オシエテ アギョウカ? (自-y 男6:0-13)</p> <p>【コン ナカニ デンキ ハイッテル コトニ シヨウカ? (W男-41-314)】</p> <p>●「カメサン ボクト カケッコ シナイカ?」(赤-N 女5:7-17)</p>	<p>●「カケッコ シヨウカ?」(赤-i 女5:3-15)</p> <p>●イチバン イイ ヒコウキ モツテ コヨウカ? (小-水 男4:4-1)</p> <p>【バイナッブル アゲマシヨウカ? (I 女-52-530)</p>	<p>●ドウブツエンノ オハナシ シタギョウカ。(赤-t 女4:4-16)</p> <p>【ジェース ツクッテ キテ ヤロウカ? (M女-12-68)】</p>	
<p>(～ないか)</p>	<p>○「ソノ カワリ オニタイジ ユクカイ?」(自-u 女6:5-21)</p> <p>○「ウチへ コナイカイ?」(自-t 男6:2-8)</p>	<p>○「ボクト イッショニ キョウソウ シナイカイ?」(赤-s 男5:6-16)</p>		
<p>5 選択</p>				
<p>6 その他 (さそいの表現ほか)</p>				

5.3 命令文の文末形式使用例

文末形式	用 例				備 考
	年 長	年 中	年 少		
1 命令形	<p>●「カボチャヲ モッチ コイ。」(赤-B女5:8-11)</p> <p>●「ヤツツケチャイナ。」(白-f男5:5-7)</p> <p>○「カッチヤン オキヨ。」(白-k男5:8-8)</p> <p>●「イソイデ イクンデスヨ。」(赤-s女5:8-13)</p> <p>【ボー ボウリヨクハ ヤメロ。(W男-31-222)】</p>	<p>○「タベナッ。」(白-j女4:7-11)</p> <p>○「ソソナラネ イマゴロ タベチャイナ。(白-j女4:7-10)</p> <p>○「シトリ ウツ[売]チャヘ。」(白-r女4:8-15)</p> <p>●「モヤシニ イッテ クルカラ イチゴヲ ノコシトクノヨ。」(赤-i女5:3-7)</p> <p>【タカチャン オシエテ アゲナヨ。(I女-51-410)】</p>	<p>【ソット カクレチャエ。(M女-51-388)】</p> <p>【オカアサンモ ナンカ ツクリナヨ。(M女-51-362)】</p>		
[～て]	<p>○「アシタモ マタ キテ オドッテ。」(赤-w男6:3-22)</p> <p>【ホラ ウシロ ムイテ。(W男-42-348)】</p>	<p>○「マッテー。」(赤-f女4:10-13)</p> <p>【コレ モッチッテ。(I女-21-567)】</p>	<p>○モット キカシテ。(小-原女3:7-22)</p>		
[～てよ]	<p>【ソレハ オイトイデヨ。(W男-42-341)】</p>	<p>【キユウキユウシャ ヨンデキテヨ。(I女-21-106)】</p>	<p>【シマッツイテヨ。(M女-11-34)】</p>		
[～てね]	<p>○「チョット マッチテネッ。」(白-e女5:7-6)</p>	<p>○「オルスバン シテネ。」(赤-p女5:2-11)</p>			
[～ないで]	<p>【アノ ハコニ デンキ ハイッテルカラ コワサナイデヨ。(W男-42-351)】</p>	<p>【ハナヒ ヤラナイテ。ワタシノ プンヲ；(I女-42-352)】</p>	<p>【カギ シメテ イカナイテ。(M女-31-176)】</p>		
[～てくれ]		<p>●「ハヤク オヒルヲ ツクッテ クレ。」(神-桑女4:10-2)</p> <p>【ミンナ ゴハン ツクッテ クレー。(I女-11-21)】</p>			

〔～てくれよ〕	<p>●「オーイ マッチ クレヨ。」(赤-N 女5:7-18)  <b>【ドイテ クレイ。(W男-21-105)】</b></p>	<p>○「チョット マッチ クレヨ。」(神-古 男4:5-26)</p>
〔～てくれな い〕	<p>【チョット カタクシテ クレナイ?(W 男-51-389)】</p>	
〔～てくんな〕	<p>○オチャ イレテ クンナ。(赤-f 女5: 9-11)</p>	
〔～てくださ い〕	<p>○「ヒトツ ワタシニモ オドラシテ クダサイ」(赤-w 男6:3-22)</p>	<p>●「ニガシテ クダサイ。」(小-岡女4:8 -26)</p>
〔～ないでく ださい〕	<p>【スグ コワレマスカラ、ツカワナイテ クダサイ。(W男-42-357)】</p>	<p>【アツ タオレナイテ クダサイ。(M 女 -22-173)】</p>
〔～てちよう だい〕	<p>●「チョキット キッチ チョウダイ。」(赤-s 女5:8-16)  <b>【イレテ チョウダイ。(W男-41-277)】</b></p>	<p>●「オサカナト モッチ キテ チョウダイ」(小-野女4:9-10)  <b>【タカチャン ミテテ チョウダイ。(1 女-21-565)】</b></p>
〔～う〕	<p>○「オマツリ イコヨ。」(白-u 女6:5 -5)  <b>【ゴゴカラ アソボウネ。(W男-12-71)】</b></p>	<p>○「カケッコ シヨウ。」(赤-r 女4:10 -9)  <b>【ジャ ミーンナ カクレヨウ。(1 女-52 -538)】</b></p>
〔～ましよう〕	<p>●「ネムッチ イケバ イイ。」(赤-h 女 6:6-12)</p>	<p>【ゴチソウ シマシヨウヨ。(M 女-21 -102)】</p>
〔～ばいい〕		

4 す す め の 表 現	〔～でいらっ しゃい〕 〔～なさい〕 〔～ておいで〕 〔～てごらん〕 〔～てごらん なさい〕	○「ダイドコロラ キレイニ シナサ イ。」(赤-P 女6:2-13) 【テツダツテ アゲナサイヨ。(W男-41 -308)】 【タベテ ゴラン。(W男-41-285)】	●「アソンデ イラッシャイ。」(袖-鎌女 4:5-5) ●「アズカツテネ クレルカラネ ソノ オウチへ イキナサイ。」(赤-Q 女5:2 -5) ●「ツイテ オイデ。」(赤-e 女4:9-8) 【ツナイデ ゴラン。(I 女-42-383)】 【モット モット タカク ソンデ ゴ ランナサイ。(I 女-41-313)】	【ミンナ デテラッシャイー。(M女-51 -380)】 ○「アラツテ イキナサイ。」(小-原女3 : 7-19) 【フタリデ オネム シナサイヨ。(M女 -22-156)】 【チョット ミミ カシテ ゴランヨ。 (M女-22-166)】
---------------	--	--	---	---

## 第6章 接続詞の用法

接続詞は、第3章で述べた「複文の構造と用法」のところで重要な役目をした接続助詞とともに、話を展開発展する上で欠くことのできない成分である。

第2章で幼児が日本語の文を習得していく過程を述べたが、その中では、文と文をつないで文章を構成していく接続詞が一番習得がおくれ、他の成分よりのちに出ていた。それが、5、6歳児になったらどんなふうな実態を示すようになるだろうか。この章でみていくことにする。この一部は、「幼児の接続詞の用法」として、国立国語研究所年報22(1971)に中間報告をした。

### 6.1 接続詞の種類

最初に、幼児がどんな種類の接続詞を使用するかをみる。以下にあげたパーセントは前章などと同じく年中、年長同一幼児、年少は神谷、小川幼稚園の幼児を対象にしている。ここでは、道順について話した用例も含めた。

接続詞の種類による使用数(%)

接続詞	年 長		年 中		年 少		備 考
	%	順位	%	順位	%	順位	
それで	56.3	1	57.8	1	48.1	1	条件・確定・順接(展開)(Aのことが原因でB。それだから、そういうわけで)
それから	13.9	2	8.8	3	11.5	3	列叙・添加・順接(並列・累加)(論理的関係よりも時間的継起としてとらえる。そのうえに、それに加えて、その次に、AまたB)
そして	8.6	4	19.0	2	17.3	2	並立・添加(累加)(その次に その結果、一方、それに加えて、それなのに)
そしたら	9.5	3	4.8	4	5.8	5	条件・仮定・順接(展開)(するとに近い。)
だから	3.6	5	2.6	6	2.7	7	条件・確定・順接(展開)(それ故に、AのようなわけだからB)
だって	2.5	6	3.1	5	6.4	4	条件・確定・逆接(理由)(なぜなら、しかし、だからといって)
だけど	1.0	8	1.3	7	1.8	8	条件・確定・逆接(反対)(だが、ですけど)
でも	1.7	7	0.6	9	0.6	9	条件・逆接(反対)(そうであっても)
そうすると	0.8	9	0.7	8	0.2	10	条件・帰結(展開)(当然の結果)
その他							
じゃ	0.8	9	0.4	10	4.2	6	条件・順接(展開)(話題の転換)
それなら	0.2		0.2		0.9		条件・仮定(理由・展開)(AというわけならB)
そうすれば	0.2		0		0		条件・仮定(理由・展開)
他	0.9		0.9		0.6		(それに、それでもって、じゃなくて、それだから、それでもなど)

〔注〕 備考欄の接続詞の意味は、「接続詞のすべて」雑誌「文法」(昭45.10)とか、『分類語彙表』「辞典類」から適宜引用、私見を加えた。

接続詞の種類名であるが、表の名は代表型である。話しことばなのでいろいろの言い方をしている。「それで」は「そいで、で、そで、ほいで、ふんで」。「それから」は「そっから、から」。「そして」は「して」。「そしたら」は「そうしたら、したら、たら、そいだら」。「だから」は「そ

うだから、そだから。「それなら」は「そんなら」。

次に順位をみると、「それで」が年長、年中、年少を通じて一番よく使用され1位。ついで年長では「それから」「そしたら」「そして」の順、年中、年少では「そして」「それから」の順になっている。年中では、そのあと「そしたら」が使われているのに対して、年少では、「だって」「そしたら」の順である。

上位を占める接続詞は順接の意味をもつものである。逆接の意味の接続詞は使用数が少ない。その中での上位は「だって」「だけど」で「でも」は年長はともかく、年中、年少は使用数が少ない。また、「そしたら」が年長ではよく使われているのに対して年中、年少では少なくなっている。しかし、これだけの使用数からはなんともいえない。補助資料を加えて調べてみると、「それで」の1位はかわらないが、「それから」「そして」は年長ではほぼ同数で、「そしたら」「だから」「だって」「でも」と続き、年中は「そして」「それから」「そしたら」「だって」「だから」、年少は「それから」「そしたら」「だって」「そして」「だから」「じゃ」と続いている。(注)

接続詞の主な種類とそれを使用した人数(%)

種類	年 年 38人中 長		年 38人中 中		年 35人中 少	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
それで	35	92.1	26	68.4	25	71.4
で	15	39.5	19	50.0	7	20.0
計	36	94.7	31	81.6	25	71.4
それから	26	68.4	19	50.0	18	51.4
から	3	7.9	2	5.3	1	2.9
計	26	68.4	19	50.0	19	54.3
そして	20	52.6	17	44.7	14	40.0
して	1	2.6	5	14.2	1	2.9
計	20	52.6	19	50.0	14	40.0
そしたら	25	65.8	12	31.6	8	22.9
したら、たら	3	7.9	4	10.5	0	0
計	26	68.4	16	42.1	18	22.9
だから	12	31.6	10	26.3	9	25.7
だって	10	26.3	13	34.2	15	42.9
だけど	7	18.4	5	13.2	4	11.5
でも	9	23.7	3	7.9	1	2.9
そうすると	3	7.9	3	7.9	1	2.9

注) 国立国語研究所報告8『談話語の実態』(秀英出版・1955年)には大人が話しことばで使用される接続詞の用法別使用数があがっている。(161頁)順位をみると「それで」「だから」「で」「それから」「でも」「じゃ(あ)」「だけど」「ですから」「そ(う)して」「だって」「そうすると」「そ(う)したら」「しかし」などとなっていて、「それで」の1位はかわらない。

接続詞の個人別の使用状況

名前	年 長 (赤羽幼稚園)	文節数	名前	年 中 (赤羽幼稚園)	文節数	名前	年 少 (神谷保育園)	文節数
o女	ソレデ42 ソシタラ20 ダカラ7 ソレカラ2 デ2 ソシテ2 ソウスルト1 ダケド1 ソレデ33 ソレカラ15 ソシタラ1	724	t男	ソレデ27 シタラ2 ソレカラ1 ソシテ1 ダケド1 デ1	320	三男	ソレデ40 ソレカラ7 ダケド6 カラ4 ジャ3 ダツテ3 テ1 ソレナラ1	1,496
k女	ソレデ14 ソレカラ4 ダツテ4 ソシテ3 デモ1 ダカラ1 カラ1 ソイダラ1	550	f女	ソレデ13 ソレカラ6 ソシタラ3 デモ1	294	高男	ソシテ33 ダツテ6 ソレデ5 ソレナラ2 ソシタラ1 ソレカラ1 シテ1	605
w男	ソレデ14 デ12 ソレカラ4 ダツテ4 ソシテ3 デモ1 ダカラ1 カラ1 ソイダラ1	780	d男	ソレデ7 ソシタラ5 ソウスルト2 ソシテ1 デ1 ジャ1 ドウシテカチイウト1	280	佐女	ソシタラ22 ソシテ16 ダカラ1	539
s男	ソレカラ16 ソレデ8 デモ2 ソシタラ2 ジャ2 ダツテ1 ソシテ1	521	k女	ソレデ12 ソレカラ2 ソシタラ1 ダカラ1	295	古男	ソレデ28 ダツテ2 ソレカラ2 ジャ1 ダカラ1 ソレデハ1	727
x女	ソシテ12 ソレデ4 ソレカラ4 ソシタラ4 ダカラ2 デ2 ダツテ1	341	p女	デ8 ソシテ2 ダツテ1 ダカラ1	420	大男	ソレデ31 テ1 カラ1	311
m男	ソシテ21 ソシタラ3 ソレデ2 デモ2 ダツテ1	550	s男	ソシテ8 ダツテ2 ソイデ1 デ1	277	折女	ソレデ10 ソレカラ3 ダカラ3	346
c男	ソレデ25 ソシタラ2 シタラ1 タラ1	399	w男	ソシテ6 シテ2 ソレカラ2	179	寺男	ソレデ8 ソレナラ2 ダカラ1	414
f女	ソレデ16 ソレカラ4 ソシタラ3 ダカラ1	410	v男	ソレデ8 ソレカラ2 ソシタラ1	114	秋男	ソレデ10 ソシテ2 デ1	386
u男	ソシテ11 ダツテ6 ジャナクテ3 デモ1 ソシタラ1 ダツタラ1	452	n男	ソレデ5 ダカラ3	191	鈴男	ソシテ7 ソレカラ3 ソレデ1	259
t男	ソレデ11 ソレカラ2 ダカラ2	367	o女	ソレデ5 デ3	160	鳩男	ソレデ8 ウンデ1 ソシテ1	423
p女	ソレデ7 ソレデ3 ソシテ3	354	u男	ソシテ6 ソレカラ1	137	狗女	ソシテ9 ジャ1 ホッタラ1	374

d 男	3	ソレカラ3	ダカラ2	322	r 女	ダッテ1	ソレカラ1	ソウスルト1	157	宮男	ソレデ4	ダッテ3	ソシタラ1	246
r 女	1	ソシタラ11	ソレデ3	309	x 女	ソレデ5	ソレカラ1	ソウスルト1	166	柿男	ダッテ6	ソシテ2		34
j 女	1	ダケド1	ソシテ2	212	m 男	ソシテ3	テ2	ダカラ1	141	坂女	ソレカラ3	ソレデ2	ソシテ1	232
a 男	1	ソレデ14	ソシテ1	488	j 女	ソレデ2	ソレカラ1	ソシテ1	112	渡女	ソレカラ5			180
v 男	1	ソレデ8	ソシタラ1	191	h 女	シタラ1	ダッテ1		133	玉男	ジャ1	ソシテ1		155
h 女	1	ソレデ3	ダケド2	180	a 男	ソレカラ4	ソレデ1		113	村女	ソシテ1			127
n 男	1	ソレデ2	ソシタラ1	203	c 男	ソレデ3	ソレカラ1		75	勝男	ソレデ1			91
							な	し		新女		な	し	126
										清女		な	し	10

次に、接続詞の主な種類とそれを使用した人数をパーセントで示すと、表(213ペ)のようになる。年長、年中児では「それで」「それから」「そして」「そしたら」がベスト4位の中に入っていることなど順位においては前の使用数とそう変らない。

しかし、このようなことを繰り返して調べてみても、これ以上のものが出そうもないので、次に、幼児がこれら接続詞を、現実の話しことばの場ではどのように使用しているかを用例をみながら検討していくことにする。その前に個人別使用状況をしらべてみる。(別表参照)のちにも述べるように幼児はあやまった使い方もしているので、このような傾向があるというに過ぎない。接続詞をたくさん使った幼児から並べる。一例という意味で年中、年長同一幼児のうち赤羽幼稚園のもの、年少として神谷保育園のものをあげた。参考として質問者と話した分量(ここでは文節数)もあげておく。長くしゃべっている幼児が、接続詞をたくさん用いているとはいえないが、少なくしゃべっている幼児は接続詞を少ししか用いていないということはいえる。また、接続詞の使用回数は多くても、接続詞の種類が少ない幼児もいる。

幼児は接続詞を使う場合、精密な意味内容で使用していないで、話しぐせもある。ある幼児は、文をつなぐ場合、「それで」で「そして」の代用をさせるとか、あるいは逆だとか、「で」を間投詞的に使用するとか、「そしたら」が口ぐせだったり、「だって」が口ぐせだったりする。

## 6.2 接続詞使用の実態

これまでに述べた接続詞を、幼児はどのように現実の話しことばの場で使用しているのだろうか。使用の実態をみることにする。幼児の話しことばはこれまでもたびたび述べてきたが、一文が長くなればなるほど前後の因果関係が乱れて意味の把握ができなくなる。大人には、なんとなく理解できても、その説明はしにくい場合もあるし、全くわからない文などもある。そのような文章が非常に多いことをはじめに記しておく。そこで、文の意味のはっきりしているものの中から主として引用することになる。したがって、幼児の中でも高いレベルの幼児の例がとりあげられることが多くなるのである。

実例としては、まず一例をあげ、必要に応じて随時つけ加えることにした。○印のあとに書かれたものが対象幼児の例で、補充した例は●で示した。接続詞を使用の多いものから順に、以下のように分類した。章末の「幼児の接続詞の使用例」をみられたい。

### 1 発話のはじめ(話頭)

(注1)

1.1 間投詞的使用——質問者の質問に答えるとき、まず、接続詞をもって来る。その場合、幼児の頭の中には前に話した残像があって、その継続と思って接続詞でつなぐ場合もあるかもしれないが、客観的にみると無意味な接続詞なのである。次のことばが出ないので、中つなぎに「アノネ」「ウントネ」をもって来るのと同様な感じで接続詞を使っているととれるものである。

(注1) 大石初太郎「日常談話の接続詞」『話しことば論』(秀英出版・1971)所収によると、対話における話し手のしゃべり出しにおかれる接続詞を「話頭」の分類に入れ、日常談話には「話頭」におかれる接続詞の形式が多いと言う。

(注2) 同じく大石氏は注1の書で、この類を「遊びことば」「場つなぎことば」と命名している人もいと紹介して、おとなの場合、日常談話では「で」が多く、ついで「それで」「だから」「でも」「だけど」「だって」であると述べている。

1.2 反復——質問者の問の接続詞をまず反復，模倣して，それから答える。

1.3 その他——質問者の発話をはさまるが，幼児の文がつながっていると思われるもの。質問者の発話は問でなくて感想的な言い方である。「困ったわね」「面白かったね」など。

## 2 発話中

2.1 文頭——文+文+文……と長い発話をするとき，二番目の文以下の文頭が接続詞で始まるもの。

2.1-1 間投詞的使用——話頭の場合と同様に，口ぐせなどもあって，「遊びことば」「場つなぎことば」的である。前文とのつながりについての意識は，文頭よりあるかもしれない。

2.1-2 正しく使用

2.1-3 他の意味のところに使用——誤用の一種である。

ここには「それから」「そして」「そしたら」「それで」「その他」の意味で使われているものが含まれている。

2.2 文中——接続助詞（て，から，たら，で，活用の中止形など）+接続詞の形式のもの，その他の場合（語順など）のものがある。文頭と同じく次のように分類される。

2.2-1 間投詞的使用——前文と関係なく「て，それで」で後文をつないでいる。

2.2-2 一応正しく使用——一応というのは，「て+それで」の形式のところは，接続助詞「の」に変換しても文が成り立つし，「て」のところで「たの。」として文を切り，あとを「それで」ではじめることもできる言い方のところなので，「て，それで」でなければならないというわけではない。また，「他の意味に使用」のように「それで」の使い方がまちがっているわけではないので，「一応正しく使用」ということばを使ったのである。

2.2-3 他の意味のところに使用——これは文頭の場合と同じ。

文末——のちに文を続けるつもりだったのが中断したともみられるが，考え中ともとれる。ともかく文末に接続詞がきている形式である。

章末の「幼児の接続詞の使用例」の備考の欄に気づいたことを述べたが，ここでは，年齢によってどんなふうに使われているかを表の順に接続詞の種類別にみていく。

### 6.2-1 それで

これは，年長，年中，年少ともよく使用している。「発話のはじめ」，「発話中の文頭」などでの「間投詞的使用」が多い。「発話中の文頭」で正しく使用しているのも，年齢の別なく多い。「他の意味のところに誤って使用」する場合には，年少は「そして」の意味のところに「それで」を使用する例が多い。「それで」の接続詞は，前文が原因（条件）で，後文がおきるといった意味があるのを厳密に意識して使っていないためだろう。年長にも多いが，年少には特にめだつ。「それから」「そしたら」の意味のところに「それで」を使う例は年長に多いが年少には補助資料以外にはない。また，「一方」とか，「それなのに」「だけど」の意味のところに「それで」を使う例は年少には全くなかった。このような文脈で話すことが少ないためだろうか。

文中の「て+それで」の使用は年長，年中に多いが年少には少ない。文を長く続けて話すことが，年少児ではまだできないからだろう。「て+それで」以外の接続詞による「から，たら，で+それで」の形式も補助資料以外にはない。しかし年長には非常に多く，幼児が文を長く続けて話

す場合に愛用している。とはいっても、そのような文は前後の関係がはっきりしなかったり、主述の対応ができていなかったり、意味することが理解できなかったりする文が多いのである。3章の「複文の構造と用法」のところで、接続助詞について述べたが、接続助詞「ので」を年長になっても幼児はほとんど使用しない。それを、「て+それで」の形式ですませているように思われる。「ので」などで接続できる形式を習得するまでの過渡的現象だろうか。「から」は幼児はわりに使っている。しかし「て+それで」の影響か「から+それで」の形式もある。「それで」は不用の語である。この形式も年少はほとんど使っていない。小学校段階では「ので」の使用、「て+それで」の形式がどう展開していくか調べてみたい課題である。この形式については、次のようにも考えられる。幼児は前因果的思考をするため、原因、理由を示す「ので」を使用せず「て」ですませるといふところがある。第3章でみた。そこで、「て+それで」というふうにとめた形で考えないで、「て」を以上のように考え、「それで」は文をつなぐ形式として、ただつけ加えたに過ぎないとみることできる。あるいは幼児は思考の時間のテンポが大人に比べてゆっくりしているので、「それで」で間をもたせて考えをすすめているのではないかなどというふうにも考えられるのである。ともに推察にすぎない。

発話中の文中では、やはり「間投詞的使用」が多い。「一応正しく使用」は年長に多い。「他の意味のところに使用」については、「そしたら」が年少では補助資料以外になく、年中は引用した例のみである。「その他」の例は年少には全くない。

「たら、から、で他+それで」は年少には補助資料以外にない。年中には一例のみである。

次のような補助資料が年中にみられた。「サクラ(人名) チッチャイデネ ソイデ サクラ オッキヨット イッテンノ。」(小-谷男4:11-9)これは接続助詞「のに」の使用ができないためのものである。3章で述べたが接続助詞「のに」は使用数も少ない。幼児にとってはむずかしい表現らしい。

「文中の例」としては、文頭でなく、文中に語順が移動したもので、間投詞的用法と正しい使用のものがある。また、あとに話が続かないで、「それで」が文末の位置になった形式がある。これは、次に話すことばが出ないで、ここで中断したもので、年少にはない。

「で」を独立の接続詞とすべきかどうか問題は残るが、ここでは、「それで」の「それ」の省略されたものとして、あげておいた。年齢を問わず、「発話のはじめ」「発話中」の別なく「間投詞的用法」が多い。年長、年中では同一幼児が7回～12回も使っている。年少でもひとりで3回使っている幼児がいた。どうも話しぐせのようで、意味もなく、間投詞的に使っているのである。前に述べた『談話語の実態』によると大人の話しことばでは使用数の多い順に「それで」「だから」について第3位を占めている。しかし、幼児の場合、年少は、使用数も使用人数も少ない。

## 6.2-2 それから

「それで」に比べると使用数は約3割ほど少ない。これも「間投詞的用法」が多い。「発話中」の文頭、文中の別なく、「他の意味」のところに使用のものは少ない。使用するときにはほぼ正しく使用しているのである。年少には「それで」と使用する例はなかった。文中の場合は並列の意で使う。中でも語と語を接続する言い方が年齢を問わず多い。年長は特によく使っている。「て+それから」の使用例は年少には少ない。「他の意味」のところに使用では「そしたら」の意のこ

ろに「それから」を使用している例が年長に一例みられた。「から+それから」の言い方も年長に一例みられた。

「それから」を略して「から」という言い方もあるが、使用数は少ない。

### 6.2-3 そして

「発話のはじめ」に間投詞的に使う言い方が、年齢を問わず多いが、特に年中、年少に多い。「発話中」、文頭で「間投詞的」に使用する例は年長にも多い。「正しく」使用する例が少なくらいである。「他の意味」のところに使用の例では、「それから」の意のところに「そして」を使っているのが年齢を問わずある。時間的経過の意識が幼児の場合おくれるということもあるが、「そして」と「それから」は意味が似ていて同じように使われているからでもある。「そしたら」の意で「そして」を使っている例は年少には見られなかった。年中では「そして」と使用してのち、「そしたら」と訂正して、正しく使う例がみられた。年少にはこのような例はもちろんない。といっても年少で、接続詞「そしたら」が使えないというわけではない。12%の人が使っている。ただし、正しく使用しているのはもっと少ない。これらのことから、幼児に「そしたら」の接続詞の意識がよりはっきりして使えるようになるのは、平均的にではあるが年中を過ぎてからではないかと思われる。「他の意味」に使用では「そして」を「だけど、それなのに」の意味のところに使っている例が年中に二例みられた。「だけど」を使用している幼児は年中で5人に過ぎないので、「そして」で代用して使っている場合があるのだろう。「だけど」は年長で、7人、年中で5人、年少で4人の幼児しか使用していない。逆接の言い方は幼児にはむずかしいのであろう。「それで」の意に使う場合も年少では補助資料にみられたのみである。理由づけをすることも年少にはむずかしいようである。

文中の「て+そして」の言い方はどうであろう。年少はこれまでの接続詞と同様、この形式は少ない。「て+そして」の言い方は、「て」で文をつないでも間に合うところと同じ意味の「そして」が間投詞的に入っているとみられる例で、話の間をとっているのだろうか。年長に多い。「他の意味」に使用では、「それから」「そしたら」「それで」の意のところに使用するのが年長、年中ではみられるが、年少にはほとんどない。全体に少ないといえる。むしろ間投詞的使用が多いのである。

「たら、からその他+そして」の言い方は年齢を問わず使用しているが用例は少ない。

「そして」の使用を一言でいうと、間投詞的用法か並列の意である。

「そして」を略して「して」と使う言い方は少ない。

### 6.2-4 そしたら

年長は使用している幼児が多い。ただし、「そして」「それで」の意味のところに使っている場合とか話しぐせもある。年少は使用する幼児が少ないが、使っている幼児は口ぐせのように使っていたりする。文中の「て+そしたら」の場合は年少にはない。年長、年中には「それから」の意で使う例があった。「たら+そしたら」の使用は年齢を問わずみられる。これは、「そしたら」がなくても「たら」で間に合う文である。幼児は、文をつなぐ場合、接続詞を必ず入れなければならないというふうに考えているのだろうか、接続助詞のみでつなげることのできる場所にもこのように接続詞を用いている。接続詞を使用することによって間をもたせ、次の発話を考えて

いるのだろうか。文とは何かの意識が弱いからだろうか。前にも述べたが非常に興味深いところである。なお、「そしたら」については、6.2-3「そして」のところでも述べた。

「そしたら」を略して「したら」という言い方も少ないがある。

#### 6.2-5 だから

「AのようなわけだからB」という幼児には苦手な理由を述べる接続詞なので、使用数は年長、年中、年少とほぼ似ているが、年長のほうが正しく使用している数が多い。「て+だから」は年齢を問わずあるのだが、意味不明の例である。「て」と「だから」の結びつきがそもそもおかしいのである。「て+接続詞」の形を誤用しているのだろう。

「から+だから」は、接続助詞「から」で十分なところに、「だから」をつけ加えている。「だから」は不用である。年少に多く使われている。

#### 6.3-6 だって

これは理由（反対）の意味をもつ接続詞であるが、幼児は年齢を問わず発話のはじめに「間投詞的」に使用している。「どうして」の質問者の質問に対して、答えるときの話の文頭に口ぐせ的につく言い方で用いている。年少が特に多く使っている。

#### 6.2-7 だけど

これは反対の意味をもつ接続詞である。年齢を問わず少なかった。年長で7人、年中で5人、年少で4人の幼児のみが使用していた。幼児と質問者の問答という調査の形式によるのかもしれない。このような言い方が幼児には苦手であるかどうかを知るための調査を実験的にやってみる必要のある接続詞である。

「だけど」を略した「けど」の例が年少にみられた。

#### 6.2-8 でも

これも反対の意味の接続詞であるが、年少はこの幼児一人で、しかも間投詞的用法である。補助資料からは正しく使用の例もみられたが、ほとんど使っていないといえる。年中は3人で年長は9人である。

#### 6.2-9 そうすると

Aの当然の結果としてBになったという場合に使う接続詞であるが年長3人、年中3人、年少1人が使っていた。非常に少ない。

#### 6.2-10 その他

その他の中には、幼児があまり使用しなかった接続詞を一括入れた。接続詞は指示代名詞に助詞とか助動詞がついて派生してできた形式とか、接続助詞が転化した形式が多いが、それらがこの中に入っている。いろいろの形式を使っているが、使っている幼児はそれぞれに少ない。まちがった言い方もある。「それでも」というべきところを「そして」、「それから」というところを「そしてから」あるいは「そしてっから」と。幼児はこのように言い誤まる傾向があるのだろう。

### 6.3 まとめ

全体を通していえることは、これまでも述べてきたことであるが、まとめてみると次のようである。

- (1)発話のはじめ、発話中の文頭に用いられる場合は間投詞的用法が多い。
- (2)文中では「て」で前文を中止して、接続詞でつなぐ形式があるが、この形式は年少に少ない。年長のも間投詞的用法が多い。
- (3)「それから」「そして」「そしたら」の意味のところに「それで」を使ったり、「それで」「それから」の意味のところに「そして」を使ったり、「そして」の意味のところに「それで」「それから」「そしたら」を使うとか、「だけど」「一方」「それなのに」の意味のところに「それで」「そして」を使うという誤まりが年齢を問わずみられる。
- (4)接続詞「そしたら」を使う幼児が年少に少ない。そのためか、年中、年長にみられた「そしたら」の意味のところに「それで」「それから」「そして」を用いる例が少ない。
- (5)「だけど」「でも」などの反対をあらわす接続詞は年齢を問わず少ない。
- (6)「その他」のところにも、いくらか使用例はあがっているが、幼児はさまざまな接続詞を使用せずに、日常よく使う接続詞ですませている。
- (7)幼児全体をみると、よくしゃべる幼児が接続詞の種類も多いといえる。
- (8)幼児によって好きな接続詞があり、それが話しぐせになって間投詞的に出てくるとい現象もみられる。ある幼児は「それで」であり、別の幼児は「そしたら」というふうに。その他「それから」「そして」「だけど」「でも」などほとんど用いられている。
- (9)大部分の幼児は、日常会話の場合、長い話をしないので、接続詞をあまり使わないのである。その点、話題を決めて話させた問答形式は成功であった。絵をみての話、道順、テレビ、物語について話した部分に間投詞的でない用例が、あやまった例もあるがみられた。



2.1-3 他の意味のところ に使用	ドロイテ ポント ニゲチャッタノ。 ソイデ 「ワハッハッ」ト ワラッタ ノ。(赤-n 男5:2-9)			
2.1-3-1「それから」の意	○ドッカ コヤガ アツカカラネ ト マッタノ。ソイデ マタ ドッカ イッタノ。(自-b 男6:0-24)	○オマツリネー ハダグミマデネー イッ タノ。ソイデネー マタ ゴハン タ ベテ ソイデ カエッタノ。ウチ ニ;(自-k 男4:8-2)	●ダンチヲネー(の) ナカヲ ト オツテ イクノ。ソイデネ サカラ オリ( ン)ノ。(赤-b 男4:0-9)	○年少なし(補 助資料を除く 以下同じ)
2.1-3-2「そして」の意	○アレデネ フネトカ ナンカネ ボク ツクッテンノ。ソイデ ウカベテ アソンデンノ。(自-b 男6:0-27)	○アタマガ マルクテ ケガ ナイノ。 ソイデネ アシガ ア アツテ ソ テガ アルノ。(自-t 男5:3-17)	○～ツレテ イツテ モラウ コト ア ルヨ。ソレデ ミルク ノンダ コ ト アルヨ。(神-宮男3:8-3)	○年少多し
2.1-3-3「そしたら」の意	●オツキサマノ ハナシ ヤツテ アゲタ ノ。ソンデ チュマンナイツテネ オ ヨイデ ドッカ イツチャッタノ。(自 -z 男5:8-12)	○ライオンガ サキネ ハラツパカラ デテ キタノ。ソイデネ シマウマ イタノ。(赤-n 男5:2-8)	●タイヨウノウトトネ アメリカトネ コ イダケ ミタンダケド。ナカモ ハ イッタノ。ソイデ ナンカ アツタン ダヨ。(赤-f 女4:2-3)	○年少なし
2.1-3-4「その他」の意	○オオキイカラ カケンノガ オソカッ タンダツテ。ソイデネ ネズミハ チツチャイカラ チョコチョコ カケ テ イツタンダツテ。(一方、そして) (自-d 女5:11-30)	○テツジנג ロボットヲ ヤツチュエ ンノ。ソイデ ショウタロウガ ショ ジュエキデ ヤルノ。(一方、そして) (自-h 男5:5-8)		
	○カメハ オソイノ。ソイデ ウサギガ ネムッテル アイダニ カメガ ヤ マーン トコニ ノボッテツテ イット ウニ ナッタノ。(だけど、それなのに)	○ウシヤギガ ハヤイノ。ソイデ カメガ イットウ ナツテ ウシヤギガ ココ デ ネテンノ。(それなのに)(自-k 男 4:8-19)		

(自-i 男6:4-17)

●ジュエツト マエネ シンカンセンデン  
シヤナンカ ツクツテタノ。ソレデ  
ヤメチヤツテ カイシヤニ イツテン  
ノ。〔それを、だけれど〕(自-2男5:8-4)

2.2 文中  
で、それでの  
場合

2.2-1 間投詞  
的

●コウイウネ カタチシタネ ノリモノ  
ニ ノツテネ ソレデネ ウーントネ  
ウーントネ ソノ ノリモノガネ ウ  
チュウニ キチヤウノ。(赤-C男5:6  
-9)

2.2-2 一応正  
しく使用

○ライオンガ シマウマヲ オツカケタ  
ラ シマウマガ ミンナ イツバイ イ  
テ ソイデ ドレニ キメヨウカ ワ  
カンナイ。(自-b男6:0-29)

●「コロシテ コイ」ツテ ユツテ キ  
タンダケドネ ケライハネ キノドク  
ニ ナツテネ ソイデネ (ポイ)シタ  
ママ カエツテ キチヤツタンダッ  
テ。(赤-J女5:8-19)

2.2-3 他の意  
味のところに  
使用

○～オオカヤマカラ ナンカ オクツテ  
キテ ソイデ ミンナ ヨロコンデ タ  
ベテ ソイデ オフロニ ハイッテ  
ネタノ。(赤-k女6:2-3)

○年少,「で、それ  
で」の用例少な  
し。年長多し

○コツカラ カケテ ソイデ コツカラ  
シ〔ひ〕カラレチヤツタノ。〔文意はつき  
りしない〕(小-竹男4:1-8)  
○コレガ オヒサマニ アタツテルカラ  
アツク ナツテ ソレデ カレテンノ。  
(小-矢女4:0-13)

○ガツコウ トオツテ イツテ ヒダリ  
マガツテ ソイデ ヤマテチエンラ  
〔に〕ノツテ イクノ。(道順)(小-金  
男4:1-7)

2.2-3-2 「そ  
して」の意

○ オキヤクサン キタラ チュウ(中)  
ダッタラ チュウ アゲテ オカネ  
ヒヤクエンダッタラ クレテ ソイデ  
ネ カエス トキハ オカネト エン  
ペツ。(自-e 女5:7-2)

○ ソレデ コンドハ タヌキヲ ミテ  
オサルニ オカシ ヤツテ ソレデ  
ツキノワグマニモ ヤツテ、オセンベ  
エヲ; ~ (赤-f 女4:10-8)

○ コレハ クマガ イテ ソイデネ チ  
イチイーツテ ネズミガ イテ クマガ  
ネジュミヲ ミツカッタノ。[みつけた  
の] (紳-大男3:11-12)

○この例多し

2.2-3-3 「そ  
したら」の  
意

○ ~カメガ コナイ ウチ ヒトネムリ  
シテ ソイデ カメガ ドンドン オ  
イコシテ イツテ イチバンニ ナッ  
チャッタ。(自-b 男6:0-30)

● ヨウチエンカラ モンデテ デ マッ  
スグ イツテ ソイデ マガツテ ソ  
イデ ツイチャウノ。(道順) (赤-i 女  
5:3-8)

● マグマタイシツテ ハジメ ボウシ  
カブツテナイ オトコガネ クチアエテ  
ユツテネ ソイデ デテ クンノ。(赤  
-e 男4:1-5)

2.2-3-4 「そ  
の他」の意

○ ソイデ オセンタク オワツテ カ  
エツテ キテ オウチニ イツテ ソ  
イデ オジイサンガ ヤマカラ カ  
エツテ キテ フロウト シタラ ア  
カンボウガ ウマレタノ。(一方) (自  
-o 男6:3-8)

○ ソイデ ウサギサンガ トットコ  
トットコ イツチャツテ ソイデネ  
カメサン ココデ ノロノロ ノロノ  
ロ アルイテツテ、~ [一方, そして]  
(赤-t 男5:1-13)

● モノウリバアサンニ バケテネ ドク  
ノ ハイッタネ リンゴヲネ ウリニ  
キテネ ソイデネ タベチャツタン  
ダツテ。シラユキヒメ(ガ); [それを]  
(赤-J 女5:8-20) [のでも]

たら }  
から }  
で }  
他 }  
2.2-1 間投詞  
的

○ ~ムコウ イツテ ベンキョウシテ  
カネガ ナッタラ ソイデネ カイッ  
テ オトクサンチ イツテ ソイデ  
オワリ。(自-t 男6:2-8)

○ オヒサマガ アタツタラ ソイデ コ  
ンナ ナツチャツタノ。(自-k 男4:8  
-21)

● ヨウチエン トコハネ テレビガネ  
チョットネー ヨル トキニ ネテタカ  
ラサー ソイデ ワカンナカッタタンダ  
ヨ。[文意はつきりしない] (赤-f 女4:  
2-9)

○「そいで」がな  
くても成立する  
文。

2.2-2 一応正しく使用

2.2-3 その他  
の意味のところに使用

2.2-3-1 「それから」の意

2.2-3-4 「その他」の意

その他の場合

デ シンデレラヒメニネ ハカシテ  
ミタラ アッタノ。(赤-B女5:8-13)

○オウチガ ヨンジュウキユウゴウカン  
デネー ソレデネ ヨンジュウハチゴ  
ウカンノ マエ トオッチ サンジュ  
ウサンゴウカンノ マエヲ トオッチ  
クルノ。(赤-f女5:9-13)

○シタカラ オトシテ ウーウーッテ  
マエニ ススマセネ、ソイデ ウエヲ  
ムイテカラ ウッチャウ。(自-b男6:  
0-6)〔そしてとも〕

○フミチャン ヒトリト ソイカラ オ  
カアサン ヒトリデ ソイデネ ハル  
コチャンモ ヒトリデ ソイカラ オ  
バアチャンモ ヒトリデ〜〔並列〕(自  
-e女5:7-1)

○ソノ トキ ソレデネ ワルイ ゴウ  
スノ エンバンニ ソノ オトコノ  
コトオトウサント ツカマツチャッテ  
ソノ トキ マグマノ コトモガ イ  
タンダヨネ。(間投詞的)(自-g女5:11  
-11)

○〜「コアラ アシタマデ アズカッテ  
オク」ッテ チョッキンテ キッタ〔て〕  
ヤッタノサ。アト ソレデサ ホッペ

●サクラ チッチャイデネ ソイデ サ  
クラ「オッキイヨー」ッテ イッテン  
ノ。〔「のに」の意〕(小-谷男4:11-9)

○コンナ チッチャイ コドモデネ コ  
ンナ オオキナ ソイデネ ントネ  
ヤキユウ ヤンノ。(間投詞的)(自-t  
男5:3-21)

○アト ソイデ シマウマガ トマッタ  
ラ コノ ライオンガ ツイテ キタ  
カラ ソイデ ツイテ キタノ。(間投  
詞的)(赤-k女5:3-13)  
●アANCHANTオー ソイデ ミッチー

○接続助詞「のに」  
の使用は少な  
い。

○語順のちがった  
もの。

<p>2.3 文末</p>	<p>タヲ〔に〕サワッテ ミルト コブガ ナインデ ヨロコンデ ウチニ カ エッテ キタノ。〔間投詞的〕(赤-w男 6:3-23)</p>	<p>ソレダケ オウチニ イルノ。〔並列の 意。間投詞的〕(小-山崎男4:11-2)</p>	<p>○～ソイチヤウ。ソイチ…〔考え中〕(自 -k男5:8-16)</p>	<p>○年少にはない。</p>
<p>〈で(それでの略)〉</p>	<p>1 発話のはじ め</p>	<p>1.1 間投詞的</p>	<p>○～ソイチ ライオンガ ソイチネ… 〔中断〕(自-v男4:7-9)</p>	<p>○「で」を「それ で」の略とみる のは発生的に妥 当でもいくらか 疑問がのこる。</p>
<p>1.2 反復</p>	<p>2 発話中</p>	<p>2.1 文頭</p>	<p>それからどんなことがあった? ○<u>デ</u> ネー <u>デ</u> ケキ ミタノ。(自-d女4: 11-1)</p>	<p>それでどうしたの? ○<u>デ</u> アレネ ダ ケドネ ボク サイショハネ ボクネ アレネ～(神-三男4:0-24)</p>
<p>2.1-1 間投詞 的</p>	<p>2.1-2 正しく 使用</p>	<p>どうやって来たの? ○<u>デ</u>ネー バー テイダチュッテ ジュースヤ イロンナ モノ タベタリ ノンダリ シテ ソ シテ オドリヤ セイブゲキヤ キャ タノ。(赤-w男6:3-16)</p>	<p>○ビジンナノ。 で? <u>デ</u>ネー (自-d 女4:11-3)</p>	<p>●アオイ ハコ。 <u>デ</u>ネ エト ナンダッ ケナー エート…(赤-t女4:4-13)</p>
<p>2.1-1 間投詞 的</p>	<p>○ウン、ネルノ。<u>デ</u> アト ソレカラ ロクジニ オキル。(自-a男5:8-13)</p>	<p>○～ネヂュミ ニゲタノ。<u>デ</u> ソシテ クマ ネジユミヲ オークケテシノ。 (自-n男5:5-17)</p>	<p>○コビトノ ウチマデ キチャッタノ。 ナガサレテ; <u>デ</u> コビトガ ワルモン ト オモッテ ユワイチャッタノ。(赤 -n男5:2-7)</p>	<p>○「で」を「それ で」の略とみる のは発生的に妥 当でもいくらか 疑問がのこる。</p>

2.1-3 他の意味のところ  
に使用

2.1-3-2 「そして」の意

○コクテツ イッテンノ。デ キシャ  
コワレテル トコロ ア ッタラ ナオ  
シテンノ。〔そこでとも〕(赤-w男6:3  
-3)

2.1-3-3 「そして」の  
意

○〜ウサギガ ココデ サボッテ ネ  
チャッタノネ。デ カメガ モウ  
ヤマノ テッペンニ イタンデ ビック  
リシテ アワテテ オキタノ。(赤-w  
男6:3-29)

2.1-3-4 「そして」の  
他の意

○〜ナミガ スゴイノ。デ ネ フカイ  
ホウハ アンマリ スゴイ ナミ  
ジャナイノ。シズカナ ナミ バッカ  
リナノ。(一方、だけど)(白-d女5:11  
-4)

2.2 文中  
で、での場合  
2.2-1 間投詞  
的

○オエガミガ キ ヲ デ ネ 「ゼヒキテ  
クダサイ」 ッタノ。(赤-p女6:2-13)  
○タクシーノ ドアガ アイ デ マ  
マガ ノツテ ソレカラ ア タシガ イ  
ルツテ コト シラナイカラ サキニ  
ノツテ イッチャッタノ。(赤-p女6:  
2-18)

●トシチヤント ミカチヤント デ テ  
クルノ。デ オネエサンガ〔も〕 デ テ  
クルノ。(赤-i女5:3-10)

○ソイデ コツチ イッテ、マタ マッ  
スグ イッテネ、デ コツチ マタ  
イッテ ソイテ〜(自-u女5:5-5)  
○〜カメサンガネ ムコウノ オヤママ  
デ カケッコ シヨウツテ ユツテ  
デ カメサンニ スコシ ウ サギサン  
ノ ホウノガ カツタケドネ トチュ  
ウデ ネチャッタカラ〜イットウニ  
ナッタノ。(自-d女4:11-11)

○アンネ ンートネ ヒコウキガ ア ッ  
テネ デ ネ ボウチ〔し〕 カ ブッテン  
ノ。〔意味あいまい〕(紳-大男3:11-7)

<p>その他の場合</p> <p>○～ウチヨリ スゴイ オオキイ イヌ トカネ カラ ヒトツメコゾウノ オバケダトカネ デネ エートネ ハットリクン チェウネ ヤツテタノネ。 〔問投詞的〕(赤-w男6:3-19)</p>				
<p>2 それから</p> <p>1 発話のはじめ</p> <p>1.1 問投詞的</p>	<p>何時におきたの? ○ソレカラ ロクジニ オキル。(自-a男5:8-13)</p>	<p>どうむぎってな-に? ●ソレカラネーアト イナカニ トウムギ サイテルデシヨ? (自-c男4:7-4)</p>	<p>それから? ○ソレカラネ アトハ ナイ。(赤-s男6:6-17)</p> <p>○ババハ ビョウインニ イルデシヨウ。ソレカラ オイシャサンナノ。(赤-x女6:2-2)</p>	<p>○ソイカラネ アノネ ソイカラ とか「ソレカラネ ウント」の言い方もある。多し</p> <p>○「おうむがえし」は多くない。</p>
<p>1.2 反復</p> <p>2 発話中</p> <p>2.1 文頭</p> <p>2.1-1 問投詞的</p>	<p>それから? ○ソレカラ? コレ。(おうむがえし) (小-竹男4:1-9)</p>	<p>それから? ○ソレカラー ネンド シデル コト。(赤-w男5:3-4)</p> <p>●テツジンガ タカカイシテル トコデ エイトマンガネー トンデル トコ。ソレカラ アトムハネー ライゲツゴウ。(はつきりしない)(自-c男4:7-8)</p> <p>●ライオンガ シマウマノ トコ ハイッテ キタノ? ソイカラ シマウマガウー デテ キタノ? (赤-b男5:6-10)</p> <p>○トマツテ キタノ。ソレカラネー カエツテ キタ アトニハ ネチキヤッタノ。(自-s男4:10-6)</p>	<p>○コブタノ ウンコ。/ たったそれだけ? / ○シヨイカラ オオカミガ オイカケテ クンノ。(小-加男4:1-10)</p>	<p>○ウサギサング キノ ウエニ ノリマシタ。ソイカラ カメサンモ ノロウト シマシタケド オッコッチャウ〔い〕マシタ。(小-佐男4:3-21)</p>
<p>2.1-2 正しく使用</p>				<p>○正しく使用わりに多し。</p>

2.1-3 他の意味のところ

味のところ  
に使用

2.1-3-5 「それ」の意味

○ウサギハ ツカレタノデ〜 ネテ シ  
マイマシタ。ソレカラ カメガ ムコ  
ウノ ヤママデ イッテ シマイマシ  
タ。(赤-p 女6:2-15)

●カメガ アルイテンノ。ソイカラ ア  
シアトガ ツイテルノ。(赤-b 男5:6  
-10)

2.2 文中

て、それから  
の場合

2.2-1 間投詞  
的

○クマガ ネズミ オイカケテ ソレカ  
ラネ オオドオリマデ テチヤッテ  
ダンブカーガ キテ ダンブカーニ  
ネズミ ブツカッチャッタノ。(白-m  
男6:4-15)

○ジユエエン ヒトツ モッテ イッ  
テ ソレカラ アイス カッテ ( )  
ノ。(神-坂女4:0-3)

2.2-2 正しく  
使用

○〜マッスグ イッテ、バスノ シヤコガ  
アル トコロヘ コンダ マガッテ、  
マッスグ イッテ ソイカラ ズット  
マッスグ イッテ、ソイテ モウ ヨ  
ウチエンニ クルノ。(白-i 男6:4-7)  
○イチバン サイショハ キテカラ タ  
イソウシテ ソレカラ オヘヤニ ハ  
イッテ ミンナデ アツマッテ〜 (赤  
-s 男6:6-5)

○コウ ヤッテ ハイッテ ソレカラ  
ヒン ナカヘ イレチャッタノ。[入っ  
たの意?] (小-佐男4:3-25)  
●〜コンドハ ソイテネ コウエンノ  
トコロ イッテネ ソイカラ オウチ  
ニ イクノ。(赤-t 女4:4-6)

○オジイチャントネ ワタアメ カッテ  
ネ ソレカラ オドリ ミテネ ソイ  
テ カエリニ ホン カッテネ ソレ  
カラ カイッタノ。(白-d 女4:11-1)  
○サキ キレ〜ナ ミチ トオッテ イッ  
テ ソレカラ ガタガタミチ トオッ  
テ イクノ。(赤-j 女4:7-4)

2.2-3 他の意  
味のところ

味のところ  
に使用

2.2-3-3 「そ  
したら」の  
意

○フランスヘ イキナサイッテ イッテ  
フランスヘ イッテ ソイカラ フラ  
ンスニ ママガ イテ シヤワセニ

●〜チャント マツチュグ イッテネ  
オオダンホドウラ トオッテネ ソシ  
タラ [?] マタ オオダンホドウガ

<p>から、それからの場合</p>	<p>クラス コトガ テキタ〜(赤-s 男6: 6-16)</p> <p>○〜コンドハ ナンカイモ ニダンモ バクハツ シテカラ ソレカラネー ウミニ アル アブライレ タンカーガ シズンジャツタリ シテ〜(赤-a 男5: 11-8)</p>	<p>アル トコロネ トオツテネ ソレカラ アソコニネ モンガ アルデ ショ。アソコカラ;〔道順〕(赤-g 女4: 8-5)</p>	<p>○カクノ ハナト ソレカラネー バラ ノ ハナトカ ソウ イウ ハナ ツ ンダノ。(赤-t 男5: 1-5)</p> <p>●ノボッチヤツテ ノボッタリ ソレカラ ソレカラ アシヨンダリ チョレカラ… (神-柳男4: 5-5)</p> <p>○オスナバテ アソソダリ シテ ソレカラ… (赤-f 女4: 10-3)</p>	<p>○カクノリクント ソレカラ ボクノ オカアサント カツノリクンノ オバアサント タケノ プール イッタノ。(神-秋男3: 11-6)</p> <p>○多し</p> <p>○「それから」は 不用。</p>
<p>並列の意の場合</p>	<p>○ツナヒキトカ ソレカラニ バトンリ レートカ ソレカラニ カケッコトカ ナンカ オドツタリ シタリ。(赤-k 女6: 2-10)</p> <p>○ツリニ イッタリ フミエチャンチニ イッタリ ソイカラネ ハルコチャンチニ イッタリ ソイカラネ ユウエンチニ イッタリ テバートニ イッタリ シテタノ。(自-e 女5: 7-4)</p>	<p>○ライオンガ ヒツクリカエツテルミタイ (ダカラ)。/で?/カラ シマウマト ライオンガ ニランデルミタイ。〔間投詞的〕(自-d 女4: 11-10)</p>	<p>○クルマモ アンノ。カラ ソイデネ カイジユウ ナイ トキネ ウルトラ マンガ ダンガネ ツ〔し〕ェブン ナ ンノ。〔間投詞的〕(神-大男3: 11-8)</p>	
<p>2.3 文末</p>	<p>○ゴハント ミルクヤ アト メロン ヤ…ソレカラ… (考え中) (自-t 男6: 2-10)</p>			
<p>〈から(それからの略)〉</p>	<p>○ソイカラ ソラントカ。/それから? /カラネ テツジントカ パベートカ。〔間投詞的〕(自-i 男6: 4-7)</p> <p>○〜スゴイ オオキイ イヌトカ カラ ヒトツメゴゾウノ オバケダトカ。〔並列の意〕(赤-w 男6: 3-19)</p>			

3 そして

1 発話のはじめ

1.1 問投詞的

それからならにしたの?きのうは。○ソシテネー レーシング。(赤-x女6:2-7)

1.2 反復

そして? ○ソシテネ ココニ エネルギーガ アッテ ナンカ…(白-m男6:4-8)

2 発話中

2.1 文頭

2.1-1 問投詞的

○～オソバナンカ タノンダノ。ソシテネ ソシテ オワッタトキ キタナク ナッチキヤッタデショウ。(赤-x女6:2-11)

2.1-2 正しく使用

●ソレハネ クマガネ ネズミガ〔を〕ネ オイカケテルノ。ソウシテネ クルマナンカ ハシッテル トコニネ シラナイデ デタカラネ ダンブカーニ プツカッチキヤッタノ。(白-t女6:4-22)

2.1-3 他の意味のところに使用

○～カミサマニ オコラレタノ。ソシテネ オボウサンガ トオッテ タスケテ クレテ クライイン ナッテ ソウシテ ワルモン ヤツツケタリ シテ インドマデ イッタノ。(赤-u男6:5)

その時のお話聞かせて? ○ソウシテネー ボクガ ミテタ トキ オウチカラ オウチイ スグ カイッタノ。(白-p男4:7-5)

そして? ○ソシテネ マタ ココカラズーット キタノ。(白-s男4:10-23)

○～オニシヤンガネ コゴサネ オミジュ カケタノ。ソシテネー ママネサッキ カイシヤ イッタタンダ。(白-p男4:7-18)

○～マホウツカイノ コエガ キコエタノ。ソシテネー マホウツカイガ「コッチ オイデ」ナンテ ユッタカラヘンデルト グレーテル イッタノ。(白-h女4:7-9)

●オバアサンガ モッテ カエッタノネ。ソウシテネ オジイサンガ カエッテ キテ キロウト シタラ ヒトリデニワレテ モモタロウガ デテ キタノ。(赤-e女4:9-6)

もうないよ。これ。○ソシテネー コレ カミ アッ アルジャナイ。(小+加男4:1-8)

そして? ○ソウシテネー クモガデテ キテ ニンゲン ヤツツケンノ。(小+相男4:4-10)

○ウナッテンノ。ソウシテネー ソーシテネコト アルイテタラ ヒヨコガイタノ。(小+相男4:4-13)

○クルマガ キタラ トマルノ。ソシテネ クルマガ トマッタラ ワタルノ。(神-給男3:6-13)

○オモデデ アショングリ シテンノ。ソシテ オフロ ワタリデ イッタノ。(神-狗女4:3-8)

○年中、年少特に多し

○これも多し

○「そして」「それから」の区別はつきりしないが一応ここに入れてみた。

2.1-3-3「私たち」の意

●ソイデ ミズヲ マイタノ。ソシテ  
コンナ フウニ オツキク ナッタ  
ノ。(赤-p 男5:11-17)

●「～ヒルゴハンニ イイヤ」ツテネ  
オイケタノ。ソシテ シマウマガ  
キガ ツイタノ。(赤-m 女6:3-24)

2.1-3-4「その他」の意

●マッスグ イツテネ ズーツト マッ  
スグ イクノ。ソシテ ヒトツ ワタ  
シノ。〔道順〕(小-小島女4:2-10)

○ウマガ イタカラ ライオンガ トビ  
コンジャッタノ。ソシテネ コノ ウ  
マハ ニゲダシタノ。(自-p 男4:7  
-16)

○ズーツト ムコウ イツテ コツチ  
ガワ マガルノ。ソシテネ スグ オ  
ウチ ツクノ。〔道順〕(赤-x 女5:2-6)

○ライオンガ オイケケタノ。ソウシテ  
ネ ハリノ トコダカラ ライオン  
サシタノ。(赤-u 男5:6-9)

○コレ ナニカ トラエタカラ(キ)テ  
オツカケテンノ。ソウシテネ ソシタ  
ラネ ハンタイニ コツチ オイケケ  
テ キ。〔訂正〕(赤-d 男5:4-13)

○カメガ カチニ ナッチャッタノ。ソ  
シテネ ソシタラ ウサギ ハヤイカ  
ラ ウサギノ ホウガ カッテ ドッ  
チガ カッタノカ ワカンナイ。〔訂  
正〕(自-h 女4:7-13)

○イチエカネ オーフダニ イッタ ト  
キハネ カエル オツキイノ イタデ  
シヨ。ソシテ ニゲライチャッタノ。  
〔だけど〕(自-p 男4:7-8)

○カメサンガ ノソソ キタノ。ソシ  
テ カメサンガ イットウ ナツテ  
ソレカラ キタ トキニハ カメサン  
ガ テッペンニ イタノ。〔だけど、そ  
れなのに、それでも〕(赤-w 男5:3-10)

○年中の例は、「そ  
して」と言っ  
てのち「そしたら」  
と訂正してい  
る。

○指示代名詞を使  
うところを「そ  
して」ですませ  
ている。

●タイヨウガ ココニ、オシ〔ひ〕サン  
トコロニ キタノ。ソシテネ タ ハ  
ナガネ タオレタノ。〔はっきりしな  
い〕(自-k 男3:4-7)

○年長多し

○タベテ ソーシテネー ソーシテ ネ  
ルノ。(神-柿男3:7-2)

○間投詞的とも。

○マエノ ホウ コウ ヤツテ ミテタ  
ラ ブツカッチャツテ ソシテネ ヒ  
ロコガ タオレチャツタノ。〔文おかし  
い〕(神-佐女3:7-15)

○理由の意味の場  
合年少なし。

○〜ライオンガ シマウマ オイカケテ  
ンノ。ソシテネー コドモタチ ミテ  
タノ。〔それを〕(自-a 男4:9-10)

○シオレチャツタノ。ソシテ ミズ カ  
ケテ コウ イウ ハナニ シタノ。  
(赤-w 男5:3-10)

○パピーッテ ココニ ペンダント サゲ  
テテ ソイデ コウ ヤツテ カタホ  
ウノ アシ コウ アゲテ カタホウ  
ヒザ ツケテ ソシテネ コツカラ  
コウツト バケチャウ。(赤-w 男5:3  
-8)

○ソシテ ヤネハ チョコレートダカラ  
ヤネノ チョコレート タベテ ソシ  
テネ マホウツカイノ コエガ キコ  
エタノ。(自-h 女4:7-9)

○コウ イッテ ソシテサ ココニ コ  
ノ クライノ ミチ アルデショ。コ

○ソシテ ウサチヤンガ ココン トコ  
ロ ネチャツテネ サキ カメサンガ  
イッチャツタノ。ソシテ ウサチヤン  
ガ オソクナッチャツタノ。(自-r 女  
5:7-17)

●ミズ マコウト シタラ カレテ ソ  
シテネ マタ オミズ マイタラ カ  
レチャツタノ。〔「そしてまた」口ぐ  
せ。文意もおかしい〕(自-x 男6:1-4)

○パーテイダ チュッテ ジュースヤ イ  
ロンナ モノ タベタリ ノンダリ  
シテ ソシテネー オドリヤ セイブ  
ゲキヤ ヤツタノ。(赤-w 男6:3-16)

○ニジュウヨンゴウカンテ イウトック  
ラ ソシテ コウ イッテ ソシテ  
マタ マガッチ ソシテ ココラヘン  
ヨウチエンダカラ スグニ ツイチャ  
ウノ。(道順) (赤-m 男5:10-11)

2.1-3-5「それ  
で」の意

2.2 文中  
で、そしての  
場合

2.2-1 間投詞  
的

2.2-2 一応正  
しく使用

2.2-3 他の意  
味のところ  
に使用

2.2-3-3「そし  
たら」の意

<p>2.2-3-5「それで」の意</p>	<p>○ダラネ ミイラダトカ ガイコツダトカ カイアツノ フネダトカ アツテ ソシテ ミンナ ミテ キタノ。〔それを〕(赤-w男6:3-25)</p>	<p>コカラ センセエト ナランデ クルノ。(赤-w男5:3-6)</p> <p>●ソウシタラ カセガ フイテ キテ ソウシテ オウチ ハイッタノ。(神-師女4:11-10)</p>	<p>○ヒダリガワニ ニゲヨウト オモッタラ ソシテ ソシテ ブツカッタノ。(神-佐女3:7-15)</p>
<p>2.2-3-6「その他」の意</p>	<p>○ニジュウヨンゴウカンテ イウトッカラ ソシテ コウ イッテ ソシテ マタ マガツテ ソシテ ココラヘンヨウチエンダカラ スグニ ツイチャウノ。(道順)(赤-m男5:10-11)</p>	<p>○コノ オハナガ カレチャツテ ミジュ カケタラ ソシテ オテンキニ ナツテ ソシテ マッスグン ナッタノ。(自-s男4:10-26)</p>	<p>○で どうなったの? / ○シヨシテ カメガ ソシテ コウ ナツテンノ。〔くりかえし〕(神-高男4:4-22)</p>
<p>その他の場合</p>	<p>○ナンカ エ カイタリ ソウシテネ アト ホン ヨンダリ アト ネンドデ ナンカ ツクツタリ スンノ。〔並列〕(赤-m男5:10-6)</p>	<p>●エーカキトネ ソシテネ ツミキデ アソブノトネー シュウカイ。(並列)(神-村男4:3-10)</p>	<p>○～カイジユウ ヤツチュケケチャウ。シテネ ハックダツテ デルヨ。(間投詞的)(神-高男4:4-15)</p>
<p>2.3 文末</p>	<p>○～オイシヤサンナノ。ソシテネ…(赤-x女6:2-2)</p>	<p>○～キバ フタツ アルノ。シテネ オハナガ ナガクテ ソシテ ミミガ オツキイノ。(自-s男4:10-3)</p>	<p>○ライオンガネ ヒトーリボツチニ ナツチャツテネ シテネ ココマデ</p>
<p>2 発話中</p>	<p>＜して(そしての略)＞</p>	<p>○ライオンガネ ヒトーリボツチニ ナツチャツテネ シテネ ココマデ</p>	<p>○ライオンガネ ヒトーリボツチニ ナツチャツテネ シテネ ココマデ</p>
<p>2.1 文頭</p>	<p>○ライオンガネ ヒトーリボツチニ ナツチャツテネ シテネ ココマデ</p>	<p>○ライオンガネ ヒトーリボツチニ ナツチャツテネ シテネ ココマデ</p>	<p>○ライオンガネ ヒトーリボツチニ ナツチャツテネ シテネ ココマデ</p>
<p>2.2 文中</p>	<p>○ライオンガネ ヒトーリボツチニ ナツチャツテネ シテネ ココマデ</p>	<p>○ライオンガネ ヒトーリボツチニ ナツチャツテネ シテネ ココマデ</p>	<p>○ライオンガネ ヒトーリボツチニ ナツチャツテネ シテネ ココマデ</p>

	<p>アルイテ キテネ～(間投詞的)(赤-x 女6:2-17)</p>	<p>キテネ ライオンノ コト ヤツツケ タノ。〔一方?〕(小-村男4:9-17)</p> <p>● 「〔略〕」 ッテ ユツテネ シテネ 「〔略〕」 ッテ ユツテ 「〔略〕」 ッテ イツ タノ。〔それで、そして〕(神-閩女5:0-21)</p>	
<p>4 そしたら</p>	<p>1 発話のはじめ</p>	<p>1.1 間投詞的</p>	<p>そいで? ○ソシタラネ オッカケタノ。(赤-r 女5:10-10)</p> <p>そしたら? ○ソシタラネ ボウヤガ ミズ オハナニ アゲニ キタノ。(自-m 男6:4-14)</p> <p>○～ヨウチエンダカラ スグニ ツイチャウノ。/いいね近くて/○ソシタラ ミンナデ ムシトカ ソウイウノ ツ カマエニ イク。(赤-m 男5:10-2)</p>
<p>1.2 反復</p>	<p>1.3 その他</p>	<p>それから? ○ソシタラネ ゴハン タベサシテ ウエデ タベナイテ シタ デ タベタノ。(自-a 男4:9-1)</p>	<p>そんで? ○ソシタラネ コドモガ ヒトリデ イッタラ マイゴニ ナツチャウカラ ダメ。〔そしてたらが口ぐせ〕(神-佐女3:7-12)</p> <p>そしたら? ○ソシタラネ キリンガ デテ キテ キリンガ フタツ イルノ。(神-鈴男3:6-11)</p>
<p>2 発話中</p>	<p>2.1 文頭</p>	<p>○シマ(うま)ガネ ハシッテ イッタ ノ。ソウシタラ トラガ イタノ。(赤-v 男5:1-7)</p> <p>○クマガ ネズミヲ ミテ ソシテネ オイカケタノ。ソシタラ ダンブカーガ キテ ハネトバサレチャッタノ。(赤-u 男5:6-10)</p>	<p>○前文につづいて いるのがはつきりしているの で、その他に入 れた。</p> <p>○年長に多し。</p>
<p>2.1-2 一応正しく使用</p>	<p>○オジイサンガ キッタンダッテ。ソウ シタラ カワイイ アカチヤンガ ウ マレタンダッテ。(自-u 女6:5-18)</p>	<p>○エントツノ アナガ〔から〕 ハイッテ クルノ。ソシタラ アッチッチッ チ。 (小-竹男4:1-10)</p> <p>○バクダン? バクダンサー。ソシタラ シュグ ニゲチャウモン。(神-高男4:4-8)</p>	

2.1-3 他の意味のところ  
に使用

2.1-3-2 「そして」の意

- シマウマガ アンナニ イタノ。ソシタラ シマウマガ ワラツテ タノ。〔はっきりしない〕(赤-r女5 10-10)
- ～モモガ ナガレテ キタカラネ ヒ ロツテ ネ オバアサンハネ ウチニ カエツタノネ。ソシタラ モモ タベ ヨウト シテネ ナカラ ポタト アケタラ カワイイ アカチ チヤン～ (赤-L女5:9-11)

- ネズミガ イテ クマガ イタノネ。  
ソウシタラ クマガ ネズミノ コト オイカケ タノネ。(赤-o女5:1-11)

2.1-3-5 「それ」の意

- ～カエツテ キタノネ。ソシタラ 「オソカッタネー」ツッテ イッタラ 「ウシ」テ イッテ ソレデ ヨク ナッタラ モウ オワツチャッタノ。(赤-o女6:1-22)

- ～ヒトリデ イッタラ マイゴニ ナツチャウカラ ダメ。ソシタラ オカアサン イッシヨニ イクノ。(神-佐女3:7-12)

○佐女は「そして」が口ぐせ。

2.2 文中で、そしたらの場合

2.2-2 一応正しく使用

- ～ミチカラ デテ イッチャツテ クル マ ガ トル ミチニ イッテ ソシタラ トラックト クマガ アツカ ツチャツテ ソレデ オオケガ ラシタ トコロ。(赤-o女6:1-31)
- シマウマガ イッピ キ イテ ライ オシ ン ガ オイカケ テ イッテ ソシタラ アンマリ オオゼ イニ ナツチャツ タリ シテ ビツクリ シチャツ タノ。

- ～トツテ ウサギガ サキニ ソイデ ト チュウデ ナカナカ カメ コナイ ノデ ネチャツテ ソウシタラ カメガ サキニ イッテ カケテ イット ウシヨウニ ナツチャツ タノ。(小-久女4:7-29)

(自-j 女5:7-11)

2.2-3 他の意味のところ

2.2-3-1 「それから」の意

○ネテ アサニ ナツテカラ ゴハンヲ  
タベテ ソシタラ アタ〔さ〕ハヲ  
ミガイテ タベタラ ソイデ ニコ  
トマツテ、〔意味不明〕(自-b 男6:0-2)

2.2-3-4 「その他」の意

「それらから」の場合

○「カイモノ イツタンタヨ」ツテ オ  
シエタラ ソシタラ オトウサンガ  
オコツテ キデ ソイデ ウマゴヤガ  
アラサレタノ。〔意味不明〕(赤-o 女  
6:1-20)

その他の場合

○～タイチヨウガ 「ムコウ イツテ  
クダサイ」ツテ ユツタラ ムコウ  
イツテ ハヤト〔た〕ガ ダレカニ  
ハナラ モラツチャッタノ。ソシタラ；  
〔語順〕(赤-m 男5:10-1)

②～チャヤント マツチュグ イツテネ  
オオダンホドウヲ トオツテ アノー  
ソシタラ マタ オオダンホドウガ  
アル トコヲ トオツテ ソレカラ  
アソコニ モンガ アルデシヨ。(赤  
-g 女4:8-5)

③オバアサンノ トコロヘ オオキナ  
モモガ ナガレテ キテ ソウシタラ  
オバアサンガ ヒロツテ オウチヘ  
モツテツテ～〔それで、それを〕(神-師  
女4:11-7)

④～「ドウ ヤツテ ハイルノカ」ツテ  
ハイッテ イクノ オシエテ モラッ  
タラ ソシタラ オシリヲ オシテ  
ソイデ オウチヘ カエレタツテ イ  
ウノ。〔「ヘンデルとグレートル」の話  
省略がある〕(赤-i 女5:3-8)

⑤ウサギガ コウフニ ビョンビョン  
ハネテ イツタカラ ソシタラ クモノ  
ワタガネ フワリツト クラク ナッ  
チャッタノ。(神-遊男5:1-28)  
〔はつきりしない〕

○コレハ アタマト アツト ( ) トッ  
テツタラ ソシタラバネ イタイッ  
テ。〔意味不明〕(小-藤女3:10-11)

○「そしたら」不  
用。

くしたら他(そしたらの略)>

○クマガ ネズミヲ オイカケテタラネ  
 ネズミハ ドウロヲ ワタツテネ タ  
 ラネ ダンブカーガ ボカーンテ キ  
 テネ クマト ブツツカッタノ。〔間投  
 詞的〕(赤-c 男6:3-24)

●「クマー」ツテ ナイタノ。シタラ  
 シマウマガ キテネ カケッコ シヨ  
 ウカ〜(赤-i 女5:3-14)

ノそして?ノ●シタラネ カワガ〔に〕  
 ネ ドブアンテ ハイッチャッタノ。〔間  
 投詞的〕(自-1 女3:3-5)

5 だから

1 発話のはじ  
 め

1.1 間投詞的

どうしたの? ○ダカラネ ダカラネ  
ダカラ ダカラネ ダカラ アタシ  
 オワリノ ホウデ 「オトウサンナン  
 カ アンナ コト シナイヨネ」  
 ダツテ。(自-g 女5:11-6)

だからピーターパンのどこが好き? ○  
ダカラネー ヤッパリ イチバン サ  
 イシヨ。(自-d 女4:11-6)

1.3 その他

●ダカラ コンナ(ニ) タオル オイテ  
アルノ? (小-窪女4:8-17)

2 発話中

2.1 文頭

2.1-1 間投詞  
 的

○〜ヨンジウニゴウカンノ コガ (ト  
 アバイ) スルカツテ キタノネー。ダ  
カラ ソレデ ダマツテ カズマサク  
ンテ イウ コラ ヨビニ イッタノ  
 ネー。(訂正) (赤-w 男6:3-10)

どういうの? ○ネ ダカラネ ネ イ  
 ワナイノ。(神-古男4:5-29)

○前の文をひきつ  
 いで、そのため  
 と使っている。

○ウチニ オカシ アルンダ。ダカラ  
 コンド ウチ シッテル?〔話題の変  
 更。その他に行くべきか〕(小-神女4:  
 1-4)

2.1-2 正しく  
 使用

○コレハ タイヨウニ バッカシ ア  
 タツテルト シオレチャウデシヨウ。  
ダカラ ミズヲ スコシ ヤンナ  
キヤー ダメ。(赤-w 男6:3-30)  
 ○ウサギハ イネムリシテンノ ダカラ  
カメノ ホウガ イットウニ ナッタ

○ライオンガ タベヨウト シタノ。  
ダカラネー シマハ ニゲチャツテ  
 ライオンガ オイカケチャッタノ。  
 (はつきりしない)(赤-n 男5:2-8)

○〜ミズバ オハナニ カレテルカラ  
 カケテンノ。ダカラネ ハナガ チャ  
 シント ウエニ ナッテンノ。(神-寺男  
 4:4-18)

○年長に多し。

<p>2.2 文中 で、だからの 場合</p>	<p>ノ。(赤-b 男6:5-18)</p> <p>●アサン ナツテ アタシ イチバン ハヤク オキテネ <u>ダカラ</u> オカアサ ンハ ヨル ミルクネ <u>アッタカイ</u> トコ(ロ)へ オイトクノ。(意味不明) (赤-E 女5:8-35)</p>	<p>○オテンキガ アルカラ ハナ モウ オレナイテ アタラシイ ハナト ト リカエテ <u>ダカラ</u> ココニ オイテ アンノ。(意味不明)(赤-k 女5:3-16)</p>	<p>○〜クマガ オッコツチャツテ <u>ダカラ</u> クマハ ( ) トラツク ナツチャウ ノ。(意味不明)(神-折女4:3-15)</p>
<p>から、だから の場合</p>	<p>○〜ゼンzen トレナツタカラ <u>ダカ</u> ラ ミツケヨウト オモツテ イナク ナツチャツタカラ オサンボカラ カ エツテ キタンダヨ。ホイクエンニ; 〔意味不明〕(自-k 男5:8-12)</p> <p>○ナニカガ ツカマッタ トキ ツカ マツタツテ イウヂシヨウ。<u>ダカラ</u>; 〔はっきりしない〕(赤-x 女6:2-15)</p>	<p>○ウチガ ビンボトカラ <u>ダカラ</u>ネー ウシノ チチ シボツテ カアサン ガ、ノ大きい声でいってノ(自-r 女4: 8-14)</p> <p>●〜ハジメ ハヤカッタノニ ウサギ オヒルネ シチヤツタカラ <u>ダカラ</u> カメガ ハヤク ナツチャツタノ。(神 -師女4:11-11)</p>	<p>○コレハ オオカミガ キタカラ <u>ダカ</u> ラ コウ ヤツテ ナツチンノ。(小 -原女3:7-15)</p> <p>○クマガ ネズミ キライダカラ <u>ダカ</u> ラネ ホエツケテノ。(小-矢女4:0 -13)</p> <p>○サリーチャンテノハ マホウツカイダ カラ <u>ダカラ</u> ナンダツテ ココ キ チャウノ。(神-折女4:3-10)</p>
<p>2.3 文末</p>	<p>○ナニカガ ツカマッタ トキ ツカ マツタツテ イウヂシヨウ。<u>ダカラ</u>; 〔はっきりしない〕(赤-x 女6:2-15)</p>	<p>アリババのお話聞かせてくれる? ○ <u>ダツテ</u> ワカンナク ナツチャツタ。 (赤-u 男5:6-8)</p> <p>どうしてお父さんいいの? ○<u>ダツテ</u> ハ トラライテ オカネ イッパイ モツテ</p>	<p>○「から」だけで 十分なのに「だ から」を口ぐせ 的に入れる。年 少にめだつ。</p>
<p>6 だって 1 発話のはじ め</p>	<p>どういうとこいいの? ○<u>ダツテ</u>ネー アンマリ オコラナイ トコ。(赤-m 男5:10-2)</p> <p>どうしてやなの? ○<u>ダツテ</u>サ スワル ンダモン。(赤-v 男6:1-3)</p>	<p>よくおぼえていたわね。○<u>ダツテ</u> ボク ズーット マエニ ガラガラドン ヨ ンダカラ オボエタノ。(神-三男4:0- 46)</p> <p>どうして? ○<u>ダツテ</u>ー ワルイ モン</p>	<p>○「どうして」の 質問に対して、 答の文頭につく 口ぐせ的用法。 間投詞的と名づ</p>

<p>2 発話中 2.1 文頭 2.1-2 一応正しく使用</p>	<p>クンダモン。(自-o 男5:4-3)</p> <p>●デモ カタツムリハ へイキダヨ。ネラレルヨ。ダツテサ アタマヤナカンカヒツコンデサ アレ ネラレルジヤナイ。(小-海男4:3-17)</p> <p>●ワカンナイゾー。ダツテ イマ ヤツテ ナインダモン。(小-上男4:7-8)</p>	<p>ヤッチュケルンダモン。(小-金男4:1-6)</p> <p>どうして? ○ドウシテモ。然 <u>ダツテ</u> ウルトラセアブンノ ホウガ ツヨイモン。(神-官男3:8-6)</p> <p>●キツト ソウダヨ。ソウダヨ。ダツテ <u>カオガサ ライオンノ カオジャ ナインダモン。</u>(赤-d 男4:2-12)</p>	<p>けてよいか疑問だが。</p>
<p>7 だけど</p>	<p>1 発話のはじめ</p>	<p>1.1 間投詞的</p>	<p>○質問とか前文につながっているという意識が幼児にあるのだから。むしろ、「その他」の項に入れるべきか。</p>
<p>2 発話中 2.1 文頭 2.1-2 一応正しく使用</p>	<p>○ソレモ(遊星仮面のこと) シラナイ。ダツテネ テレビダカラ ワカンナイノ。(自-b 男6:0-19)</p>	<p>ダレモ オトモダチ イナイノ。/だつて幼稚園にいったほうがいいでしよ。/○ダケエモ アソブ ヒト イナインダモン。(自-r 女4:8-8)</p>	<p>三匹の山羊のからがらどのお話できる? やってみて。○ダケド ゴホンナクツチャ ダメ。(神-場男3:10-16)</p> <p>○デ アレネ <u>ダケドネ</u> ボク サイシヨハネ <u>ボクネ</u> アレネ アノ ヒトダト オモツチャッタ。(神-三男4:0-25)</p> <p>○マダ アルノ。(いちご)/そう/ダケドー <u>タバナイノ。</u>(神-寺男4:4-7)</p> <p>○チョット <u>チカイケド</u> <u>ダケド</u> コウエン <u>イク トキハ</u> <u>ハイル トキハ</u> <u>ダイジョウブ</u>ダケド オフロヘ イッ</p>
<p>2.2 文中 けど、だけどの場合</p>	<p>○オカアサンヤ オトウサン イママデタカカッテタノ。ダケド モウ オカアサンヤ オトウサン モドツテ キタカラ コンドデ オワリニ ナッチャウノ。(赤-r 女5:10-7)</p>	<p>○シンデレラモ 「イキタイナー」ッテ。「<u>ダケド</u> <u>アタシハ</u> <u>オカアサンカラ</u> <u>イッパイ</u> <u>オシゴトガ</u> <u>イイツケラレ</u> <u>テンデスモノ</u>」ッテ ユツテ オシゴトヲ ヤツテタラ〜(赤-p 女5:2-12)</p>	<p>○質問とか前文につながっているという意識が幼児にあるのだから。むしろ、「その他」の項に入れるべきか。</p>

2.3 文末	<p>● ソシタラネ アナボコニ ハイッ チャッタ。フカイヨ、ダケロ。〔語順〕 (神-渡男4:6-7)</p>	<p>テ ガッコウノ トコ トオルト マ ルアロ イッタラ カエル トキガ トオインダモン。〔「けど」文末とも。 意味はつきりしない〕(神-三男4:0 -31)</p>
<p>&lt;けど(だけどの略)&gt;</p>		<p>おとうさんの仕事知ってる? ○ウン。 シッテル。/ どういう仕事してるの? / オシゴト? / ん? / ドウ ヤッテ エイコラ シテル。/ ん? / ケドネ、 シラナイ。(神-場男3:10-4) ● オヨガナカッタ。ミタダケ。/ 良かつ たね/ ケド ウミン トコニ ポート デ ワタッテ ミタノ。(赤-e 男4:1 -2)</p>
<p>8 でも 1 発話のは じめ 1.1 問投詞的 2 発話中 2.1 文頭 2.1-1 問投詞 的</p>	<p>聞かせてちょうだい/ ●デモ イイヨ。 (小-海男4:3-15) ● イナカ。/ そう。/ デモ サ カボチャ オイシイカラ カボチャ ツクッテ クレタノ。(神-桑女4:10-26)</p>	<p>幼稚園のお休みの日どっか行く? ○デ モネー イッコダケ イッタ コト アル。〔口ぐせ〕(小-神女4:1-6) A 子ちゃんのカバンにはどんな模様がつ いてる? ○ツイテナイ。デモネ ンワンノ エガ ツイテル。〔口ぐせ〕 (小-神女4:1-12)</p>

<p>2.1-2 正しく使用</p>	<p>いつもなにかいてるの? ○イツモ ヤツ ナイカラナ。デモネー ケットトカ ジドウシヤ。(赤-s 男6:6-7)</p> <p>楽しかった? ○ウン。デモ ツナヒキン トキ コロンジャッタ。(赤-t 男6:0-8)</p> <p>○ネナカッタラ ゴールニ ツイチャウ。デモネ ネチャッタカラ カメクンガ イットウニ ナッチャッタ。(赤-u 男6:5-18)</p>	<p>○ソレガ コワイノヨ。グルグル マワッテ メガ マワルノ。デモ アンマリ コワク ナカッタヨ。(赤-f 女4:10-9)</p> <p>●イツモ。/そ。/デモネ ミタクナイ モノハ ミナイ。(小-寛 女4:7-18)</p> <p>●トベナクナッチャッタノ。デモ カタツムリハ ヘイキダヨ。ネラレルヨ。(小-海男4:3-17)</p>	<p>/いいお母さんじゃない。/●ウン。デモ オコンダヨ。(赤-a 女3:10-11)</p> <p>/こわくなかった?/●コワクナイ。デモ ノンナカッタヨ。(赤-b 男4:0-8)</p>
<p>9 そうすると</p> <p>1 発話のはじめ</p> <p>1.3 その他</p> <p>2 発話中</p> <p>2.1 文頭</p> <p>2.1-1 間投詞的</p>	<p>○～オイテ オクノ。ソシテネ ソウスルト ユウガタノ クジン ナツテ ミルト～「[そして]でよい」(白-s 男5:9-7)</p> <p>○～イチバン マエガ コロブデシヨ。ソウスルト ダンダンニ コロンテ イクデシヨ。(赤-t 男6:0-8)</p>	<p>○イチバン (コレ)。(ソウスルト) コレ ナニカ トラエタカラ (キテ) オツカケテンノ。[意味不明] [間投詞的] (赤-d 男5:4-13)</p>	<p>(テープ)裏返しにしてまた入れるのよ。 ○ソウスルト ドウ スンノ[なんの]? (小-佐男4:3-18)</p>

<p>2.1-3 他の意味のところ に使用</p> <p>2.1-3-1 「それから」の意</p> <p>2.1-3-2 「それして」の意</p>	<p>○～ツクッテ オクノ。カゴノ ワナヲ； ソウスットネ クダモンモ オイトイ テネ ソウスルトネ タベヨウト シ テ ハイッタラ バッチ ツカマエル ノ。(自-s 男5:9-9)</p> <p>○ダンダンニ コロンデ イクテシヨ。ソ ウスルト コロンジヤウノ。ミンナ； (赤-t 男6:0-8)</p>	<p>●～ズット マッスグ イッチヤウノネ。 ソウスルトネ コッチへ マガルノ。 ヒダリニ；(小-弘女5:1-7)</p>	<p>2.2 文中 で、そうする との場合</p> <p>2.2-2 一応正 しく使用</p>	<p>●ソコヲネ ワタツテ ソウスルト ポ クンチへ チュクノ。(小-永男4:4-6)</p>	<p>○クダモンモ オイトイテ ソウスルト ネ タベヨウト シテ ハイッタラ バッチ ツカマエルノ。(自-s 男5:9 -9)</p>	<p>○コレデ イイノ？/そう。/ジヤネ シマウマノ トコ イッタノ。ミツケ タラ；(赤-r 女5:10-10)</p> <p>/田舎でもいいし/○ウーシ イナカノネ。(自-k 男5:8-4)</p>	<p>○話題の転換</p>
<p>10 その他 ジヤ</p>	<p>/こっちが一番よ。/○ウーシ ド(ウ)シテ ココ サンツテ カイテ アルノ？(赤-d 男5:4-16)</p> <p>●ジヤ ミレバ イイジヤナイ。(神-規 男4:6-11)</p>	<p>持っていないんだもん。○ジヤ カッテ クレバ。[間投詞的・口ぐせ](小-原女 3:7-26)</p> <p>○～ウチ シツテル？/知らない。/ ジヤ コンド ウチニ グル トキニ ハ オシエテ アゲル。(小-神女4:1 -4)</p> <p>死なないよ。勉強しなないだつて。○ジヤ</p>	<p>○話題の転換</p>				

それに	<p>／交通事故なんで見ただことある？／○        ～トラックニネー ホラ シタニ ハ        イツチャッタリネー タクシーニ プ        ツカイッタリネー ソレニネー スピー        ドイハンダッタリ。(赤-0 女6:1-25)        ／それから？／●ソレニ ドナルドダッ        ク。(白-t 女6:4-12)</p>	<p>○ハタグミニ イッテ ソイデ オニギ        リ タベテ アト ギユウニユウ タ        ベテ ソレニ オセンベエ コイダケ        タベテ。(自-k 男4:8-1)        ●タンポポノ ハナヤ。／そ。／ソレ        ニ カーネーシヨ ン アルデシヨ。(神        -桑 女4:10-11)        ○ホイク タイソウトネ ナガダツヲ        ハイタ ネコトネ…… カケッコデ        シヨ。ソレトネー ハトポッポタイソ        ウトネ…… (赤-r 女4:10-3)</p>	<p>ナニガ シム(死)ノ？ (小-佐 男4:3        -7)        ●バツダッテ ダレカニ ヤッタ コ        ト アルンダカラ。ソレニネー イロノ        ツイテル バツタミタイナ カタチノ        ポク ミツケタンダカラナー。(赤-d        男4:2-14)</p>	○累加の意
それと	<p>○オハナ カレチャッタノ。ソンダカラ        ミジュ カケヨウト モッタノ。(自-z        男5:8-15)        ●ソイデネ ソレダカラネ モウネ ユ        カチャンチ イカナイノ。(自-o 女6:        1-6)</p>	<p>○ソレダカラ ミズニ[を] ヤッタノ。        (小-成 男4:7-17)</p>	<p>○オテテデ ヤッタノ。ソイダカラネ        アーカイヤッテ ヤッテンノ。[意味不        明] (小-矢 女4:0-15)</p>	○条件、展開
それでも	<p>○オジイサンモ ユッタノ。ソデモ        イクッテッタラ オジイサント オバ        アサンハ「ソナラ イッテラッシャ        イ」 チュッテ～(自-u 女6:5-19)        たのしいことは。○アノ ナイケド        ネー。ソイデモネー ボールナンカ        アソブノガ タノシイ。(赤-a 男5:11        -12)(間投詞的)        ●ナンダカ チンナイケド ソレモ        ガマンシテモ ナンダカ ケンカシタ</p>	<p>○条件、逆接</p>	<p>○累加の意</p>	○累加の意

そんなら	イノ。〔間投詞的〕(自-y 男6:0-15) ○ソソデモ イクテッテッタラ オジイサ ント オバアサンハ「ソソナラ」イッ テラッシャイッ」チュッテ オバアサ ンハ キミダンゴラ ツクッテ オジ イサン モモタロウノ ハタラ ツ クッタノ。(自-u 女6:5-19)	○「ソソナラ」 オマエヲ タベチャウソノ 〔物語〕(神-高男4:4-25)	○条件, 展開
(それ)だった ら	○ウサギサンネ カメヨリ ハヤイカラ ジマンシテネ <u>ダッタラ</u> ネ カメクン ガネ ムコウノ ヤママテ キョウソ ウシテ ミヨウツテ ユツテ~(赤-u 男6:5-17)	○「ソソナラ」 オマエヲ タベチャウソノ 〔物語〕(神-高男4:4-25)	○条件, 展開
そうすれば	○~コンドハ コッチイ マガッチャへ バ イイノネ。ソウスレバ <u>ツクノ</u> 。 (赤-a 男5:11-14)	○「ソソナラ」 オマエヲ タベチャウソノ 〔物語〕(神-高男4:4-25)	○仮定, 展開
そういえば		○「ソソナラ」 オマエヲ タベチャウソノ 〔物語〕(神-高男4:4-25)	○条件, 展開
それとも		○「ソソナラ」 オマエヲ タベチャウソノ 〔物語〕(神-高男4:4-25)	○選択
ところが	○~ハネナガラ ニゲタノ。トコロカネ イシニ <u>アツカッテ</u> ネ カメノ ホウガ イチバン ハヤクテネ ウサギハネ タオレチャッタノ。(神-規男4:6-20)	○「ソソナラ」 オマエヲ タベチャウソノ 〔物語〕(神-高男4:4-25)	○条件, 逆接
じゃなくて		○「ソソナラ」 オマエヲ タベチャウソノ 〔物語〕(神-高男4:4-25)	○反対

どうして(か)  
っていうと

○～ボク ニトウ。／速いね。／ン ドウ  
シテカッテ イウト サイシヨ ハヤ  
クタッテ アレ ヤスンジヤッタカ  
ラ。(意味不明) (赤-d 男5:4-3)  
○センセイニ ナリタイ。／どして? /  
ドシテッテ イウトネ。 ナンデモ  
デキルカラ。(赤-r 女4:10-5)  
④ ドシ ドシテカトイウトネ ソノ  
ショウジョフレンド トイウ オモシ  
ロイ コワイケド オモシロイネ ソ  
レヲネ ミルタンビニ カイニ イク  
ノ。(赤-q 女5:2-18)

ミショウネントネ アト シラナイ。  
(小-神女4:1-9)

○理由, 説明

それをもって

④ ~イツノマニカ タマツチャッタノ。  
ソレデモッテ ホイデ ハジメ ジュ  
ウエン ダッタンダヨ。[語が変わって  
いく, おかしい] (自-y 男6:0-11)

○条件, 展開

誤用

○～プールニ トビコンデルカラ ミニ  
イッタンダヨネ。ソシテモ プールガ  
ナイノ。 イクラ サガシテモ; [そし  
たら, それでも] (自-b 男6:0-25)  
○～ネッコロガッテ シンダ マネッテ  
ヤッテ ソシテモネ ミンナ クビヲ  
アッテ, ムコウニ イッたら~ [そし  
たら, それでも?] (自-t 男6:2-22)  
○オトウチャン イッテカラ。 フジサ  
ン; ソシテカラネ オカアチャン  
コンド イッタノ。[それから] (自-e  
女5:7-7)

○コレハネ アタマトネ ウン ブ(ツ)  
トネ ( ) トッテッタラネ ソシタ  
ラバネ イタイッテ。(小-藤 女3:10  
-11) [そしたら]

それたべるの？そして？ ○ソシテッカ  
 ラネー ネムク ナッタラ ネテ ソ  
 イデ オカアサンガ カエツテ キタ  
 ラ イツモ オフロ イクノ。(それか  
 ら、そして) (自-i 男6:4-11)  
 ● ~ソイデ カタヅケテネ ソウシテカ  
 ラネ バイバイシテ~(そして)(自-i  
 男5:7-1)

## お わ り に

### ——まとめと将来への考察——

幼児の話しことばの文構造の研究は、現代語を研究するものにとって、興味深い研究対象ではあったが、なかなか荷の重い仕事でもあった。十分に調査研究がなされたとはいえない。問題を残したままの段階でまとめたような状態である。しかし、この調査からでもわかったことは多い。本文で述べてきたわけだが、ここに箇条書きにして気づいたことを要約する。

①3歳から6歳の幼児は、年齢を問わず、わりによくしゃべり、不整文もあるとはいえ、いろいろの構文を使用している。

②とはいっても、このような調査では、上位の幼児の用例が取られるきらいがあるので、全体からいうと、単文では五つ以上の文節からなる文、複文では主語五つ以上からなる構文は十分に使えないといえそうである。年少、年中は全体の幼児からいうと単純な文構造の文で話しているのである。

③具体的な用例はそれぞれの使用例をみていただくことにして、構文の上では、年少と年長の間に一段のめざましい違いがあり、年中が、その橋渡しの役目をしているといえる。したがって年少では使用できない構文が年中でよく使用されているというような場合もみられる。特に複文のうち、接続助詞を二つ以上もつ形式で主語四つからなる文までについては、年少の使用数が少なく、年中はよく使用している。また、連体修飾語の節をもつ構文は年少にほとんどなく、これは年中でも少ない。年長にならないと使えないのである。複文構造では特に年少において前後の関係をはっきり理由づけて話せず、「から」よりむしろ「て」を用いて並列的に述べる傾向がみられる。「から」をもつ文は「から」文末の省略文あるいは補足文ともいえる文に多い。

④文末形式では、使用のまちがいが少しはみられるがほとんどの年少児が簡単な形式は用いている。使役の助動詞については逆にほとんどの幼児が使えない。推定の「らしい」もむずかしいようである。

⑤接続詞については、「それで」「そして」を間投詞的に愛用している。接続助詞「て」と結びついた「て、それで」「て、そして」などの言い方を好む。文を接続して話す時、幼児はまだ簡潔な要領のよい複文構造の話し方ができないからだろう。「～て～て」で接続する複文構造で話す傾向もあるが、これらとともに、文意識の未発達のためと思われる。

⑥個人別文節数を調べたが、長く話すことと、きちんとした構文を話すこととの相関はどうか。数字であらわせないが、少ししか話せない幼児は問題外にして、きちんとした構文で話している幼児は中以上の長さの話をしているようである。

用例によく登場してくる幼児は、文節数の多いほうに属する幼児であることはもちろんであるが、整わない話し方として用例にあがる幼児と、整った話し方をして登場する二種の幼児群がある。年長でみると自s男と自j女は前者の例で、赤w男と赤o女は後者の例である。年少では神三男が前者で、小佐男が後者といえる。しかしこれとて厳密な結果ではない。このような面からの資料の用い方もあるのである。

次に思いつくままに調査の反省も含めて今後の研究課題について述べる。

(1)用例をあげるときに、必要に応じて主語の欠けたものはかぎっこで補い、補語については一部を補った。格助詞、副助詞の欠けているものは内容の理解できるものは補わなかった。接続助詞の「て」の意味が「ので」となるところは、幼児が「ので」をうまく使用できないので補ったところもある。「ので」の使用数は少ない）これらについては問題もあるが、構文の分析をする場合、幼児の深層に入って分析したほうが、わかりやすいと思ったからである。深層に入ったつもりが、そうっていないことを恐れる。

(2)数をあげたことについて——この調査は数を調べるのが目的でなく、幼児の文の構造とその発達をみることをめざしており、もともと時間制限をせずに話題をいくつか決め、幼児に自由に話させたものである。しかし、どのくらいの数が使えるものかを知りたくなり、調査者の心覚えにメモしておいたものをそのまま原稿にのせた。そのような数字である。

(3)どのような方法論で分析調査をやるかということは何よりも大切なことで、ここでは調査者の文法観が問われるだろう。その点反省することが多いが、今後すぐれた現代語文法が確立された時点で、そのような観点から調査してみたいと思う。今見えなかった幼児の文構造の特色もそこでは見えてくるかもしれない。

しかし、そのような本質論にさかのぼらないでも、この幼児の話しことばの資料を使ってさまざまな研究をすることができる。たとえば次のようである。

話題として、幼児の家族について「おうちにだれとだれがいますか」という質問をした。その答の構文はさまざまであった。この一問答からも文の構造の発達が見られるのである。

この質問に対する答は大体「Aト Bト C」という並立構文が多い。その他、「Aト Bト ソレダケ」の構文。これらは年齢を問わずある。そのほかの構文をあげて、年齢的発達を見ると、数字を入れたり、文末に動詞を入れる構文を使っている。4歳以前に比べると表現に発達が見られるのである。語彙の発達とも密接に関連している。

○コドモガ オネエサンガネ サンニンデネ ヨウチエンガ ヒトリデネ オジイチャンガネ  
シンジャツテネ ショウ（この中は聞きとれなかった）ガネ イテネ オトウサンモ イテ  
オカアサンモ （イル）。（小少-相男4:4）

年中になると自分も家族のメンバーになる。「あたし」「ぼく」が言える。年齢でいうと5歳前後からである。たとえば、

○ノリコトネ ママト オトウサント ボク。（赤中-s 男5:6）

○イモウトトネ オカアサント オトウサント アタシシカ イナイ。（赤中-q 女5:2）

次のような構文も出てくる。

○カゾクデ？／そう〔質問者の返答〕／パパト ママト オニイチャン イマス。（赤中-p 女5:2）

「家族」などということばや「います」といぬい語を使う幼児もでてきている。年長には次のような構文もある。

○イマハネ オトウサン シツショウ シテルノ。 イマハネ オカアサント オネエサント  
ネ ボク。（赤長-c 男6:3）

「今はね」と限定して答えているところなど、なかなか正確である。こんなふうに関への反応の発達を見ることによって、幼児の言語の発達の様相もみることができるのである。その他質問者の質問に二つのことがらがあった場合、はじめに反応するのではなく終わりの部分に反応するか、どのような質問に対してはどのような反応がかえってくるかとか、という伝達の問題もある。文構造の発達研究についても調査し残したことは多い。本文でそれぞれ述べた。今後の課題にしたい。

# 付 録

## 付1 幼児の話す長さ

問答形式によって、話題をきめて幼児と話した場合、幼児はどれくらいの話をするものか調べてみた。

調べかたにいろいろの方法があるが、ここではまず次のようなものの平均数をみた。幼児はこれまでと同様、年中、年長同一幼児、年少は神谷、小川の幼児である。(1)文節数、(2)文数、(3)発話数、(4)一文節中の文節数、(5)一発話中の文節数、(6)アノネ、ウーントネ数、(7)アノネ…を一文節として数えた場合の全文節に対する割合。次表がそれである。

種々の方法でみた幼児の話す長さ

年齢 性別	(1)文節数	(2)文数	(3)発話数	(4)一文節中の 文節数	(5)一発話中の 文節数	(6)アノネ～ の数	(7)アノネの 割合	
年 長	男	400.55	91.64	66.14	4.37	6.06	49.91	12.46 %
	女	378.69	82.38	57.75	4.60	6.56	32.69	8.63 %
	計	391.34	87.74	62.61	4.46	6.25	42.66	10.90 %
年 中	男	221.05	66.36	45.27	3.33	4.88	29.45	13.33 %
	女	236.94	60.31	43.94	3.93	5.39	28.19	11.90 %
	計	227.74	63.82	44.71	3.57	5.09	28.92	12.70 %
年 少	男	335.18	112.14	72.32	2.99	4.63	46.27	13.81 %
	女	266.77	94.54	64.15	2.82	4.16	28.00	10.50 %
	計	309.77	105.60	69.29	2.93	4.47	39.49	12.75 %

年中と年長は同一幼児なので比較できる。平均的にみると、文節数も文数も発話数もともに年齢があがるにしたがって多くなっているのがわかる。年少児が年中児より数が多くなっているのは、たまたま調査時に先生から聞いていた物語を長く話していたことと、一人の幼児が特別におしゃべりで、年長児よりも多く（採集例の中でトップ）話していたことなどの影響である。

一文節中の文節数をみると、年少児は、話した文数も文節数も年長児より多いにもかかわらず少なくなっている。短い文をたくさん話していることがわかって面白い。

「アノネ」「ウーントネ」の数を調べたり、文節中の割合をみたのは、次のような理由による。

①これら間投詞を幼児が非常によく使う。②これら間投詞があることによって幼児の切れない長い文も理解できるとか、文が飛躍しても理解できるなどのこともある。これら間投詞は別に研究してもよい問題である。③しかし、この調査では、用例として幼児の話しことばを使用する場合、紙面には煩雑ということなどもあって、必要な場合以外は省略した。

そこで、なんらかの形で、このような形式のあることを残すために、調査してみたわけだが、全文節に対する割合は約一割ということになる。年齢を問わず女児より男児にいくらか多い。

次に、最高、最低の文節数と発話数その他をみると次表のようになる。

最高, 最低文節数他

	年 長		年 中		年 少	
	男	女	男	女	男	女
文 節 数	780~159	724~141	605~56	550~112	1,496~34	647~10
文 数	141~57	138~33	169~32	94~37	430~24	321~9
発 話 数	92~38	80~32	70~29	76~30	142~20	185~10
アノネ…数	98~10	108~5	130~1	86~4	174~0	65~1

文節数では年齢を問わず男児が最高文節数で話している。年長児は最高 780, 最低 141 文節を話し、年中児は最高 605, 最低 56, 年少児は最高 1,496, 最低 10 という数字が出ている。最高はともかく、最低数では、年少児から年中、年長へと話す数がふえていることがわかる。その他については表をみていただきたい。ここにあげた数は、なんらかの話をした幼児のもので、全くしゃべらない幼児がクラスに一、二名はいるのである。

なお、個人別文節数については第 1 部で述べておいた。

この調査では、話題をきめて幼児に答えてもらったが、これら話題についての幼児の反応を文節数で調べてみた。以下の表のようである。

話題別にみた文節数 (平均)

年齢と性別 \ 話題	①親の仕事	②生活報告	③テレビ	④お話	⑤道順	⑥ライオン	⑦かめ	⑧花	⑨熊
年長	13.08	67.08	65.03	47.32	17.52	25.34	29.87	16.05	15.53
年中	8.71	38.16	25.42	26.18	11.95	20.18	22.18	12.89	15.26
年少	10.25	45.71	28.11	8.40	9.51	11.71	13.14	9.74	10.74
男	13.14	53.45	42.20	24.68	13.41	21.06	21.33	12.67	13.21
女	7.07	46.02	36.35	33.29	12.62	16.66	22.89	13.44	14.98
全体	10.67	50.44	39.83	27.81	13.09	19.28	21.96	12.98	13.93

九つの話題について平均文節数をみたことになるが、幼児が一番長く話してくれた話題は、②の生活報告と③のテレビで、ついで④のお話という順である。⑤は道順、⑥以下は絵をみての話である。年齢別にみても、生活報告、テレビ、ついで物語の順で、性別からみても同じである。生活報告とテレビとお話の差は、年長にいくほど話す長さが接近している。年少はテレビとお話を話す長さが、生活報告よりうんと短かく、年中は、テレビとお話は短かくなっているが、年少がお話がうんと短かいのに比べて、テレビより少し長く話している。(年中の女兒にお話を長く話した幼児がいたので平均に影響しているのかもしれない。)

もう一つ興味のあることは、男児はテレビでみた漫画などを長く話し、女兒は聞いたり読んだりした物語を長く話していることである。また、年少では、物語を話すよりも、テレビで視聴した話をするほうが長かったということである。その他、①親の仕事については、父親の仕事を知っている幼児は少なかったが、それでも長く話したほうは男児で、女兒が短かいのが年齢を問わず

めだっていた。⑤道順もむずかしい。この報告書では用例としては、接続詞のところの主として用いた。絵をみての話では⑦⑥⑨⑧の順序で文節数は短くなっている。これら話は、理解して話すというのではなく、絵があるから、描かれているままを順々に話せばよいというような傾向がみられた。深く追求しなかったが、絵を用いての調査は今後の課題にしたい。

次に話題別の最高、最低文節数をみると、その話題について全くしゃべらなかった幼児のあることがわかる。

話題別最高、最低文節数

話題 年齢と性別	①親の仕事	②生活報告	③テレビ	④お話	⑤道順	⑥ライオン	⑦かめ	⑧花	⑨熊
年長	0~71	11~241	6~261	0~238	0~78	11~57	9~142	9~35	7~37
年中	0~99	0~164	0~118	0~173	0~62	0~56	3~52	0~26	0~48
年少	1~61	1~126	2~158	2~68	1~63	1~43	2~35	3~23	5~47
男	1~99	0~241	0~190	0~161	0~78	0~57	2~68	0~32	0~48
女	0~25	1~170	2~261	0~238	0~62	0~53	2~142	0~35	0~47
全体	0~99	0~241	0~261	0~238	0~78	0~57	2~142	0~35	0~48

## 付2 補足文の構造の分析

### 2.1 補足文の構造

文の中では、述部が最後にきている構造が普通であるが、話しことばのため、(1)文の成分の欠けているものを追加補充した構文と、(2)内容の追加や成分の訂正補充をした構文、その他に大きく分けられる文の構造がある。補足した成分をもつ文というわけで、ここでは補足文と名づけた。<sup>(注1)</sup>この補足文をなお細分化して、幼児にはどのような構造が多いか以下にみていくことにする。用例に使った幼児は、これまでと同様に年長、年中は同一幼児、年少は神谷、小川の幼児である。なお、補助資料の用例も●であげておいた。章末には使用例をあげる。

#### 2.1-1 文の成分の欠けているものの追加補充

これはいわゆる倒置といわれる形式のものを多く含んでいる。この中を13に細分化して用例をあげる。

##### 1.1 主語の補充

##### 1.2 補語の補充

文の成分のところで述べた(第2部第2章)補語<sub>1</sub>、補語<sub>2</sub>がこの中に入る。

(注1) 国立国語研究所報告18『話しことばの文型(1)』(70~80ペ)によると、宮地裕氏は倒置の表現として扱っている。そして、倒置の表現は、間に無理がなく、後置成分の可逆性のものに限定している。ついでにいうと似た形態をとっても不可逆性のものは、その後置成分を単独の省略文または独立の一文と認めるとして、倒置文では扱っていないのである。また別のところで「文+省略の不完全文」を名づけて補充の表現というほうがよいかと思うが、名称のことはしばらくおくと述べている。そして、大人の話しことばでは、概括的に言えば、後置部分は「単純な連用修飾格に立つ成分一つのものが多い」といってよいと述べ、数と用例をあげている。数をあげておく。

			例数		
全 293 例	{	I	1 成分後置 240 例	(1) 主格後置 ..... 89	
			{	(2) 用修格後置 ..... 143	
				(うち)副 詞 ..... (52)	
				数 詞 ..... (4)	
				その他 ..... (87)	
			{	(3) 体修格後置 ..... 6	
				(4) 独立格後置 ..... 2	
					(うち)接続詞 ..... (2)
				II	2 成分後置 ..... 28
				III	★印 ..... 25
		(くりかえし的表現のもの)			

(☆) ここに述べてある間についてであるが、幼児の資料は質問者(筆者)が幼児に話しよい場をつくってやるために「そう」とか「うん」とかで合づちをうった。(紙面では然で代表してある。)そのため、不必要に合づちが多い。そこで、この種の合づちは全部取ることにした。そのため、間が引用例には見られないのである。もっと厳密に補足文の研究をする場合は、録音文字化の段階で、間かどうかの区別をすべきであろう。

### 1.3 場所の補充

補語<sub>3</sub>に相当するものの補充である。

### 1.4 連用修飾語の補充

この中には、節の補充とか、単位文の補充がある。

### 1.5 時の補充

### 1.6 理由の補充

### 1.7 連体修飾語の補充

### 1.8 接続詞の補充

### 1.9 独立語の補充

### 1.10 題目語の補充

### 1.11 成分の一部の追加補充

### 1.12 これらの成分の重なっている補充

### 1.13 文中に挿入しての成分補充

「て+それで」「から+それから」他で接続している文の「て」と「それで」の中間に前文の補足として追加されるもの。主語、補語、連用修飾語、理由の成分補充がある。

## 2.1-2 内容の追加や成分の訂正補充

### 2.1 文や文中に内容を追加補充

これは、一応文が完成したのち、文の内容の不十分さや、内容を豊かにするために追加補充するもので、以下の二種類の形式がある。

#### 2.1-1 内容の追加補充

この中には、節を含む文の追加もある。

#### 2.1-2 文中に挿入しての内容の追加補充

### 2.2 前に話した成分の訂正補充

前に話したことばの不十分さを訂正して、正確なことばで伝えようとするのだとか、ただ訂正という場合もある。前のことばが形式としてあらわれているもので、それにも傍線をつけた。成分に分けてどのことばの訂正が多いかみた。

#### 2.2-1 主語の訂正補充

#### 2.2-2 補語の訂正補充

#### 2.2-3 場所（補語<sub>3</sub>）の訂正補充

#### 2.2-4 連用修飾語の訂正補充

#### 2.2-5 時の訂正補充

#### 2.2-6 理由の訂正補充

#### 2.2-7 連体修飾語の訂正補充

### 2.3 文末部分の訂正補充

この中には訂正のみでなく、内容の補充も入っている。位置が文末の場合である。

### 2.4 成分および内容など二重の追加補充

成分と内容の補充だったり、補足文をまた補足するというものだったりする。

### 2.1-3 くりかえしての追加

これは、文の中で大事だと思われるところをもう一度くりかえして話しているようにもとれるが、それほど深い意味でなく、反復に過ぎないものようでもある。数は多くない。

### 2.1-4 意味不明のもの

## 2.2 まとめ

幼児の補足文がどのような割合を示しているか数字をあげてみると別表のようである。(数字については前に述べた参考程度とみていただきたい)

1の文の成分の欠けているものの追加補充が年齢に関係なく多い。特に年少に多い。中でも主語、補語の補充が多いのは、大切な成分で、それを補わないと意味がとれないと自覚しているのだろうか。年少児には主語補充が多い。但し、話しことばなので、いつも倒置的な文で話す幼児も(大人にもある)いるわけで、話しぐせということもあるので、そのように言ってしまってもよいか疑問がのこる。年長児は理由の補充が多く、年少児は場所の補充とか連用修飾語の補充が多くなっているのがめだっている。連用修飾語補充は年中も多い。連用修飾語補充が節をなしたり、つまり、連用修飾部になっているのは全体に少ない。時の補充は年齢を問わず少ないが、年長の例は用例をみるとわかるように、「ヒチジハン」などと数字をくわしくあげている。(語彙の発達ともみられる)成分の一部の追加補充は、姓名のうち姓を追加したり、並列してあげなければならぬうちの一方をのちに追加するもので例は少ない。補助資料にあった。文中に挿入しての成分補充は、年少に見られなかった。

2のうち、内容の追加補充をみると、全体には1のように多くないが、年長、年中が多く、年少は少ない。2.1の内容の追加は、前文の内容の不十分さを補充したりするもので、相当高いレベルの知能が要求されるからだろう。年少にはなかった。文中挿入の内容追加補充の例は年長のみ二例みられた。

「前に話した成分の訂正補充」はただの訂正もあるが、そればかりでなく正確な内容に訂正するための補充もあるので年少は少ない。成分を細分化してみるとどうであろうか。時、理由の補充は年中、年少ともない。連体修飾語、連用修飾語の補充は年長でも補助資料にみられたに過ぎない。訂正されることばの中には、「これ」とか「ここ」とかの指示代名詞のものがめだつ。

文末部分の訂正補充も、年少に少ない。成分および内容などの二重追加補充は、正確に表現しようとする意図のあらわれで、高度のレベルに属している。そのため全体に使用数も少ないし、年少では特に少なく、使っている幼児も限られている。

3のくりかえしの補充は、強調の意味もあるかもしれないが、あまり好ましい現象ではない。

4意味不明のもの——この中には録音不明瞭で意味不明のものは入っていない。意味のとれないもののみである。

全体の文(きめのあらいものであるが調査した文数付1にあげたもの)に対して補足文がどのくらいの割合であるかを参考のためあげておいた。補足文がめだつのに比して、3~5%という割で少ないことがわかる。

幼児の補足文には成分追加の補足文、いわゆる倒置文が多く、内容追加、訂正補充の補足文は

非常に少ないこと、年少でそれが特に顕著であることがわかった。また、文の成分の面からみると、1、2に関係なく、時の補充、理由の補充、挿入的補充が全体に少なく、特に年少では少ないこともめだつ現象であった。これは第2部の文構造の分析のところでも述べたことで、幼児の文構造の特色と言える。この種の語彙の発達も関係しているだろう。

前にも述べたが補足文が話しぐせの幼児がいることもみられた。補助資料から年少児の一例をあげてみる。1の主語補充(8)、補語補充(4)、場所補充(1)、時の補充(1)、理由の補充(1)、連用修飾語補充(2)、成分の重なっている補充(1)、2の内容追加(2)、訂正補充(1)、計21回にもなっている。

幼児の補足文の形式の割合

補足文の形式	年 齢	年長	年中	年少
	割 合	%	%	%
1 文の成分の欠けているものの追加補充		65.7	55.8	82.4
1.1 主語の補充		8.4	12.5	15.2
1.2 補語(補語 <sub>1,2</sub> )の補充		14.5	2.9	13.6
1.3 場所(補語 <sub>3</sub> )の補充		7.2	8.7	16.8
1.4 連用修飾語の補充		7.7	11.5	17.6
1.5 時の補充		3.9	1.9	3.2
1.6 理由の補充		15.5	7.7	7.2
1.7 連体修飾語の補充		0.7	4.8	3.2
1.8 接続詞の補充		1.3	0	2.4
1.9 独立語の補充		0	0	0.8
1.10 題目語の補充		0.7	1.0	0
1.11 成分の一部の追加補充		0.7	0	0
1.12 これらの成分の重なっている補充		1.9	2.9	2.4
1.13 文中に挿入しての成分補充		3.2	1.9	0
2 内容の追加や成分の訂正補充		25.2	25.0	7.2
2.1 文や文中に内容を追加補充		6.5	4.8	0
2.1-1 内容の追加補充		5.2	4.8	0
2.1-2 文中に挿入しての内容の追加補充		1.3	0	0
2.2 前に話した成分の訂正補充		9.0	10.6	4.0
2.2-1 主語の訂正補充		1.3	2.9	0.8
2.2-2 補語の訂正補充		3.2	4.8	3.2
2.2-3 場所(補語 <sub>3</sub> )の訂正補充		1.9	2.9	0
2.2-4 連用修飾語の訂正補充		0	0	0
2.2-5 時の訂正補充		0.7	0	0
2.2-6 理由の訂正補充		1.9	0	0
2.2-7 連体修飾語の訂正補充		0	0	0
2.3 文末部分の訂正補充		8.4	7.7	1.6
2.4 成分および内容など二重の追加補充		1.3	1.9	1.6
3 くりかえしての追加		5.8	11.5	5.6
4 意味不明のもの		3.2	7.7	4.8
使用した全体の文数に対する割合		4.7	4.3	3.4

幼児の補足文の使用例

分類	年齢	長	年	中	少年	少	備考
1 文の成分の欠けているものの追加補充							
1.1 主語の補充		<p>○ソイデ ウントネ ネチャッタノ。ウサギガ；(自-k 男5:8-23)</p> <p>○ヒョウノネ キモノ キタタノ。ター(ざん) ジャナクテネ アノ ワルイ シトガ；(赤-u 男6:5-9)</p> <p>○チットモ コワクナイ。アタシハ；(自-g 女5:11-13)</p>	<p>○ソイデ ネ (逃) ギテ ユクノ。シマウマガ；(自-k 男4:8-16)</p> <p>○〜テッポウ カッチ クレタノ。パバガ；(自-a 男4:9-6)</p> <p>○オバアサント ネンノ。ボク；(赤-u 男5:6-7)</p>	<p>○ソイデ カユイ カユイッテ カイテル。ホッペ；(神-坂女4:0-8)</p> <p>○〜イク トキナシカ シユエッテ〜ハヤインダ。チョウトキウヨリ；(神-三男4:0-26)</p> <p>○シラナイ。ソレモ；(小-原女3:7-28)</p> <p>○ガッコウガ オヤスミ トキネ バッタトリニ イッタノ。サブチャント；(神-場男3:10-5)</p>	<p>○ソイデ ネズミ タベンノ。クマサンガ；(小-新男3:10-10)</p> <p>○オハシヤ コウイウ オシヤヤナンカモツ ホウ。コッチハ；(神-三男4:0-28)</p>		
1.2 補語(補語1,2)の補充		<p>●コノコロネ ヨマナイデ ミルダケニスンノ。ゴホン；(赤-o 男6:2-17)</p> <p>○カズケテルヨ。ゴハントカ ソウイウモノ；(自-v 男5:7-12)</p> <p>●ソウジキナンテネ ピストルミタイニシチャウングヨ。メダルデ；(自-e 男6:1-12)</p>	<p>○シラナイヨ。ソレモ；(赤-j 女4:7-6)</p> <p>○ウマガ ケットバシタノ。ウシロノアシデ；(自-b 男5:1-10)</p> <p>●〜ゴハン タベタノ。オトウチャント；(神-山男4:9-2)</p>	<p>○ウシャギガ カユイ カユイッテ カイテル。ホッペ；(神-坂女4:0-8)</p> <p>○〜イク トキナシカ シユエッテ〜ハヤインダ。チョウトキウヨリ；(神-三男4:0-26)</p> <p>○シラナイ。ソレモ；(小-原女3:7-28)</p> <p>○ガッコウガ オヤスミ トキネ バッタトリニ イッタノ。サブチャント；(神-場男3:10-5)</p>			
1.3 場所(補語3)の補充		<p>○〜カラ オキテ ミタラ カメサンガノボッチャッタノ。テッペンマデ；(赤-m 男5:10-22)</p> <p>○ソイデ デチャッター。タタミノ ウエニ (自-m 男6:4-5)</p>	<p>○ママネ オシゴト シテルノ。オウチデ；(自-r 女4:8-2)</p> <p>○〜ドブネ ジュミガ クワエテ イッチャッタノ。アナノ ナカニ；(自-j 女4:7-17)</p>	<p>○オトコノ コガネ マタ イタノ。ピョウインニ；(神-佐女3:7-16)</p> <p>○ソイデ タバコヤサンガ アルデシヨ。ソノ アガッタ トチュウニ；(神-三男4:0-30)</p>			
1.4 連用修飾語の補充		<p>○ソウスレバ イルヨ。イッパイ；(自-s 男5:9-6)</p> <p>○〜ケドネ ニチヨウヒダケ トキドキネ</p>	<p>○モウ イナイノ。サンニンシカ。(自-r 女4:8-2)</p> <p>○ソイデネ コビトノネ ウチマデ キ</p>	<p>○ソコニ オモチャバコガ アンノ。ヒトツ；(神-三男4:0-10)</p> <p>○〜ソイデ ウチデ ネテル。ズート；</p>			

<p>ガラスヲネ マドノ ガラスヲ フク トキ アル。オニイサント イッショニ; (赤-k 女6:2-6)</p> <p>○～テレビノ アル ハンタイガワノ レ コードガ アル ホウニ イッテ アソ ンデンノ。ナンカ シテ; (赤-a 男5:11 -18)</p> <p>○～テネ オバケガネー イタズラスル ノ。オナカニ ジー カイタリ シテ; (赤-a 男5:11-11)</p>	<p>チャッタノ。ナカサレテ; (赤-n 男5:2 -7)</p> <p>○ソイデ トビダシタノ。マタ; (赤-t 男 5:1-10)</p> <p>○～カッチャンダノ ダレカ クンダヨ。 アト チュイテ; (自-p 男4:7-8)</p> <p>●アソアノ。ナンカ シテ; (小-関男5:0 -3)</p>	<p>(小-神女4:1-2)</p> <p>●～ドッカデネ ハナビガ キコエタノ。 パチパチツツ; (赤-b 男4:0-4)</p> <p>○センセイハ アノ ミニ キタノ? ワ ルイコガ ドコニ イルカツテ; (神-三 男4:0-15)</p> <p>○～ツテ ヤルトサ テーモ ナンニモ コロガツテサ シンジャウングモン。チ ガ デテ; (神-宮男3:8-9)</p>
<p>○ソンデネ 「レイ」 トカ イウノ。ハジ メ; (自-u 女6:5-13)</p> <p>○ソイデネ アサモ オハヨウコドモシヨ ウツテ ノガ アルノ。ヒチジハンカラ ネ; (赤-f 女5:9-10)</p>	<p>○イッパイ イッタングヨ。ヤスンデタ トキ; (自-s 男4:10-9)</p> <p>●～ロンパールーム ミナイデシヨ。コノ ゴロ; (小-久女4:7-16)</p>	<p>○イチゴガ ナカツタ アツタケドネ。マ エネ; (神-寺男4:4-6)</p> <p>○ズット マエハ キタケド スーツ コナインダモン。コンド (ハ) (このご ろ?); (神-三男4:0-4)</p> <p>●パバト チュウシヤジヨウ イッタ。ヨ ルニ; (赤-q 男4:1-3)</p>
<p>○モーニングショートカ ソウイウノ ミ ル。ウタガ アルカラ; (赤-k 女6:2 -21)</p> <p>○～ホン カオウト オモツタングヨネ。 テツジンノ ホント スーパージェッ ター ホン ウツテタカラ; (自-b 男6: 0-15)</p> <p>○ウンドウカイ デナカッタヨ。オヤスミ シテ; (赤-a 男5:11-4)</p> <p>○カメサンガ カッタノ。ウサギサン ネムクナツテ ネタカラ; (自-p 男5: 6-13)</p>	<p>○モウ ワスレチャッタナ。キノウ ヤッ タ (ケド); (赤-m 男4:10-7)</p> <p>○ヒトリ ネラ<sup>(レ)</sup>ンノ。イツツダカラ; (自-s 男4:10-18)</p> <p>●ドンナ コトカ ワカンナイ。テレビガ 〔を〕 キカナイト; (小-成男4:3-17)</p>	<p>○ジャイアントロボツテ シー〔ひ〕ニハ ヨワイノ。テチュダカラ; (神-古男4:5 -13)</p> <p>○テレビ ミナイ。ツマンナイカラ; (神 -宮男3:8-7)</p> <p>○～トコロニ ヤッチャ ダメナノ。ツボ ンジャウカラ; (神-折女4:3-14)</p>

1.5 時の補充

1.6 理由の補充

1.7 連体修飾語の補充	○オニイチャンニ カンサツガ アルカラ。ホノ; (はっきりしない) (赤-m男5:10-11) ●レコードガ アルシサ。パピーノ; (赤-i男6:2-11)	○ウンテンシユニ ナリタイヨ。デンシヤノ; (赤-a男4:11-6) ○オソト デタ。ノオオチャンノ ソバノ; (赤-a男4:11-3)	○マリノ ウチハネ スグネ トナリナノ。ヨウチエンノ; (神-渡女3:10-7) ○ソイカラ アカチャンモ インノ。オトコノ コノ; (小-加男4:1-1) ○ウチノ オニイチャン。チュ(ツ)ギノ; (神-寺男4:4-4)
1.8 接続詞の補充	○～ユツタラ ムコウ イツチネ ハヤトガネ ダレカニ ハナヲ モラツチャッタノ。ソシタラ; (赤-m男5:10-16)	●ジドウシヤニ ブツカッタノ。ソイデ; (神-松女4:8-24)	○チョウチヨガ トンデ キチャツチネ ミンナ コワシチャッタノ。ソシチ; (小-長男3:5-12)
1.9 独立語の補充			○ソレデ (オワツ)タジヨ。(ホラ); (小-金男4:1-5)
1.10 題目語の補充	○～カメサンガ ハヤクツチネ ウサギサング オソイノ。ココガ; (自-p男6:5-18)	○～シマウマガ アシデネ ウシロアシデケツチネ コロンジャッタノ。コレ; (自-g女5:0-10) ●ニンゲン カイタノ。(コレハ); (神-師女4:11-9)	
1.11 成分の一部の追加補充	○～ジャナイ ケンチャン。カシマ; (自-a男5:8-12) ●オカアサンハネ センタクト ホンヨングリ シテル。クツ アラッタリ; (赤-p男5:11-4) ●オバアチャン マダネ シンデナイケド。ト イナカノ オジイチャンハ; (自-p女6:1-12)		●カメモ スキナングヨ。オサカナモ; (赤-q男4:1-3) ●サンダーバードガ モラエルンダツチ。カツチ; (赤-d男4:2-10)
1.12 これら成分の重なっている補充	○ミルトキダツテ アルヨ。ヨルニューズバツカリダカラ; (自-p男5:6-10) ●ウサギ ネムツテル トキ カメガイッチャツタ。チカラモチダカラ。カメ	●フタツ シカ ナイ。タツタノ、ボクンチハサ; (自-c男4:7-7) ○アソンデンノ。ヒトリデ、オモチャデ; (自-b男5:1-6) ●クミチャンネ(自分) ホン ヨンダングダ。	○ヨル ヤツテンノ。マダ カイシヤガ〔は〕; (意味はつきりしない) (小-福男4:2-2) ●ヤツ〔つ〕(ケ)ルノ。カイジユウヲ バーシツツ; (赤-r男3:8-6)

<p>1.13 文中に挿入しての成分補充</p>	<p>チャンハ；(赤-1 男6:3-16)</p> <p>○ソンテ タカラモノヲ モラッテー、オニタチニ、ソンデ〜(自-u 女6:5-21)</p> <p>○オカアチャンダケ イッタノ。オトウチャン イッテカラネ、フジサン、ソシテカラネ(自-e 女5:7-7)</p> <p>○ウミ イッテネ プール アソンデネ、イッパイネ ウーン〜(自-a 男5:8-4)</p> <p>●ソレデ ユカチャンネ アッチデ マツテネ、オカアサンガ クルマデ、ソレデ(自-o 女6:1-2)</p>	<p>ヒトリデ、キノウ；(小-山中女5:0-20)</p> <p>○〜オサルニ オカシ ヤッテ ソレデ ツキノワグマニモ ヤッテ、オセンベエヲ、ソレカラ コンダハ〜。(赤-f 女4:10-8)</p> <p>○〜ドッチガ ハヤイカ ヤッタラ、コノヤママデネ、カメガ ノロイカラネ ノロノロ イッテ〜。(赤-n 男5:2-10)</p>	<p>●シテ クレナカッタカナ。オハナシハナンニモ；(赤-d 男4:2-113)</p>
<p>2 内容の追加や成分の訂正補充</p> <p>2.1 文や文中に内容を追加補充</p> <p>2.1-1 内容の追加補充</p> <p>2.1-2 文中に挿入しての内容の追加補充</p>	<p>○プラモデルモ チュクッテ クレル。コンナ オッキイノ；(自-b 男6:0-5)</p> <p>○オハナシナンカ シテ クレナカッタ。ホンキリ；(自-p 男5:6-9)</p> <p>○ソノ ハナシハネ オボエテルヨ。アタシ ナンデモ；(自-g 女5:11-14)(1.12 とも)</p> <p>○オバキユウニハネ オウチニ ショウチャンテ イウノガ イテネー、オトコノ コデ、ソイカラ〜(赤-f 女5:9-9)</p> <p>○スポーツカーネ カッテ モラッテネ、オモチャノダ、ト レーシングカー〜(自-a 男5:8-7)</p>	<p>○オトコダケドネ ハナガネ ウエニ アソノ。(次のこと)ビジンナノ；(自-d 女4:11-3)</p> <p>○ママダケ ツレテッテ クレナイノ。オツカイッキリ；(自-p 男4:7-7)</p> <p>○カラダガネ マールクッテネ テツジンガネ ショウタロウガネ イウトネ クソノ。キカイ アルト；(自-a 男4:9-7)</p>	

2.2 前に話し

た成分の訂  
正補充

2.2-1 主語の  
訂正補充

- ～オカアサン マモルノ オカアサント  
バツバガ イルシ。マモルノ バツバ；(自  
-a 男5:8-10)  
●シトガ ノッカッテタ。オッキイ シト；  
(赤-p 男5:11-3)

2.2-2 補語の  
訂正補充

- ～ドウロニ デョウト シテテネー ジ  
ドウシャニ ハネラレチャッタノ。ト  
ラク；(赤-d 男6:4-19)  
○～カクレテテネ ワナヲ ツクッテ オ  
クノ。カゴノ ワナヲ；(自-s 男5:9-9)

2.2-3 場所  
(補語<sub>s</sub>)の  
訂正補充

- ～ウント ウエマデ イッタノ。ヤマノ  
チョウジョウ；(自-o 男6:3-12)  
○ココニネ ボク イルノ。ヒヤクナナ；  
(赤-w 男6:3-27)

2.2-4 連用修  
飾語の訂正  
補充

- デモ ココマデシカ ハインナイノ。  
ハンブシカ；(赤-D 男5:11-5)  
●スコシ ウツル。ヤット；(赤-v 男6:5  
-8)

○訂正のみ  
でなくく  
わしく説  
明もある。

- コレ ヒカレチャッタ。ネズミガ；(小  
-原女3:7-12)  
○～ナニ カイジュウダッテ テテ クル  
ヨ。ウルトラマンダッテ ウルトラシエ  
ブダッテ；(神-高男4:4-17)

- ニチヨウビハネ ヒル オトモダチト  
アソブノ。ヒロチャント；(小-矢女4:0  
-4)

- アメ フッタ トキネ ナンカ キテ  
イッタノ。カッパ キテ；(神-三男4:0  
-5)

- コレニ ノッチャウ。オモチャ；(赤-m  
男4:1-2)

- ミチ アルイチャッタノ。コッチノ ミ  
チ；(自-d 男3:10-13)

- オトウチャンハ カイシヤヘ イッテ  
オシゴト シテンノ。ブーブーデ イッ  
テ；(小-加男4:1-2)

- イッパイ イルヨ。モウ スコシ；(赤  
-b 男4:0-7)

- エガ デタ。カミ；(赤-i 女5:3-4)  
○アトラシイ ノリモノガ テキタノ。タ  
コ；(赤-f 女4:10-8)  
●ソシダカラネ オンマ イタネ。アカ  
チャン ウマモ；(小-端男4:2-6)

- カイシヤ、イカナイデネ キカイヲ  
ヤッテンノ。オッキイ キカイ；(自-s  
男4:10-14)

- マンガトカ ソウイウノガ ダイスキテ  
ネ。ウタトカ；(赤-p 女5:2-6)

- ～ロマンスカー ノッテ キュウコウ  
レシヤ ノッテ ズット ヨコハマ  
イッチャッタノ。イナカニ；(自-s 男4:  
10-10)

- タイフウ キタ トキネ トナリノネ  
シタノネ トコデ ネチャッタノ。マエ  
ノ ヘヤ；(自-c 男4:7-11)

- モウ イク [か] ナイ。マダ；(神-永男  
4:1-23)

<p>2.2-5 時の訂 正補充</p>	<p>○ハバガネ オンセンヘ イッテネ デ オソク カエッテ キタノ。ヨル；(赤 -x 女6:2-6)</p> <p>●～イツモ イツモ ヨルニ ナルト アノ オクスリ スルノ。ヨルト アサ；(自 -p 女6:1-5)</p>	<p>●ゾウサンネ ハナデ コウ ヤッテネ タベテンノ。オクチニ イレテ；(赤-b 男4:0-8)</p>
<p>2.2-6 理由の 訂正補充</p>	<p>○ソシテモ プールガ ナイノ。イクラ サガシテモ；(自-b 男6:0-25)</p> <p>●ミズ マコウト シタラ カレチャッタ ノ。ミズ マイタラ；(自-x 男6:1-14)</p> <p>○オカシ一カラ。ピッコラ ヒイテルカラ； (自-t 男6:2-25)</p>	
<p>2.2-7 連体修 飾語の訂正 補充</p>	<p>●ツナヒキハ ムコウノ イチクミノ ホ ウガ カッタノ。アカグミノ；(赤-i 男 6:2-4)</p>	
<p>2.3 文末部分 の訂正補充</p>	<p>○～チツチャイ オトコノ コガネ ミズ ヲ ヤッテタノ。ヤッタノ；(赤-o 女6: 1-29)</p> <p>○～ナカマノ トコニ キタカラ アト イッチャッタノカ。ソウダナ イッチャ ツタンダ；(赤-m 男5:10-21)</p> <p>○カメハ「ココロ ココマデ アノネ コ ラレナイデショ」ッテ ユツタンダッテ。 オモッタノ；(自-d 女5:11-27)</p> <p>○～オトナノ コノクライナダヨ。クビ</p>	<p>○～ニゲテテネ カメガ ウエニ ノッ カッテ ナンカ ヤッテンノ。タッテン ノ；(神-寺男4:4-18)</p> <p>●トビダスト ケカスルノ。シンジャウノ； (赤-v 女4:0-8)</p>

	ノ トコマテ <u>ナンダヨ</u> ; (自-k 男5:8-18)		
2.4 成分および内容など二重の追加補充	○オトウサンダッテ <u>キョウ ユッタヨ</u> 。 <u>ダメツテ</u> , <u>マンガ</u> <u>ミンノツテ</u> ; (自-p 男5:6-3) ○～サルニ <u>アッタンドンダツケ</u> 。 <u>イヌダ</u> , <u>イヌニ</u> <u>アッタノ</u> ; (自-u 女6:5-19)	○ソレデ <u>フンスイノ</u> <u>ナカハ</u> <u>スゴーイ</u> ノ。 <u>キカイデ</u> , <u>パイプガ</u> <u>イーツパイ</u> トオツテ; (赤-f 女4:10-8) ○ソレデネ <u>パビーノ</u> <u>ナカマハネ</u> ～ストロングガ <u>イルノ</u> 。 <u>オッキイノ</u> , <u>カラダガ</u> <u>オッキイノ</u> ; (赤-f 女4:10-7)	○ジドウシヤガ [に] <u>ネ</u> <u>シカレテンノ</u> 。 <u>コレ</u> , <u>ネズミモ</u> ; (小-矢 女4:0-13) ○ムカチ <u>コウ</u> <u>ヤツテサ</u> <u>コウ</u> <u>ヤツテ</u> <u>ルノテサ</u> <u>ヤツテンジヤナイ</u> 。 <u>ポールデ</u> , <u>ソレデ</u> ; (神-秋 男3:11-11)
3 くりかえしの追加	○～ウサギガネ <u>ネチャッタラネ</u> <u>サキニ</u> <u>カメガ</u> <u>イッテネ</u> , <u>イトウ</u> <u>ナツチャ</u> <u>ツタノ</u> 。 <u>カメガ</u> ; (自-l 男6:0-19) ○ライオンガ <u>イタノネ</u> 。 <u>ライオンガ</u> ; (赤-n 男6:2-11)	○チャンバラゴッコ <u>オジイチャン</u> ト <u>バツカリ</u> <u>マイニチ</u> <u>シテンノ</u> 。 <u>チャン</u> <u>バラゴッコ</u> ; (自-t 男5:3-9) ○ホミズ <u>ヤッタラ</u> <u>マタ</u> <u>ノビチャッタ</u> <u>ノ</u> 。 <u>マタネ</u> ; (赤-t 男5:1-14)	○～チイタンチデネ <u>ゴハン</u> <u>タバテ</u> <u>キ</u> <u>タノ</u> 。 <u>ゴハン</u> ; (神-大 男3:11-6) ○チョウチデネ <u>オツキガ</u> <u>デタノ</u> 。 <u>ツキ</u> <u>ガ</u> ; (神-村 女3:6-8) ○ライポ [お] <u>ンモ</u> <u>デテ</u> <u>キタノ</u> 。 <u>ライ</u> <u>オンモ</u> ; (神-三 男4:0-26) ●サカラ <u>オリンノ</u> 。 <u>オリンノ</u> 。(赤-b 男 4:0-9)
4 意味不明のもの	○ジュウ <u>ナッタラ</u> <u>モウ</u> <u>コッチ</u> <u>マケ</u> <u>チャウノ</u> 。 <u>ソノ</u> <u>カッタ</u> <u>ホウ</u> ; (自-u 女6:5-5)	○ミズ <u>カケタカラ</u> 。 <u>イシ</u> <u>イジツテ</u> ; (赤-m 男4:10-10)	○ガッコウガ <u>アルヨ</u> 。 <u>ポクンチ</u> ; (小-佐 男4:3-15) ○ソコノネ <u>ハイッテル</u> <u>トコハネ</u> <u>コウ</u> <u>ビニールデ</u> <u>コウ</u> <u>カゴガ</u> <u>ハイッテン</u> <u>ノ</u> 。 <u>ソノ</u> <u>ナカ</u> ; (神-三 男4:0-20)

昭和 48 年 3 月

国立国語研究所

東京都北区西が丘 3 丁目 9 番 14 号  
電話 東京 (900) 3 1 1 1 (代表)

UDC 809.56-56-053.4

NDC 815.9

本書の市販品発行所  
〔〒162〕東京都新宿区納戸町 40 (03) 260-5281  
株式会社 秀英出版

国立国語研究所刊行書一覧

国立国語研究所報告

1	八丈島の言語調査	秀英出版刊	品切れ
2	言語生活の実態 —白河市および付近の農村における—	〃	〃
3	現代語の助詞・助動詞 —用法と実例—	〃	700円
4	婦人雑誌の用語 —現代語の語彙調査—	〃	500円
5	地域社会の言語生活 —鶴岡における実態調査—	〃	600円
6	少年と新聞 —小学生・中学生の新聞への接近と理解—	〃	180円
7	入門期の言語能力	〃	200円
8	談話語の実態	〃	品切れ
9	読みの実験的研究 —音読にあらわれた読みあやまりの分析—	〃	〃
10	低学年の読み書き能力	〃	〃
11	敬語と敬語意識	〃	〃
12	総合雑誌の用語(前編) —現代語の語彙調査—	〃	〃
13	総合雑誌の用語(後編) —現代語の語彙調査—	〃	〃
14	中学生の読み書き能力	〃	400円
15	明治初期の新聞の用語	〃	品切れ
16	日本方言の記述的研究	明治書院刊	〃
17	高学年の読み書き能力	秀英出版刊	〃
18	話しことばの文型(1) —対談資料による研究—	〃	800円
19	総合雑誌の用字	〃	品切れ
20	同音語の研究	〃	550円
21	現代雑誌九十種の用語用字(1) —総記および語彙表—	〃	1,000円
22	現代雑誌九十種の用語用字(2) —漢字表—	〃	1,000円
23	話しことばの文型(2) —独語資料による研究—	〃	品切れ
24	横組の字形に関する研究	〃	350円
25	現代雑誌九十種の用語用字(3) —分析—	〃	1,000円
26	小学生の言語能力の発達	明治図書刊	2,100円
27	共通語化の過程 —北海道における親子三代のことば—	秀英出版刊	品切れ
28	類義語の研究	〃	750円
29	戦後の国民各層の文字生活	〃	400円
30-1	日本言語地図(1)	大蔵省印刷局刊	品切れ
30-2	日本言語地図(2)	〃	〃
30-3	日本言語地図(3)	〃	〃
30-4	日本言語地図(4)	〃	8,000円

30-5	日 本 言 語 地 図 (5)	大蔵省印刷局刊	9,000円
31	電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究	秀英出版刊	450円
32	社会構造と言語の関係についての基礎的研究(1) —親族語彙と社会構造—	〃	250円
33	家庭における子どものコミュニケーション意識	〃	350円
34	電 子 計 算 機 に よ る 国 語 研 究 (II) —新聞の用語用字調査の処理組織—	〃	450円
35	社会構造と言語の関係についての基礎的研究(2) —マキ・マケと親族呼称—	〃	450円
36	中学生の漢字習得に関する研究	〃	5,000円
37	電子計算機による新聞の語彙調査	〃	1,300円
38	電子計算機による新聞の語彙調査(II)	〃	2,800円
39	電子計算機による国語研究(III)	〃	700円
40	送 り が な 意 識 の 調 査	〃	1,500円
41	待 遇 表 現 の 実 態 —松江24時間調査資料から—	〃	900円
42	電子計算機による新聞の語彙調査(III)	〃	1,200円
43	動詞の意味・用法の記述的研究	〃	5,000円
44	形容詞の意味・用法の記述的研究	〃	3,000円
45	幼児の読み書き能力	東京書籍刊	4,500円
46	電子計算機による国語研究(IV)	秀英出版刊	700円
47	社会構造と言語の関係についての基礎的研究(3)	〃	600円
48	電子計算機による新聞の語彙調査(IV)	〃	3,000円
49	電子計算機による国語研究(V)	〃	700円
50	幼 児 の 文 構 造 の 発 達 —3～6才児の場合—	〃	1,000円

#### 国立国語研究所資料集

1	国 語 関 係 刊 行 書 目 (昭和17～24年)	秀英出版刊	45円
2	語 彙 調 査 —現代新聞用語の一例—	〃	品切れ
3	送 り 仮 名 法 資 料 集	〃	〃
4	明 治 以 降 国 語 学 関 係 刊 行 書 目	秀英出版刊	300円
5	沖 繩 語 辞 典	大蔵省印刷局刊	品切れ
6	分 類 語 彙 表	秀英出版刊	1,400円
7	動 詞 ・ 形 容 詞 問 題 語 用 例 集	〃	1,700円
8	現 代 新 聞 の 漢 字 調 査 (中間報告)	〃	500円

#### 国立国語研究所論集

1	こ と ば の 研 究	秀英出版刊	品切れ
2	こ と ば の 研 究 第 2 集	〃	750円
3	こ と ば の 研 究 第 3 集	〃	800円

#### 国立国語研究所年報 秀英出版刊

1	昭 和 24 年 度	品切れ	5	昭 和 28 年 度	240円
2	昭 和 25 年 度	〃	6	昭 和 29 年 度	200円
3	昭 和 26 年 度	160円	7	昭 和 30 年 度	品切れ
4	昭 和 27 年 度	品切れ	8	昭 和 31 年 度	220円

9	昭和 32 年度	200円	17	昭和 40 年度	250円
10	昭和 33 年度	品切れ	18	昭和 41 年度	300円
11	昭和 34 年度	品切れ	19	昭和 42 年度	300円
12	昭和 35 年度	350円	20	昭和 43 年度	350円
13	昭和 36 年度	160円	21	昭和 44 年度	400円
14	昭和 37 年度	220円	22	昭和 45 年度	400円
15	昭和 38 年度	250円	23	昭和 46 年度	450円
16	昭和 39 年度	品切れ			

国 語 年 鑑 秀英出版刊

昭和 29 年版	品切れ	昭和 39 年版	980円
昭和 30 年版	"	昭和 40 年版	1,100円
昭和 31 年版	"	昭和 41 年版	1,100円
昭和 32 年版	"	昭和 42 年版	1,100円
昭和 33 年版	"	昭和 43 年版	品切れ
昭和 34 年版	"	昭和 44 年版	1,500円
昭和 35 年版	550円	昭和 45 年版	1,500円
昭和 36 年版	800円	昭和 46 年版	2,000円
昭和 37 年版	品切れ	昭和 47 年版	2,200円
昭和 38 年版	品切れ		

---

高 校 生 と 新 聞	国立国語研究所 日本新聞協会 共編	秀英出版刊	280円
青年とマス・コミュニケーション	日本新聞協会 国立国語研究所 共著	金沢書店刊	品切れ

# THE DEVELOPMENT OF SYNTACTIC STRUCTURES IN CHILDREN'S SPEECH FROM 3 TO 6

## CONTENTS

### **Preface**

### **Part One**

1. Outline of Research
2. On The Nature of Children's Speech

### **Part Two**

1. Methods of Analysis of Sentence Structure
2. Structures and Uses of Children's Simple Sentences
3. Structures and Uses of Children's Complex Sentences
4. Structures and Uses of Adjectives and Adjectival Phrases and Clauses
5. Structures and Uses of Sentence-ending-forms
6. Uses of Conjunctions

### **Appendix**

1. Length of Children's Utterances
2. Structural Analysis of Additional Sentences

THE NATIONAL LANGUAGE RESEARCH INSTITUTE  
3-9-14 NISIGAOKA, KITA-KU, TOKYO

1973